# 学部・研究科等の現況調査表

教育

平成28年6月 東京芸術大学

# 目 次

1.	美術学部	1-1
2.	美術研究科	2-1
3.	音楽学部	3-1
4.	音楽研究科	4 – 1
5	映像研究科	5 - 1

# 1. 美術学部

I	美術学部の教育目的と特徴・	•	•	•	•	•	1 - 2
П	「教育の水準」の分析・判定	•	•	•	•	•	1 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	•	•	•	•	•	1 - 3
	分析項目Ⅱ 教育成果の状況	•	•	•	•	•	1 - 20
Ш	「質の向上度」の分析・・・・	•		•	•	•	1 - 25

### I 美術学部の教育目的と特徴

東京芸術大学美術学部は、前身となる東京美術学校以来125年を超える歴史の中で、 美術各分野において時代を代表する作家・研究者・教育者を輩出してきた。本学部は、こ うした伝統の中で培われてきた創造性を身に付け、新たなる時代に対応し、優れたオリジ ナリティを発揮できる人材の育成をめざしており、具体的には以下に示すような目的と特 徴を兼ね備えている。

### 教育目的

- 1 本学部は、絵画(日本画・油画)・彫刻・工芸・デザイン・建築・先端芸術表現・芸術 学等の領域において、これまで世界的な芸術家を輩出し、我国の芸術の指導的役割を果 たしてきた。こうした伝統や遺産を継承しつつ、優れた芸術家、研究者、教育者を育成 する。
- 2 本学部は、美術分野における教育研究を多方面から行いつつ日本の芸術文化の独自性 を深めるとともに、多様な世界の芸術文化と交流しあう国際的な芸術教育の拠点づくり を行う。
- 3 本学部は、芸術表現の新たな研究領域や分野に積極的に取り組み、新しいメディア芸 術などについても積極的に教育に対応し、芸術を広く時代に開いていく表現者や研究者 の育成を行う。
- 4 本学部は、教育研究の成果を社会に発信するとともに、芸術のある豊かな社会環境の実現に貢献する。

### 教育の特徴

- 1 本学部における教育の最大の特徴は、主として工房やアトリエを中心として教員と学生が一体となって制作活動を行うことで、学生の制作能力や独創的な創造性の開発を図ることにある。
- 2 教育内容については、これまで蓄積してきた基本的な美術各分野の技法等を重視しながらも、現代に生きる学生が持つ個性や創造性を尊重して表現指導を行うことに留意している。
- 3 本学部は、前身である東京美術学校時代から蓄積した貴重な美術品を収蔵する東京芸術大学大学美術館と共同して、収蔵された各種美術品を積極的に取り入れた教育・研究を行う。

#### 「想定する関係者とその期待]

本学部が想定する関係者とは、唯一の国立芸術大学という立場から、広義には美術に深い関心を寄せる全ての人々ということになろうが、狭義には、在学生及び卒業生・美術領域と関連する企業や公共機関ということになる。したがって、本学部に寄せられている期待とは、在学生に対して創作研究の良好な環境を提供し、高いレベルの教育を施し、優れた人材として社会に送り出すことと考える。

# Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

### 分析項目 I 教育活動の状況

# 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

美術学部は、美術についての学識を授け高い表現能力を養い、創作や研究活動を行うすぐれた作家・研究者の養成を教育理念とし、絵画科(日本画・油画)・彫刻科・工芸科・デザイン科・建築科・先端芸術表現科・芸術学科の7科を設置している。また、学部附属教育研究組織として、古美術研究施設及び写真センターを有している(資料1-1参照)。本学部の教育研究組織は、美術の諸領域をカバーしていること、特に日本画や工芸といった主に日本の伝統的造形芸術に関する知識や技術を専門的に行う学科から、技術等の進歩によって新しく生まれた表現や「美術」の分野を超える領域横断的な教育を行う先端芸術表現科を設けていることが特徴となっている。

また、学内共同教育研究施設である大学美術館とは博物館学課程(学芸員資格)に関する科目を共同で開設し、芸術情報センターとも情報教育に関する科目(デザイン科必修科目「芸術情報演習」・建築科の必修科目「CAD 図法演習」など)の開設を通じて密接に連携している。

さらに、平成26年度、文部科学省「国立大学改革プラン」や「ミッション再定義」等を踏まえた大学の機能強化として、本学では「グローバル展開」を大学改革・機能強化の中核と位置づけ、国際舞台で活躍できる芸術家育成等を加速度的に推進しており、美術学部・美術研究科においては、平成27年2月23日に、本学とロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校及びシカゴ美術館附属美術大学の世界最高峰の4芸術大学による「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を締結した。これは、これまで培ってきた国際連携実績を飛躍的に発展させ、海外一線級のアーティストをユニットで誘致して指導体制の抜本的強化を図り、国境の枠を超えたグローバル人材育成プログラム「国際共同カリキュラム(将来的にはジョイント・ディグリー)」を実施することを目的としており、世界的に見ても初となる先駆的な取組である。加えて、更なる国際化に資するため、国際舞台で活躍している芸術分野の専門家を数多く招聘し、ゲスト招聘者による特別講義やワークショップ、研究会、講評会等を行っている。

資料 1-1 美術学部の教育研究組織 ※()は入学定員。※教員数は資料 1-2 を参照

貝がイー・		我月明九仙帆 ぶし /は八子疋貝。 ※教貝奴は貝科1~乞参照
学科	専攻	専任教員の専門分野
絵画(80)	日本画(25)	日本画
松岡(00)	油画(55)	油画,版画,壁画,油画技法材料
彫刻(20)		石彫, 木彫, 金属, 彫塑
工芸(30)		彫金,鋳金,鍛金,漆芸,陶芸,染織,木工芸,ガラス造形
デザイン(4!	E /	視覚・演出、視覚・伝達、視覚・構成、空間・演出、空間・設計、機能・演出、機
7 9 1 2 (4)	0)	能·設計,映像·画像,環境·設計,描画·装飾造形
建築(15)		建築設計,構造計画,環境設計,建築理論
先端芸術家	表現(30)	地域と芸術、言語と身体、科学技術と表現、素材と創造性
芸術学(20	)	美学,工芸史,西洋美術史,日本・東洋美術史,美術教育,美術解剖学
附属古美術	析 研 究 施 設	日本·東洋美術史
附属写真也	センター	写真

### (参考)学内共同教育研究施設※〈 〉は教員数

施設名	教員の専門分野
大学美術館 〈5〉	博物館学, 美術史,
芸術情報センター〈1〉	情報学

また、平成26年度においては、本学におけるグローバル展開戦略の推進をはじめ、芸術分野の特殊性を踏まえた弾力的な人事・給与システムの構築を目的として、国内外の第一線級のアーティストやクリエーター等を戦略的に獲得するとともに、芸術分野固有の教育研究スタイルに応じた弾力的な雇用環境を創出するため、業績給制度を組み入れた年俸制職員給与体系に見直すとともに、海外からのアーティストユニット誘致に対応した「卓越教員」に係る就業規則やクロス・アポイントメント制度に関する規則を整備した。

なお、本学の教員採用は、平成16年度の国立大学法人化を契機とし、原則として公募制・ 任期制を導入しており、他大学へ公募要領を配布すると同時に本学WEBサイトに掲載する等、 広く人材確保に努めている。

本学部では、実技指導を中心とする授業の占める割合が高く、授業の準備(モチーフや使用する教材等の用意や管理)に係る負担は、座学で行う講義に比して大きい。そのため、本学部で行う教育研究を円滑に行えるよう、教育研究助手制度を整備して、専任教員と協同して学科等の運営や実技指導の補助にあたる者を配置している。

	开究院 研究院	教員配属学科			. , <u> </u>	<b> </b>	員数			学	学夕	<b>卜兼務</b> 著	女員	教
学系	領域	学科・専攻・ 附属施設	性別	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	内兼務教員	教かの兼務	教以かの 務	合計	育研究助手
		絵画	男	10	7	0	2	0	19					
		744 124	女	0	1	0	0	0	1					
	純粋	彫刻	男	3	3	0	1	0	7					
	美術	周2 次1	女	0	0	0	0	0	0					
	表現領域	先端芸術表現	男	5	4	0	1	0	10					
芸術		写真センター・	女	1	1	0	0	0	2					
表現			男	0	0	0	1	0	1					
学系			女	0	0	0	0	0	0					
, ,,,	総合	工芸	男	9	4	1	1	0	15					
			女	0	0	0	0	0	0	2	16	161	177	97
	美術	デザイン	男	5	4	0	1	0	10					
	表現	, , , ,	女	0	0	0	0	0	0					
	領域	建築	男	5	2	0	1	0	8					
		. – //•	女	0	1	0	0	0	1					
芸術	美術	芸術学	男	7	3	0	2	0	12					
理論	理論		女	0	3	0	1	0	4					
学系	領域	古美術研究施	男	0	0	0	0	0	0					
		設	女男	0	0	0	1	0	1					
	合計			44	27	1	10	0	82					
			女	1	6	0	2	0	9					

資料 1-2 専任教員等の数 (H27.5.1 現在)

入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに基づく人材を受け入れるため、本学では入学者選抜試験において入学志願者一人一人の適性、能力を複数次にわたり多角的に、的確に判断して選抜することを方針としている。

本学部の選抜方法は、一部の学科を除き一般選抜のみ(先端芸術表現科は帰国子女特別選抜を実施)とし、(資料 1-3 及び資料 1-4) に示すとおり、個別学力検査の成績に大学入試センター試験成績と出願書類(調査書等)の審査を加え、総合的に判断し、合否を判定している。

18歳人口の減少によりここ数年の志願者は減少傾向にあるが、本学部への進路選択志向は非常に明確である。(資料1-5)に示すとおり、平成27年度入学志願者についても入学定員を大幅に超える状況であり、かつ、入学辞退者はいない状況である。

本学部の入学者選抜試験の検証,改善に関しては,年度当初の入学試験運営委員会に おいて,前年度の選抜試験の実施を踏まえつつ,今後の在り方を含め検証等を行ってい るところであり,具体的には,入学試験日程,試験科目,点数配分等の検証を行ってい る。

具体的な改善につながった平成28年度入試への取組事例としては、一部の学科において、出題科目の変更(デザイン科・芸術学科)や入学定員の見直し(先端芸術表現科)を行った。

資料1-3 美術学部個別学力検査

	科・専攻		個別学力検査	
絵	日本画専攻	第1次	鉛筆素描	
画	日本回导权	第2次	着彩写生	
科	油画専攻	第1次	素描	
17	<b>佃回导</b> 及	第2次	素描・絵画	
		第1次	素描	
彫刻	科	第2次	素描	
		用	彫刻	
		第1次	鉛筆写生	
工芸	科	<b>左</b> 0 %	平面表現	
		第2次	立体表現	
		第1次 鉛筆写生		
デザ	イン科	<b>左</b> 0 %	デザイン I (色彩)	
		第2次	デザインⅡ (形体)	
Zah 络	£)	空間構成		
建築	<b>1</b>	総合表現		
		左 1 Vb	素描	
先端	芸術表現科	第 1 次	小論文	
		第2次	総合実技	
		## 1 \/h	外国語	
++ 公	<u> </u>	第 1 次	地理歴史	
芸術	子什	# 0 %	鉛筆素描 (石膏像)	
		第2次	小論文	

# 資料1-4 平成27年度美術学部絵画科 (油画) の入学試験出題内容

第1次	素描	モチーフを描きなさい。
	素描	折り紙を好きな形に折って、それをモチーフにして描きなさい。
第2次		私の部屋を描きなさい。
第 4 认	絵画	・人物を入れること。
		・試験室にセットしてある4色のうち、1色以上を用いること。

# 資料 1-5 平成 27 年度における美術学部入試状況

学科		入学 定員	定員 平均 超過率	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
		人	倍	人	人	人	人	倍
日本画				(3)	(3)			
公宝到	中国	25	1.03	442	435	27	27	17.7
絵画科	油画			(5)	(5)			
	田 囲	55	1.02	992	981	59	59	18
配 却 彩								
彫刻科		20	1.03	185	182	22	22	9.3
<b>十</b>				(3)	(3)			
工芸科		30	1.03	229	226	33	33	7.6

デザイン科			(4)	(4)			
ノリイン科	45	1.02	636	624	47	47	14.1
建築科			(4)	(4)			
<b>建</b> 条件	15	1.01	87	86	15	15	5.8
先端芸術表現科			(1)	(1)			
尤编云例衣况符	30	0.93	90	85	29	29	3
芸術学科			(1)	(1)			
云州 子科	20	1.01	75	68	22	22	3.8
#			(21)	(21)			
ĒΤ	240	1.00	2,736	2,687	254	254	11.4

(括弧内は外国人留学生で外数。定員平均超過率はH22~27の実績値より算出)

教員の教育力向上のための措置について,本学部は,美術の諸領域における実技教育が,専門教育の中心となっている。そのため,多くの専門実技においては、学年別や課題別等の少人数のグループ指導が指導方法としてとられている。実技の指導においては、グループ指導とは言え、個々の学生と教員の間で適宜意見のやりとりをしながら、個々の学生の個性やスキルに応じたマンツーマン的な指導を行うことになるため、教員は日常の学生の反応を見ながら、適宜指導方法を見直して授業を進めている。この実技科目に関しては、課題ごとあるいは学期末に講評会等を開催(資料 1-6)し、教育内容及び学生の到達点を教員相互にチェックする体制をとっている。加えて、講評会等においては、他大学や関係機関等の外部から教員等を招聘し、意見を求めることもあり、また、その多くが公開されて行われているため、教育の質を担保するものとなっている。

資料 1-6 平成 27 年度 美術学部講評会等実施例

	11		7 m 1 m n			/s. L
No.	実施日	学科・専 攻等	対象学年	参加 学生数	内 容	参加 教員数
1	5月7日	日本画	学部 4 年	27	学部 4 年自由制作研究会	2
2	9月7日	日本画	学部 4 年	28	学部 4 年自画像研究会	2
3	7月23日	日本画	学部 4 年	27	学部 4 年自由制作合同研究会	7
4	9月7日	日本画	学部 4 年	28	学部 4 年 (下図) 合同研究会	6
5	1月14日	日本画	学部 4 年	28	学部 4 年自由制作研究会	2
6	5月25日	日本画	学部3年	25	学部 3 年人物制作研究会	2
7	6月18日	日本画	学部3年	25	学部3年風景制作研究会	2
8	7月16日	日本画	学部3年	25	学部 3 年自由制作研究会	2
9	10月29日	日本画	学部3年	25	学部 3 年合同研究会	7
10	12月17日	日本画	学部3年	25	学部 3 年自由制作研究会	2
11	1月21日	日本画	学部3年	25	学部 3 年自由制作研究会	2
12	6月15日	日本画	学部2年	27	学部 2 年合同研究会	7
13	7月21日	日本画	学部2年	27	学部 2 年動物制作研究会	2
14	11月30日	日本画	学部2年	27	学部 2 年人物制作研究会	2
15	12月21日	日本画	学部2年	27	学部 2 年風景制作研究会	2
16	1月25日	日本画	学部2年	27	学部 2 年自由制作絹本研究会	2
17	7月16日	日本画	学部1年	27	学部 1 年風景制作研究会	2
18	12月7日	日本画	学部1年	27	学部 1 年人物制作研究会	2
19	12月18日	日本画	学部1年	27	学部1年合同研究会	7
20	10月22日	日本画	学部1年	27	学部 1 年静物制作研究会	2
21	1月26日	日本画	学部1年	27	学部1年自画像絹本研究会	2
22	5月21日	油画	学部2年	59	2年生前期全教員批評会	23
23	5月23日	油画	学部1年	60	1年生前期全教員批評会	23
24	6月24日,6 月25日	油画	学部 4 年	54	4年生前期全教員批評会	23
25	6月29日~7 月10日	油画	学部 3 年	53	3年生前期全教員批評会(チュートリアル)	23
26	11月9日~ 11月20日	油画	学部 3 年	53	3年生後期チュートリアル	23
27	11月18日~ 11月22日	油画	学部 4 年	53	4年生後期全教員批評会	23

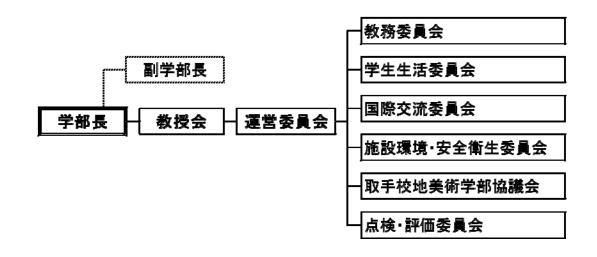
			T	ı		
28	12月4日	油画	学部 1 年	60	1年生後期全教員批評会	23
29	12月18日	油画	学部3年	53	3 年生後期全教員批評会	23
30	1月5日,6 日	油画	学部2年	59	2 年生後期全教員批評会	23
31	1月27日	油画	学部 4 年	53	卒制批評会 (客員教授)	23
32	1月28日	油画	学部 4 年	53	学部 4 年最終批評会	2
33	7月2日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
34	7月17日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
35	11月9日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
36	12月26日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
37	1月15日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
38	5月18日	彫刻	学部2年	22	学部2年講評会	4
39	7月3日	彫刻	学部2年	22	学部2年講評会	7
40	1月9日	彫刻	学部2年	22	学部2年合同講評会	8
41	1月9日	彫刻	学部3年	7	学部3年講評会	3
42	1月9日	彫刻	学部3年	7	学部3年講評会	2
43	1月10日	彫刻	学部3年	7	学部3年講評会	2
44	1月11日	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
45	1月21日	彫刻	修士2年 学部4年	38	修士2年学部4年合同講評会	8
46	4月28日	工芸基礎	学部1年	30	基礎造形実習 I (立体造形実習) 講評会	4
47	5月26日	工芸基礎	学部1年	30	絵画実習 I (素描) 講評会	5
48	6月27日	工芸基礎	学部1年	30	塑像実習実習 講評会	7
49	7月25日	工芸基礎	学部1年	30	絵画実習Ⅱ (毛筆・扇面) 講評会	5
50	11月1日	工芸基礎	学部1年	30	基礎造形実習Ⅱ(ガラス造形実習) 講評会	7
51	12月5日	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅲ(表示図法, 木工芸実習) 講評会	7
52	1月18日	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅳ(自由造形実習) 講評会	4
53	7月22日	工芸鍛金	全学年	20	前期講評会	6
54	1月19日	工芸鍛金	全学年	25	後期講評会(卒業・修了作品含む	6
55	4月7日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
56	4月11日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
57	5月9日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
58	5月12日	漆芸	全学年	30	古典研究発表会	6
59	5月19日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
60	6月16日	漆芸	学部4年修士2年	13	卒業·修了制作研究会	6
61	7月21日	漆芸	全学年	30	前期講評会	6
62	10月3日	漆芸	学部4年	13	卒業·修了制作研究会	6
63	1月15日	デザイン	学部 4 年 修士 2 年	88	「卒業制作,修了制作」採点	10
64	5月27日	デザイン	学部 4 年	52	実技課題「プレ卒業制作」講評	9
65	12月17日	デザイン	学部 4 年	51	「卒業制作」講評	10
66	5月28日	デザイン	学部3年	45	実技課題「FUTURE VISION」講評	11
67	7月14日	デザイン	学部3年	45	実技課題「伝統と革新」講評	9
68	11月10日	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 1」第1講評	10
69	11月17日	デザイン	学部3年	45	実技課題「THINK 1」第2講評	10
70	12月22日	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 2」第1講評	12
71	1月5日	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 2」第2講評	10
72	5月14日	デザイン	学部2年	48	実技課題「プレイグラウンド」講評	2
73	6月16日	デザイン	学部2年	48	実技課題「旅」講評	2
74	7月21日	デザイン	学部2年	48	実技課題「座る」講評	3
75	10月27日	デザイン	学部2年	48	実技課題「食のデザイン」講評	2
76	12月3日	デザイン	学部2年	48	「トキのかたち」講評	5
77	1月12日	デザイン	学部2年	48	実技課題「対話のかたち」講評	2
78	5月20日	デザイン	学部1年	48	デザイン基礎実技「塑造」講評	2
79	5月22日	デザイン	学部1年	48	デザイン基礎実技「線描」講評	2

80	7月2日	デザイン	学部1年	48	実技課題「調べる」講評	1
81	10月2日	デザイン	学部1年	48	実技課題「にぎる」講評	2
82	11月26日	デザイン	学部1年	48	実技課題「観る・探す」講評	2
83	1月13日	デザイン	学部1年	48	実技課題「マテリアルズ」講評	2
84	4月15日	建築	学部 4 年 修士 1 年	16	AA スクール合同 WS 講評会	10
85	4月27日	建築	学部1年	15	学部1年課題「場所」講評会	5
86	5月11日	建築	学部2年	15	学部2年課題「住宅 I」講評会	3
87	5月18日	建築	学部3年	16	学部3年課題「教育施設」講評会	3
88	5月25日	建築	学部1年	15	学部1年課題「空間」講評会	5
89	6月8日	建築	学部 4 年	17	学部4年課題「建築と表現」講評会	4
90	6月8日	建築	学部2年	15	学部2年課題「住宅Ⅱ」講評会	3
91	6月15日	建築	学部1年	15	学部1年課題「基礎」講評会	4
92	7月6日	建築	学部 4 年	17	学部 4 年課題「プレディプロマ」講評会	3
93	7月6日	建築	学部3年	49	学部 3 年課題「地域施設」講評会	3
94	7月6日	建築	学部2年	15	学部2年課題「集合住宅1」講評会	3
95	7月14日	建築	学部 1~4年	60	学部前期合同講評会	20
96	10月26日	建築	学部2年	15	学部1年課題「椅子」講評会	6
97	10月27日	建築	学部 4 年	20	学部 4 年「卒業制作」中間講評会	20
98	11月30日	建築	学部1年	15	大学院「修了論文・制作」中間講評会 2	20
99	11月30日	建築	学部2年	15	学部2年課題「集合住宅Ⅱ」講評会	3
100	11月30日	建築	学部3年	15	学部 3 年課題「地区設計」講評会	6
101	12月4日	建築	学部 1~3年	30	学部後期合同講評会	20
102	12月22日	建築	学部 4 年	20	学部 4 年「卒業制作」講評会	5
103	12月23日	建築	学部 4 年	22	大学院「修了制作」講評会	20
104	1月16日	建築	学部 1~3年	47	学部科内コンペ講評会	26

こうした日常的な見直しや講評会や学科会議での教員同士のディスカッションを通して認識された問題を意識しながら、次年度の実技課題等を検討し、決定している。

本学部全体の運営にかかる体制は、資料 1-7 のとおりである。このうち、教務委員会は本学部全体の教育内容、教育方法の改善に関する役割を担っており、教育課程表の改訂や共通科目(※観点「教育内容・方法」)の科目の見直し、あるいはFD等の事項について検討する組織として位置付けている。

### 1-7美術学部の委員会構成



(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

本学部の基本的組織編成は、資料 1-1 及び資料 1-2(P.1-3~1-4)のとおりである。専任教員 1 人当たりの学生数は 11.3 人 (平成 27 年度現在) となっており、都内の私立大学の美術・芸術系学部(5 学部)との平均値 29.8 人と比較すると際立って充実した値となっている。

また、本学部の入学者選抜は高い倍率を維持し、毎年ほぼ定員どおりの入学者を確保していることからも、美術の各領域について学ぶ意欲のある学生の期待に応えていると考える(資料 1-5 参照)。加えて、平成 25 年度からは学部全体で入試説明会を実施している。絵画科、デザイン科、先端芸術表現科等においては学科の説明のほかに、入試の流れを示したパンフレットを配布し、過去の出題内容や回答例を示すなど、従来行ってこなかったきめ細やかな体制を整えており、受験者利便性の向上に役立てている。

さらに、2015 年度後期「学生による授業評価アンケート」結果において、「この授業を受講することで、作品制作にあたっての知識や技術が習得できたと思いますか。」の設問に対して、「強くそう思う、そう思う」という肯定的な回答は73.1%、「講評会での教員からの意見は、自分にとって今後の制作の判断材料となるものでしたか。」の設問に対しては、77.6%と高い数値となっており、指導体制に一定の満足度を得られているといえる。

## 観点 教育内容•方法

(観点に係る状況)

本学部の授業科目は、履修の指定方法により必修科目と選択科目に、授業の種別により専門科目と共通科目に区分される。専門科目は、各科(専攻)の専門教育の中心をなす授業科目で、履修が原則として当該科(専攻)の学生に限られる科目(他科・専攻学生は履修が認められても卒業要件単位とならない科目)である。共通科目は、各科・専攻の枠を超えて、学部内に共通に開設される授業のことであり、教養科目、外国語科目、体育・スポーツ科目、専門基礎科目に大別される。共通科目の一部は、学科・専攻により必修科目として指定されている(資料 1-8 中「指定科目」として表示)が、基本的には学生の個人の興味に応じて学年進行に係わりなく選択制としている(資料 1-8, 1-9 参照)。

Z41 · · · Zm J m + A Z II + E X						
科·専攻		必修科目			選択科目	合計単位数
		専門科目	専門科目 古美術研究 指定科目		共通科目	
絵画	日本画	90	10	4	22	126
科	油画	90	10	4	22	126
彫刻科		90	10	4	22	126
工芸科		88	10	16	16	130
デザイン	/科	84	10	22	10	126
建築科		98	10	16	20	144
芸術学科		80	10	16	20	126
先端芸	術表現科	72	10	24	24	130

資料 1-8 美術学部卒業要件単位数

専門実技科目に関しては、各科・専攻において、技法や技術の習得の必要性から学年進行制を基本とし、1年間を複数の課題に分割して、それぞれを別の教員が担当し、半期ごとに行う合同講評会などで複数教員による相互チェックを行っている。また、実技を主とせず、理論を主とする芸術学科においても1、2年次に絵画や彫刻に関する基礎造形実技が必修となっていることは、教育課程上の特徴と言える。

共通科目のうち、教養科目や専門基礎科目には、芸術情報センターと連携して開設する情報処理に関する科目(資料 1-10)、保健管理センターと連携して開設する健康教育に関する科目、音楽学部で開設している科目(資料 1-11)など幅広い内容の科目が含まれており、総合的な教養教育を図ることを可能としている。

また、本学部の教育課程の大きな特徴の1つに、全学科・専攻を通じて、「古美術研究」を必修としていることがあげられる。古美術研究においては、本学部附属古美術研究施設(奈良市)を拠点に主として奈良・京都の古美術(国宝級を含む様々な美術工芸品や文化財等)を寺社、博物館、研究施設等で実地に見学、鑑賞し、研究することで、美術を専攻する学生の基礎的視野を広げ、各自の専門分野の研鑽に資することを目的としたもので、これは「伝統の上に新しい創造を行っていく」という本学部の基本姿勢を示すものである。

さらに、これらの卒業要件単位に係る科目のほかに、教職課程(教育職員免許状)及び博物館学課程(学芸員資格)を開設しており、これらの資格の取得を目指す場合、必要に応じた実技又は理論の科目を履修することとしている。

# 資料 1-9 美術学部教育課程(カリキュラム)修得単位年次表

例 1 : デザイン科 ※実技の年間スケジュールは資料 10 参照

区分			年次	第2年次		第3年次			第4年次	
巨四万		<b></b>	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	位数
必移目	デ基技 デ実1デ	ザ碟 (4) ザ支 7) ザ (4) イ (4) イ (4) イ (7) イ (4) イ (4	デザイン 実 (7) デザイン 技 II (1)	デザイン 実技 I (7) デ技 I (7) デ技 I (2)	デ 実 取 (7) デ 技 (2)	デ 実 I (8) ボ 技 II (8) 専 下 位 を せ I ・ II で ジュ ダ ク ト ア パ ア パ ア パ ア パ ア パ ス ペ ー ス ス ペ ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	デ実Ⅱ(4) まは(4) また(2) + (2) として、デザインⅡ(2) トでインⅡ(2) デザイン Ⅱ(2) デザイン Ⅱ(2) 接期(2)	デ実 I (6) デ実 I (6) 本作 I (7) を C る期 (2) が 数期 (2) が 数期 (2) が 数期 (2) は 期 (2) は 期 (2) は 別 (2)	デザイン 実 II (6) 卒 II (7)	也 数 84
			— III	10	1- 1-1-1-	古美術研		20 -	- 1 <del>24</del>	10
			1.9年次 図	<u> </u> 学 I ー I (9	) またけ図点		1 /1 (10/	1		10
	1·2年次 図学 I − I (2), または図学 II (4)   2年次 デザイン原論 I (2), デザイン原論 II (2), 芸術情報演習 (デザイン) I (2), 指 修 芸術情報演習 (デザイン) II (2), デザイン概説 II (2), デザイン概説 II (2)   1~4年次 外国語科目 (2)						18			
	科目	択	史概説 I (2) Ⅱ(2), 日本	死説 $I(2)$ , 西洋美術史概説 $(2)$ , 西洋美術史概説 $II(2)$ , 日本美術 , 日本美術史概説 $I(2)$ , 東洋美術史概説 $I(2)$ , 東洋美術史概説 工芸史概説 $I(2)$ , 日本・東洋建築史 $I(2)$ のうちから4単位						4
選 択 共通科目						10				
					合計					126

# 例2:芸術学科

171 4	· A (ii) T 14								
区公	▼分 第1年次 第1年次		第29	年次	第3	年次	第4	年次	修得単
四刀	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	位数
必修科目	基礎造形実 技 I A(4) 芸術学演習 I (2)     基礎造形実 技 I B(4) 芸術学演習 I (2)     基礎造形実 技 I B(4) 芸術学演習 I (1)     基礎造形実 技 I B(4)     第 習 I (1)     第 習 I (1)     第 習 I (1)     平業論文(14)       外国語(16) 美学・美術史演習(12) 美学・美術史特殊講義(16)     第 第 次 (14)     第 次 (14)     第 次 (14)     第 次 (14)						80		
			古美術研究 I(5)	古美術研究 Ⅱ(5)					10
	指定科目 西洋美術史概説 I・II・III から2科目(4) 日本美術史概説 I(2)・II(2) 東洋美術史概説 I(2)・II(2) 美学概論 I(2)・II(2)又は美学史概説 I(2)・II(2)						16		
選択科目								20	
	•		合	+					126

# 資料 1-10 芸術情報センターと連携して行う科目

芸術と情報インタラクティヴ・ミュージック Iジェネラティブ・デザイン情報メディア学インタラクティヴ・ミュージック IIコードとデザイン芸術情報概論Aサウンド・デザイン概論映像演習 I 映画芸術情報概論Bアーカイブ概論映像演習 II アニメーション

# 資料 1-11 他学部等開設科目

_ 資料 1-11 他字部等開設		
〈音楽学部開設科目中,本	学部で履修可能な科目>	
思想史I	劇場芸術論 I	空間音響研究I
思想史Ⅱ	劇場芸術論Ⅱ	空間音響研究Ⅱ
英米文学 I	アジアの伝 統と現代 I	録音技法研究I
英米文学Ⅱ	アジアの伝統と現代Ⅱ	録音技法研究Ⅱ
経済学 I	劇場技術論 I	ジャズ・ポピュラー音楽理論 I
経済学Ⅱ	劇場技術論Ⅱ	ジャズ・ポピュラー音楽理論 Ⅱ
※アートマネージメント概論 I	サウンドレコーディング基礎演習	音楽文化史Ⅰ
※アートマネージメント概論Ⅱ	[前期]	音楽文化史Ⅱ
文化人類学Ⅰ	サウンドレコーディング 基 礎 演 習	ョネスに文ェ 高臨場感音響設計概論 I
文化人類学Ⅱ	「後期」	高臨場感音響設計概論Ⅱ
演劇論Ⅰ	「仮 <i>勃</i> 」 コンサート・プロデュース論	同職物窓自音設計例開工 ポップ論 I
演劇論Ⅱ	障がいとアーツ	ポップ論Ⅱ
フランス文学Ⅰ	ホール音響概論	サウンドデザイン演習Ⅰ
フランス文学Ⅱ	臨床音楽入門 I	サウンドデザイン演習Ⅱ
ドイツ文学Ⅰ	臨床音楽入門Ⅱ	音響技術史Ⅰ
ドイツ文学 I	芸術文化環境論I	音響技術史Ⅱ
歴史 I	芸術文化環境論Ⅱ	※芸術運営論 I :基礎概論
歴史Ⅱ	日本·東洋音楽史I	メディア・リテラシー
スペイン語 中 級 I	日本・東洋音楽史Ⅱ	日本音楽概論
スペイン語 中 級 Ⅱ	美学 I	コマーシャルにおける映像と音楽
イタリア文学	美学Ⅱ	※芸術運営論Ⅰ音楽マネジメント1
宗教学	音響学I	※芸術運営論Ⅰ音楽マネジメント2
西洋音楽史概説	音響学Ⅱ	※芸術運営論 I:著作権
日本音楽史概説	西洋音楽史	※芸術運営論Ⅱ:芸術支援
東洋音楽史概説	音響心理研究法 I	芸術史
音楽民族学概説	音響心理研究法Ⅱ	芸 術 論
文化社会学 I	声楽実技演習I	
文化社会学Ⅱ	声楽実技演習Ⅱ	
〈言語・音声トレーニングセンター	- が提 供 する科 目 >	
英語会話(中級) I a	英語作文(演習) I	独語個人指導 A
英語会話(中級) II a	英語作文(演習)Ⅱ	独語個人指導 B
英語会話(中級) I b	英語個人指導 A	伊語会話(中級) I a
英語会話(中級)Ⅱb	英語個人指導 B	伊語会話(中級) I b
英語会話(中級) I c	英語個人指導 C	伊語会話(中級)Ⅱa
英語会話(中級)Ⅱc	独語会話(中級)Ia	伊語会話(中級)IIb
英語会話(中級) I d	独語云話 (中級) II a 独語会話 (中級) II a	伊 語 云 語(中 級)』 D 実 用 イタリア語(上 級) I
英語会話(中級)Ⅱd 英語会話(上級)Ⅰa	独語会話(中級) I b	実用イタリア語(上級)Ⅱ
	独語会話(中級)IIb	イタリア語朗読法Ⅰ
英語会話(上級)Ⅱa	独語会話(中級) I c	イタリア語朗読法Ⅱ
英語会話(上級) I b	独語会話(中級)Ⅱc	伊語個人指導
英語会話(上級)Ⅱb	独語会話(上級) [	英語アカデミック・スキル(上級)Ia
英語会話(上級) I c	独語会話(上級)Ⅱ	英語アカデミック・スキル(上級)Ib
英語会話(上級)Ⅱc	独語作文(中級)I	英語アカデミック・スキル(上級)Ⅱa
実用英語(中級) I a	独語作文(中級)Ⅱ	英語アカデミック・スキル(上級)Ⅱb
実用英語(中級)Ⅱa	実用ドイツ語 (中級) I a	英語アカデミック・スキル(演習)Ia
実用英語(中級) I b	実 用ドイツ語 ( 中 級 ) Ⅱ a	英語アカデミック・スキル(演習) I b
実用英語(中級)Ⅱb	実 用ドイツ語 (中 級)I b	英 語 アカデミック・スキル (演 習 ) Ⅱ a
実用英語(上級) [	実 用ドイツ語 ( 中 級 ) Ⅱ b	英語アカデミック・スキル(演習)Ⅱb
実用英語(上級)Ⅱ	実用ドイツ語 (上級) I	仏語会話(中級) I a
実用英語(演習) I a	実用ドイツ語 (上級)Ⅱ	仏語会話(中級)Ⅱa

実用英語(演習)Ⅱa	ドイツ語歌詞演習(上級) I a	仏語会話(中級)Ib
実用英語(演習) I b	ドイツ語 歌 詞 演 習 ( 上 級 ) Ⅱ a	仏語会話(中級)Ⅱb
実用英語(演習)Ⅱb	ドイツ語 歌 詞 演 習 ( 上 級 ) I b	実用フランス語(上級) I
実用英語(演習) I c	ドイツ語 歌 詞 演 習 ( 上 級 ) Ⅱ b	実用フランス語(上級)Ⅱ
実用英語(演習)Ⅱc	ドイツ語 朗 読 法 I	フランス語 朗 読 法 I
英語作文(上級) [	ドイツ語 朗 読 法 Ⅱ	フランス語 朗 読 法 Ⅱ
英語作文(上級)Ⅱ		仏語個人指導

また,近年,芸術の文化的側面だけでなく,社会的・経済的側面での価値への認識が広がり,全国的に「アートによる町おこし」を行う自治体等が増えてきており,アートイベント等のマネジメント能力あるいは知的財産に関する知識をもった人材の需要が高まってきている。本学部は、そうした知識を持つことが卒業後に表現者として活動していくことを望む学生にとっても有用であるという考えから、アートマネジメントや知的財産に関する科目を開設(専門基礎科目、デザイン科専門科目)しているほか、音楽学部開設科目から履修できる(資料 1-11 (P. 1-12)中、※印の科目)こととした。

加えて、国際舞台で活躍できる優れた芸術家の育成を目的として、学生の海外での芸術文化体験活動を促進する実践型教育プログラム「アーツスタディ・アブロードプログラム」 (ASAP) を実施している。これは展覧会や研修への参加、協定校への訪問等、教員による企画・指導の下、学生が海外において主体的に取り組む芸術文化活動の教育プログラムであり、平成26年度において試行的に実施し、平成27年度からは正規授業として単位化された。

さらに、カリキュラムの国際通用性を高めるため、平成 27 年度よりセメスター制を導入している。これにより全授業科目は前期もしくは後期において完結するため、大部分が秋から開始される海外大学の学事暦とのギャップが解消されることとなり、学生の海外留学及び外国人留学生受入の推進につなげている。

学習指導方法の工夫として,本学部のカリキュラムは,資料 1-8,1-9(P.1-10~1-11)のとおり,実技を中心としたものであるが,各専門分野に応じて必要とされる講義科目を指定(「指定科目」)し,実技教育の内容と連動するような工夫を行うと同時に,実技課題の学年進行が最も効果的となるように,「古美術研究」を配置している。

また、実技科目では、フィールドワーク、ワークショップなどや社会で活躍するアーティスト等を招聘した特別講義・集中講義を組み入れることにより、実践的な指導や伝統技法、現在の美術分野の動向などを取り入れることができるような工夫をしている。(資料1-12 参照)さらに、課題終了時や学期末に行われる、講評会や学内に設けられている展示スペース等を使用してのプレゼンテーションを通じて、学生間でのディスカッション、学生と教員間でのディスカッション、教員間でのディスカッションが行われ、成績評価の透明性を担保する仕組みとして機能している。また、学生の優れた作品等の展示も積極的に行い、学生の自主的な取り組みや競争を促すことに活用している。

そのほか、例えば、週1回、学生2~3人が制作等について発表し、教員・学生全員で 討論する場を設定した(工芸科 鍛金)、研究室ごとに個別相談日を設定し、随時指導教員 がコンセプトから表現技術に至るまで具体的にアドバイスを行う(デザイン科、先端芸術 表現科)、学生に年間目標、計画を作成、提出させ、各自の目的に合わせた指導を行う(工 芸科 鍛金、陶芸)など、各学科・専攻ごとに学生の指導について様々な工夫をしている。

資料 1-12 平成 27 年度特別講義・講演

No.	日付	企画担当	題目	講師名	講師所属等
1	5月1日・ 8日・15 日・29日	油画技材	デジタルフォト概論	阿部充夫	長岡造形大学 視覚デザイン学科
2	5月13日	美術研究科	「関係性の美学」そして 「ポスト・フクシマのア ート」	Clelia Zernik	パリ・エコール・デ・ ボザール

		I	T	I	
3	5月13日	美術研究科	「アーティストとしての	Jean-Luc	パリ・エコール・デ・
			活動」	Vilmouth	ボザール
4	5月18日	日本画	茶道(茶の湯・絵画)講 義	金澤久雄	裏千家
		彫刻科 /	震災と芸術一企画に関わ		II I W I W II W III
5	5月25日	先端芸術表	った3つの展覧会を通じ	五十嵐 太郎	東北大学大学院工学研
		現科	7	. , ,	究科 教授
			生型特別講義 生型の特		
6	6月2日	工芸(鋳金)	性からプロダクトデザイ	宮伸穂	作家
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	×		
	6月2日·				
7	9 日・16	油画技材	<b> </b>	春日敏夫	株式会社ホルベインエ
	日・30 日				業
			日本の都市構造を読み解		
8	6月11日	先端	<	光井渉	東京芸術大学
	6 月 16	_ ,	the dealer and the Ma		
9	日・17日	日本画	箔実習及び講義	月岡裕二	日展
1.0		74 /5	Mies van der Rohe: The	Gevork	オーストラリア・キャ
10	6月25日	建築	Limits of Tectonics	Hartppnian	ンベラ大学
11	6月29日	日本画	伴大納言絵巻講義	黒田泰三	出光美術館
12	7月2日	日本画	裏打ち実習及び講義	寺内秀一	寺内遊神堂
13	7月9日	彫刻	彫刻論	瀧徹	彫刻家
14	7月9日	先端	万物の平等:代表の断裂	WANG Hui	北京・清華大学
		2 - 1 - 1	アートシーンができるま		1271
15	7月13日	版画専攻	で	川西 浩史	個人美術商
			ー1970 年代 Soho から		
16	7月13日	建築	建築・模型・写真	小川重雄	小川重雄写真事務所
17	7月27日	日本画	裏打ち講義	寺内秀一	寺内遊神堂
		4 100			国際アーティスト(ス
18	7月28日	先端	Project · Protcol	Antoni Muntadas	ペイン)
19	7月30日	建築	Salute to Illegal	   阮慶岳	元智大学
10			Architecture		
20	9月9日	先端	儒教と京都の空間構造	小倉紀蔵	京都大学
21	9月10日	先端	禅と私	河野太通老師	臨済宗妙心寺派龍門寺
22	9月11日	<b>先端</b>	ヴェネチア:都市の基盤	野口昌夫	東京芸術大学
	0 / 11	76 2110	構造と芸術文化	7 - 17	
23	9月17日	先端	Shanghai Project	Yongwoo Lee	上海ヒマラヤ美術館
24	9月29日	先端	現代アートの社会実践	マリー・ジェイ	シカゴ美術館附属美術
		7 G - 110		ン・ジェイコブ	大学
	9 月 29				
25	日・10 月 1	木工芸	打刃物実習	船津祐司	舟弘製作所
	日				
26	9月30日	日本画	  接着材料及び講義	   竹村彰夫	東京大学大学院農学生
	\$ 73 00 H	13 71 1 124	11 11   11   11   12   11   12   12	11177	命科学研究科准教授
27	10月8日	建築	Corb, Photograph,	Andrew Higgot	王立芸術大学
<u> </u>		·	Architecture		
28	10月15日	彫刻	彫刻論	田中 毅	彫刻家
29	10月16日	日本画	日本画材料及び筆講義	阿部信治	清辰堂
30	10月22日	彫金	OTTO KUNZLI / オット	オットー・クンツ	作家
			ー・クンツリ	IJ	
31	10月27日	日本画	源氏物語絵巻特別授業	名児耶明	五島美術館

			T	,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
32	10月30日	先端	建築構造プロジェクトと コラボレーション	金田光弘	建築科
33	11月2日	日本画	絹本裏打ち講義	寺内秀一	寺内遊神堂
34	11月5日	先端	Against Global Musem?	Bartomeu Mari	韓国・国立現代美術館
35	11月6日	美術研究科	M+美術館の活動と東アジ アの牽引について	Dr.Lars Nittve	香港・M+美術館
36	11月9日	先端	日本人・日系アメリカ人強制収容体験講話	ジーン・ミシマ, リチャード・ヒダ カ,メリー・オオ ヤ	シカゴ日系アメリカ人歴史協会
37	11月17日	油画 3 壁画 2	シルクロード敦煌の飛天 達	常嘉煌	作家
38	11月25日	日本画	日本画材料及絵具講義	宮内由紀子	得応軒
39	12 月 2 日·3日	木工芸	座編み実習	金澤知之	金澤図工
40	12 月 9 日·10 日	日本画	箔実習及び箔講義	月岡裕二	日展
41	1月10日	先端	芸術文化を通じた心の復興	家村佳代子	フューチャーラボ東北
42	1月15日	先端	被曝体験講話	小倉桂子	平和のためのヒロシマ 通訳者グループ
43	1月15日	先端	被曝伝承講話	森河伸子	広島平和記念資料館
44	1月16日	先端	被曝伝承講話	伊藤正雄	広島平和記念資料館
45	1月16日	先端	記憶の継承	志賀賢治	広島平和記念資料館
46	1月16・17日	先端	広島から東への旅	ジーン・ミシマ	シカゴ日系アメリカ人 歴史協会
47	1月19日	油画	イレズミ と 日本画一日 本南島の針突(ハジチ) にみる海人族の記憶ー	山﨑 宏	現代美術家
48	1月26日	油画	めくるめく血肉化の遠近 法一観察と参与を通して 一	岩井優	美術家
49	1月29日	工芸	欧米現代工芸の現状と展 望	エミリー・ジルバ	ボストン美術館キュレ ーター
50	1月29日	全学生	ベツァエル美術デザイン アカデミーのはなし	アディ・スターン 他	同アカデミー学長

本学部は、実技教育を中心とした学部であるため、アトリエや工房などの作品制作の場について、授業時間外の使用を認めている。本学部の時間割は基本的に午前に実技科目、午後に講義科目が配置されているので(取手校地は逆)、学生は、講義科目を履修していない空き時間や授業時間外もアトリエ等で課題制作や自由制作を行っている。

アトリエ等の時間外の使用時には,担当教員あるいは教育研究助手が輪番制で残るなど の工夫により,指導や機材の管理,施錠等を行うなど,可能な限り対応している。

また、上述した授業中や課題終了時や学期末に行われる講評会やプレゼンテーション時のディスカッションや個別相談等は、学生が作品制作について自ら試行錯誤を積み重ねつつ、主体的に取り組んでいくためになくてはならない確認点となっている。

さらに,本学部では,優秀な学生に対する各種の顕彰制度を設けている(資料 1-13 参照)。 特に学部教育の集大成である卒業制作に関しては,全学生の作品を展示した卒業制作展を 大学美術館と東京都美術館で毎年実施し,作品を一般に公開すると同時に図録(作品を制 作しない芸術学科の卒業論文の概要も含む。)を作成・刊行し,優秀作品の買い上げや各

賞を授与している。資料 1-14 で示すとおり、平成 18 年度からは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため「藝大アートプラザ大賞」という学内コンペティションも設けた。このコンペでは、大賞、優秀賞、奨励賞の各賞を授与するほか、入選作は藝大アートプラザでの作品販売の機会を得られ、芸術家・作家としての自覚を促すことも目的としている。

これらの顕彰制度等は、学生のキャリア形成の観点からも意味があり、学習意欲を高めるという効果を生んでいる。

資料 1-13 美術学部・美術研究科の顕彰制度一覧

No	奨学金等名	対象学科·専攻
1	安宅賞	全学科·専攻
2	平山郁夫奨学金	全学科·専攻
3	O氏記念賞	油画
4	俵奨学金	油画(版画)
5	久米桂一郎奨学基金	油画, 彫刻
6	内藤春治奨学基金	工芸(鋳金)
7	原田賞奨学基金	工芸
8	藤野奨学金	工芸(鍛金),美術教育
9	吉田五十八奨学基金	建築
10	野村美術賞	全学科・専攻(※博士課程のみ)
11	上野芸友会賞	油画
12	菅原安男奨学基金	彫刻
13	芸大陶友会奨学金	工芸(陶芸)
14	お仏壇のはせがわ賞	文化財保存学(保存修復)
15	卒業·修了作品買上	全学科·専攻
16	サロン・ド・プランタン賞	全学科·専攻
17	芸大デザイン賞	デザイン
18	吉田五十八修了制作賞	建築
19	吉村順三卒業制作賞	建築
20	北田文化財保存科学賞	文化財保存学(保存科学)
21	平山郁夫文化芸術賞	日本画

### (参考)

外部団体が卒業・修了制作(論文)に対して直接に授与等するもの

1	台東区長賞(台東区)
2	台東区長奨励賞
3	取手市長賞(取手市)
4	荒川区長賞(荒川区)
5	杜賞(本学部·研究科同窓会)
6	上野恩賜公園「芸術の散歩道」東京都知事賞(東京都)
7	三菱地所賞
8	メトロ文化財団賞

資料 1-14 藝大アートプラザ大賞受賞一覧

		整人 アートノフ:		
受賞回	受賞名	氏名	所属	作品名
	大賞	玉川 みほの	美術研究科漆芸専攻修士1年	けろり
		御手洗 真理	│ │ 美術研究科陶芸専攻修士1年	Shell Forum I -貝の
	優秀賞	脚丁仇 英柱	关州切允科陶云寺久修工工中	フォルム-
第 5 回	医力貝	福島沙由美	   美術研究科油画専攻修士1年	Breath of the memory
(H22)		田町 り田天	关 的 奶 九 们 面 固 寺 久 彦 王 1 中	-記憶の呼吸-
		村中 恵理	美術研究科ガラス造形専攻修士2年	breathing
	奨励賞	福村 彩乃	音楽研究科応用音楽学専攻修士2年	ため息
		小林 真理子	美術学部絵画科(油画)4年	星の囁き
	大賞	大谷 佳那子	美術学部工芸科(漆芸)3年	妙に清らの
		長尾 睦美	美術研究科彫刻専攻修士2年	永遠を見る
第6回	優秀賞	府川 大吾	美術学部デザイン科3年	日本の伝統色クレヨン
(H23)				「桜」「梅」「桔梗」
(1120)		石田 菜々子	美術研究科ガラス造形専攻修士2年	Waiting
	奨励賞	先﨑 了輔	美術学部デザイン科2年	ユメクイノヨル
		安河内 裕也	美術研究科版画専攻修士2年	アナトミーシックス
	大賞	加藤萌	   美術研究科工芸専攻(漆芸)修士1年	それは目に見えなくと
	7,5	731-7134 -771		\$
	優秀賞	地村 洋平	美術研究科美術専攻(ガラス造形)博士後期	流れ星
第7回			1年	
(H24)		若林 真耶	美術研究科工芸専攻(鍛金)修士1年	雨に想ふ
, ,	奨励賞	岡田 麻里恵	美術学部工芸科(漆芸)4年	明日みる夢
		山岡 忠廣	美術研究科絵画専攻(日本画)修士2年	帆 Ranka Nation
		吉川 浩平	美術学部絵画科(油画)3年	『アルジャーノンに花
	I alfe	1 44 4 12 4		東を』
	大賞	小林 あずさ	美術研究科絵画専攻(油画)修士1年	妙なる 綾なる
	優秀賞	宮永 友里恵	美術研究科工芸専攻 (鋳金) 修士 1 年	ささめく
第8回		井上 俊博	美術学部工芸科(陶芸)4年	将棋盤 銘 明仄
(H25)	奨励賞	酒井 望	美術研究科工芸専攻(染織)修士1年	mimetic words (擬態
		 -	美術学部デザイン科4年	語) 鼓動
		藤枝 奈々	美術研究科工芸専攻(ガラス造形)修士1年	章笛
	大賞	荒井 由美	美術研究科工芸専攻(カノス塩形)修工1年 美術研究科工芸専攻(漆芸)修士1年	
	人貝	細田 麻理奈	美術研究科デザイン専攻修士2年	smooth もやき
	優秀賞	和田 林廷宗	美術研究科文化財保存学専攻(保存科学)修	8.4.9
第 9 回		薦田 梓	天州切九杆文化,以床仔子等数(床仔杆子)	深海ノ花
(H26)		鹿間 麻衣	美術研究科絵画専攻(日本画)修士2年	実
	奨励賞	村尾優華	美術研究科絵画専攻(日本画)修士1年	for awaking (覚醒)
	大加貝	先﨑 了輔	美術研究科デザイン専攻修士1年	待つ (発性)
	大賞	龐夢我	美術研究科絵画専攻(版画)修士1年	晴れている日
	八貝	/HE '夕 7人	大田明儿们四周牙久(四周)	光子の装飾(みつこの
	優秀賞	小田川 史弥	美術学部絵画科(日本画)2年	たうしょく)
第 10 回	<i>区月</i>	演口 京子	美術研究科先端芸術専攻修士1年	斜日
(H27)		村尾優華	美術研究科絵画専攻(日本画)修士2年	木立 (こだち)
(112.)		NGUYEN THI TUE		
	奨励賞	THU	美術研究科絵画専攻(版画)修士1年	嫉妬で撃ち殺す
		縣健司	美術研究科絵画専攻(油画)修士2年	R2
<u> </u>		And the s		1

(水準) 期待される水準にある。

### (判断理由)

各学科・専攻の教育課程は、専門分野を学ぶにふさわしい内容となっている。また、上述のとおり、学生や社会からの要請に応える授業科目の開設や、授業内容・指導方法の見直しを常時行っている。

実技科目については、各学科・専攻ごとの学年進行によることを基本とし、各学科・専攻のアトリエや工房で授業が行われるため、学生と教員の意見交換がしやすい状況となっている。

また、共通科目等の講義科目においても、オフィスアワーを決め、学生の質問等にこたえる体制としている。(各科目のオフィスアワーは、シラバスに掲載。記載例は資料 1-15 を参照)。また、シラバスは日本語のみならず、英語による表記も記載しており、増加傾向

にある外国人留学生への対応や,海外への情報発信に役立てている。

# 資料 1-15 シラバス記載例

講義名	日本・東洋建築史	日本・東洋建築史Ⅰ				
(副題)						
開講责任部署	美術学部 対象学	美術学部 対象学生:美術(学部・修士・博士)				
講義開講時期	前期	講義区分	専門基礎科目 (美術)			
基準単位数	2	時間	0.00			
代表曜日	金曜日	代表時限	3時限			
授業を行う数員	光井 渉					
時間割に関する注意事項						
授業で使用する言語						
特記事項						

但当教員				
取種	氏名	所属		
教授	◎ 光井 渉	美術学部		
助数	橋本 圭央	美術学部		
教育研究助手	田村 裕希	美術学部		

授業概要	「日本・東津建築史」は、日本列島で展開した建築と都市・集落について概観するもので、前期開講のIでは、主に中世以前の宗教建築と都市について扱います。講義はおおむね時代順に沿ったテーマを各回毎に設定し、代表的な建築作品等の紹介を通じて、多種多様な建築の形の意味とその背景にある技術の在り方を考えていきます。
到達目標・カリキュラム上の位置付け	日本の建築と都市・集落の特徴について理解することを主な目標とし、併せて建築各部の名称や構法の基礎を習得する。
授業計画・内容	各回のテーマは下記のものを予定しますが、進行状況に応じて適宜変更する可能性があります。 1 日本の建築(ガイダンス) 2 建築の誕生(原始住居の住居) 3 美意識の誕生(原始住居の住居) 4 技術と空間(飛鳥・奈良時代の寺院1) 5 空間の大型化と建築群(飛鳥・奈良時代の寺院2) 6 都市の誕生(平城京と平安京) 7 都市住宅の形(御所と寝殿造) 8 和様の感覚(平安時代の建築) 9 災害と復興(大仏様) 10 禅宗の建築(禅宗様) 11 中世的世界の建築(密教建築) 12 上野台地に残る歴史的建築 13 試験
テキスト・参考文献	数材(講義中に使用):『カラー版 建築と都市の歴史』(光井渉・太記祐一著、井上書院)、毎回必ず持参。 参考図書:『建築デザイン用語辞典』(建築デザイン研究会編、井上書院)
成績評価基準・課題・フィードバック	出席状況及び学期末の試験による。
学生へのメッセージ	「日本・東洋建築史 I 」と「日本・東洋建築史 II 」は連続した内容であるので、二つ を連続して受講することが望ましい。なお、デザイン科の選択必修単位にあてる場合 には、 I と II をともに履修すること。
オフィスアワー	月曜日 17:30~ 総合工房 B棟 4階 光井研究室 (B-412室)
The course outlines the architecture and cities/villages developed in "Japan and oriental architectural history!" offered in the first term mainly discusses religious architecture and cities before the medieval period. We will study chronologically and set a theme for each period. class introduces major architectures and talks about the meaning of valurchitectural forms, and the underlying technology.	

本学部に限らず「美術」分野の大学に入学するには、他分野の大学とは全く異なる勉強 をして受験に臨むことになる。つまり、本学部に入学した学生は、高校生の時点で明確に

「芸術を学びたい」という意欲をもっており、自発的に学習を積み重ねるという経験をしてきていると言える。また、卒業生アンケート(平成 27 年 12 月実施。回収率 13.6%)においても、本学の魅力として「自分の好きな勉強ができる」「専門的な知識が身に付く」とした者が 90%近くいることからも、本学部の学生の学習意欲はもともと高いとい言え、本学部ではそうした高い意識を持つ学生に対し、アトリエ等の活用による修学環境や顕彰制度等により、主体的な学びの支援を実施している。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

講義科目については、シラバス又は第1回目の授業時に、授業のテーマ(目的)及び授業計画や内容、成績評価方法(試験実施するのか、レポート提出かなど)をあらかじめ学生に周知している(シラバスの記載例は資料 1-15(P.1-18)参照)。

実技科目については、進度段階があるために学年に従って履修することを原則としている(「観点 教育内容・方法」の資料 1-9(P. 1-11)参照)。芸術学科を除く実技系の各科・専攻では、各課題に対する作品の提出によって成績が評価される。原則として、実技科目の成績は、担当教員だけでなく、各科・専攻の全教員の合議によって決定される。実技系の各科・専攻では、当該学科・専攻の中心科目(資料 1-9(P. 1-11)で例として挙げているデザイン科の場合、「デザイン実技 I 、II 、II 、II 、IV 又は卒業制作」)が不可の場合、原級に留まることになる。

また、本学部では、各課題での制作作品や卒業制作について、展覧会、出版物或いは Web など様々な方法で公開している。このような発表を通じて、外部の専門家からの批評や一般の美術を楽しむ人々からの声を聴くことは、教育成果つまり学生が身に付けた学力や資質・能力の水準を確認するということであり、かつ、学生が自らの能力の向上について考える場としての役割もある。また、学生が自主的に成果発表を行っている例も多い(成果発表事例については資料 1-16, 卒業生を含む学生の受賞については別添資料 1-①(P.1-28~1-33)を参照)。

## 資料 1-16 教育成果の発表例 (平成 27 年度)

※下記は大学,学部あるいは学科・専攻が組織として関与した学生の成果発表事例。学生が個人的に学内外で行った個展,グループ展,公募展等への出品は含まない。

7 ( )	(- 1   1)/  -	」った 四成, フ	// / 成,	四	<u> // Ш ш は 占 よ な ( '。</u>
No.	展覧会名	会場	会期	出展学生	概要
1	さんさん を を を を を を を を を を を を を	東京藝術大学会館2階展示室	4月2日~ 4月9日	工芸科·工 芸基礎	工芸科では、1年次に工芸における基礎的な造形、技術の教育を行っている。本展覧会は、1年次の教育成果の発表として本学大学会館にて行った。
2	太郎かアリス の Liquid	遊工房	5月1日~ 7月15日	油画第7研究室	遊工房ギャラリースペースで複数のアー ティストが期間中アトリエとして,オープ ンスタジオとしてまた時に展示空間とし て制作や展示を行う。
3	久米賞展	東	5月11日 ~5月15 日	油画専攻2年生	平成 27 年度「久米桂一郎奨学金」受賞者 5 名による展示
4	生新の時 2015 漆芸の未来 を拓く	石川県輪島 漆芸美術館	5月16日 ~6月29 日	工芸科・漆芸	日本全国の漆芸教育機関の大学(会学出 大学山東京学、大学山東で大学、大学の大学、大学、大学、大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学の大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大
5	『相约北京 2015』国际 金属工艺首 饰展	北京奥加美術館	5月23日 ~6月7日	工芸科·彫金	彫金の金属工芸は伝統工芸の一つとして 発展し、現代の生活にかかわる芸術作品を した。今日の生活にかかれてきました。今日を は、伝統工芸を重視し、文化遺皆様の に保護している。今回の企画は皆様の を中国において紹介し、金属工芸及びジェリーの文化交流をはかるものである。
6	安宅賞展	東京藝術棟 1F 会画ト ース 1	6月1日~ 6月5日	絵画科油画 専攻3年生	平成 27 年度「安宅賞奨学金」受賞者 3 名による展示

7	油画第3研 究 室 展 「Föhn」	東京藝術大学内 絵画棟 1 階 Art space 1.2	6月4日~ 6月12日	油画第3研究室	油画第3研究室展覧会
8	METAL HAMMERING	· 天王洲アイ ルセントラー アートホー ル1F	6月15日 ~7月10 日	鍛金専攻学 生有志	東京藝術大学・鍛金展
9	G9 - 第 7 回 東京藝 大版画 9 人 展 -	B - gallery	6月16日 ~6月28 日	版画第1,2 研究室	版画研究室に在籍している学生8名と卒業 生1名による展覧会
10	「ZURETA-Print Exchange Exhibition」	絵画棟アー トスペース 1.2	6月18日 ~6月26 日	版画 1,2 研 究室,博士 に在籍中の 22 名	ウィーン応用芸術大学の学生 9 名と,版画 研究室の 22 名による版画交流展
11	Drawing #4	銀座澁谷画廊	7月6日~ 7月12日	彫刻科第 3 研究室	彫刻科第3研究室企画による展覧会
12	太郎かアリス の One Box and One Piece	遊工房芸大	7月17日 ~7月24 日	油画第7研究室	19 名のアーティストが参加アーティスト全員のドローイングを持つまた,各アーティストがそれぞれのドローイングを 納めるためのタトウ箱を作成する。各アーティストのドローイングの内 一点は芸大立体工房,Yuga Gallery にて 展示,タトウ箱は遊工房 1F Gallery にて展示される。ドローイングを巡る折々の様態を二カ所同時に開催する。
13	うるしのか たち展	東京藝術大学大学美術館陳列館	8月7日~ 8月16日	工芸科・漆 芸	東京藝術大学の漆芸研究室現教員6名,名 誉教授2名,漆芸研究室出身の本大学の現 教員5名,客員研究員1名,学生14名に よる漆芸作品の展覧会を開き,身近に除芸 に触れられる機会を設け,広く一般向けに 漆芸をアピールする他,大学の漆芸教育を 公開することを目的とする。
14	先端 Prize	東京藝術大学ンパス 会館	8月24日 ~8月29 日	先端芸術表 現科	学内奨学金を受けた学生を対象に「先端 Prize」を開催した。安宅章, サロンドプランタン賞, 卒展買い上げ賞, 平山郁夫奨学金賞が対象となった。在学卒業修了生 4 名が参加した。
15	A Guest + A Host = A Ghost	東京藝術大 学絵画棟 8F 813,814	9月4日~ 9月6日	絵画科油画 専攻	ドイツ・ミュンスター芸術アカデミーのスーチャン・キノシタ研究室と,東京藝術大学の油画第2研究室(小山穂太郎教授)による国際交流展を芸祭期間中に実施。
16	「ビバ!芸 大生がやっ てきた」	上野動物園 西園爬虫類 館	10 月 6 日 ~10 月 18 日	絵画科日本 画専攻二年 生	上野動物公園の動物をモチーフに制作し た作品を,動物園内の展示会場で発表を行 う。会期中の学生による作品解説も行う。
17	「ここに棲 む」 せ域社会へ のまなざし	アーツ前橋	10 月 9 日 ~1 月 12 日	建築科・乾 研究室	「小さな風景のかたち」と題した展示の実施 んの物的な工夫によって居場所が獲得されている現場を「小さな風景」と呼び、小さな風景の実例をドローイングにおこして、写真や野帳と共に展示を行なった
18	アトラス展	取手校地メ ディア棟,美 術館,他	10月13日 ~10月18 日	先端芸術表 現科	修士1年生と博士2年生の成果発表展を 取手校地で開催する。
19	住宅課題賞	ギャラッリ ーエークワ ッド	10月19日 ~11月6 日	建築科	建築系大学 34 大学 44 学科より設計カリキュラムの住宅課題の優秀作品 44 点を展示し、更にその中から公開審査により「優秀賞」を選出。
20	Traffic Site	名古屋芸術大学	10月30日 ~11月4 日	名大代×表公 古学表先明研芸 現端科究 明明芸 室	名古屋芸術大学 同時代表現研究と先端 芸術表現科 小谷研究室,修士交流展
21	鋳金研究室 成果報告展 いものコレ クション	天王洲セン トラルタワ ー エントラン	2月8日~ 2月19日	工芸科鋳金 美術研究科 工芸専攻鋳 金	学部3年・大学院1年を中心とした学生・ 教員の展示。中川特殊鋼株式会社の協力に より毎年開催しており,教育研究成果を発 信している。

		スホール			
22	三大学合同講評会	東京大学工 学部建築科	3月14日	建築科	東京大学,東京工業大学,東京藝術大学の3大学による卒業設計の合同講評会を行った。今年で10年目となるイベントである。

在学生及び卒業・修了生アンケートでの関連設問の回答結果は、資料 1-17 に示す通りである。このアンケートによれば、授業全体の満足度は 72%、専門科目に限定した場合では76%であり、評価を得ているといえよう。 2 年生以上の学生で能力の向上を実感している者は 77%で、本学を第 1 希望として入学する者がほとんどを占め、潜在的に期待値が高いという背景を考えれば、充分な評価を得ていると考えられる。これは、卒業生の冷静な目による評価が 80%を越えている点からも妥当な判断といえよう。

資料 1-17 在学生アンケート及び卒業・修了生アンケート関連設問抜粋

	設問	肯定的選択肢を回答した	者の割合
	(学部学生の方にお聞きします。) あなたが受講している	満足している+まあ満	
	授業の内容や進め方について、どの程度満足しています	足している	72%
	か。④受講している授業全体としての満足度		
在	(学部学生の方にお聞きします。) あなたが受講してい	満足している+まあ満	
学生	る授業の内容や進め方について,どの程度満足しています	足している	76%
_ <del>_</del>	か。②専門教育科目(実技科目、制作実習科目)		
	(学部2~4年生にお聞きします。)あなたは、入学前に	満足している+まあ満	
	比べて自分の能力が向上したと思いますか。	足している	77%
	東京藝術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度	満足している+どちら	
	満足しましたか。	かといえば満足してい	83%
		る	
修	大学での授業や活動を通して,次の能力を身につけること	そう思う+いくらかそ	
了 生	ができましたか。①実技や研究に係る専門的知識,技術と	う思う	91%
	その応用力		
	もし身近に芸術系大学への進学希望者がいる場合,東京芸	そう思う+いくらかそ	- /
	術大学を勧めたいと思いますか。	う思う	77%

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

観点ごとの状況で既述のとおり、展示等の実施状況 (資料 1-16 (P.  $1-20\sim1-22$ ) 参照),受賞の状況 (別添資料 1-① (P.  $1-28\sim1-33$ ) 参照),アンケートでの在学生・卒業生からの意見の聴取結果等 (上記,資料 1-17 参照) などからみて,学生からの高い期待に対して,全体としては十分な評価を得ていると考えられる。

## 観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

計

在学生アンケートによれば、学部卒業後の進路について、本学部2年生以上の 62%が進 学又は留学を考えており、就職を考えている者は 22%、作家活動あるいは起業を考えてい る者が 15%であった(複数回答した者あり)。

実際の進路状況は、半数以上が大学院へ進学しており、多くの学生が表現者等としてさらに高い水準を目指して研鑚を重ねていることが分かる(資料 1-18 参照)。就職者の就職先は、本学部の教育内容を反映して、デザイン関係、広告関係の企業・職種となっている(資料 1-19 参照)。また、統計上未定・他となっている者は、作家活動等を目指して制作等を続けている者が多く含まれていると考えられる。

頁科 1-18	夫 彻 子	- 데 <del>기</del>	70人 28 平	F 3 月 辛	来もの	连路状况				
			就 職				進	学		
区分	卒業 者	教職	企業等	非常勤	自営	大学院 (本学)	学部等(本学)	他大学 等 (国内)	海外留学	未定・ 他
日本画	28		1	4	3	11				9
油画	52		8	2	4	21				17
彫刻	20			1		14				5
工芸	31		3		2	22				4
デザイン	51		13	2	1	25				10
建築	11	1	1		1	5				3
先端芸術表 現	35	1	3	2		18				11
芸術学	19		2			11		2		4

11

127

資料 1-18 美術学部 平成 28年3月卒業者の進路状況

#### 資料 1-19 最近3年間の卒業生の主な就職先企業等

31

11

247

成蹊学園、東京大学、逗子開成学園、NHK、生活の友社、カウモ、サイバーエージェント、カヤック、フジアール、群馬県警、マツモトアートセンター、警視庁、スタジオ CGS、キッズプロモーション、ケイ・ウノ、隈研吾建築都市設計事務所、博報堂、有限会社グラフィカ、aa+ヨコミゾマコト建築設計事務所、アド・エンジニアーズ・オブ・トーキョー、hiromiyoshii、デイリーNK ジャパン、パーパスエコテック、ポリフォニー・デジタル、大都技研、ミキモト、サクマ製菓、電通、コクヨ、河淳、コナミデジタルエンタテイメント、ライティングプランナーズアソシエーツ、テレコムスタッフ、スタジオよんどしい、アッシュ・ペー・フランス、昭栄美術、電通ヤング・アンド・ルビクム、KINSHA、BOI、有限会社アトリエ・エビス、DeNA、Nifty、有限会社へルベチカ、東北新社、Cydesignation、シャルマン、フォルトゥーナ株式会社、岡村一宣デザイン事務所、東リ、株式会社コロプラ、株式会社資生堂、花王株式会社、(株)ポリフォニー・デジタル、(株)アートフリーク、凸版印刷株式会社、(株)10、環境デザイン研究所、ドリコム、WOW.inc、(株)mediba、(株)ブランドオフ、東京都庁

また、資料 1-20「卒業・修了生アンケート:現在の職業」や別添資料 1-①のとおり、卒業後も多くが在学中で得た学業の成果をもとにした作家活動や専門企業で就労をしていることに加え、個展の実施やコンクール等へ参加し、数々の賞を受賞して高い評価を得ている。加えて、別添資料 1-②に例を示したとおり、新聞等でその活動が数多く紹介されており、本学での得た専門性を活かした活動を行っている者が多いことが分かる。

さらに,芸術文化振興に関心のある法人・団体組織から「芸術系大学への期待に関する 調査」を実施したところ,教育面に関しては,世界レベルで活躍する芸術家(画家,彫刻

家,工芸家,作曲家,演奏家,舞踊家,指揮者等の表現者など)の養成や芸術文化振興の担い手となる芸術家の養成に関する期待が高いことが分かり,前記の創作活動・制作発表や受賞歴等から数多くの芸術家活動・文化活動を行っている本学卒業生への期待も必然的に高いといえる。

### 資料 1-20 卒業・修了生アンケート:現在の職業

(複数回答可 単位%) 2015 卒業・修了生アンケート集計結果報告書より

会社員,団体職員	高等専門学校)教員(大学,	門学校以外)	(教員を除く)	きの手伝い との手伝い	家,演奏家など)自由業(芸術家,作	・フリーター	学 生	主婦(夫)	その他	無回答
18.5	0	11.0	1.9	5.6	40.7	1.9	3.7	5.6	3.7	7.4

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

本学部の卒業者の半数以上が、表現者等としてさらに高い水準を目指して本学大学院へ進学していることは、本学部の教育指導に対する学生の肯定を示していると考えられる(資料 1-18(P. 1-23)参照)。

また、受賞の状況(別添資料 1-① (P.1-28~1-33)参照)や、新聞記事等(別添資料 1-② (P.1-34~1-36)に現れている社会の本学部在学生・卒業生への評価や関心の高さ等から見て、在学生、卒業生、就職先、社会一般など各関係者からの期待に十分応えていると考えられる。

## ■「質の向上度」の分析

美術学部では、アトリエ等を基盤とした少人数精鋭教育を行い、従来から質の高い教育 内容を保持してきたと考えている。一方、これまでの教育方法に加え、本中期計画期間内 に以下のような新たな取り組みを開始し、さらなる質の向上が実現できたと判断している。

#### 国際化に関する取組(分析項目Ⅰ:教育活動の状況)

「観点 教育実施体制」(P.1-4)で記載したとおり、平成26年度以降、本学においては「グローバル展開」を大学改革・機能強化の中核と位置づけ、国際舞台で活躍できる芸術家育成等を加速度的に推進している。

本学におけるグローバル展開戦略の推進をはじめ、芸術分野の特殊性を踏まえた弾力的な人事・給与システムの構築を目的として、国内外の第一線級のアーティストやクリエーター等を戦略的に獲得するとともに、芸術分野固有の教育研究スタイルに応じた弾力的な雇用環境を創出するため、業績給制度を組み入れた年俸制職員給与体系に見直すとともに、海外からのアーティストユニット誘致に対応した「卓越教員」に係る就業規則やクロス・アポイントメント制度に関する規則を整備した。これにより、美術学部においては平成27年度、ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学から12名の教授等を卓越教員として採用(資料1-21)し、教育機能の活性化を行ったほか、多数の教員、アーティスト等を招聘(資料1-22)し、特別講義、ワークショップ、研究会等を実施した。

資料	1-21	平成 27	生 度	卓越教員	—

具作	f   Z   干冽 Z / 干及 干险软点	<b>見</b>	
No.	氏名	職名	所属機関
1	Jean-Luc Vilmouth	卓越教授	パリ国立高等美術学校
2	Clelia Zernik	卓越教授	パリ国立高等美術学校
3	Mao Tao	卓越助教	パリ国立高等美術学校
4	村上 華子	卓越助教	パリ国立高等美術学校
5	Graham Ellard	卓越教授	ロンドン芸術大学
6	Louisa Minkin	卓越准教授	ロンドン芸術大学
7	山田 健二	卓越助教	ロンドン芸術大学
8	藤岡 勇人	卓越助教	ロンドン芸術大学
9	Mary Jane Jacob	卓越教授	シカゴ美術館附属大学
10	Ernesto de la Vega Pujol	卓越准教授	シカゴ美術館附属大学
11	Kathrin Beatrice Zeller	卓越助教	シカゴ美術館附属大学
12	Erika Danielle Raberg	卓越助教	シカゴ美術館附属大学

資料 1-22 平成 27 年度 外国からの招聘者一覧

	1 11 1 1 1 1 1 1 1	
No.	氏名	所属機関等
1	江頭 慎	英国建築家協会付属建築学校・教授
2	Carlos Villanueva Brandt	英国建築家協会付属建築学校・教授
3	Osamu James Nakagawa	アーティスト
4	Antoni Muntadas	アーティスト
5	Wang Hui	清華大学・教授
6	Lee Yong Woo	上海ヒマラヤ美術館・館長
7	Bartomeu Mari	アーティスト

8	何 佳興	アーティスト
9	聶 永真	作家
10	Juha Kronqvist	アアルト大学・教授
11	Kari-Hans Kommonenn	アアルト大学・教授
12	Lars Nittve	香港 M+美術館·館長
13	Emel Şölenay	アナドール大学・教授
14	Ezgi Hakan Verdu Martinez	アナドール大学・准教授
15	Ulrich Oskar Goerich	チューリッヒ芸術大学・教授
16	Emily Zilber	ボストン美術館・キュレーター
17	Adi Stern	ベツァエル美術デザインアカデミー・学長
18	Eliyahu Fatal	ベツァエル美術デザインアカデミー・美術学部長
19	Ory Bartal	ベツァエル美術デザインアカデミー・美術史・美術論学部長
20	Thomas Daniel	シカゴ美術館附属美術大学・特任教授
21	S kayhan	ミマールシナン美術大学・副学長
22	Neslihan PALA	ミマールシナン美術大学・教授
23	Cigdew TEKIN	ミマールシナン美術大学・准教授

加えて、平成21年度末の時点で31だった美術学部における国際交流協定校・機関数を、 平成27年度末時点では46に拡充(資料1-23)し、イスラエルのベツァルエル美術デザインアカデミーやドイツのベルリン芸術大学など海外の有力な美術大学をはじめ、文化財の保存修復分野において先進的な研究を行っている中国の敦煌研究院とも連携関係を構築し、積極的な国際交流協定のネットワーク強化を行ったほか、教育課程の国際通用性を高めるため、平成27年度よりセメスター制を導入するなど、組織として国際化に関する取組を積極的に実施した。

資料 1-23 第2期中期目標期間における協定締結実績

No.	大学/機関名	協定締結日
1	ロイヤルアカデミースクールズ	平成 22 年 4 月 1 日
2	ナント芸術大学	平成 22 年 6 月 17 日
3	カタルーニャ工科大学 バルセロナ建築学部	平成 22 年 7 月 9 日
4	アアルト大学美術デザイン建築学科	平成 23 年 1 月 11 日
5	ウィーン美術アカデミー美術学部, 建築学部	平成 24 年 7 月 19 日
6	エコール・ブール国立工芸学校工芸科	平成 24 年 10 月 9 日
7	グラスゴー美術大学	平成 25 年 5 月 24 日
8	シラパコーン大学	平成 25 年 8 月 2 日
9	ベツァルエル美術デザインアカデミー	平成 26 年 1 月 21 日
10	敦煌研究院	平成 26 年 2 月 20 日
11	広州美術学院	平成 26 年 9 月 22 日
12	ベトナム美術大学	平成 27 年 3 月 20 日
13	国立台湾師範大学	平成 27 年 4 月 24 日
14	ベルリン芸術大学	平成 27 年 10 月 9 日
15	オランダ芸術科学保存協会(NICAS)	平成 28 年 2 月 1 日

さらに、海外派遣実践型の研修授業「ASAP (Arts Study Abroad Program)」を新たに開講した。これは各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作・演奏等、

教員が専門分野の特色を活かして企画するプログラム(資料 1-24)で、平成 26 年度試行的に実施し、平成 27 年度からは単位化された。本事業の参加学生には、「海外派遣奨学金」が給付され、渡航費や滞在費等の負担が軽減される仕組となっている。

また、国際化を推進する学内組織であるグローバルサポートセンターを中心に、海外留学に備えた語学教育プログラムの強化(資料 1-25)として、芸術分野という特別な領域で活躍する学生の実践的な英語力向上のための集中講義「Introduce Yourself as an Artist~自分と作品を世界に語ろう~」の実施、無償で利用できる自学自習用の e-learning システムの導入、TOEFL 対策講座を実施するなど、英語教育を強化し、加えて、ドイツ語、フランス語、イタリア語の語学集中講座が実施された。併せて、英、仏、独、伊、西、葡、露、中、韓の各国語の外部語学試験を受験した者や日本語能力試験を受験した外国人留学生で一定の成績を得た者に給付する「語学学習奨励奨学金」が創設され、学生の語学学習意欲向上および語学能力の客観的測定の促進が図られた。

加えて、絵画科油画専攻においては、専攻独自の取組として、特別授業「GAP Geidai Art Practice—油画学生のための英語—」を平成24年度から毎年実施している。自身の作品について英語によりプレゼンテーションを行うなど、アーティストによる、アーティストのための英語学習プログラムが行われている(平成27年度:10回開催)。

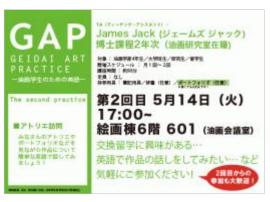
No.	プロジェクト名称	実施場所	期間	代表教員	参加学 生数
1	カンボジア石造世界遺産現 場体験型プログラム	カンボジア (シェムリアップ)	H27.11.20 ∼24	原 真一 (彫刻科准教授)	6
2	中国工芸史に関する日中学 生会議	中国(北京・上海・ 蘇州・南京・杭州)	H27. 9. 20 ∼26	片山 まび (芸術学科准教授)	8
3	C/WS 1:Eccentric Urbanism	英国 (ロンドン)	H27.7.5∼ 25	トム・ヘネガン (建築科教授)	7
4	ベトナム美術大学・東京藝 術大学 漆芸技術交流授業	ベトナム (ハノイ)	H27.11.1 ∼7	小椋 範彦 (工芸科准教授)	7
5	東京藝大エスノ・アート・ ラボ&「サンギャン/儀礼の 力」プロジェクト	インドネシア (バリ島)	H27.7.15 ~31	伊藤 俊治 (先端芸術表現科教授)	6

資料 1-24 ASAP (Arts Study Abroad Program)

#### 資料 1-25 語学力強化の取組







このように、国際化に向けた取組が組織的に行われたことにより、教育の質が向上したといえる。

# 2. 美術研究科

Ι	美術研究科の	教育目的と特徴	•	•	•	•	•	2 - 2
П	「教育の水準	生」の分析・判定	•	•	•	•	•	2 - 3
	分析項目I	教育活動の状況	•	•	•	•	•	2 - 3
	分析項目Ⅱ	教育成果の状況	•	•	•	•	•	2 - 2
П	「質の向上度	ま」の分析 ・・・	•	•	•	•	•	2 - 30

## I 美術研究科の教育目的と特徴

東京芸術大学大学院美術研究科は、これまで美術各分野において数多の時代を代表する作家・研究者・教育者を輩出してきた。本研究科は、こうした伝統の中で培われてきた創造性を身に付け、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮しつつ、国内外の美術各分野で指導的な立場に立つことができる人材の育成をめざしている。そこで本研究科は個別指導の徹底と高度な芸術研究を行うことを特徴とし、以下に示す教育・研究環境の整備に努めている。

- 1 東京芸術大学大学院美術研究科では、創作者・研究者として指導的な役割を期待される個々人の才能を伸ばすため、個人の意志と創造力を重視した創作研究の実践に特に配慮した教育を行う。この中で徹底した実技教育を実施し、カリキュラムもそれを重視した構成を採用している。
- 2 東京芸術大学大学院美術研究科では、自由で斬新な創造性を発現するための創作研究を行うため、教員の指導のもとにある研究室のほかに、各種アトリエや工房などの教育環境充実に特に配慮している。
- 3 東京芸術大学大学院美術研究科では、現代の美術が求められる社会性という観点から、大学構内という枠を超えて、学生が主体的かつ積極的な創作活動をおこなうための環境の提供に努め、学外に複数の創作拠点を確保し、様々な面での社会交流の中で学生の創造力を伸ばす試みを行っている。これは大学の社会貢献という観点にも貢献するものである。
- 4 東京芸術大学大学院美術研究科は、創作者・研究者として活動することが期待される個々人の才能を伸ばすには、互いに切磋琢磨する研究環境の充実が重要と認識し、そのために各種奨励制度等を用意すると同時に、講評会などの場を活用している。
- 5 東京芸術大学大学院美術研究科では、高いレベルの創作研究活動を学生に要求するには、教員が率先垂範して高度な創作研究活動を行うことが必須であり、そのための体制を確保している

# [想定する関係者とその期待]

本研究科が想定する関係者とは、美術学部と同様に、広義には美術に深い関心を寄せる全ての人々、狭義には在学生及び修了生・美術領域と関連する企業や公共機関である。しかし、より高度な創作研究活動を行う研究科には、美術の各分野で指導的な役割を担う人材の供給が期待されている。

## Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

# 分析項目 I 教育活動の状況

# 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

美術研究科修士課程は、より広い視野に立って美術についての深い学識を授け高い表現能力を養い,自立して創作や研究活動を行うすぐれた作家・研究者の養成を教育理念とし、絵画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学の7専攻と、大学院独立専攻である文化財保存学の8専攻から構成されている。博士後期課程は、美術専攻と文化財保存学専攻の2専攻からなり、美術専攻には日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学の8研究領域、文化財保存学専攻には保存修復、保存科学、システム保存学の3研究領域から構成されている。

教員組織の体制等については、各教員の専門性等に即して研究科の専攻又は研究領域に配置しているとともに、教員の採用についても、原則として公募制・任期制により、広く人材確保に努めている。なお、文化財保存学専攻のシステム保存学については、本研究科の連携研究機関である東京文化財研究所(台東区上野公園 13-43:本学上野校地と隣接)の研究者を本学専任教員として配置している(資料 2-1, 2-2, 2-3 参照)。

また,グローバル化に向けた推進体制としては,美術学部の現況分析「観点 教育実施体制」(P.1-3)で示したとおり,ロンドン芸術大学,パリ国立高等美術学校及びシカゴ美術館附属美術大学の世界最高峰の4芸術大学による「国際共同カリキュラム(ジョイント・ディグリー)」構築に向けた連携協定を締結し,平成27年度においては,同協定に基づき,国際共同カリキュラム構築への体制を整えたほか,国際舞台で活躍している芸術分野の専門家を数多く招聘し,ゲスト招聘者による特別講義やワークショップ,研究会等を行うことで,組織としての国際化を図っている。

**資料 2-1 学部と研究科の関係**※( )は平成 27 年度入学定員。

スイー・ Turch July VIX M へ / Ja T M 21 T 及ハ T た 異。									
<b>学作类如</b>	美術研究科								
美術学部	(修士課程)	(博士後期課程)							
絵画科	絵画専攻(47)								
彫刻科	彫刻専攻(15)								
工芸科	工芸専攻(28)								
デザイン科	デザイン専攻(30)	美術専攻(25)							
建築科	建築専攻(16)								
先端芸術表現科	先端芸術表現専攻(24)								
芸術学科	芸術学専攻(21)								
	文化財保存学専攻(18)	文化財保存学専攻(10)							

資料 2-2 美術研究科の教育研究組織 ※教員数は資料 2-3 を参照

専攻	専任教員の専門分野
絵画	日本画,油画,版画,壁画,油画技法材料
彫刻	石彫,木彫,金属,彫塑
工芸	彫金,鋳金,鍛金,漆芸,陶芸,染織,木工芸,ガラス造形
デザイン	視覚·演出,視覚·伝達,視覚·構成,空間·演出,空間·設計,機能·演出,機能·設計,映像·画像,環境·設計,描画·装飾造形
建築	建築設計,構造計画,環境設計,建築理論
先端芸術表現	地域と芸術, 言語と身体, 科学技術と表現, 素材と創造性
芸術学	美学, 工芸史, 西洋美術史, 日本·東洋美術史, 美術教育, 美術解剖学
文化財保存学	保存修復,保存科学,システム保存学

(教員総覧, 各学科 HP, 設置資料等より作成)

資料 2-3 専任教員等の数 (H27.5.1 現在)

芸術研究院 教員配属学科		専任教員数					学	学夕	<b>卜兼務</b>	<b></b>	教								
学系	領域	学科・専攻・ 附属施設	性別		准教授	講師	助教	助手	合計	内兼務教員	教かの務	教以かの務	合計	育研究助手					
		絵画	男	10	7	0	2	0	19										
	純粋	//公   四	女	0	1	0	0	0	1										
	美術	彫刻	男	3	3	0	1	0	7										
	表現	/4/ //1	女	0	0	0	0	0	0										
芸術	領域	先端芸術表現	男	5	4	0	1	0	10										
表現		九州云州汉先	女	1	1	0	0	0	2										
学系		術 デザイン 現	男	9	4	1	1	0	15										
7 711	総合美術		女	0	0	0	0	0	0										
			男	5	4	0	1	0	10										
	表現		<i></i>	7 7 1 2	表現		, , , , ,	, , , ,	女	0	0	0	0	0	0				
	領域	領域	領域	領域		男	5	2	0	1	0	8	2	16	161	177	97		
	V (1-4	~ *	女	0	1	0	0	0	1										
芸術	美術	-++- AIC 244	男	7	3	0	2	0	12										
理論学系	理論 領域	芸術学	女	0	3	0	1	0	4										
芸術資源	文化 財保 存修	文化財保存学	男	9	3	0	1	0	13										
学系	復領域		女	1	2	0	0	0	3										
	<u></u>	計	男	53	30	1	10	0	94										
		1 hi	女	2	8	0	1	0	11										

入学者選抜試験については、美術学部と同様、一人一人の適正、能力等を多角的に、的確に判断して選抜試験を実施している。

具体的には,実技試験(人物,鉛筆デッサン等)と提出作品,さらには面接試験により,総合的に判断し入学者を選抜している。

過去3ヶ年における充足率は、資料2-4で示すとおり、修士課程芸術学専攻、文化財保存学専攻,博士後期課程文化財保存学専攻を除き、全ての専攻において入学定員を満たしている。

資料 2-4 過去 3ヶ年における入学定員充足率

241	. =		双405年		0.44 TV	c h: ph	平成27年度		
課程		入学	平成25年度		平成26年度		平成 2	/ 年度	
	専攻	定員	入学 者数	充足率	入学 者数	充足率	入学 者数	充足率	
	絵画	47	52	110.64%	55	117.02%	56	119.15%	
	彫刻	15	18	120.00%	19	126.67%	21	140.00%	
	工芸	28	32	114.29%	32	114.29%	33	117.86%	
	デザイン	30	31	103.33%	37	123.33%	36	120.00%	
修士	建築	16	18	112.50%	19	118.75%	18	112.50%	
	芸術学	21	19	90.48%	24	114. 29%	26	123.81%	
	文化財保存学	18	17	94.44%	21	116.67%	19	105.56%	
	先端芸術表現	24	28	116.67%	30	125.00%	26	108.33%	
	合計	199	215	108.04%	237	119.10%	235	118.09%	
. I <del>: E</del> . I	美術	25	29	116.00%	30	120.00%	33	132.00%	
博士 後期	文化財保存学	10	4	40.00%	9	90.00%	10	100.00%	
	合計	35	33	94.29%	39	111.43%	43	122.86%	

## 東京芸術大学美術研究科 分析項目 I

本研究科では、美術学部と同様に美術の諸領域における実技指導が教育の中心になっており、各専攻のアトリエや工房、研究室での少人数のグループ指導をおこなっている。このことは、専門性の高い大学院レベルの教育に必須と考えており、個々の学生と教員の間で適宜意見のやりとりをしながら、学生の個性やスキルに応じたマンツーマン的な指導を行っているため、教員は日常の学生の反応を見ながら、適宜指導方法を見直しながら進めている。また、適宜あるいは学期末に講評会等を開催(資料 2-5)し、教育内容及び学生の到達点を複数の教員でチェックする体制をとっている。こうした日常的な見直しや講評会や教員会議での教員同士のディスカッション等をつうじて、教育内容や方法について改善を行っている。

資料 2-5 平成 27 年度 美術研究科講評会等実施例

<u></u>	[ 本 Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z	一队 4/ 平及	夫 彻 顷 笂 枓	咿叶女		
No.	実施日	専攻等	対象学年	参加 学生数	内容	参加 教員数
1	7月23日	日本画	修士 1, 2年	26	修士 1, 2 年生合同研究会	7
2	9月7日	日本画	修士2年	4	修士2年第2研究室(下図)研究会	2
3	1月21日	日本画	修士1年	4	修士1年第1研究室研究会	2
4	1月21日	日本画	修士1年	4	修士1年第2研究室研究会	2
5	12月21日	油画	博士3年	5	博士展批評会	4
6	1月6日	油画	博士1年	6	上野校地博士1年批評会	13
7	1月29日	油画	修士2年	37	修了制作批評会	3
8	2月15日	油画	博士1年	2	取手校地博士1年批評会	13
9	1月21日	彫刻	修士 2 年 学部 4 年	38	修士2年学部4年合同講評会	8
10	7月22日	工芸鍛金	全学年	20	前期講評会	6
11	7月14日	工芸鍛金	大学院1年	5	取手前期講評会	6
12	1月19日	工芸鍛金	全学年	25	後期講評会(卒業・修了作品含む	6
13	4月7日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
14	4月11日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
15	4月14日	漆芸	修士1年	5	修士1年制作研究会	6
16	5月9日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
17	5月12日	漆芸	全学年	30	古典研究発表会	6
18	5月19日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
19	6月16日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
20	7月21日	漆芸	全学年	30	前期講評会	6
21	10月3日	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業·修了制作研究会	6
22	12月24日	デザイン	博士3年	1	博士審査展 審査	10
23	4月28日	デザイン	修士1年	35	「デザインプロジェクト」STEP1 講評	11
24	6月22日	デザイン	修士1年	35	「デザインプロジェクト」中間講評	11
25	7月22日	デザイン	博士1年	35	「デザインプロジェクト」講評	11
26	4月22日	デザイン	博士3年	1	博士中間講評	9
27	10月13日	デザイン	博士2年	1	博士中間講評	10
28	4月14日	デザイン	修士2年博士2年	39	成果展審査	9
29	12月14日	デザイン	修士2年	37	「修了制作」講評	10
30	6月22日	建築	修士2年	22	大学院「修了論文・制作」中間講評会	20
31	7月7日	建築	修士 1・2 年	15	大学院課題「建築設計Ⅰ」講評会	20
32	12月15日	建築	修士 1・2 年	14	大学院課題「建築設計Ⅱ」講評会	20

# 東京芸術大学美術研究科 分析項目 I

33	4月10日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
34	4月24日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
35	5月8日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
36	5月29日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
37	6月5日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
38	6月12日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
39	6月26日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
40	7月3日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
41	7月10日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
42	7月12日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
43	7月19日	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
44	10月2日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
45	10月9日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
46	10月16日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
47	11月6日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
48	11月13日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
49	11月20日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
50	11月27日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
51	12月11日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
52	12月18日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
53	12月25日	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
54	4月21日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
55	4月28日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
56	5月19日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
57	6月2日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
58	6月9日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
59	6月16日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
60	6月23日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
61	6月30日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
62	7月7日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
63	7月14日	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
64	10月6日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
65	10 月 13 日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
66	10 月 20 日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
67	10月27日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
68	11月10日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
69	11月17日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
70	11月24日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
71	12月1日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
72	12月8日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
73	12月15日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
74	1月5日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
75	1月12日	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
76	7月29日	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
77	7月31日	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
78	9月7日	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
79	9月9日	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
80	9月11日	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
81	5月14	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
82	5月21日	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
	0 /, DI H	7 m 3/ H	1		WENCE OF A BLOCK BY A	10

### 東京芸術大学美術研究科 分析項目 I

83	6月25日	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
84	7月22日	美術教育	全学年	24	講評会	16
85	7月23日	美術教育	全学年	24	講評会	16
86	10月15日	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
87	10月22日	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
88	10月29日	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
89	11月19日	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
90	12月21日	美術教育	全学年	23	博士論文発表会	14
91	12月24日	美術教育	全学年	23	博士論文発表会	15
92	1月19日	美術教育	全学年	23	講評会	16
93	1月20日	美術教育	全学年	23	講評会	16
94	1月27日	美術教育	全学年	23	修士論文発表会	13

さらに、本研究科は美術学部との一貫性が大変強い(資料 2-1 (P.2-3) 参照)ため、研究 科全体の教育内容、教育方法の改善、あるいはFD等の事項については、「美術学部教務委 員会」で一体的に検討することとしている。

本研究科の博士後期課程における取組では、芸術分野における実技系博士課程の学位の在り方に関する研究プロジェクトにおいて、平成20年度から平成24年度までの5年間、芸術系博士課程の在り方に関する研究の不足や芸術評価の方法等の明確化を図るため、「リサーチセンター」を設置し、国内外における芸術系博士課程の学位審査及び授与システムに関する調査、指導体制及び評価体制の研究を行った。特に芸術の実践と研究論文の作品の結びつきに関する調査を重点研究項目と位置づけ、実技系博士課程学生に対する論文執筆の技術的支援や研究成果の発信について試行的に実施した。

平成 24 年度においては、これらの研究の成果として、また、シンポジウム「芸術実践と研究~実技系博士学位授与プログラムの研究成果発表会(平成 24 年 11 月 3 日開催)」での芸術系大学関係者の意見や国内外の専門家レビューを踏まえつつ「芸術実践領域(実技系)博士プログラム」を取りまとめた。同プログラムは、主に近年欧米で広まりつつある「芸術実践に基づく研究」の議論を踏まえ、本学がこれまで理念として掲げ、試行錯誤を繰り返しながら実践してきた博士プログラムの伝統を改めて理論化・体系化すると同時に、情報技術の発展や今日的なニーズを考慮し、我が国における芸術系大学の博士プログラムのアップグレードを図ることとしている。

#### (水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

各研究領域に即した教員がそれぞれ配置されていること、また文化財保存学専攻を除く 美術に関する各領域について、学部から研究科まで一貫した教育研究組織を形成している ことから基本的組織編成については、期待に十分応えていると考える。

さらに,リサーチセンターによる「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究」は, 芸術分野の学位授与の在り方に関する先導的取組であり、「芸術実践領域(実技系)博士プログラム」として理論化・体系化し、実技をともなう芸術分野の博士課程における学位授与の審査方法・プロセスの在り方を明確にしたことは,本研究科博士後期課程のみならず、 学外機関においても有意義であったと言える。

#### 観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

修士課程の教育課程は、基本的には専門分野と関連する講義科目(必修科目又は選択科目)及び指導教員の下、研究室単位で行う創作研究等(専攻により名称は異なる。下記の資料 2-6 の例で言うと「デザイン研究」にあたる。)により構成されている。修士課程 2 年次の創作研究等では、学生それぞれの研究課題を修士制作又は修士論文へ昇華させるため、個々人の主体性が発揮できるようにきめ細かな個人指導を徹底している。

博士後期課程においては、美術専攻では研究領域にかかわらず「創作総合研究」を必修科目とし、併せて美術専攻の芸術学研究領域以外の各領域では「造形計画特別研究」も必修科目としている。文化財保存学専攻では、「文化財保存学総合研究」を必修科目としている。これらの必修科目は、博士後期課程担当教員複数で担当し、実技と理論の教員の緊密な交流と連携のもとに行われるものである。この基盤に立って、学生は指導教員及び関連分野の教員の指導を受けるとともに、選択科目(特殊講義又は演習)を履修することとし、博士論文等の作成に向けてきめ細かな対応を行っている。また、前述した教育改革事業終了後においても美術研究科リサーチセンターを継続させ、実技制作を主体とする博士後期課程各研究領域の学生に対して共通に、論文執筆スキルの向上を図る特別指導プログラムを実施している。

なお、修士論文又は修士作品、博士論文又は博士作品の評価にあたっては、講評会や審査会の場で指導教員以外の隣接分野の教員も評価に参加し、教育内容の偏りを排除するように努めている。

<b>冷</b> 业	2_6	教育課程表	周・二ギン	市 功
首拟	ソード	双官等程表	19川・ナザイ	ソ里収

	数月味性致 例: / リリンチス		履修		<b>园收兴什人司</b>		
履修区分	授業科目	第1年次		第2年次		履修単位合計	
		前期	後期	前期	後期	小計	合計
	デザイン研究 Ι	5					
	デザイン研究 Ⅱ		5			00	
必修	デザイン研究 🎞			5		20	
科目	デザイン研 究 Ⅳ				5		
	デザイン特 論	4				4	
	デザインプロジェクト	4				4	
	※デザイン科大学院開設科目						32
	アートディレクション Ι						
<b>188 1</b> □	アートディレクション Ⅱ						
選択科目	パブリックアート	4				4	
1 <del>11</del> H	環境デザイン						
	プロダクトプランニング I						
	プロダクトプランニング Ⅱ						
その他	美術研究科プロジェクト演習		-	1			

- (注) 1. デザイン特論は、所属研究室ごとの開設授業とする。
  - 2. デザインプロジェクトは、1年次に履修することが望ましい。
  - 3. 選択科目は、※デザイン科大学院開設科目である表記6科目の内から2科目以上を選択し、 4単位以上を取得すること。

## 資料 2-7 シラバス記載例

講義名	アートディレ	アートディレクションI			
(副題)					
開講責任部署	美術研究科	対象学生:美術(	(修士・博士)		
講義開講時期	前期	講義区分	大学院開設科目 (デザイン)		
基準単位数	2	時間	0.00		
代表曜日	木曜日	代表時限	5時限		
授業を行う数員	中村 政久				
時間割に関する注意事項					
授業で使用する言語	日本語のみ	日本語のみ			
特記事項	・専門科目ののうえ可能。	専門科目のため、美術研究科デザイン科専攻の学生のみ受講可能。 ・聴講に関しては事前相談 )うえ可能。			

当教員		
取種	氏名	所属
非常勤講師等の数員	◎ 中村 政久	-
助数	小野 哲也	美術学部

授業概要	アートディレクションは変わる。時代は変化し4マスメディアの概念も変わり、新しいコミュニケーションの形とメディアが求められています。時代の最前線の情報と価値観を理解しつつ、基本であるコミュニケーションデザイン力と心理に関わるデザインの考え方を理論的、心理的、実践的に、能力の向上を目指します。
	時代と人々の変化にあったテーマを授業初日にオリエンテーションします。その後、実社会の広告制作過程に即したカリキュラムでコミュニケーションを企画していきます。さらに発想力を磨き、アイデアのビジュアル化をはかっていきます。その過程では徹底したディスカッションを通し、アイデアを実現する授業を行います。最終日に自分の考えによるプレゼンテーションを行い、周りの反応を体得してもらう流れで授業を行います。
授業計画・内容	▼オリエンテーション及び講師のガイダンス ▼フリーディスカッション ▼時代の価値観、世の中の価値観の抽出 ▼アイデア企画 ▼サムネールの検討 ▼企画書の制作 ▼ビジュアルの検討 ▼コミュニケーション手法の検討 ▼ストーリーテーリングの習得 ▼ブレゼンテーション実習 この間、同時期に講師によって制作された実例をベースにケーススタディとして講義も行い、実際の制作物に直接触れてみる。また、可能であれば制作に現場見学を行う。
テキスト・参考文献	講師自身のここ数年の企業ブランディング制作物及び広告制作物 (PP、DVD)
成績評価基準・課題・フィードバック	制作課題への提案内容を主体とします
学生へのメッセージ	デザインが起点になるコミュニケーションの可能性を考える授業です。学生の積極的な参加と発言を望みます。己の熱に飽りがちな芸大生にとって、気付きのきっかけになる授業にしたい。
オフィスアワー	デザイン科合同研究室 te1050-5525-2206
[英] 授業概要	Art direction changes. Time will pass and alter the concepts of mass media. Methods and media for new type of communication are now required. While accepting the latest trends and values, we will aim to improve theoretical, psychological, and practical capacity to design fundamental and psychological communication.

前述したように美術研究科の教育課程は、各専攻のアトリエや工房、研究室での創作研究活動を中心に据えることに特徴がある。この少人数・相互交流型の教育システムをベースとして、随時学生からの要望を吸収しながら、個々の学生の資質に適合した教育方法を採用するように努めている。

また、後述のとおり、本研究科では、地域連携を取り入れた創作研究指導を行うことにより、学生に対しては社会との接点を持った創作活動の実践的な展開という点で、社会に対しては創作活動を広く社会へ還元するという点で、その期待に応えている。

また、美術学部・美術研究科における受託研究、受託事業等は、教員の研究面での取組であるだけでなく、大学院生に対する創作研究指導として機能している場合もある。例え

ば、デザイン専攻では企業等と連携し、大学院一年生の必修科目「デザインプロジェクト」(資料 2-6 (P.2-8) 参照)として実験的かつ社会的であるカリキュラムを行っている。平成 24 年から 2 年間にわたって株式会社花王との間で行われた受託研究では、「家庭用品の未来」をテーマに研究を行い、その成果は『にほんのきれいのあたりまえ』展(平成 24 年 10 月 4 日~26 日・東京藝術大学陳列館)として広く一般に発表されるとともに、書籍としても刊行された(『にほんのきれいのあたりまえ』フィルムアート社 2014)。

本研究科の教育は、講義科目と実技科目の内容を連動するような工夫を行うと同時に、研究室活動を基本とする創作研究の中で、学生の個々人の主体性が発揮できるようにきめ細かく個人指導を行っている。この研究室単位の活動は、研究分野の垣根を越えることはもとより、音楽・映像分野とも連携し、フィールドワークやワークショップを利用した学外での実践活動を積極的に行い、社会交流を通じた問題発見型教育を実践している(資料2-8参照)。なかでも「GTS観光アートプロジェクト(平成22年度から平成24年度までの間、東京スカイツリーを主軸に、芸術環境拠点の形成と地域創成を目的として本学(G)と台東区(T)、墨田区(S)の3者共催による地域連携事業)」では、社会との関係性、表現の多様性、地域への貢献を研究テーマに、美術研究科の大学院生を中心に音楽研究科・映像研究科と連携し、研究室の枠を越えた教員との協働による複合的教育の実践を展開し、3年間において、17の美術作品の設置やマケット・プランニング展等の各種の展覧会、イベント及び演奏会を実施した(資料2-9)。

また、各専攻では、社会で活躍するアーティスト等を招聘した特別講義・集中講義を実施し、個人の創作研究に刺激を与える工夫を行っている(資料 2-10)。

グローバル化に向けた教育取組については、「観点 教育実施体制」(P. 2-3) で示したとおりであるが、具体的な例として、平成 26 年度、ロンドン芸術大学・パリ国立高等美術学校・シカゴ美術館附属美術大学と、「グローバルアート国際共同カリキュラム」の構築に向けた連携協定を締結した。同協定に基づき、双方で単位化する共同授業として、本学と各連携大学の学生・教員の混成チームが東京とパリ/ロンドン/シカゴを行き来しながら共同調査・制作を行い、新潟県の越後妻有トリエンナーレや香川県高松市の栗林公園を舞台に地元の方々も交えて社会実践として成果発表を行ったほか、その他の国際交流協定校や連携機関からも多様な教員・専門家・アーティスト等を招聘し、特別講義やワークショップを継続的に開催した。

加えて、国際舞台で活躍できる優れた芸術家の育成を目的として、学生の海外での芸術文化体験活動を促進する実践型教育プログラム「アーツスタディ・アブロードプログラム」 (ASAP) を実施している (資料 2-11)。これは展覧会や研修への参加、協定校への訪問等、教員による企画・指導の下、学生が海外において主体的に取り組む芸術文化活動の教育プログラムであり、平成 26 年度において試行的に実施し、平成 27 年度からは正規授業として単位化された。

さらに、平成年27度までに海外46校と交流協定を締結するとともに、平成27年度は、32名の留学生を受け入れ、37名(学部生3名、大学院生34名)の学生を協定校に送り出している(資料2-12参照)。

資料 2-8 平成 27 年度 社会と連携した主な研究指導事例

N o	指導テーマ	専攻・分 野	連携,協力先など	概要
1	社会に実配置 イレス おおがい かんしょう おいまい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい	デザイン専攻	株式会社 読売新聞 本社	読売新聞本社からの受託研究。読売新聞東京本社・広告局マーケティング戦略局発刊のマスメディア,広報広告,ブランディングを扱う隔月の専門誌「0J0」(オッホ)の表紙デザインの作成。
2	新しい市場性 を持った紙の	デザイン 専攻	北越紀州製紙株式	北越紀州製紙からの受託研究。現在の市場に無い価値     を持った紙を開発し,新しい紙の表現と需要の可能性

	開発, ブランデ ィング		会社	についての検証を行い、印刷特性や平滑性といった従 来の機能性ではない視座から、新しい紙を開発し、そ
	1 2 9			れを用いた作品の制作,発表した。 台東区からの受託研究。台東区内の山手線外側・言問
3	GEIDAI DESIGN PROJECT 2015	デザイン 専攻	台東区	通り北側の以下に挙げた町(根岸,下谷二~三丁目, 入谷,年東,竜泉,三ノ輪,浅草三~七丁目,東浅草, 今戸,日本堤,清川)を中心にリサー東し,2020年へ 向けて,言問通り北側に位置する「大田」を一手を 一方でとを誘う仕組みを考え、などのでは、一方でとを 業を活かした新業態の提案を で文化資源の活用などを織り込んだ提案した。 は、一葉を活かした。 は、一葉を で、一方で 一方で 一方で 一方で 一方で 一方で 一方で 一方で 一方で 一方で
4	さくらパンダ GEIDAI プロジ ェクト 2015	デザイン 専攻	株式会社 大丸松坂 屋百貨店	合う場づくり」の様々な方法を研究開発することで, 百貨店を通した地域連携を図り, 同時に百貨店の集客 やブランド力向上に寄与する。
5	アト・デザイン らのした 大明 点た 大 文化 県・地域のという は なり とり は りん こう かん は のり は りん いん は りん しん いん	デザイン 専攻	大分県	アート・デザインの研究機関としての東京藝術大学の 専門性を活かし、地域の特産品を多角的に深い洞察と 視点で追究することにより、(東京からの視点として の)地域の在り方を検証。
6	取手ストリー ト・アート・ス テージ・プロジ ェクト	彫 刻 専芸 専攻、 毀金 研究分野	茨 城 県 取手市	「ストリートアートステージ」は、取手駅東口区画整理事業の一環として、取手駅東口区画室外の芸術作品展示台である。市と東京芸術大学が協力して「独特の環境形成と芸術文化の生成を目指して」、東京芸術大学彫刻科(金属研究室)と工芸科(鍛金ア究室)で制作した16点の作品を7基のストリートに入ったの展示で展示する。この展示に組み合わる。となり公園等に展示される。のリング状の作品となり公園等に展示される。
7	取手アートプロジェクト	先 端 芸 術 表現専攻	取手市	若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民のみなさんに広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことを目指す。2011年度から、大きく2つのテーマ「半農半芸」、「アートのある団地」で進行している。また、環境整備事業、こどもプログラム、国際交流事業も継続しておこなう。
8	Fab café Hida	建築専攻	飛株トシ会トかる共体会騨クる脚式・、社ワら、同「社のマ」市会に株ローら官事株、森は、社ム式フクな民業式飛で踊り、社ム式フクな民業式飛で踊り、	森林再生とものづくりを通じた地域産業創出のための事業の一環として、岐阜県飛騨古川にある古民家「熊崎家」をデジタルものづくり拠点「FabCafe HIDA」として改修、整備する事業のコンセプト提案および基本設計のとりまとめ。
9	長徳寺永代墓 計画	建築専攻	吉原悠博	新潟県新発田市大栄町に所在する浄土真宗寺院の新規 墓地計画。
10	生命力の踊り場 vol.2 -杜の音楽祭-	建築専攻	北杜市 小淵沢商 工会	受託研究 「小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究」 に係る活動
11	クラフトフェ アまつもと	工 芸 専 攻 鋳 金 研 究 分野	信州大学教育学部	信州大学教育学部と共同し、国内最大級のクラフトフェア「まつもとクラフトフェア」でクラフト作品の発表、工芸教育と鋳金の内容を充実させたワークショップを実施し、教育研究内容・成果を発信した。また、クラフトフェア終了後学生同士のディスカッションを行い、クラフトの展開、教育と工芸についての理解を深めた。
12	富士ヶ丘小学 校プロジェク ト 2015	デザイン 専攻	北茨城市	北茨城市立富士ヶ丘小学校が平成28年3月31日を もって閉校となることから、市では跡地活用の方向性 として、芸術家や芸術を学ぶ学生等の創作活動の拠点 施設を模索。そこで、閉校となる同校の記憶を残すた

				め,また市の歴史的背景を踏まえながらともに学び,物づくりをすることによって,児童を含め地域の事業に達成感や喜びを共有するためのワークショップ事業を企画・運営することで,東京藝術大学の教員及丘小学校で交流を深め,互いに記憶を残すとともに,閉校後の富士ヶ丘小学校での文化交流を継続していく方法や,活動の基盤を模索・検討した。
13	みなかみ 10 周 年事業~湯宿 地域リサーチ	絵画専攻 油画研究 領域	みな町 町 場 場 っ 場 の 会	みなかみ町と芸大の受託開始から 10 周年の記念事業 とそのための湯宿地域におけるリサーチ活動,町内イ ベントへの参加,協力
14	小淵沢すずら ん祭り屋外上 映会	建築専攻	北杜市 小淵沢商 工会	受託研究 「小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究」 に係る活動
15	藝大子プロジェクト	油攻イ攻芸専芸専ザ専端現工	シラパコ ーン大学 大 子 町 (油画)	シラパコーン大学の教授と学生, 東京藝術大学の油画 科学生, 大子西中学校1年生たちによる展覧会 (油画概要)
16	大人の美術ワ ークショップ 絹に描く	絵 画 専 攻 日 本 画 研 究領 域	財田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	台東区民を対象とした日本画のワークショップを開催し、地域住民との交流を図る。芸術の理解を深めてもらうとともに日本画を通した地域の活性化に役立てる。85名が、完成させた作品を、TX浅草駅ギャラリースペースにて展示した。
17	ロボットテク ボロジザイン るデザイン 現	デザイン 専攻	株式会社 ZMP	デザインやアートの視点からのロボットテクノロジー の研究
18	ビバ!芸大生 が やっ て き た!	絵 画 専 攻 日 本 画 研 究領 域	上公野園 物上園 期間	上野動物公園の動物をモチーフに制作した作品を,動物園内の展示会場で発表を行う。会期中の学生による作品解説も行う。
19	火のアートフ ェスティバル	絵画専攻 油画研究 領域	東御市	地域の景観をリサーチし、地域を活性化する目的もって、地域住民に向けたアート自転車によるサイクリングワークショップを実施した。
20	すべての人が 共通ディ・ケア 商品セットの 開発	デザイン 専攻	株式会社花王	2020年オリンピック、パラリンピック開催を視野に入れ、日本文化が培ってきた色や香り、薬効など凝縮した、国籍や言語、習慣の違いを超え、可能な限りすべての立場の人に共通して使う事の出来る「完全にフェアで本質的な、ボディ・ケア商品セットのスタンダード」の開発を目標とし研究会、勉強会を実施。

# 資料 2-9 GTSアートプロジェクト実施例

No.	事業名	期間	場所	内容				
म	平成 22 年度							
1	隅田川新名所物語 2010	H22.10.20∼ 11.6	東本願寺慈光殿 2 階	隅田 に を 対 が が が が が が が が が が が が が が が が が が				
2	ササクサス	H22.10.23∼ 11.14	雷門1丁目,2 丁目地区各所の 店先,路上,公 園,学校	『ササクサス』とは東京藝術大学先端芸術表現専攻日比野克彦研究室が中心となって企画,運営を行う3年間の長期継続的活動である。この名は1960年代にNYを中心に起こった反芸術運動「フルクサス」に起因し、「ASAKUSA」の地名を「S」ではさんで『SASAKUSAS』と名付けられた。「S」の形には浅草を回遊する、巡る、というイメージが込められている。雷門1丁目、2丁目地区を舞台に、地元住民との交流、雷門地区の地域性をベースとした様々な活動をおこなう。その活動は				

				「モノ」づくりとしての作品というより、「コト」
				づくりとして、街の中に新たなコミュニケーションの場をつくるための試みである。
				本企画は、GTS(藝大・台東・墨田)観光アート プロジェクト、トーキョーワンダーサイト、ロン
				ドン芸術大学が連携し、ジャンルや国籍の異なる クリエーターと協働して課題に取り組み、新しい
				創造の地平を開くことを目的としている。今,文   化,経済,環境などあらゆる分野で総合的,長期
	GTS×TWS 連携	1100 11 0-	隅田公園リバー	的な視野のもと新しい価値を見出すことが急務   となっている。江戸時代の中心地であり、2012年
3	企画 Tokyo void	H22.11.2∼ 11.14	サイドギャラリ	の東京スカイツリー完成に向けて熱い注目を集めている隅田川両岸地域の台東区,墨田区のリサ
				ーチを通して、地球と人にとっての豊かさを考える。Part 1 (2010 年 8 月 4 日~26 日) で、ワー
				クショップとしてレクチャーやグループワーク を行い、Part 2は「隅田川 Art Bridge 2010」展
				において制作発表(「Tokyo void」展), そしてトーキョーワンダーサイト本郷におけるドキュメ
				ント展を行う。 近世まで隅田川を渡る風は交易を可能とするエ
				ネルギーの源となり、四季の色を映す衣食住の生   活文化を育み、時には大火をもたらす、まさに江
				戸の川辺には「風の景」があった。竹の先の吹き 流しは、立ち並ぶ仮設の見せ物小屋、水茶屋、屋
4	川辺の虹色か	H22.10.20∼	言問橋一吾妻橋	台へと人々を誘う。風の記憶は郷愁を越え,今も 街に活力をもたらすだろう。隅田川の川面を行き
1	ら光へ	11.14	の川岸	で しょう で しょう で かっぱ で かっぱ で で う 風を 布面 が 受 け 止め か 時に は 激 しく ま 舞 す る。 人々 は その 空 気 の 涼 感 を 求 め 引
				き寄せられる。ひかりきらめく川面に呼応して, 布面は虹色にかがやく。隅田川の風からインスピ
				ー レーションがれた光のイルミネーションが夜の 川面を彩る。
				出たな数のシャボン玉により風景を一変させる   アートパフォーマンス。見慣れた日常風景を幻想
5	Memorial Rebirth	H22.11.6	墨田区役所うる おい広場	的な空間へと生まれ変わらせることで、その瞬
	-Sumida river-		わい広場	間、その場所に関する記憶を刻み込み、そこに集 う人々、パフォーマンスが展開されてきた各地の
	アジアの影・	H00 10 00	<b>ー</b> すみだリバーサ	人々の思いをつなぎ再生させてゆく作品。アジアの伝統的な切り絵の技法などを中心として、
6	陰・ネガ -伝 統と現代-	H22.10.20∼ 30	イドギャラリー	て、陰と陽、表と裏、外と内などの関係性の中で表現されその境界にまつわる物語をテーマとし
				た現代美術の作品展を開催。 北十間川に沿って位置する鉄道の高架下は、台東
				区、墨田区に繋がる重要なルートに面している。 そこで地域の人たちと改めて「まち」を考えるた
7	マイタワークラブ	H22.9.下旬~ 10.19	東武鉄道高架下倉庫	めに、ワークインプログレスとしてのクラブ (工房・活動拠点・地域との交流の場の創造)を行い
				ながら「マイタワー」をつくる。場所の制作過程 それ自体が情報発信であり、パフォーマンス・作
				品である。ワークインプログレスとしてクラブ (工房)を東武鉄道高架下のスペースにつくる。
				岐阜市の長良川で 2006 年から行われている「こよみのよぶね」は日比野克彦が企画・監修し市民
				とともに制作してきている。川を通じて遠くの地域と繋がることにより、川のある地域の交流の可
8	こよみのよぶね	H22.10.20∼ 11.14	東武鉄道高架下倉庫	能性を追   求する。また地域の人と学生が制作することによ
				り今後の活動の人間関係を形成させていく。巨大 数字行燈は竹を骨組みにし、和紙を表面に貼り、
				中に電球を入れる。それを船に取り付け,川面に あかりが映り込むように停泊させる。
				日本を代表するアニメーション作家による作品 から,若手作家の現代映像表現,墨田区で撮影さ
	「記憶の森」夜	H22. 10. 23 IF	大横川親水公園	れた8ミリフィルムなど,海外からの作品も交えた映像展。会場となる牛嶋神社では,墨田区内で
9	の上映会	カュ	など	撮影された8ミリフィルムの上映や新進気鋭の 作家による映像インスタレーションを行います。
				世界の先端を行くアニメーション作家による作品は大横川親水公園で屋外上映。すみだリバーサ
	l .	I		

				イドミニシアターでは海外の作家によるアニメ
				ーション作品などを上映。
				GTS 市民参加ワークショップを広く市民に公募。
				小中学生にはワークショップによって東京スカ イツリー®建設の歴史的環境に立ち会い、景観ス
10	東京スカイツリー®を描く	H22 .10 .6~ 10.11	東京藝術大学陳列館	ポットを探しながら東京スカイツリーを描く事で、この風景を人々の記憶に深く留めようという
	絵画 展	10.11	クリ RE	て、この風景を入々の記憶に保く留めようという コンセプトである。東京スカイツリーを背景にし た風景を描いた絵画を展示し、観客に様々なスポ
				ットからの絵画を楽しんで頂く。
	GTS 国際音楽	H22.10.19 Æ	東本願寺,墨田区	東京藝術大学音楽学部教員,在学生,留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く
11	コンサート	カュ	役所 1 階アトリウム	東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く。台東区東本 願寺における2回の演奏会,墨田区役所1階アト
<u> </u>	☑ 成 23 年度			リウムにおける2回の演奏会を開催する。
	· 从 20 干皮			隅田川を挟んだ台東区・墨田区は歴史の逸話に溢
				れ、様々な絵画や文学の舞台にもなった地域である。時代を超え、現代に生きる芸大生が隅田川界
				隈の歴史を調べ,自分の足で歩いて,新たなこの   地域の「名所」を見つける。東京スカイツリー◎
12	隅田川新名所	H23.11.7∼	隅田公園リバーサイドギャラリ	や浅草地区など既に観光名所として有名なこの 地域の隠された魅力を発見しながら作品を創り,
12	物語 2011	11.13		作品に触れた人々がまた新たな視点を持って町 歩きを楽しめることを目指す。40名超の芸大生が
				絵画,立体,インスタレーション,映像など多様 なメディアによる作品で展覧会を作り,また,展
				覧会で配布する小型のカタログは観光のガイド ブックとしても持ち歩けるような工夫が凝らさ
				れている。 MISTとは霧,非日常の風景を立ち上げ,晴れの日
				を予兆する自然のマジカルな力である。見えない 水蒸気が小さな水滴となって集まり風景が浮か
13	MIST	H23.10.10∼	墨田区役所前 うるおい広場,墨田	びあがるように、墨田区の子供達や住民の方々と 作品づくりをすすめ、空、風、土、光に着目する
	MIST	10.23	区枕橋・源森橋ほか	作品群は、東京スカイツリー®のお膝元に設置され、自然の動きと対話する明るい風景をつくりだ
				す。会期末には、MISTフェスティバルと前日祭を 開催、にぎやかに展開される。
				『記憶』をテーマに、東京スカイツリー®をのぞ む牛嶋神社と隅田公園一帯を舞台として映像イ
	記憶の森 映像	H23.11.3		ンスタレーション, アニメーションや8ミリフィールムの上映会, ワークショップなどを行う野外映
14	展 展	ほか	社,隅田公園	像展。映像の力によって、人々の間に過去の記憶 から未来を考えるコミュニケーションを誘発し、
				地域におけるあらたな人と人のつながりを創り出すことを目指す。
				一りことを日相り。 美術の発生においては様々なプロセスがある。か つて幕末から明治にかけての浅草下町界隈では
				「見世物」といった今でいうところの大道芸や芸 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
				能, と店, 可州, 美州昭, 勤物園, ねはり屋敷な どの要素を含んだ庶民の好奇心を刺激するもの を生み出していて, きっと「街」そのものが想像,
				を生み出していて、さっと「街」でのものが恐塚、 創造のるつぼであったと思われる。それら大衆娯 楽の流行した様子は浮世絵や絵画にも題材とな
15	下町で発生し た見世物, エス	H23. 10. 23∼	すみだリバーサ イドホールギャ	って多く描かれていた。このような下町で生まれ
	プリ展	10. 29	ラリー,会議室	た文化の背景や地域性,風土,気質などは,今現 在の美術の状況にもつよく刺激を与えると考え
				る。この企画展では、日常の生活や下町の一つの場所
				や出来事に触れ、その中に内包されるユーモアや、意外な視点の迷宮、手作り、遊び、対話、エ
				スプリなどから派生した作品を一同に介し、一つの「はない」としてエンターティメント性を帯び
				た創造のプロセスをみせる展示を試みる。 台東区、墨田区のいわゆる伝統和菓子は、幾何学
16	イノベーショ ンプロジェク	H23.10.13∼ 10.18	東京藝術大学大 学会館 2F 展示ス	的な美しさを持つものが多い。江戸の「粋の美学」   に支えられたカタチは、見方を変えれば決して古
	ŀ	10.10	ペース	くなく,シンプルで愛らしくむしろ現代的であ る。伝統という枠からそれらの和菓子を一度解放

	ı	T.	T	
				し、洋菓子さながらの自由な小舞台(器、台、皿)を与えることがこのプロジェクトのコンセプトである。今回は白磁とガラスというモノクロームの素材と伝統和菓子のコラボレーション作品、20~30点を展示、新たな和菓子のしつらえを提案する。
17	油 絵 茶 屋 再 現 : アートサ イトクルージ ング	H23.10.15∼ 11.15	浅草寺境内	日本で初めて行われた油絵の展覧会会場は、浅草寺の境内に現れた見世物小屋だったことはあまり知られていない。 その当時の浅草は、日本で最も活気に満ちた新しい文化を発祥する活気ある場であったという。残念ながら当時の絵は残ってはいないが、わずかに残る資料をもとに徹底検証し、小屋もろとも再現した。
18	GTS 国際音楽 コンサート	H23. 10. 10 ほ か	墨田区 すみだリ バーサイドホー ル アトリウムほ か	東京藝術大学音楽学部教員,在学生,留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く。計6回開催。
म	 ヹ成 24 年度			
19	隅田川新名所物語 2012	H24.10.27∼ 11.7	隅 田 公 園 リ バ ー サ イ ド ギ ャ ラ リ	藝大の学生、教員、助手たちが、 科や専門性を越えひの「名所図」、展を作り上 げる。 隅田区は、歴史の逸な時には、の はさんだちない。 になり、ののない。 になり、ののない。 になり、ののない。 になり、ののない。 をはさんだない。 をはされたでは、ののない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではないでは、たいでは、ののない。 では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、は、ののでは、は、ののでは、ないでのでは、ないでのでは、ないでのでは、ないでのでは、ないでは、ののでは、ないでは、 がいるのでは、 でのでは、 ののないでは、 でのでは、 ののないは、 ののないは、
20	GTS AWARD	H24.10.11∼ 11.11	シタマチ Base ほか	国民区、 東区、 一下 大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の
21	「東京スカイ ツリー®を描 く」ワークショ ップ/絵画展	H24.10.30∼ 11.4	東京藝術大学大学美術館陳列館 2 階	「東京スカイツリーを描学のとと区ででは、からからに実施するのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のででは、のでは、のでででは、のでででででででで
22	イノベーショ ンプロジェク ト	H24.10.30∼ 11.4	浅草文化観光センター7F	ぽち袋に駄賃を渡す時期や相手によって粋な絵をあしらうような、墨田区、台東区に今なお息づく粋な江戸東京の四季の楽しみや遊びごとを東京藝術大学美術学部の若きクリエイターが現代のエッセンスを養分に再編・再構築にチャレンジする。
23	記憶の森 映像 祭	H24. 10. 17~ 10. 21	牛嶋神社ほか	4 会場を中心とした隅田川周辺の地域一帯を壮大 な"記憶の森"と見立て、様々な作品の展示やパ フォーマンスを展開。地域における記憶の掘り起 こしと共有、人々の出会いの場の創出を目指す。

24	GTS 音楽コン サート	H24.10.21 ほ か	東本願寺本堂ほか	東京藝術大学音楽学部教員,在学生による音楽コンサート。 区民の皆さんに東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く音楽会。 平成23年度は,中央音楽院との音楽交流会や,親子で楽しめるファミリーコンサートを企画するなど,より広い層の皆さんが楽しめるように多彩で充実したプログラムを企画する。
25	GTS Art Talk Café	H24. 9.14 ほか	東京藝術大学ほか	GTS Art Talk Cafe は、主に在学中の大学院生、学部生に向けてプロジェクトの周知を計るとともに、ゲストの方々を交え、芸術や大学と社会との接点について、様々な視点からの意見交換を行う全3回(予定)の講演会企画である。
26	GTS シンポジ ウム 2012	H24.10.31	東京藝術大学	近年、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では

## 資料 2-10 平成 27 年度特別講義・講演の例

具作	4 Z-10 <del>**</del>	从 27 干皮的	別講義 講演の例	T	1
No.	日付	企画担当	題目	講師名	講師所属等
1	5月1日・ 8日・15 日・29日	油画技材	デジタルフォト概論	阿部充夫	長岡造形大学 視覚デザイン学科
2	5月13日	美術研究科	「関係性の美学」そして 「ポスト・フクシマのア ート」	Clelia Zernik	パリ・エコール・デ・ ボザール
3	5月13日	美術研究科	「アーティストとしての 活動」	Jean-Luc Vilmouth	パリ・エコール・デ・ ボザール
4	5月18日	日本画	茶道(茶の湯・絵画)講 義	金澤久雄	裏千家
5	5月25日	彫 刻 科 / 先端芸術表 現科	震災と芸術一企画に関わった3つの展覧会を通じ て	五十嵐 太郎	東北大学大学院工学研 究科 教授
6	6月2日	工芸 (鋳金)	生型特別講義 生型の特性からプロダクトデザイン	宮伸穂	作家
7	6月2日・ 9日・16 日・30日	油画技材	絵具製造実習	春日敏夫	株式会社ホルベイン工 業
8	6月11日	先端	日本の都市構造を読み解く	光井渉	東京芸術大学
9	6 月 16 日·17 日	日本画	箔実習及び講義	月岡裕二	日展
10	6月25日	建築	Mies van der Rohe: The Limits of Tectonics	Gevork Hartppnian	オーストラリア・キャ ンベラ大学
11	6月29日	日本画	伴大納言絵巻講義	黒田泰三	出光美術館
12	7月2日	日本画	裏打ち実習及び講義	寺内秀一	寺内遊神堂
13	7月9日	彫刻	彫刻論	瀧 徹	彫刻家
14	7月9日	先端	万物の平等:代表の断裂	WANG Hui	北京・清華大学
15	7月13日	版画専攻	アートシーンができるま	川西 浩史	個人美術商

			で		
			ー1970 年代 Soho から		
16	7月13日	建築	建築・模型・写真	小川重雄	小川重雄写真事務所
17	7月27日	日本画	裏打ち講義	寺内秀一	寺内遊神堂
18	7月28日	先端	Project • Protcol	Antoni Muntadas	国際アーティスト(スペイン)
19	7月30日	建築	Salute to Illegal Architecture	阮慶岳	元智大学
20	9月9日	先端	儒教と京都の空間構造	小倉紀蔵	京都大学
21	9月10日	先端	禅と私	河野太通老師	臨済宗妙心寺派龍門寺
22	9月11日	先端	ヴェネチア:都市の基盤 構造と芸術文化	野口昌夫	東京芸術大学
23	9月17日	先端	Shanghai Project	Yongwoo Lee	上海ヒマラヤ美術館
24	9月29日	先端	現代アートの社会実践	マリー・ジェイン・ジェイコブ	シカゴ美術館附属美術 大学
25	9 月 29 日·10月1 日	木工芸	打刃物実習	船津祐司	舟弘製作所
26	9月30日	日本画	接着材料及び講義	竹村彰夫	東京大学大学院農学生 命科学研究科准教授
27	10月8日	建築	Corb, Photograph, Architecture	Andrew Higgot	王立芸術大学
28	10月15日	彫刻	彫刻論	田中 毅	彫刻家
29	10月16日	日本画	日本画材料及び筆講義	阿部信治	清辰堂
30	10月22日	彫金	OTTO KUNZLI / オット ー・クンツリ	オットー・クンツ リ	作家
31	10月27日	日本画	源氏物語絵巻特別授業	名児耶明	五島美術館
32	10月30日	先端	建築構造プロジェクトと コラボレーション	金田光弘	建築科
33	11月2日	日本画	絹本裏打ち講義	寺内秀一	寺内遊神堂
34	11月5日	先端	Against Global Musem?	Bartomeu Mari	韓国・国立現代美術館
35	11月6日	美術研究科	M+美術館の活動と東アジ アの牽引について	Dr. Lars Nittve	香港・M+美術館
36	11月9日	先端	日本人・日系アメリカ人強制収容体験講話	ジーン・ミシマ, リチャード・ヒダ カ,メリー・オオ ヤ	シカゴ日系アメリカ人歴史協会
37	11月17日	油画 3 壁画 2	シルクロード敦煌の飛天 達	常嘉煌	作家
38	11月25日	日本画	日本画材料及絵具講義	宮内由紀子	得応軒
39	12 月 2 日・3 日	木工芸	座編み実習	金澤知之	金澤図工
40	12 月 9 日・10 日	日本画	箔実習及び箔講義	月岡裕二	日展
41	1月10日	先端	芸術文化を通じた心の復 興	家村佳代子	フューチャーラボ東北
42	1月15日	先端	被曝体験講話	小倉桂子	平和のためのヒロシマ 通訳者グループ
43	1月15日	先端	被曝伝承講話	森河伸子	広島平和記念資料館

44	1月16日	先端	被曝伝承講話	伊藤正雄	広島平和記念資料館
45	1月16日	先端	記憶の継承	志賀賢治	広島平和記念資料館
46	1月16・17日	先端	広島から東への旅	ジーン・ミシマ	シカゴ日系アメリカ人 歴史協会
47	1月19日	油画	イレズミ と 日本画一日 本南島の針突(ハジチ) にみる海人族の記憶ー	山﨑 宏	現代美術家
48	1月26日	油画	めくるめく血肉化の遠近 法一観察と参与を通して -	岩井優	美術家
49	1月29日	工芸	欧米現代工芸の現状と展 望	エミリー・ジルバ	ボストン美術館キュレ ーター
50	1月29日	全学生	ベツァエル美術デザイン アカデミーのはなし	アディ・スターン 他	同アカデミー学長

# 資料 2-11 アーツスタディ・アブロードプログラム (ASAP)

No.	プロジェクト名称	実施場所	期間	代表教員	参加学 生数
1	カンボジア石造世界遺産現 場体験型プログラム	カンボジア (シェムリアップ)	H27.11.20 ∼24	原 真一 (彫刻科准教授)	6
2	中国工芸史に関する日中学 生会議	中国(北京・上海・蘇州・南京・杭州)	H27.9.20∼ 26	片山 まび (芸術学科准教授)	8
3	C/WS 1:Eccentric Urbanism	英国(ロンドン)	H27.7.5∼ 25	トム・ヘネガン (建築科教授)	7
4	ベトナム美術大学・東京藝 術大学 漆芸技術交流授業	ベトナム (ハノイ)	H27.11.1∼ 7	小椋 範彦 (工芸科准教授)	7
5	東京藝大エスノ・アート・ ラボ&「サンギャン/儀礼の 力」プロジェクト	インドネシア (バリ島)	H27.7.15∼ 31	伊藤 俊治 (先端芸術表現科教 授)	6

## 資料 2-12 国際交流協定校との交換留学(派遣)

十一 24 / 14% 目目	로 / 내 선	派遣	派遣時期	
大学/機関	国/地域	~H27 年度	H27 年度~	
ロンドン芸術大学	イギリス		1	
ロイヤルアカデミースクールズ	イギリス		2	
パリ国立高等美術学校	フランス	2	2	
ナント芸術大学	フランス		2	
エコール・ブール国立工芸学校	フランス	1		
ワイマール・バウハウス大学	ドイツ	2	1 (1)	
ハレ・ブルグ・ギービヒェンシュタイン芸術大学	ドイツ		1	
シュトゥットガルト美術大学	ドイツ		2	
ウィーン工科大学 建築・地域計画学部	オーストリア	1		
ウィーン応用芸術大学	オーストリア		1	
ウィーン美術アカデミー	オーストリア		1	
ミラノ工科大学	イタリア	2	1	
トリノ工科大学	イタリア		1	
グラスゴー美術大学	スコットランド		1	
ブロツワフ美術大学	ポーランド	1	2	
カタルーニャ工科大学 バルセロナ建築学部	スペイン	1	1	
アアルト大学 工学部建築学科	フィンランド		1	
シドニー大学	オーストラリア	(1)		
清華大学美術学院	中国		1	
中国美術学院	中国	1		

アナドール大学	トルコ	1
ベツァルエル美術デザインアカデミー	イスラエル	1 (1)
平成 27 年度交換留学実績		37

美術研究科では、個人の制作を重要視する観点から、制作の場であるアトリエ・工房あるいは各研究室の自由な使用を可能な限り認めている。また、教育成果でもある制作作品や研究論文の学内外展覧会への出品や Web 上での公開、学会などでの発表を推奨し(資料2-8、2-9、「観点 学業の成果」の資料2-16(P.2-23~2-25)参照)、同時に優れた業績をあげた学生への顕彰制度を設けている(資料2-13 参照)。特に修士課程教育の集大成である修士制作・修士論文に関しては、全学生の作品を展示した修了制作展を大学美術館で毎年実施し、作品を直接公開すると同時に図録や論文梗概集を作成して刊行している。また博士後期課程にあっては、博士論文や作品を一同に介して展示発表する場として博士展を実施し(資料2-14参照)、一般外部からの批評を受け入れると同時に、個人としての主体的な取り組みを促す契機としている。

資料 2-13 美術学部・美術研究科の顕彰制度一覧

	具什 C 10 天闸于即 天闸机九行0颗彩闸及 克						
No	奨学金等名	対象学科·専攻					
1	安宅賞	全学科·専攻					
2	平山郁夫奨学金	全学科·専攻					
3	O氏記念賞	油画					
4	俵奨学金	油画(版画)					
5	久米桂一郎奨学基金	油画, 彫刻					
6	内藤春治奨学基金	工芸(鋳金)					
7	原田賞奨学基金	工芸					
8	藤野奨学金	工芸(鍛金),美術教育					
9	吉田五十八奨学基金	建築					
10	野村美術賞	全学科・専攻(※博士課程のみ)					
11	上野芸友会賞	油画					
12	菅原安男奨学基金	彫刻					
13	芸大陶友会奨学金	工芸(陶芸)					
14	お仏壇のはせがわ賞	文化財保存学(保存修復)					
15	卒業·修了作品買上	全学科·専攻					
16	サロン・ド・プランタン賞	全学科·専攻					
17	芸大デザイン賞	デザイン					
18	吉田五十八修了制作賞	建築					
19	吉村順三卒業制作賞	建築					
20	北田文化財保存科学賞	文化財保存学(保存科学)					
21	平山郁夫文化芸術賞	日本画					

#### (参考)

外部団体が卒業・修了制作(論文)に対して直接に授与等するもの

1	台東区長賞(台東区)
2	台東区長奨励賞
3	取手市長賞(取手市)
4	荒川区長賞(荒川区)
5	杜賞(本学部·研究科同窓会)
6	上野恩賜公園「芸術の散歩道」東京都知事賞(東京都)
7	三菱地所賞

8 メトロ文化財団賞

#### 資料 2-14 東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展

東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展

〔会 期〕2015年12月15日(火)~24日(木)

10:00~17:00 (入場は16:30まで)

〔会 場〕東京藝術大学 大学美術館

絵画棟 アートスペース 1・2 Yuga Gallery 立体工房

大学美術館前

日時	・場所	研究領域	申請者氏名	博士論文テーマ
12月15日	9:30-10:30	文 化 財 保 存 学 (保存修復・工 芸)	葉 翠馨	水干鞍伝統技法研究-馬の博物館所蔵「鳥彫木漆 塗鞍」模作を通して-
12月15日	10:00-11:00	日本画	牧野香里	鳥 - 死の傍観者 -
12月15日	10:30-11:10	文化財保存学 (保存修復・日 本画)	安原成美	旧祥雲寺客殿障壁画の復元研究-国宝「松に黄 燭葵及菊図」の想定復元模写を中心として-
12月15日	11:00-12:00	日本画	菅原道朝	水の循環一畏敬の風景―
12月15日	11:10-11:50	文化財保存学 (保存修復・日 本画)	李 艷梅	文化財保存修復理念による壁画の復元研究ーキ ジル第 17 窟「立仏図」の複製制作を通してー
12月15日	13:00-14:00	日本画	澁澤 星	越境の時空-暗示と想起の形-
12月15日	14:00-15:00	日本画	上原由紀子	潜む獣性―飢餓感のフォルム―
12月16日	10:00-11:00	油画	大橋文男	風習とアートー風習儀式の形態化に近づく構造
12月16日	11:30-12:30	先端芸術表現	内海昭子	イメージと見る者の間の知覚と経験について
12月16日	13:30-14:30	先端芸術表現	梅原麻紀	コラボレーションとアーカイブの研究ーアーティスト・コレクティブの実践をもとにー
12月16日	15:30-16:30	油画(油画技 法・材料)	菅 亮平	空虚の芸術論
12月17日	10:00-11:00	彫刻	荒殿優花	出現の光景―「場所」と「空間」をめぐる私の 神話的往還―
12月17日	11:00-12:00	彫刻	川島大幸	光の現象をめぐる彫刻表現
12月17日	11:00-12:00	工芸 (陶芸)	佐々木誉斗	装飾と造形の相互関連性
12月17日	12:30-13:30	先端芸術表現	知念ありさ	「作品と展示空間の関係性の変化について-草間彌生の 1958~1968 年の作品展開に見る-」
12月17日	14:00-15:00	工芸 (陶芸)	岡﨑春香	磁器による美少女フィギュアの表現
12月17日	14:00-15:00	先端芸術表現	宮坂直樹	観照の円滑な転換
12月17日	15:00-16:00	油画	髙畠依子	織りの解体と再生-The Hands of Anni Albers and Agnes Martin-
12月17日	15:00-16:00	彫刻	菱山裕子	舞台芸術と彫刻
12月17日	15:45-16:45	先端芸術表現	笹川治子	メディアのなかの戦争 戦争画からゲームまで
12月21日	13:00-14:00	芸術学(美術教育)	長尾幸治	美術教育における技術の位置付け一手工教育思 想の考察を通して一
12月21日	15:00-16:00	建築(構造計画)	砂山太一	演算的設計手法 その有為性
12月22日	13:00-14:00	文 化 財 保 存 学 (保存修復・建 造物)	植松みさと	文化財建造物における障壁画の保存管理に関す る研究
12月22日	14:00-15:00	文化財保存学 (保存修復・彫刻)	中村恒克	宝菩提院菩薩半跏像および道明寺十一面観音菩薩立像の作風表現および造像技法における唐の 影響について―両像の模刻制作を通して―

12月22日	15:00-16:00	文 化 財 保 存 学 (保存修復・建 造物)	湯本 桂	近代の歴史的建造物における構造補強と設備改修に関する研究-旧東京科学博物館本館を中心とした考察-
12月22日	18:20-19:20	芸術学(西洋美 術史)	武笠由以子	1940 年代における抽象表現主義作家たちの初期作品―シュルレアリスム受容から新しいアメリカ美術の確立へ―
12月24日	11:00-12:00	デザイン	ライラ・フ ランセス・ カセム	グラフィックデザインの視覚伝達スキルが切り 開く,社会的弱者の創造活動を社会事業化する インクルーシブブデザインの新しい地平
12月24日	11:00-12:00	芸術学 (美学)	守谷広子	ロラン・バルトの記号学的文学論と文学的活動 としての講義 理論と実践の照応関係の確認
12月24日	11:00-12:00	芸術学(美術教育)	栗田絵莉子	中等教育における「探求」する美術教育 ―デューイの経験論と玉川学園での実践を手がかりに ―
12月24日	13:00-14:00	油画	升谷絵里香	ティッピング・ポイント:無へ転化され立ち上 がるアート

#### (水準) 期待される水準にある

#### (判断理由)

各専攻の教育課程は、高度な専門分野を学ぶにふさわしい内容となっている。また、学生や社会からの要請に応える授業科目の開設や授業内容・指導方法の見直しは随時実施されている。加えて各研究室では、研究課題の実施にあわせて、受託研究、受託事業等が盛んに行われており、それがもたらす実践的な教育効果も大きい。

また、修士課程における修了制作・論文は、研究室という閉ざされた単位ではなく各専 攻単位で複数の教員による精査が行われ、また修了制作展を通じて広く外部に対して公開 し、高い評価を受けていることは、学生と社会からの期待に十分応えている証左である。 博士課程にあっては、博士展の実施と美術研究科リサーチセンターにおいて学位を得よ うとするものへの論文指導が継続的に実施された。

本研究科は美術分野の指導的立場にある教育機関として、高い期待を集めている。その中で、美術の各領域の専門家を広く集め、また学生の自由な創作の場としてのアトリエ環境を提供している。こうした教育場としての総合的な環境の水準と教育方法の適切さは、学生の志望数により判断できる。本研究科を志望する学生の数は、平成27年度入試の実績で修士課程567人であり、定員の199人に対して2.8倍、博士後期課程84人であり、定員の35人に対して2.4倍となっており、高い評価を得ているものと判断できる(資料2-15参照)。

資料 2-15 平成 27 年度美術研究科入試状況 【修士課程】

専攻	入学定員	志願者	合格者	入学者	倍率
	人	人	人	人	倍
絵画専攻	47	(13) 149	(6) 50	(6) 50	3.2
彫刻専攻	15	(2) 29	(1) 20	(1) 20	1. 9
工芸専攻	28	(4) 37	(2) 31	(2) 31	1. 3
デザイン専攻	30	(14) 65	(1) 36	(1) 35	2.2
建築専攻	16	(3) 65	18	18	4. 1
芸術学専攻	21	(6) 55	(3) 25	(3) 23	2.6
先端芸術表現専攻	24	(6) 70	(1) 30	(1) 25	2.9
文化財保存学専攻	18	(9) 40	(4) 16	(4) 15	2. 2
<b>∄</b> +	199	(57) 510	(18) 226	(18) 217	2.6

# 【博士後期課程】

<u>ITTEMMET</u>					
専攻	入学定員	入学定員 志願者 合格者		入学者	倍率
	人	人	人	人	倍
美術専攻	25	(17) 56	(10) 23	(10) 23	2.2
文化財保存学専攻	10	(4) 7	(4) 6	(4) 6	0.7
計	35	(21) 63	(14) 29	(14) 29	1.8

注( )内数は,外国人留学生を外数で表す。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

#### 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

講義科目については、シラバス又は第1回目の授業時に、授業のテーマ(目的)及び授業計画や内容、成績評価方法(試験を実施するのか、レポート提出かなど)をあらかじめ学生に周知している(シラバスの記載例は資料2-7(P.2-9)参照)。

また、本研究科では、学部と同様に学生の制作作品や修士作品(論文)、博士作品(論文)について、展覧会、出版物或いは Web など様々な方法で公開している。また、学術研究分野における優れた修士論文・博士論文は、当該学会において発表され、芸術の発展に寄与している。このような発表を通じて、外部の専門家からの批評や一般の美術を楽しむ人々からの声を聴くことは、教育成果つまり学生が身に付けた学力や資質・能力の水準を確認するということであり、かつ、学生が自らの能力の向上について考える場としての役割もある。(成果発表事例については、資料 2-8、2-9 (P. 2-10~2-16)、資料 2-16 を参照。修了生を含む学生の受賞については別添資料 2-① (P. 2-32~2-36)を参照)。

資料 2-16 教育研究成果の発表例(平成 27 年度)

NO.	展覧会名	会場	会期	出展学生	概要
1	太郎かアリス の Liquid	遊工房	5月1日~ 7月15日	油画第7研究室	遊工房ギャラリースペースで複数のアーティストが期間中アトリエとして,オープンスタジオとしてまた時に展示空間として制作や展示を行う。
2	生新の時 2015 漆芸の未来 を拓く	石川県輪島 漆芸美術館	5月16日 ~6月29 日	工 芸 専 攻 漆 芸 研 究 分 野	日本全国の漆芸教育機関の大学山大学山大学山大学山大学山大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学の大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大
3	『相约北京 2015』国际 金属工艺首 饰展	北京奥加美術館	5月23日 ~6月7日	工芸専攻彫金研究分野	彫金の金属工芸は伝統工芸の一つとして 発展し、現代の生活にかかわる芸術作品としるとけ継がれてきました。今日を積極的は、伝統工芸を重視し、文化遺皆様の作品に保護している。今回の企画は皆様の作品を中国において紹介し、金属工芸及びジェリーの文化交流をはかるものである。
4	未来の大芸 術家たち	平成記念美 術館ギャラ リー	6月2日~ 7月7日	彫刻専攻修 士1年	「平成藝術賞」受賞者による展覧会
5	油画第3研 究 室 展 「Föhn」	東京藝術大 学内 絵画棟 1 階 Art space 1.2	6月4日~ 6月12日	油画第3研究室	油画第3研究室展覧会
6	yukako nakazawa solo exhibition 「 HUG ME KISS YOU」	三 ノ 輪「3F3階」	6月15日 ~6月21 日	絵 画 専 攻 壁 画 研 究 分 野	壁画研究室修士1年中沢悠華子個展
7	METAL HAMMERING	天王洲アト ルタト アト アト アト アト	6月15日 ~7月10 日	鍛金専攻学 生有志	東京藝術大学・鍛金展
8	G9 - 第 7 回 東京藝 大版画 9 人 展 -	B - gallery	6月16日 ~6月28 日	版画第1,2 研究室	版画研究室に在籍している学生8名と卒業 生1名による展覧会

9	ZURETA-P rint Exchange Exhibition	絵画棟アー トスペース 1.2	6月18日 ~6月26 日	版画 1, 2 研 究室, 博士 に在籍中の 22 名	ウィーン応用芸術大学の学生 9 名と, 版画 研究室の 22 名による版画交流展
10	「素描展」	東京芸術大 学大学美術 館陳列館	6月26日 ~7月9日	絵画専攻日 本画研究分 野	第二研究室研究発表展
11	Drawing #4	銀座澁谷画廊	7月6日~ 7月12日	彫刻専攻第 3研究室	彫刻科第3研究室企画による展覧会
12	太郎かアリス の One Box and One Piece	遊工房芸大	7月17日 ~7月24 日	油画第7研究室	19 名のアーティストが参加アーティスト 全員のドローイングを持つまた,各アーティストがそれぞれのドローイングを 納めるためのタトウ箱を作成する。各アーティストのドローイングの内 一点は芸大立体工房,Yuga Gallery にて 展示,タトウ箱は遊工房 1F Gallery にて展示される。ドローイングを巡る折々の様態を二カ所同時に開催する。
13	DESPERTARS E 岡田杏里 個展	Liz corporation &ART(GALLER	7 月 20 日 ~7 月 26 日	絵画専攻壁 画研究分野	壁画研究室修士2年岡田杏里個展
14	うるしのか たち展	東京藝術大学大学美術館	8月7日~ 8月16日	工芸専攻漆芸研究分野	東京藝術大学の漆芸研究室現教員6名,の現 誉教授2名,漆芸研究室出身の本大学の現 教員5名,客員研究員1名,学生14名 表高漆芸作品の展覧会を開き,身近に向は芸 に触れられる機会を設け,広く一般向 漆芸をアピールする他,大学の漆芸教育 公開することを目的とする。
15	日本の鋳金 いもののか たち展	埼 玉 県 立 近 代美術館	8月18日 ~8月30 日	工芸専攻鋳金	埼玉県立近代美術館で OB を含む52名により行われた「日本の鋳金 いもののかたち」展に博士課程の学生2名,教職員6名が参加し、伝統技法による新たな表現の成果を発表した。
16	先端 Prize	東京藝術大学2000年	8月24日 ~8月29 日	先端芸術表 現専攻	学内奨学金を受けた学生を対象に「先端 Prize」を開催した。安宅章, サロンドプランタン賞, 卒展買い上げ賞, 平山郁夫奨学金賞が対象となった。在学卒業修了生 4 名が参加した。
17	イチケンテ ン 2015	東京芸術大 京学 算 東 大 学 館 陳 列 館 木 記 念 館 末 名 館 館 れ 記 名 館 名 名 館 名 名 館 名 館 名 館 名 館 名 館 名 館 名	8月30日 ~9月13 日	絵画専攻日 本画研究分 野	第一研究室研究発表展
18	岡田杏里展 《 bosque animado 》	谷中ボッサ	9月3日~ 9月14日	絵画専攻壁 画研究分野	壁画研究室修士2年岡田杏里個展
19	A Guest + A Host = A Ghost	東京藝術大 学絵画棟 8F 813, 814	9月4日~ 9月6日	絵画専攻油 画研究分野	ドイツ・ミュンスター芸術アカデミーのスーチャン・キノシタ研究室と,東京藝術大学の油画第2研究室(小山穂太郎教授)による国際交流展を芸祭期間中に実施。
20	今,人はど こへ向かう のか	せんびゃく 堂画廊	10 月 9 日 ~10 月 18 日	絵 画 専 攻 油 画 研 究 分 野	上野の画廊ビル全室使用した企画展で、「2015 年企画 今、人はどこに向かうのか」という大きなテーマのもと、東京芸大の大学院生9名を含め、河瀬昇氏、四谷シモン氏とその他 21 名による人形展などを同時開催した。
21	「ここに棲 む」 地域社会へ のまなざし	アーツ前橋	10 月 9 日 ~1 月 12 日	建築科·乾 研究室	「小さな風景のかたち」と題した展示の実施 人の物的な工夫によって居場所が獲得されている現場を「小さな風景」と呼び、小さな風景の実例をドローイングにおこして、写真や野帳と共に展示を行なった
22	アトラス展	取手校地メディア棟,美術館,他	10月13日 ~10月18 日	先端芸術表 現専攻	修士1年生と博士2年生の成果発表展を 取手校地で開催する。
23	住宅課題賞	ギャラッリ ーエークワ ッド	10月19日 ~11月6 日	建築専攻	建築系大学 34 大学 44 学科より設計カリキュラムの住宅課題の優秀作品 44 点を展示し、更にその中から公開審査により「優秀

					賞」を選出。
24	藝大アーツ イン丸の内 2015	丸ビル 1F, 3 F	10月20日 ~10月25 日	彫刻専攻	「三菱地所賞美術部門」受賞者による展覧 会
25	Traffic Site	名 古 屋 芸 術 大学	10月30日 ~11月4 日	名大代× 古学表先明研芸 明瑞共 明瑞兴和 等。 明明芸 明明芸 明明芸 明明究 明明究 明明究 明明究 明明究 明明究 明明究	名古屋芸術大学 同時代表現研究と先端 芸術表現科 小谷研究室,修士交流展
26	「燦の会」	大 丸 松 坂 屋 大 阪 心 斎 橋 店	11月18日 ~11月24 日	絵画専攻日 本画研究分 野	第三研究室研究発表展
27	第10回ア トリエのの 高 来 未来	大 学 美 術 館 陳列館・旧平 櫛田中邸	11月20日 ~11月29 日	彫刻専攻	彫刻科木彫研究室主催による展覧会 会場は上野桜木にある平櫛田中旧邸と大学 美術館陳列館にて行った
28	は久かィースョとじ米らカトトンの生が、イースまとりの生が、カー・カーを見います。	絵 画 棟 大 石 膏室	11月21日 ~12月2 日	絵 画 専 攻 壁 画 研 究 分 野	壁画第2研究室教員,修士学生の研究成果及び壁画実習において制作した学部学生の作品を発表する。
29	So as to en close	上野 Break ステーショ ンギャラリ	11月31日 ~12月17 日	絵画専攻壁 画研究分野	主催東日本鉄道株式会および企画協力 壁画第2研究室による展覧会に実施する。
30	「燦の会」	大 丸 松 坂 屋上野店	12 月 9 日 ~12 月 15 日	絵画専攻日 本画研究分 野	第三研究室研究発表展
31	鋳金研究室 成果報コン クション	天トーエルトーエホール	2月8日~ 2月19日	工芸専攻鋳 金研究分野	学部3年・大学院1年を中心とした学生・ 教員の展示。中川特殊鋼株式会社の協力に より毎年開催しており,教育研究成果を発 信している。
32	三大学合同 講評会	東京大学工 学部建築科	3月14日	建築専攻	東京大学,東京工業大学,東京藝術大学の3大学による卒業設計の合同講評会を行った。今年で10年目となるイベントである。

在学生及び卒業・修了生アンケートでの学業の成果の達成度や満足度に関連する設問の回答結果は、下記の資料 2-17 に示すとおりである。在学生では、カリキュラム(授業科目体系)の構成に対しての満足度は 73%、また自分が設定した研究計画が達成できたかという問への回答は 65%となっている。また、修了生における満足度は 88%、専門的知識や技能が身に付いたかという設問では 91%、本学への進学希望者に進学を勧めたいかという設問では、77.0%となっている。本研究科に進学する学生は、「自分の好きな勉強が出来る」(56%)、「専門的な知識が身に付く」(60%) という結果からも分かるとおり、専門領域における更なる研鑽という明確な目的を持っており、そうした状況の中、大学院に対して一定の満足度は得ているものの、研究計画の達成度が相対的に低いのは、我が国の美術分野では最も高いレベルにあって自身に対する期待値が潜在的に高く、また、正解を得られない芸術表現という領域の特性も反映していると考えられる。

資料 2-17 在学生アンケート及び卒業·修了生アンケート関連設問抜粋

<b>大</b> 17							
	設 問	肯定的選択肢を回答した者の					
	政问	割合					
<sub>此</sub> 在	(大学院修士2年生以上,博士2年生以上にお聞きしま	達成できた+ほぼ達成	<b>-</b> 0/				
生 学	す。) あなたは、昨年度、自分自身が立てた研究計画や目	できた	5%				

	標を達成できましたか。		
	本学の学習環境に関わることについて, どの程度満足していますか。①カリキュラム(授業科目体系)の構成	満足している+まあ満足している	73%
	東京藝術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度満足しましたか。	満足している+どちらかといえば満足している	88%
修了生	大学での授業や活動を通して,次の能力を身につけることができましたか。①実技や研究に係る専門的知識,技術と その応用力	そう思う+いくらかそ う思う	91%
	もし身近に芸術系大学への進学希望者がいる場合,東京芸術大学を勧めたいと思いますか。	そう思う+いくらかそ う思う	77%

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

観点ごとの状況で既述のとおり、展示等の実施状況(資料 2-8, 2-9 (P.2-10~2-16)、資料 2-16 (P.2-23~2-25)参照)、受賞の状況(別添資料 2-① (P.2-32~2-36)参照)、アンケートでの在学生・修了生からの意見の聴取結果等(上記、資料 2-17 参照)などからみて、学生からの高い期待に対して、全体としては十分な評価を得ていると考えられる。

## 観点 進路・就職の状況

#### (観点に係る状況)

美術分野における高度な専門教育を行う本研究科では、修了後の進路は作家・教育者・研究者・学芸員など多彩である。下記の資料 2-18, 2-19 のとおり、修了直後の状況では、企業等への就職は、専門性を発揮できるデザイン・プロダクト・建築・芸術関連の出版業界が大半であり、「非常勤」の多くは本学部・研究科で優秀な成績を修めた後に非常勤の教育研究助手を勤めている者で、この中から数年後に作家・教育者・研究者として独り立ちする者が多い。また統計上未定・他となっている者も、作家活動等を目指して制作等を続けている者が多く含まれていると考えられる。

また、資料 2-20「卒業・修了生アンケート:現在の職業」や別添資料 2-① ( $P.2-32\sim 2-36$ ) のとおり、修了後も多くが在学中で得た学業の成果をもとにした作家活動や専門企業で就労をしていることに加え、個展の実施やコンクール等へ参加し、数々の賞を受賞して高い評価を得ている。さらには、別添資料 2-② ( $P.2-38\sim 2-39$ ) に例を示したとおり、新聞等でその活動が数多く紹介されており、本学での得た専門性を活かした活動を行っている者が多いことが分かる。

さらに、芸術文化振興に関心のある法人・団体組織から「芸術系大学への期待に関する調査」を実施したところ、教育面に関しては、世界レベルで活躍する芸術家(画家、彫刻家、工芸家、作曲家、演奏家、舞踊家、指揮者等の表現者など)の養成や芸術文化振興の担い手となる芸術家の養成に関する期待が高いことが分かり、前記の創作活動・制作発表や受賞歴等から数多くの芸術家活動・文化活動を行っている本学卒業生への期待も必然的に高いといえる。

資料 2-18 平成 28 年3月修了者の進路状況(H28.5.1 までに判明した分) ■修士課程

	太 業	就職					未定•				
区分	卒業 者	教職	企業 等	非常 勤	自営	大学院 (本学)	学部等 (本学)	他大学等 (国内)	海外 留学	未定・他	
日本画	14		3	1		3				7	
油画	36		6	2	5	3			1	19	
彫刻	19		2	1		1				15	
工芸	29		9	5	3	3				9	
デザイン	36		12	4	2	2				16	
建築	17		6		2					9	
先端芸術 表現	24	1	7		3	1				12	
芸術学	21	1	4	1		4				11	
文 化 財 保 存学	20		2	5		4				9	
計	216	2	51	19	15	21			1	107	

## ■博士後期課程

	卒業 就職					未定・					
区分	者	教職	企業 等	非常勤	自営	大学院 (本学)	学部等 (本学)	他大学等 (国内)	海外 留学	他	
美術	24	3	1	4	4					12	
文 化 財 保存学	6		1	1	1					3	
計	30	3	2	5	5					15	

#### 資料 2-19 最近 3 年間の修了生の主な就職先企業名 (美術研究科分)

多摩美術大学, 潤徳女子高等学校, 東京藝術大学, 聖ヨゼフ学園中等高等学校, 横浜美術 大学、天王寺学館高校、埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園、秋田公立美術大学、名 古屋女子大学、白鵬女子高等学校、東北大学芸術学院、近畿大学、学習院女子大学、埼玉 美術学院、学校法人増田学園、跡見学園中学校高等学校、学校法人国際学園、アドテイス ト, スタージュエリー, エフ・ディ・シィ・プロダクツ, カッシーナ・イクスシー, モン ベル、俄、デサン、電通、日産自動車、東京藝術大学藝術情報センター、NHK、サンゲツ、 バンダイナムコスタジオ,シグマ,フジシール,精クリエイティブ,任天堂,三菱鉛筆, 三菱電機, Camp Design inc, スキーマ建築計画, 伊東豊雄建築設計事務所, 北川原温建 築都市研究所,久米設計,大林組,大成建設,NHKアート,Triumph,博報堂,あかり組, ヴァンジ彫刻庭園美術館,類設計室,墨仁堂,日本鉄鋼連盟,ニュートンプレス,ボディ ーワーク,歌舞伎座舞台,トロミアート,ミキモト,ディーエイチシー,光文書院,河淳 (KEYUCA), エース, GK グラフィックス, オリックス不動産, 電通テック, リクルートラ イフスタッフ, 花王, プラザマネジメント, サイバーエージェント, プレーリードッグ, 山本理顕設計工場、フィールドフォーデザインオフィス、乾久美子建築設計事務所、アマナホ ールディングス内 アキューブ,ディノス・セシール,三省堂書店,KADOKAWA,国立国会図書 館、公益財団法人芳泉文化財団、日本学術振興会、青木淳建築計画事務所、パラダイス・ カフェ,日本デザイナーセンター,中川政七商店,日建設計,HAGI STUDIO,(宗)代行寺, 名村大成堂,河合塾学園,国立印刷局,株式会社サンゲツ,株式会社ミクシィ,加藤建設, 株式会社アクト・デザインズ、株式会社ゲームスタジオ、株式会社オルタネイティブ、株 式会社イビサ,株式会社柏圭,グレープストーン,(株)スペース,八戸美術館,株式会社 俄,星野リゾート,ユカイ工学(株),東洋佐々木ガラス,株式会社コロプラ,日本放送協 会(NHK),株式会社ボーネルンド,株式会社イリア,高島屋スペースクリエイツ,東急 エージェンシー、株式会社任天堂、株式会社息吹工藝社、ノイズ、社会福祉法人安積愛育 会はじまりの美術館、ハウフルス、良品計画、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇 場), STUDI04℃, 松竹株式会社, 長谷川ホールディングス(株), 熊本県立美術館, (株)ク リテック工業, ヤマトロジスティックス株式会社, 株式会社坂田墨珠堂, 住友化学株式会 社,株式会社アートフロントギャラリー,株式会社丹青研究所,(株)日本入試センター, 日本 I C S 株式会社,株式会社河合楽器製作所,東京フィルハーモニー交響楽団,東京交 響楽団、竹山木管楽器製作所、公益財団法人新国立劇場運営財団、インテリジェントシス テムズ, (株) 日音, BankART1929, 三井不動産レジデンシャル株式会社

#### 資料 2-20 卒業・修了生アンケート:現在の職業

(複数回答可 単位%)

会社員,団体職員	高等専門学校)教員(大学,	門学校以外)	(教員を除く)	自営業主又は	家,演奏家など) 自由業(芸術家,作	・フリーター	学 生	主婦(夫)	その他	無回答
18.0	9.0	15.7	3.4	4.5	27.0	4.5	1.1	1.1	6.7	9.0

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

本研究科の修了生に対しては、企業からの求人件数が多く、また表現者等としてさらに高い水準を目指して創作を継続する者が数多く存在していること(資料 2-20 参照)は、本研究科の教育指導に対する修了生の高い評価を示していると考えられる。

また,受賞の状況(別添資料 2-①(P. 2-32~2-36)参照),新聞記事(別添資料 2-②(P. 2-38~2-39)参照)等に現れている社会の本研究科在学生・修了生への評価や関心の高さ等から見て,在学生,修了生,就職先,社会一般など各関係者からの期待に十分応えていると考えられる。

## Ⅲ 「質の向上度」の分析

美術研究科では、アトリエ等を基盤とした少人数精鋭教育を行い、従来から質の高い教育内容を保持してきたと考えている。一方、これまでの教育方法に加え、本中期計画期間内に以下のような新たな取り組みを開始し、さらなる質の向上が実現できたと判断している。

#### 国際化に関する取組 (分析項目 I:教育活動の状況)

平成 26 年度以降, 文部科学省「国立大学改革プラン」や「ミッション再定義」等を踏ま えた大学の機能強化として, 本学においては「グローバル展開」を大学改革・機能強化の 中核と位置づけ, 国際舞台で活躍できる芸術家育成等を加速度的に推進している。

その代表的な取組の一つとして、「観点 教育実施体制」(P. 2-3)及び「観点 教育内容・方法」(P. 2-10)で記載したとおり、平成 27 年 2 月 23 日に、本学とロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校及びシカゴ美術館附属美術大学の世界最高峰の 4 芸術大学による「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を締結した。これは、これまで培ってきた国際連携実績を飛躍的に発展させ、海外一線級のアーティストをユニットで誘致して指導体制の抜本的強化を図り、国境の枠を超えたグローバル人材育成プログラム「国際共同カリキュラム(将来的にはジョイント・ディグリー)」を実施することを目的としており、世界的に見ても初となる先駆的な取組である。具体的には、各連携機関において教員・学生がユニットを編成して国境を超えた相互交流・共同制作等を行うものであり、国内及び世界各国で開催される「国際芸術祭(ビエンナーレ・トリエンナーレ)」を舞台に、連携大学の教員、学生の多国籍ユニット編成・コラボレーションによる「共同制作プロジェクト」を各大学等の正規の教育課程に位置付けて実行することとしている。

本協定を受け、平成 27 年度双方で単位化する共同制作プロジェクトとして、各大学から教員・アシスタントスタッフ・学生からなるユニットを誘致するとともに、本学においても同様のチームを構成し、東京とパリ/ロンドン/シカゴを行き来しながら共同授業・制作・成果発表を行う「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実行した。

パリ国立高等美術学校とは、フランスの同校キャンパスにおける共同授業・共同制作・ 展示、日本の本学キャンパスにおける共同授業・共同制作を経て、新潟県で開催された国 際芸術祭である越後妻有トリエンナーレで成果発表を実施した。日仏の学生は、「私と自然」 をテーマに事前にリサーチワークを行い、お互いに英語を共通言語としてテーマを深く掘 り下げる様々な議論を重ね、二人一組がペアとなって衣装・音楽・振付を創作し、ショー トストーリーを構成したパフォーマンスを完成させた。なお、音楽に関しては東京藝術大 学音楽学部の学生と協働し、各ペアのコンセプトに基づき、事前に自然界から取材した音 がアレンジされ、自然と一体となった会場をより一層完成度の高い独創的で幻想的な世界 観に導いた。パフォーマンスには芸術祭プログラムの林間学校に参加した,東北および日 本各地から集まったこども約30名と香港の中高校生20名も出演し、こどもたちは林間学 校で本学の教員とワークショップを行い、その成果として歌と竹の演奏を舞台の上で披露 するなど,多様な参加者を巻き込んだ社会実践を複合的教育プログラムとして機能させた。 ロンドン芸術大学,シカゴ美術館附属美術大学との取組についても,両校における共同授 業として、特別講義、ワークショップ等を各国にて実施、香川県高松市特別名勝栗林公園 や被爆近代建築である広島市元日本銀行広島支店などにおいて成果発表を行った(資料  $2-21)_{0}$ 

また、当該プロジェクトを遂行するため、新たに「卓越教員」に係る就業規則やクロス・アポイントメント制度に関する規則を整備した。これにより、平成27年度においては、ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学から12名の教授等を卓越教員として採用(資料2-22)し、教育機能の活性化を行った。

資料 2-21 平成 27 年度 グローバルアート国際共同カリキュラム

No.	プロジェクトテーマ	連携大学	実施期間	本学 教員数	連携先 教員数	本学 学生数	連携先 学生数
1	「私と自然」	パリ国立高等美術 学校	H27.5.11∼ 8.8	9	4	16	10
2	「庭/ガーデン」	ロンドン芸術大学	H27.5.19∼ 10.27	12	6	7	5
3	「意識文化: フィールド実践」	シカゴ美術館附属	H27.5.1∼ H28.1.20	3	4	4	4







資料 2-22 平成 27 年度 卓越教員一覧

<u> </u>	「222 下队21千尺 手险软员	見	
No.	英字氏名	職名	所属機関
1	Jean-Luc Vilmouth	卓越教授	パリ国立高等美術学校
2	Clelia Zernik	卓越教授	パリ国立高等美術学校
3	Mao Tao	卓越助教	パリ国立高等美術学校
4	村上 華子	卓越助教	パリ国立高等美術学校
5	Graham Ellard	卓越教授	ロンドン芸術大学
6	Louisa Minkin	卓越准教授	ロンドン芸術大学
7	山田 健二	卓越助教	ロンドン芸術大学
8	藤岡 勇人	卓越助教	ロンドン芸術大学
9	Mary Jane Jacob	卓越教授	シカゴ美術館附属大学
10	Ernesto de la Vega Pujol	卓越准教授	シカゴ美術館附属大学
11	Kathrin Beatrice Zeller	卓越助教	シカゴ美術館附属大学
12	Erika Danielle Raberg	卓越助教	シカゴ美術館附属大学

さらに、グローバル人材育成を牽引するための先鋭的な教育研究組織として、新たに「グローバルアートプラクティス専攻」を設置することとし、教員配置や既存専攻の入学定員等を見直すとともに、必要な準備を行った。当専攻では、グローバルな視野をもち、とりわけ現代芸術分野において、実践的に社会と関係し、我が国独自の制作手法(ジャパンオリジナル)を強みにした新しい芸術の価値を創出し、発信することを推進できる人材の育成を目的としている。また、社会のニーズを踏まえた地域創生や世界の Social Art Practice の分野で世界を牽引できる芸術家の育成を目指すものである。

このように、国際化に向けた取組が組織的に行われたことにより、教育の質が大いに向上したといえる。

# 3. 音楽学部

I	音楽学部の教育目的と特徴・	•	•	•	•	•	3 - 2
Π	「教育の水準」の分析・判定	•	•	•	•	•	3 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	•	•	•	•	•	3 - 3
	分析項目Ⅱ 教育成果の状況	•	•	•	•	•	3 - 27
Ш	「質の向上度」の分析・・・・	•	•	•	•	•	3 - 31

#### I 音楽学部の教育目的と特徴

- 1 音楽学部は,音楽についての深い学識と高い技術を授け,音楽の各分野における創造, 表現,研究に必要な優れた能力を養い,社会的要請に応える人材の育成を目的としてい る。具体的には,優れた表現者(演奏家,作曲家,指揮者など)や,広く社会の文化発展 に寄与し核となる人材の養成を目指す。
- 2 本学部は, 文部省音楽取調掛(明治12年~20年)から東京音楽学校(明治20年~昭和24年)を経て東京芸術大学音楽学部(昭和24年~現在)に至る120年の歴史をもつ, 国立大学で唯一の音楽を専門とする学部である。

本学部においては、「国楽」の創成をめざした明治の創設期より、西洋音楽を取り入れその普及を図るとともに、我が国固有の音楽の継承と研究にも努めてきた。こうした 二つの音楽伝統を受け継ぎ時代に適した形に発展させていくことが、今日もなお芸術文 化関係者から本学部に求められている。

その一方で、近年、音楽の持つ文化的な意義のみならず経済的・社会的意義が広く認識されてきたこと、デジタル技術をはじめとする科学技術の進展により音楽芸術においても急速に新しい表現方法が展開されつつあることを視野に入れて、我が国の音楽文化の創造的な発展の道を主導的に切り開いていくことも、同時に本学部に期待されている。

3 本学部の教育においては、専門性を一層深めていくためにも、また関連する幅広い知識や言語に関する技能等を習得し、それぞれの専門に生かしていくためにも、演奏芸術センターや言語・音声トレーニングセンターといった学内共同教育研究施設との協力が不可欠である。

とりわけ演奏芸術センターは、教育成果の発表の場であり、新たな演奏芸術の創造・発信の拠点でもある奏楽堂の運営にあたるとともに、新たな舞台制作関連の授業科目などを開設することによって、本学部の教育内容をより充実したものとしている。さらに、各科が横断的・総合的に係ることのできるプロジェクトの発信や学生の主体的取組の推進などを通して、演奏芸術センターは、本学部独自の教育の構想・展開にとってなくてはならない存在となっている。

4 本学は、大学全体として、芸術により社会に貢献できる大学として活動することを重視しており、本学部においても、社会との接点を持った取組を推進している。

本学部における専門教育は、社会的にもきわめて高い評価を受けており、毎年全国各地より演奏等の依頼が数多く寄せられている。本学部はこれらを重要な教育の機会と位置づけ、学生たちの学習・研究の成果発表の場として活用している。また、本学部上野校地は、周辺に美術館、博物館、ホール等の文化施設が充実しており、いわば「文化発信地」に位置している。さらに、音楽環境創造科が展開している千住校地がある足立区も、文化芸術の振興によるまちづくりを推進している。これらの地域環境を活かし、地域に開かれた大学として活動展開することが本学部に求められている。

#### Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

#### 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

音楽学部の教育研究組織は、作曲科・声楽科・器楽科・指揮科・邦楽科・楽理科・音楽環境創造科の7科で構成されている。

本学部の教育研究組織は、専任教員の専門分野からみても分かるように、音楽の諸領域をカバーしていること、特に、邦楽に関する教育を専門的に行う「邦楽科」が1つの学科となっていること及び科学技術等の新展による新しい表現や音楽と物理的・社会的環境との関わりなどを扱う音楽環境創造科を設けていることが特徴となっている。(資料 3-1, 3-2 のとおり)

教員数は、資料3-2のとおりとなっている。本学部で、学外兼務教員の数が大きくなっているのは、専門実技並びに副科実技において、個人レッスンという指導方法をとる授業が中心となっているためであり、また、オーケストラ、オペラ、アンサンブルなどにおいて伴奏、実技等補助を行う者も必要であるためである。

また,本学部で行う教育研究を円滑に行えるようにするため,教育研究助手制度を整備 して,専任教員と協働して学科等の運営や教育研究にあたる者を配置している。

本学部の運営にかかる体制は、資料 3-3 のとおりである。このうち、主として教務委員会が本学部の教育内容、教育方法の改善に関する役割を担っている。例えば平成 27 年度からセメスター制を導入するに伴い、具体的な実施方法等を教務委員会において決定した。

また、従前より著名な音楽家・研究者を特別招聘教授に任用して集中的に指導を行っていた(年間6~7名)が、さらに平成27年度より国立大学機能強化事業の国際共同プロジェクトのユニット誘致として26名(計29回)の世界的な演奏家、研究者を招聘し、世界トップレベルの人材育成を目指す取組の強化を図っている。(資料3-5(P3-7)参照)

資料 3-1 音楽学部の教育研究組織※( )は入学定員。※教員数は資料 3-2 を参照

学科	専任教員の専門分野
作曲科 (15)	作曲,作曲理論
声楽科 (54)	声楽(ソプラノ,メゾソプラノ,アルト,テノール,バリトン)
器楽科 (98)	鍵盤楽器(ピアノ, オルガン), 弦管打楽器(ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ, コントラバス, フルート, クラリネット, オーボエ, トランペット, ホルン, トロンボーン, 打楽器), 古楽(古楽器, バロック声楽)
指揮科(2)	指揮
邦楽科 (25)	長唄三味線, 筝曲, 能楽, 邦楽囃子, 長唄, 日本舞踊
楽理科 (23)	音楽美学,西洋音楽史,日本・東洋音楽史,音楽教育,ソルフェージュ,応用音楽学,音楽文芸
音楽環境創造科(20)	音楽音響創造,芸術環境創造

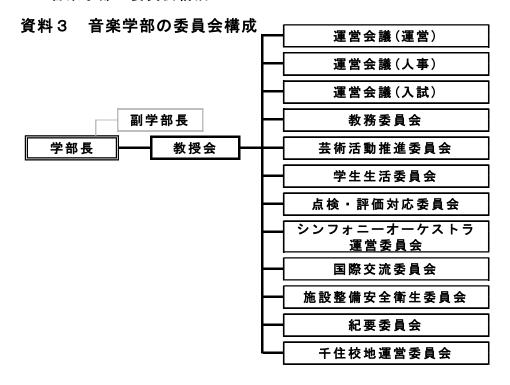
## (参考)学内共同教育研究施設※〈 〉は本務教員数

施設名	教員の専門分野
言語・音声トレーニング・センター〈7〉	英語, イタリア語, ドイツ語, フランス語
演奏芸術センター〈4〉	作曲,コンサート制作,指揮,ヴァイオリン,音楽音響学

資料 3-2 音楽学部教員数

	術 宅院	教員 配属学科			専任	教員数			学内	学	外兼務教	員	教育	
学系	領域	学科名	性別	教授	准教 授	講師	助教	合計	兼務教員	教員 からの 兼務	教員以 外から の兼務	合計	研究 助手	
		作曲科	男	3	2	0	0	5						
		1F m 17	女	0	0	0	0	0						
芸	音	声楽科	男	4	2	0	1	7						
芸術	音楽表	户未付	女	5	0	0	0	5						
表	表	器楽科	男	13	13	0	0	26						
現	現	111 >10 111	女	2	5	0	0	7						
現学系	領域	指揮科	男	2	0	0	1	3						
术	坝	311 377 11	女	0	0	0	0	0						
		邦楽科	男	3	3	0	0	6	9	44	434	478	66	
		714 214 11	女	0	2	0	0	2						
芸術	音楽	(A) THE 43	男	9	2	0	0	11						
理	理	楽理科	女	3	2	0	1	5						
論学系	論領	音楽環境	男	2	3	0	0	5						
系	域	創造科	女	1	0	0	0	1						
			男	36	25	0	2	63						
		н н	女	11	9	0	0	20						

資料3-3 音楽学部の委員会構成



本学部は、音楽の諸領域における実技教育が、専門教育の中心となっている。そのため、専門実技においては、教員と学生が 1 対 1 で行う個人レッスンや少人数のグループ指導が指導方法としてとられている。こうした指導方法を採っている授業科目においては、個々の学生の個性やスキルを勘案しながら、課題曲の決定や課題に応じた適切な指導方法などについて、教員と学生の間で適宜意見を交換して決定し、進めていくことになる。

また、各科(或いは楽器種等の別による)の教員会議において、実技指導の状況について教員相互のディスカッションを行うことにより、各科内の教育内容や教育方法を全体的に見直していくこととしている。こうした日常的な見直しを通して、認識された問題点を反映させて、教務委員会において本学部の教育課程表の見直し・改定を行っている。

#### (水準) 期待される水準にある

#### (判断理由)

本学部の基本的組織編成は、資料 3-1 及び資料 3-2 のとおりである。専任教員 1 人当たりの学生数は 12.7 人となっており、公私立の音楽大学と比較して特別少ない値ではないが、充分な数を確保している。また、専任教員とともに学生の教育にあたる兼務教員等が相当数配置されており、本学部の教育上の特色である個人レッスン等を十分に行えるように配慮している。(参考として資料 3-4:音楽学部・大学院音楽研究科教員一覧を参照願う。)

資料 3-4:音楽学部·大学院音楽研究科教員一覧 (平成 28 年 1 月現在)

	Ⅰ月現任/		_		
■作曲			ヴァイオリン	堀 正文	客員教授
	野平 一郎	教授		ヘルウ゛ィック・ツァック	招聘教授
	小鍛冶 邦隆	教授	ヴィオラ	川﨑 和憲	教授
	安良岡 章夫	教授	チェロ	河野 文昭	教授
	林 達也	准教授		中木 健二	准教授
	鈴木 純明	准教授	コントラバス	池松 宏	准教授
■声楽				吉田 秀	准教授
	寺谷 千枝子	教授	クラリネット	山本 正治	教授
	永井 和子	教授		伊藤 圭	特任准教授
	川上 茂	教授	フルート	高木 綾子	准教授
	佐々木 典子	教授	オーボエ	小畑 善昭	教授
	福島 明也	教授	サクソフォーン	須川 展也	招聘教授
	吉田 浩之	教授		MALTA	客員教授
	勝部太	教授	ファゴット	岡崎 耕治	客員教授
	平松 英子	教授	トランペット	栃本 浩規	准教授
	菅 英三子	教授	トロンボーン	古賀 慎治	准教授
	櫻田 亮	准教授	打楽器	藤本 隆文	准教授
	甲斐 栄次郎	准教授	室内楽	松原 勝也	教授
	直井 研二	助教		市坪 俊彦	准教授
	スティーフ゛ン・ローチ	招聘教授		日髙 剛	准教授
■器楽			古楽	野々下 由香里	教授
ピアノ	植田 克己	教授		大塚 直哉	准教授
	渡邊 健二	教授	■指揮		
	角野裕	教授		髙関 健	教授
	迫 昭嘉	教授		尾高 忠明	特別教授
	伊藤恵	教授		山下 一史	招聘教授
	東 誠三	准教授		酒井 敦	助教
	有森 博	准教授	■邦楽		
	青柳 晋	准教授	三味線	小島 直文	准教授
	江口 玲	准教授	長唄	味見 純	准教授
	坂井 千春	准教授	筝曲 (山田流)	萩岡 松韻	教授
オルガン	廣江 理枝	准教授	筝曲(生田流)	吉川 さとみ	准教授
ヴァイオリン	清水 髙師	教授	能楽 (観世流)	関根 知孝	教授
	澤和樹	教授	能楽(宝生流)	武田 孝史	教授
	漆原 朝子	准教授	邦楽囃子	盧慶順	准教授
	玉井 菜採	准教授	日本舞踊	露木 雅弥	准教授

# 東京芸術大学音楽学部

■音楽文化学				■演奏芸術センター	松下	功	
■ 目来文化子 音楽学	土田	英三郎	教授	■換祭云例以7	湯浅	卓雄	教授
日米子		光三郎 千佳子				泰	
	片山		教授				准教授
	大角	欣矢	教授		野口	千代光	准教授
	塚原	康子	教授		佐藤	美晴	特任准教授
	植村	幸生	教授		岩崎	真	助教
	福中	冬子	准教授		千住	明	客員教授
音楽教育	佐野	靖	教授		西川	信廣	客員教授
	山下	薫子	教授		林	英哲	客員教授
ソルフェーシ゛ュ	照屋	正樹	教授		安田	茂美	客員教授
	テシュネ	ローラン	准教授		米山	峰夫	客員教授
応用音楽学	枝川	明敬	教授				
	畑	爭一郎	教授	■早期教育プロ	宮本	文秀	特任准教授
音楽文芸	檜山	哲彦	教授	シ゛ェクトセンター	小山	文加	特任助教
	杉本	和寛	教授				
	大森	晋輔	准教授	■ 音楽創造·研	佐藤	文香	特任助教
	侘美	真理	准教授	究センター	高橋	智子	特任助教
■音楽環境創	西岡	龍彦	教授		中田	朱美	特任助教
造	熊倉	純子	教授		山岸	佳愛	特任助教
	亀川	徹	教授				
	市村	作知雄	准教授				
	毛利	嘉孝	准教授				
	丸井	淳史	准教授				
■言語・音声トレ	磯部	美和	講師				
ーニンク゛センター	シュタイン	,ミヒャエル	外国人教師				
	コリンス゛	, キム <b>,</b> ソノコ	助教				
	ウ゛ィエル	, エリック	助教				
	シ゛ェレヒ゛	ーニ,アレッサント゛ロ	助教				
	ククリンス	キ,ルーヘ゛ン	助教				
	平田	アンナ	特任講師				
				1			

# 資料 3-5 招聘教員 (平成 27 年度)

【卓	越教授】コアユニット				
	氏名		所属	期間	
1	オラフ・オット	管打	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.5.12~5.25 (14日間)	
2	ヴェンツエル・フックス	管打	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.7.2~7.17 (16日間)	
3	ニール・マッキー	声楽	英国王立音楽院教授	H27.7.2~7.12 (11日間)	
4	ティム・ジョーンズ	楽理	英国王立音楽院教授	H27.7.7~7.28 (22日間)	
5	クリスチャン・イヴァルディ	室内楽	パリ国立高等音楽院元教授	H27.10.19~10.31(13日間)	
6	ブルーノ・パスキエ	弦楽	パリ国立高等音楽院元教授	H27.10.19~11.8 (21日間)	
7	ローラン・ドガレイユ (第1回)	弦楽	パリ国立高等音楽院教授	H27.10.24~11.5 (13日間)	
8	ジャック・ルヴィエ	ピアノ	パリ国立高等音楽院元教授、 ベルリン芸術大学客員教授	H27.11.3~11.30 (28日間)	
9	アンドラーシュ・ケメネシュ	ピアノ	リスト音楽院教授	H27.11.9~12.1 (23日間)	
10	パスカル・モラゲス	管打	パリ国立高等音楽院教授	H27.11.16~11.22 (7日間)	
11	パスカル・ベルタン	声楽/古楽	パリ国立高等音楽院教授	H27.12.13~12.23(11日間)	
12	ミシェル・ベロフ	ピアノ	パリ国立高等音楽院教授	H28.1.4~1.8 (5日間)	
13	フィリップ・ミュレール	弦楽	パリ国立高等音楽院元教授	H28.1.12~1.24 (13日間)	
14	ローラン・ドガレイユ (第2回)	弦楽	パリ国立高等音楽院教授	H28.1.19~1.29 (11日間)	

# 【特別招聘教授】 エクステンションユニット

NO	氏名		所属	期間
1	ピエール・アモイヤル (第1回)	弦楽	ザルツブルグ・モーツアルテウム教授	H27.4.2~4.14 (13日間)
2	ステファーノ・マストランジェロ	声楽	サンタチェチーリア音楽院教授	①4.20~5.19 ②6.19~7.17 ③9.7~10.4 (年3回)
3	チャールズ・ジェンキンス	楽理	(無所属)	H27.6.2~6.4 (3日間)
4	ディーテルム・ヨナス (第1回)	管打	ドイツ・リューベック音楽大学教授	H27.7.2~7.17 (16日間)
5	ヴォルフガング・ヘントリック	弦楽	ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.7.6~7.7 (2日間)
6	ディーテルム・ヨナス (第2回)	管打	ドイツ・リューベック音楽大学教授	H27.10.5~10.17 (13日間)
7	セルジオ・アッツォリーニ	管打	スイス・バーゼル音楽大学教授	H27.10.6~10.19 (14日間)
8	ティリー・ミログリオ	作曲	ダリウス・ミヨー音楽院教授	H27.10.15~10.16 (2日間)
9	ドミニク・ウィラー	指揮	ギルドホール音楽院教授	H27.10.18~11.1 (14日間)
10	ニック・ペンドゥルバリー	弦楽	トリニティ音楽院教授	H27.10.20~10.24 (5日間)
11	ケルト・ヴァレンティン・テュルク	古楽	バーゼル音楽院教授	H27.11.2~12.1 (30日間)
12	アンドレス・セア・ガラン	オルガン	オルガニスト	H2712.14~18 (5日間)
13	ピエール・アモイヤル (第2回)	弦楽	ザルツブルグ・モーツアルテウム教授	H28.1.20~2.2(14日間)

# 【招聘教授(外国人)】

N	10	氏名		所属	期間		
	1	ヘルヴィック・ツァック	弦楽	ヴェルツブルグ音楽大学教授	H27.4.7~H28.1.31 (10ヶ月)		
	2	スティーブン・ローチ	声楽	元ローマ歌劇場	H27.10.1~H28.2.29 (5ヶ月)		

## 観点 教育内容・方法

#### (観点に係る状況)

本学部の授業科目は、履修の指定方法により必修科目、選択科目、自由科目に、授業の種別により専門科目、共通科目に区分される。専門科目は、各科(専攻)の専門教育の中心をなす授業科目で、履修が原則として当該科(専攻)の学生に限られる科目(専門実技科目、作曲科作曲理論関係科目、楽理科音楽学関係科目、音楽環境創造科プロジェクト科目、学内演奏、卒業作品、卒業演奏、卒業論文、卒業制作など)と複数の科(専攻)に係わる科目(オーケストラ、吹奏楽、室内楽など)に大別される。

共通科目は、科(専攻)に係わりなく、履修できる科目で、音楽に直接関係ある基礎知識や理論、技法、思考法を学ぶことにより、専門教育の糧となることを目的とする科目(ソルフェージュ、和声、副科実技)と専門教育を補い、芸術家、社会人、国際人に相応しい幅広い視野と豊かな教養の修得を目的とする科目(専門基礎科目、外国語科目、教養科目、保健体育科目)に大別される。

教育課程表は、各科(専攻及び楽器種)によって異なっているが、演奏系の各科(専攻)においては、各々が専門とする分野以外の分野の楽器等についても幅広く履修することが可能となっている。また、楽理科、音楽環境創造科においても演奏実技を課しており、理論だけでなく、基礎的な実技を修得することとしている。

(資料 3-6:音楽学部卒業要件単位数,資料 3-7:音楽学部 教育課程(カリキュラム) 修得単位年次表,資料 3-8:音楽学部 シラバス記載例 参照)

資料 3-6:音楽学部卒業要件単位数

		自来子即午来安计	専門を	科目	共通	科目	合計
科	斗・専攻		必修 科目	選択科目	教養 科目	外国語 科目	単位数
作由	<u> </u>		70	30	16	8	124
声》	Ř.		64	28	16	16	124
	ピア	)	92	8	16	8	124
	オル	ガン	86	14	16	8	124
器	弦楽		90	10	16	8	124
楽	管	Sx. Euph 専修以外	88	12	16	8	124
	打楽	Sx. Euph	72	28	16	8	124
	古楽		84	14	16	10	124
指指	<b></b>		90	10	16	8	124
	三味	線音楽	88	12	16	8	124
	邦楽	雜子	88	12	16	8	124
	日本統	舞踊	80	20	16	8	124
邦	筝	山田流	88	12	16	8	124
楽	曲	生田流	90	10	16	8	124
*	尺八		72	28	16	8	124
	能楽		90	10	16	8	124
	能楽	雜子	86	14	16	8	124
	雅楽		68	32	16	8	124
楽耳	里		62	24	24	14	124
音導	終環境:	創造	52	48	$12 \sim 16$	8 <b>∼</b> 12	124

資料 3-7 音楽学部 教育課程(カリキュラム)修得単位年次表

例 1: 平成 27 年度 器楽科(弦楽)

	173 .	, , ,,,, _ ,	年及 命未符(5		<b>手</b> 次	2 年	<b>三次</b>	3 年	<b>下</b> 次	4 年	三次	修	得単位	五数
区	分	授業科目		前	後	前	後	前	後	前	後	小	中	合
			期別	期	期	期	期	期	期	期	期	計	計	計
		専	門実技	4	4	4	4	4	4	4	4	32		
		学	内演奏		•			4	2			2		
		卒	業演奏							4	1	4		
		副科	·ピアノI	1	1							2		
	必	西洋	羊音楽史		4	1						4		
	修	和	声初級	4	4							4	90	
	科	和	声中級			4	1					4	90	
	目	弦楽	合奏(注 1)	4	4							4		
		オー	・ケストラ			4	4	4	4	4	4	24		
専		室内オーケストラ(注 2)				4	4	4	7	4	7	24		
門		室	4	2					2					
科		ソルフ	エージュ A	2	2	2	2					8		
目		副科	・ピアノⅡ			1	1	1	1	1	1			124
		副科実	副科実技(ピア/以外)			4	2	4	2	2	2			
		ソルフ	エージュ B					2	2	2	2			
	選	和	声上級						4	1				
	択	室内	楽Ⅱ(注 3)					4	1			10	10	
	科	室内	楽Ⅲ(注 3)						4	1		10	10	
	目		楽 IV (注 3)			ı				4	1			
		室内楽(V	a 持ち替え)(注					4	2					
			3,4)					1		T				
		吹麦	<b>逐楽(注 5)</b>			2	2	2	2	2	2			
共		教養科目	一般教養科目 専門基礎科目				1	6				16	24	
科	目	外[	国語科目				8	3				8		

- (注1)ハープ専攻学生は、「弦楽合奏に変えて「吹奏楽」を履修すること。
- (注 2) 4 ページの「オーケストラ」を参照すること。
- (注3)5ページの「室内楽」を参照すること。
- (注 4)ヴァイオリン専攻学生は、2年時以降「室内楽(Va 持ち替え)」を履修することができる。
- (注 5)コントラバス専攻学生は、2年時以降「吹奏楽」を履修することができる。

資料 3-8 音楽学部 シラバス記載例

NOTE OF THE PROPERTY.						
講義名	学内演奏	(Va)				
開講責任部署	音楽学部	対象学生:音楽(学部)				
講義開講時期	通年	講義区分	専門科目 (器楽)			
基準単位数	2	時間	0.00			
校地	上野					
授業を行う教員	川崎 和憲					

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 川﨑 和憲	音楽学部
教授	河野 文昭	音楽学部
准教授	漆原 朝子	音楽学部

授業概要	習得した専門技術の総合的実習
授業計画・内容	3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。 本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。
テキスト・参考文献	各教員が個別に指定する
成績評価基準・課題・フィードバック	演奏の成績により評価する
学生へのメッセージ	内規の注意事項を参照すること
【英】授業概要	Comprehensive exercises of acquired skills

本学部では分析項目Iで既述のとおり、各学科・専攻における個別レッスンや少人数グループ指導の教育の特長を活かして、個々の学生の発展段階に応じた教育指導を行うなど本学部ならではのきめ細やかな教育を行っている。一方、座学が中心となる楽理的な教育では、コンピュータ、オーディオ機器やパワーポイント等情報機器の活用による情報時代に対応した教育を行っている。

共通科目については、音楽学部全体の視野から、毎年教務委員会で審議の上、開設科目を決定している。特に本学部においては、演奏や文献購読等をおこなうにあたり、外国語のスキルが必要不可欠であり、いずれの科(専攻)においても、外国語科目を重視し、卒業要件単位にも一定の割合を持っている。特に声楽、オペラなどの分野では、正しい外国語のリズムの把握、舞台語の発声、発音の訓練が重要である。また、将来海外留学を希望する学生が多いことから、会話等の外国語実用科目についてのニーズも高い。こうしたこ

とから、学内共同教育研究施設である言語・音声トレーニングセンターでの、ネイティブの教員を中心とした実用外国語科目や原典指導は、本学部の教育にとって重要である。同センターでは、幅広い言語種とレベルで外国語科目を開設しており、一定の範囲で本学部の卒業要件単位としても認めている。また、殆どの科目において、履修登録時にリスニングテストや面接試験でクラス分けを実施しており、各人のレベルにあった少人数教育が徹底されている。(資料 3-9 の〈言語・音声トレーニングセンターが提供する科目〉参照)このほか、美術学部で開設されている科目の一部についても本学部学生の履修を認めていることが、美術学部開設科目中、本学部で履修可能な科目〉参照)、お茶の水女子大学と単位互換制度を整えていることなど、学生の多様な興味に応えられる環境となっている。

近年,芸術の文化的側面だけでなく,社会的・経済的側面での価値への認識が広がり,全国の自治体等における,芸術経営に関する知識(アートイベント等のマネジメント能力あるいは知的財産に関する知識)をもった人材の需要が高まってきている。本学部では,そうしたニーズに対応するものとして音楽環境創造学科において授業開設している。

また、芸術経営・企画に関する基礎知識知識を持つことが卒業後に演奏家等として活動していくことを望む学生にとっても有用であるという考えから、教養科目において「アートマネジメント概論」、「著作権概論」などのアートマネジメントや知的財産に関する科目、演奏芸術センターが提供する舞台制作等に関する科目(資料 3-9 の〈演奏芸術センターが提供する科目〉参照)、社会と関わる音楽家としての自己のあり方を考える「音楽療法概論」等の科目を開設し、音楽について多様な観点を持つことのできる人材を育成している。

加えて、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育、いわゆるキャリア教育の実施について、教務委員会において検討を行い、平成23年度より学部1年生を対象に初年次教育とキャリア教育を目的とした科目「芸大生入門~大学生活とキャリアを考える~」を開講した。さらに、平成22年度より開講されている「音楽アウトリーチ」(学部・大学院共通)では、授業の一環として受講生たちが学外の機関(学校などの教育機関や病院などの福祉・医療施設等)において演奏や指導、ワークショップなどを展開している。演奏系の学生のみならず、作曲や理論系の学生にとっても貴重なキャリア支援の授業となっている。

平成26年度よりスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたことにより、国際舞台で活躍できる優れた芸術家の育成を目指し、本学部におけるグローバル事業をサポートするために特任准教授を2名採用し、海外からの招聘教員の対応、芸術国際交流協定の交渉、海外派遣事業及び留学サポート支援を行っている。また国際舞台で活動するに必要な外国語能力を養成するために英語能力試験(TOEFL, IELTS)の対策授業の開講、英語個人指導の時間枠拡大、留学希望学生を対象とした集中講座の開講等、語学力向上のプログラムの充実を図っている。

さらに学生の海外での芸術文化体験活動を促進する実践型教育プログラム「アーツスタディ・アブロードプログラム」を実施し、平成27年度においては5カ国へ44名の学生の派遣を行った。(資料3-10(P3-13)参照)

音楽学部では、先駆的な試みの展開として、卓越した才能を高度に発展させ、我が国はもとより世界的な音楽文化の振興に貢献する個性的・先駆的な人材を戦略的に育成するために、「飛び入学」制度と、それを起点とした人材育成プログラム「スペシャルソリストプログラム」(SSP: Special Soloist Program)を構築し、平成28年度より導入することとした。この先駆的なプログラムは、個人レッスンの倍増、留学等の優先的な提供、早期卒業を可能とする特別カリキュラムの編成などが特徴である。国際舞台で躍動する傑出した芸術家の育成は、国家戦略として取り組むべき喫緊の課題であり、国立大学である本学のミッションや機能強化等の観点からも重要である。

# 資料 3-9 他大学等開設科目

社会学	絵画創作概論	IMA 概論	
生物学	映像芸術論	アートプロジェクト運営論	
倫理学	音表現論	写真表現演習	
図学	身体言語論	複合表現演習	
色彩学	メディア概論	写真映像論	
環境と防災の科学	現代芸術概論	写真史	
社会基盤としての芸術		現代写真論	
〈言語・音声トレーニングセンターが提供する科目〉			
英語会話(中級)	独語会話(中級)	仏語会話(中級)	
英語会話(上級)	独語会話(上級)	実用フランス語(上級)	
実用英語(中級)	実用ドイツ語(中級)	フランス語 朗 読 法	
実用英語(上級)	実用ドイツ語(上級)	伊語会話(中級)	
英語作文(上級)	独語作文(中級)	実用イタリア語(上級)	
英語アカデミックスキル(上級)	ドイツ語歌詞演習(上級)	イタリア語 朗 読 法	
英語作文(演習)	ドイツ語朗読法		
実用英語(演習)			
英語アカデミックスキル(演習)			
英語個人指導 A~C			
〈演奏芸術センターが提供する科目〉			
AV メディア	劇場芸術論	サウンドレコーティング基礎演習	
アジアの伝統と現代	劇場技術論	障害とアーツ	
音楽を伝えるメディア	コンサート制作論	ホール音響概論	
〈社会連携センターが提供する科目〉			
パフォーミングアーツの世界			
〈芸術情報センターが提供する科目〉			
アーカイブ概論	芸術情報概論A	情報編集(WEB)	
インタラクティヴ・ミュージック I	芸術情報概論B	情報メディア学	
インタラクティヴ・ミュージック Ⅱ	芸術と情報	デジタル・サウンド演習	
映像演習 I 映画	コードとデザイン	ジェネラティブ・デザイン	
映像演習Ⅱ アニメーション	サウンド・デザイン概論		

	事業名称	代表教員	渡航先	滞在日程	渡航者
1	ホルン科専攻生による『47th International Hornsociety Symposium』 出演事業	日髙准教授 (室内楽)	アメリカ (ロサンゼ ルス)	平成 27 年 8 月 1 日~8 月 9 日	教員1名/学生11名
2	第 11 回日中音楽比較研究国際学術会議参加	植村教授 (楽理)	中国 (ウルムチ)	平成 27 年 9 月 5 日 ~ 9 月 11 日	教員 2名/学生 11名 /非常勤講師 3名
3	英国湖水地方音楽祭・講習会 参加	澤教授 (弦楽)	英国 (アン フルサイ ド)	平成 27 年 8 月 3 日~8 月 15 日	教員 1名/学生 10名
4	アントレプレヌール支援: 邦楽科におけるグローバル・ キャリア展開	檜山教授 (言語芸 術)	ロシア (モ スクワ)	平成 27 年 9 月 23 日 ~ 9 月 28 日	教員 1名/学生 5名
5	芸術アニメーションの音楽制作(国際共同制作の新たな展開)	西岡教授 (音楽環境 創造)	台湾(台南)	平成 27 年 9 月 10 日~9 月 15 日	教員 1名/学生7名

資料 3-10 平成 27 年度アーツスタディ・アブロードプログラム (ASAP) 参加実績

本学部のカリキュラムは、分析項目 I で示した資料 3 - 7 (P. 3-9)のとおり、実技を中心としたものである。その基本は個人レッスンや少人数のグループ指導中心であるが、本科の教育だけでなく副科においても実技指導が行われ、専門分野以外の幅広い音楽に関する教育が行われている。(※副科開設科目は資料 3-11 のとおり。)

社会で活躍する国内外の音楽家・研究者を招聘した集中講義・特別講座を組み入れることにより、実践的な指導や現在の先端的分野の動向などを取り入れることができるような工夫をしている(資料 3-12 参照)。さらに、適宜行われるリサイタル、学内演奏会等(資料 3-13,3-14(P3-17~P3-18)参照)ではレッスン室では得られないいわゆる「生」の演奏会を通じた指導が行われ、その一部が公開されていることから、聴衆との相互交流といった得難い経験となっている。そのことが、学生の優れた演奏や学生同士の自主的な取り組みや競争を促すことに繋がっている。

このように、外部に開かれた教育指導を行うことにより社会からの評価も高くなっており、さらには、奏楽堂等を有効に活用した学生中心の演奏会を通して、学部在学中から社会と結びついた多面的な教育を展開している。具体的には、昭和 47 年(1972 年)から開始されたモーニング・コンサート(資料 3-15(P-19))は、学生と社会が出会う格好の場となっている。鑑賞者にとってもあわただしい朝の憩い(11 時開演)のひとときとなっている。また、平成 17 年(2005 年)より始められている「奏楽堂企画学内公募演奏会」は、学生たちの意欲を掻き立てるとともに、その独創的なプログラミングが社会的にも注目を集めている。

学習指導法のさらなる工夫としては、学生からの質問等への対応として、オフィスアワーを設定、メール・電話等による情報交換も随時行い、学生たちの研究・学習の支援に努めている。

資料 3-11:音楽学部副科実技(ピアノ以外)開設科目一覧

	科目		科目		科目		科目
声	独唱		フルート		長唄三味線		尺八 (琴古流)
楽	合唱		オーボエ		常磐津三味線		尺八 (都山流)
紐			クラリネット		清元三味線		能楽 (観世流)
盤	オルガン		ファゴット		長唄		能楽 (宝生流)
鍵盤楽器		管	サクソフォン		常磐津		能楽囃子 (小鼓)
拉		打楽	ホルン		清元		能楽囃子 (大鼓)
	# . / <del></del> !	器	トランペット		邦楽囃子 (小鼓)		能楽囃子 (太鼓)
弦	ヴァイオリン ヴィオラ チェロ ハープ		トロンボーン		邦楽囃子 (大鼓)		能楽囃子 (笛)
弦楽器			ユーフォニアム	邦	邦楽囃子 (太鼓)	邦	能楽狂言
器			チューバ	楽	邦楽囃子 (笛)	楽	日本舞踊
			打楽器		筝曲 (山田流)		雅楽
			チェンバロ		筝曲 (生田流)		
			フォルテピアノ				
			ハ゛ロックハ゛イオリン				
11-	指揮法	古	バロックチェロ				
指揮		楽	ウ゛ィオラ・タ゛・カ゛ンハ゛				
, <del>,</del>			バロックオーボエ				
			フラウト・トラウ゛ェルソ				

資料 3-12:平成 27 年度分 特別講座等

No.	対象	題目	講師氏名 (講師所属等)
1	楽理科及び全科	"Im wunderschönen Monat Mai." 175 Jahre Schumanns Dichterliebe op. 48 「シューマンの《詩人の恋》 の 175 年」	マティアス・ベント (デュッセルドルフのローベルト・シューマン研究所研究員)
2	器楽科	ギュンター・ヘーグナー氏による 特別講座	ギュンター・ヘーグナー (元ウィーンフィル首 席ホルン奏者)
3	管打楽専攻	総合ゼミナール『音楽大学生のた めの就職入門講座―楽理科卒業生 を迎えて―』	玉虫美香子(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京企画助成課)・畠山正成 (株式会社ビーマップ)
4	オルガン専攻	フランスのオルガン音楽	エリック・ルブラン (オルガニスト)
5	弦楽専攻	フェデリーコ・アゴスティーニ ヴァイオリンマスタークラス	フェデリーコ・アゴスティーニ (ヴァイオリン 奏者)
6	楽理科及び全科	ネパールのサーランギ: その様 式と文化	バラト・ネパリ (カトマンズ大学芸術学部音楽 科客員教授、サーランギ奏者)
7	管打楽専攻	クラリネット特別講座	パスカル・モラゲス(パリ国立高等音楽院教授、 パリ管弦楽団第1ソロクラリネット奏者)
8	管打楽専攻	フルート特別講座	サラ・ルヴィオン (フルート奏者)
9	楽理科及び全科	琴律研究の師・沈知白先生を語る	陳 応時(上海音楽学院音楽学教授、中国音楽 史学会・中国学律学学会顧問)
10	音楽環境創造科、 音楽音響創造の大	"Composing electronic music from environmental sounds" 「環境	カルロ・フォルリヴェジ (イタリア国立ロディ 音楽院教授)

	学院生	音からの電子音楽」	
11	作曲科、楽理科	サーリアホ・レクチャーコンサート (フルート:窪田恵美 コンピュータ技術:折笠敏之)	カイア・サーリアホ (フィンランド学派として知られる女流作曲家)
12	声楽科・オペラ専 攻の大学院生	ジュゼッペ・サッバティーニ氏特別講座	ジュゼッペ・サッバティーニ(テノール歌手)
13	全学生	三味線音楽・江戸風俗と長唄	池田弘一 (神田外語大学教授)
14	管打楽専攻	J. ボクン クラリネット特別講座 (YAMAHA 寄附講座)	Jan Jakub Bokun (ポーランドのクラリネット奏者、指揮者)
15	弦楽専攻	アントニオ・メネセス特別講座 チェロ マスタークラス	アントニオ・メネセス (チェロ奏者)
16	全学生	グローバル市場で活躍できる音楽 家になるためのキャリア形成法 Part1,2	チェズ・ジェンキンス (ユニバーサル・ミュー ジック・インターナショナルのバイスプレジデ ント)
17	管打楽専攻	コントラファゴット特別講座	ビョルン・グロート (リューベック音楽大学コントラファゴット講師)
18	弦楽専攻・室内学 専攻	ライプツィヒ弦楽四重奏団特別講 座	ライプツィヒ弦楽四重奏団
19	作曲科・楽理科	湯浅讓二、自作を語る	湯浅讓二 (作曲家)
20	音楽環境創造科、 音楽音響創造の大 学院生	Composing with sounds and images	ヤルサロー・カプチンスキー (作曲科・ピアニスト)
21	全学生	海を越えた太鼓――アメリカにお ける太鼓の発展とスタンフォード 大学における取組み	ステファン・サノ (スタンフォード大学教授、 同大学太鼓顧問、スラック・キー・ギター奏者)
22	全学生	レオニード・アニシモフ特別講座 「インスピレーションへの道」	レオニード・アニシモフ (ウラジオストク室内 ドラマ劇場芸術監督、俳優、ワシントン大学大 学院客員教授)
23	管打楽専攻	トロンボーン特別講座	ミシェル・ベッケ(リヨン国立高等音楽院教授、 ローザンヌ高等音楽院教授)
24	管打楽専攻	クラリネット特別講座	ファブリツィオ・メローニ (ミラノ・スカラ座 管弦楽団首席クラリネット奏者)
25	弦楽専攻	チェロ特別講座マスタークラス	石坂 団十郎 (チェロ奏者)
26	楽理科及び全科	日系アメリカ人の戦争記憶と日本 芸能:ドキュメンタリー映画《隠 れた遺産》を語る	シャーリー・ムラモト(日系3世。生田流筑紫会大師範)、タカヨ・フィッシャー(日系2世。女優、声優、歌手)
27	全学生	ミハイル・カニュカ氏特別講座	ミハイル・カニュカ (プラジャーク・クヮルテットチェロ奏者)
28	管打楽専攻	オラフ・オット トロンボーン特 別講座	オラフ・オット (ベルリンフィルハーモニー管 弦楽団首席トロンボーン奏者)
29	声楽科・古楽専攻	ニール・マッキー教授特別講座 ①声楽(英米歌曲演奏) ②古楽(ヘンデル、パーセルの声 楽曲について)	ニール・マッキー(英国王立音楽院教授)
30	全学生	モーツァルト晩年の断片を補完する一二つの弦楽五重奏断片(1787	ティモシー・ジョーンズ (王立音楽院副院長)

		年)を中心に	
31	オルガン専攻	ポジティフオルガン調律実習	マチュー・ガルニエ(オルガン製作家)
- 01	7 / 7 V 4 V		ジャン=マリ・ヘイセン(ポリフェミニア・イ
32	音楽環境創造科	クラシック音楽の録音手法の理論	ンターナショナルのレコーディングエンジニ
02	a or or or or or or	と実践	ア、ディレクター)
		現代邦楽の夕べⅡ ~作品と鼎談	中島 靖子(筝曲生田流 正派邦楽会理事長、
33	全学生	~	正派家元、演奏家・作曲家)
		バストロンボーン・オーケストラ	ポール・ミルナー(現ロンドン交響楽団首席バ
34	管打楽専攻	スタディ講座	ストロンボーン奏者)
			モーリス・ブルグ(パリ管弦楽団ソロ・オーボ
35	管打楽専攻	オーボエ特別講座	工奏者、指揮者)
36	管打楽専攻	トランペット特別講座	パシ・ピリネン(トランペット奏者)
		ヴァルター・ファン・ハウヴェ	ヴァルター・ファン・ハウヴェ(リコーダー奏
37	古楽専攻	リコーダー特別講座	者、アムステルダム音楽院教育学部長)
	the other state of the state of	ライナー・ホフマン氏 ドイツ歌	
38	声楽科大学院生	曲講座	ライナー・ホフマン (声楽伴奏者)
0.0	^ \times 4.	クリスチャン・イヴァルディ氏	クリスチャン・イヴァルディ(パリ・エコール・
39	全学生	室内楽特別講座	ノルマル音楽院教育顧問)
40	作曲科・打楽器専	ティリー・ミログリオ 現代打楽	ティリー・ミログリオ (打楽器奏者)
40	攻	器作品によるワークショップ	ノイソー・ミログリオ (打米 命矣有)
41	ピアノ・管打楽専	イザベル・カンピオン特別講座<	イザベル・カンピオン (運動療法士、アマチュ
41	攻	音楽家のための運動療法>	アチェリスト)
42	全学生	シューベルト音楽の「情動」を分	Micheal Spitzer (リヴァプール大学教授)
12	T 1 T	析する	michael opicaci (////////////////////////////////////
43	楽理科・音楽学専	  トゥバ共和国の音楽文化	ヴァレンティナ・スズケイ(トゥバ共和国功労
	攻大学院生	,	研究者)
44	弦楽専攻	ジャック・リーベック ヴァイオ	ジャック・リーベック(英国王立音楽院、ヴァ
		リン特別講座	イオリニスト)
45	全学生	ピアノ・マスタークラス	ジャン=クロード・ペヌティエ(ピアニスト)
	A 350 st	ダルトン・ボールドウィン フラ	ダルトン・ボールドウィン (プリンストン大学
46	全学生	ンス歌曲特別講座	客員教授、オーバリン音楽院名誉教授、ジュリ
		28 18 40 15 20	アード音楽院客員教授)
47	全学生	ジャック・ルヴィエ教授 ピアノ	ジャック・ルヴィエ (モーツァルテウム音楽大
4.0	然红沙声孔	マスタークラス	学教授)
48	管打楽専攻	サクソフォーン特別講座	ケネス・ツェ (アイオワ大学教授)
49	ピアノ専攻	アンドラーシュ・ケメネシュ教授	アンドラーシュ・ケメネシュ (ピアニスト)
		ピアノ・マスタークラス 現代筝曲の軌跡-演奏家の視点か	野坂 操壽(桐朋学園芸術短期大学教授、筝曲
50	邦楽科	現代争曲の軌跡――――――――――――――――――――――――――――――――――――	野坂 操壽(桐朋学園芸術短期大学教授、筝曲家)、沢井 一恵(筝曲家)
		17世紀イタリアの歌唱装飾につい	家 ( 、
51	声楽科・古学専攻	て〜カッチーニとベルンハルトを	ゲルト・テュルク (バーゼル・スコラ・カン
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	中心に~	トールム教授)
52	作曲科・楽理科	松平頼暁 自作について	松平頼暁(立教大学教授、作曲家)
	.,		薦田 治子(武蔵野音楽大学教授、日本音楽研
53	邦楽科	「平家」から見た日本音楽の歴史	究家、元本学非常勤講師)
	the total or to		杉山 康人(クリーヴラウンド管弦楽団首席テ
54	管打楽専攻	杉山 康人 テューバ特別講座	ューバ奏者)
	1	J.	1

55	全学生	奈良ゆみ、ジェイ・ゴットリーブ 現代歌曲を語る (レクチャー・コ ンサート)	奈良ゆみ (ソプラノ歌手)、ジェイ・ゴットリ ーブ (ピアニスト)
56	全学生	ドビュッシー・ラヴェル・20世 紀のピアノ音楽	ミッシェル・ベロフ (ピアニスト)
57	管打楽専攻	即興演奏特別講座	マルク・ビラノバ (新進気鋭のサクソフォーン 奏者)
58	声楽科	ザ・キングス・シンガーズ特別講 座	ジョナサン・ハワード、ジュリアン・グレゴリ ー (声楽グループ)
59	オルガン科	オルガン マスタークラス	ヴォルフガング・リュプサム (オルガニスト、 作曲家)
60	全学生	ライナー・ホーネック特別講座	ライナー・ホーネック (ウィーン・フィルハー モニー管弦楽団のコンサートマスター)

# 資料 3-13:平成 27 年度 音楽学部公開試験等演奏会一覧

No.	演奏会名	会場	開催日	曜日	開演時間
1	学内演奏会(古楽)	第6ホール	H27. 5. 13	水	11:00
2	学内演奏会 (オルガン)	奏楽堂	H27.5.11	月	13:30
3	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H27.5.8	金	13:45
4	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H27.5.15	金	13:30
5	学内演奏会(管打楽)	奏楽堂	H27.5.18	月	13:30
6	学内演奏会 (ピアノ)	奏楽堂	H27.5.14	木	13:30
7	学内演奏会 (ピアノ)	奏楽堂	H27.5.20	水	13:30
8	学内演奏会 (ピアノ)	奏楽堂	H27.5.26	火	13:30
9	学内演奏会 (ピアノ)	奏楽堂	H27.6.16	火	13:30
10	学内演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H27.6.19	金	13:30
11	学内演奏会 (声楽)	奏楽堂	H27.10.13	火	14:00
12	学内演奏会 (声楽)	奏楽堂	H27.10.14	水	14:00
13	学内演奏会 (声楽)	奏楽堂	H27.10.15	木	14:00
14	学内演奏会 (声楽)	奏楽堂	H27.10.16	金	14:00
15	学内演奏会(筝曲、尺八)	奏楽堂	H27.10.19	月	11:00
16	学内演奏会(三味線音楽・日本舞踊・雅楽)	奏楽堂	H27.10.20	火	11:00
17	学内演奏会(能楽)	第 4 ホール	H27.10.21	水	14:00
18	学内演奏会(指揮)	奏楽堂	H27.10.22	木	11:00
19	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H27.11.4	水	13:00
20	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H27.11.5	木	13:00
21	学内演奏会(弦楽)	奏楽堂	H27.11.6	金	13:00
22	学内演奏会 (作曲)	奏楽堂	H27.11.24	火	14:00
23	学内演奏会 (作曲)	奏楽堂	H27.11.27	金	14:00
24	学内演奏会(楽理)	第6ホール	H27.12.8	火	13:00
25	卒業演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H27.12.7	月	10:00
26	卒業演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H27.12.8	火	10:00
27	卒業演奏会(ピアノ)	奏楽堂	H27.12.9	水	10:00
28	卒業演奏会 (管打楽)	奏楽堂	H27.12.14	月	10:30
29	卒業演奏会 (管打楽)	奏楽堂	H27.12.15	火	10:30
30	卒業演奏会 (弦楽)	奏楽堂	H28.1.5	火	9:30
31	卒業演奏会(弦楽)	奏楽堂	H28.1.6	水	9:30
32	卒業演奏会(古楽)	第6ホール	H28.1.6	水	11:00
33	卒業演奏会(尺八・筝曲)	奏楽堂	H28.1.7	木	11:00
34	卒業演奏会(オルガン)	奏楽堂	H28.1.8	金	13:30
35	卒業演奏会 (声楽)	奏楽堂	H28.1.12	火	10:00
36	卒業演奏会 (声楽)	奏楽堂	H28.1.13	水	10:00
37	卒業演奏会(能楽)	第4ホール	H28.1.13	水	14:00
38	卒業演奏会(指揮)	奏楽堂	H28.1.14	木	11:00

# 資料 3-14 平成 27 年度 音楽学部·音楽研究科教育成果発表例(公開試験以外)

N	演奏会名	会場	開催日	発表学生の	入場者
О				学科・専攻	数
1	同声会新人演奏会 第1部 (昼夜通し券)	奏楽堂	2015/4/11	音楽学部	476
2	同声会新人演奏会 第2部 (昼夜通し券)	奏楽堂	2015/4/11	音楽学部	590
3	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介 演奏会(藝大定期第362回)	奏楽堂	2015/4/17	音楽学部	910
4	管打楽器シリーズ 2015 「ベルリン・フィル首席トロンボーン奏者 オラフ・オットを迎えて」	奏楽堂	2015/5/22	管楽	719
5	第 52 回藝大学生オーケストラ (藝大定期 第 369 回)	奏楽堂	2015/5/28	学生オーケ ストラ	572
6	東京藝大チェンバーオーケストラ 第25 回定期演奏会	奏楽堂	2015/6/20	チェンバー オーケスト ラ	463
7	ベルリン・フィル首席クラリネット奏者 ヴェンツェル・フックスを迎えて	奏楽堂	2015/7/9	管楽	702
8	藝大 21 和楽の美 邦楽絵巻「ヒミコ」	奏楽堂	2015/9/11	邦楽	563
9	藝大オペラ定期 第61回 第1日	奏楽堂	2015/10/3~4	声楽	847
10	管打楽器シリーズ 2015 名手で聴くバロッ ク音楽「オール協奏曲プログラム」	奏楽堂	2015/10/17	管楽器	545
11	弦楽シリーズ 2015 フランスの名手たち 「フォーレとドビュッシー」	奏楽堂	2015/10/31	弦楽	731
12	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期 第 373 回)	奏楽堂	2015/11/21	声楽	974
13	藝大定期吹奏楽第81回	奏楽堂	2015/11/23	管打楽	1,072
14	ピアノシリーズ 2015 ブラームス室内楽の よろこび第4回	奏楽堂	2015/11/29	弦楽	718
15	邦楽定期演奏会第81回	奏楽堂	2015/12/2	邦楽	950
16	藝大定期室內楽 第41回 第1日	奏楽堂	2016/2/6~7	弦楽・管打楽	869
17	東京藝大チェンバーオーケストラ 第22 回定期演奏会	奏楽堂	2016/2/11	チェンバー オーケスト ラ	1,002

資料 3-15 平成 27 年度 モーニング・コンサ	·	ブ・コン+	モーニング	7 年度	平成 27	3-15	資 料
----------------------------	---	-------	-------	------	-------	------	-----

NO.	演	奏会	名	演奏者 (学部生)	年月日		入場者数
1	モーニング・	コンサート	、第1回	庄司 雄大(Hr)、大澤 愛衣子(Vn)	2015/4/30	木	759
2	モーニング・	コンサート	第2回	吉田 陽香(Fg)、佐藤 元洋(Pf)	2015/5/14	木	811
3	モーニング・	コンサート	、第3回	向井 航(作曲)、奥村 志緒美(Pf)	2015/5/21	木	469
4	モーニング・	コンサート	第4回	山下 純平 (Trb) 、岸本 萌乃加 (Vn)	2015/5/28	木	636
5	モーニング・	コンサート	第5回	小宮 知久(作曲)、鈴木 鞠奈 (Pf)	2015/6/18	木	504
6	モーニング・	コンサート	第6回	大西 幸生 (Ob) 、三雲 はるな (Vn)	2015/6/25	木	600
7	モーニング・	コンサート	第7回	石坂 真帆 (作曲) 、高倉 圭吾 (Pf)	2015/7/2	木	855
8	モーニング・	コンサート	第8回	沖田 瑠璃子 (作曲) 、坪井 夏美 (Vn)	2015/7/9	木	586
9	モーニング・	コンサート	第9回	松原 みなみ (Sop) 、稲本 有彩 (Vc)	2015/7/23	木	619
10	モーニング・	コンサート	第10回	紀野 洋孝(Ten)、木村 理佐(Org)	2015/9/9	水	421
11	モーニング・	コンサート	第11回	金井 麻理 (Per) 、柴垣 健一 (Pf)	2015/11/12	木	753
12	モーニング・	コンサート	·第12回	細川 愛梨 (F1) 、齋藤 澪緒 (Vn)	2015/11/26	木	801
13	モーニング・	コンサート	第13回	荒木 奏美 (Ob) 、リード 希亜奈 (Pf)	2016/2/18	木	1,033
						合計	8,847

本学部は、実技教育を中心とした学部であるため、レッスン室、練習室、合奏室など(次頁、資料 3-16 参照)の教育指導・練習の場について、授業時間外の使用を認めている。そのため、学生は、講義科目を履修していない空き時間や授業時間外もレッスン室等で練習や復習等に自由に行っている。また、種々の楽器等の貸し出しを行うことにより、学生の幅広い主体的な学習に寄与している。(次頁、資料 3-17 参照)

さらに、施設の有効な利用のほか、定期演奏会等の出演にオーディションを課したり、優秀な学生に対する各種の顕彰制度を設けたりしている(資料 3-18 (P. 3-20)参照)。特に学部教育における優秀者に対しては、全卒業生の中から「安宅賞」「アカンサス音楽賞」「同声会賞」を授与し、今後の音楽活動の励みとなすほか、専攻分野別に各種賞を授与している。このような受賞者はその後コンクールでの優勝や他の賞を多く受賞するなど卒業後の音楽家としてのキャリア形成に一定の成果が認められる。さらに、学外からの依頼演奏を積極的に受諾することによりレベルの向上を図っている(資料 3-19 (P. 3-20~3-24)参照)が、それは学部生の内から社会との連携を学ぶ絶好の機会となっている。こうした演奏会のオーディションや各種コンクールに学生が主体的に参加できるよう、開催情報等を学内に広報するなどして、キャリア形成を促す方策をとっている。

資料 3-16 レッスン室,練習室等の数

種類	室数	面積
レッスン室	107	3,548
練習室	128	2,549
合奏室	10	710
院生室, ゼミ室等	29	1,058
ホール	7	1,879
奏楽堂	1	6,540

※講義室、教員室等は含まない。※奏楽堂の面積には楽屋や機械室等も含む。

資料 3-17 貸出用楽器一覧

種類	数量	種類	数量	種類	数量
ヴァイオリン	40	チューバ	17	地歌三絃(生田流)	48
ヴィオラ	36	ワーグナーチューバ	8	清元・常磐津三味線	13
チェロ	32	ホルン	40	三味線(長唄)	117
コントラバス	27	トロンボーン	36	胡弓(生田流)	9
ハープ	11	スーザーホーン	0	能管	23
弦楽用弓	141	リコーダー	44	笙	2
ヴィオラダガンバ	13	オーボエダカッチャ	2	篳篥	6
ヴィオラダモーレ	1	フラウトトラベルソ	13	龍笛	9
リュート	2	オーボエダモーレ	10	神楽笛	2
ギター	5	バグパイプ	1	高麗笛	5
ピッコロ	7	バロックオーボエ	7	尺八	28
フルート	29	クラムホルン	5	囃楽器	17
オーボエ	16	バロックランケット	1	大太鼓	2
コールアングレ	10	バセットホーン	4	ガムラン	138
クラリネット	62	金管古楽器	9	ガムラン用影絵人形	41
バスクラリネット	11	フリューゲルホルン	3	印度楽器	25
ファゴット	9	ポストホルン	2	カヤグム	11
コントラファゴット	5	ハンドベル	3	中国楽器	30
サクソフォーン	39	ヘッケルフォーン	1		
コルネット	20	ポストホルン	2		
トランペット	64	筝 (山田流)	61		
アルトホーン	6	十七絃(山田流)	2		
バリトンホーン	6	三絃(山田流)	23		
コントラバスクラ	5	筝 (生田流)	73		
バセットホーン	4	十七絃(生田流)	5		

資料 3-18 音楽学部・音楽研究科の顕彰制度一覧

貝科	13-18 百架字部「百架研	九件の蝦杉前及一見
No	奨学金等名	対象学科・専攻
1	安宅賞	全学科・専攻
2	浄観賞	邦楽
3	宮城賞	邦楽
4	常英賞	邦楽
5	長谷川賞	作曲
6	中能島賞	邦楽
7	松田トシ賞	声楽
8	クロイツァー記念音楽賞	器楽(ピアノ)
9	アドリアネ・ムジカ賞	器楽(ピアノ)
10	大賀典雄賞	声楽、器楽(ピアノ)
11	武藤舞奨学金	声楽、音楽環境創造
12	藝大クラウディア賞・大賞	器楽(ピアノ)
13	宗次德二特待奨学生	声楽、器楽(ピアノ、弦楽、管打楽)
14	卒業・修了作品買上	作曲
15	アカンサス音楽賞	全学科・専攻
16	同声会賞	全学科・専攻

資料 3-19: 演奏依頼一覧 (平成 27 年度)

貝什	3-13	<b>澳</b> 关	<b>以积</b>	一頁(平成2/平度)			
No.	月	目	曜日	演 奏 会 名	内 容	会 場	主催
1	4 月	2 目	木	平成27年度東京工業大学学部入学記念	ピアノ	東京工業大	東京工業大
	1 /1	2 H	714	ピアノ演奏会		学	学
2	4 月	17 日		ベーゼンドルファーランチタイムコンサ	ピアノ	中野坂上^゙	ベーゼンド
	~	~		ート (毎月1回、全12回)		ーセ゛ント゛ルファー	ルファー東
	3 月	18 目				ショールーム	京
3	4 月	22 日	水	フェルメール絵画に描かれた 17 世紀オラ	チェンバロ	東洋文庫ミ	(公財) 東
				ンダ古楽器の説明と実演※15回開催予定	等	ュージアム	洋文庫
4	4 月	23 目	木	木曜コンサート	ピアノ	台東区ミレ	(公財) 台
	~	~		※毎月1回 専攻毎に開催		ニアムホー	東区芸術文
	3月	17 日			No di T	ル	化財団
5	4 月	23 日	木	【受託演奏】2015日本国際賞授賞式式	学生オーケ	国立劇場大	(財)国際科
- C			مار	典及び祝宴における演奏	ストラ他	劇場他	学技術財団
6	5月	5 日	火	第 8 5 回読売新聞社新人演奏会 	声楽・ピア	東京文化会館大ホール	読売新聞社
	5 月	6 目	水		管打楽	馬 人 ホール	
7	5 月	18 目	月	京都・国際音楽学生フェスティバル201	Vn, Cb	京都府立府	(公財) 1-
	,		,	$5 (5/18 \sim 5/28)$	, 11, 00	民ホールア	ム・ミューシ゛ック/
						ルティ	ファンテ゛ーション
8	5 月	27 日	金	第559回定期演奏会(トリフォニーシリ	合唱	すみだトリ	新日本フィ
				ーズ) (28日の二日公演)		フォニーホ	ルハーモニ
						ール	ー交響楽団
9	5 月	30 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	戸頭中学校	取手市
10	6 月	6 目	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代中学校	取手市
11	6 月	6 目	土	平成27年度 安曇野市内中学校への楽	管打楽器	市立穂高西	安曇野市教
				器演奏指導		中学校他	育委員会
12	6 月	6 目	土	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	クラリネッ	レクサス町	東京トヨペ
	~	~		※計 12 回開催 (各専攻)	ト四重奏他	田ほか	ット(株)
1.0	7月	25 日	1.	[ ] 生土的表现之产及之事类「吸表取长道」	<b>於 打 敢 即 :</b>	河川市兴林	(A) 本土 料 本
13	6月	13 目	土	伊達市吹奏楽きらめき事業「吹奏楽指導」 	管打楽器講 習、他	梁川中学校	伊達市教育     委員会
	6 月	14 日	目		自、呕		安貝云
14	6 月	20 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代南中学	取手市
15	6 月	20 目	土	ヤマハコンサート・シリーズ	ピアノ	ヤマハホー	(株)ヤマハ
	6 月	21 目	日			ル	
16	6 月	23 目	火	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサ	管楽カルテ	メトロ渋谷	メトロ文化
				ート in 渋谷第3回	ット	駅	財団
17	6 月	27 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	戸頭中学校	取手市
18	6 月	28 日	日	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	取手市第二	取手市
						中学校	
19	7 月	4 日	土	東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい	声楽、ピア	取手市戸頭	取手市文化
0.0			1	コンサート」	ノ、弦楽	公民館	芸術課
20	7月	8 目	水	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲート ミニコ	木管楽器	霞ヶ関コモ	文化庁・霞
				ンサート~木管楽器の世界~		ンゲート東	ケ関コモンケ゛ー

	1		1	T	1		
						館 2 階	卜管理組合
21	7 月	11 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	取手第一中	取手市
						学校他	
22	7 月	23 日	木	夏フェス 2015Touchi the Art Program 打	打楽器	ギャラクシ	あだち未来
				楽器 DE リズムあそび		ティ西新井	創造ネット
						文化ホール	ワーク
23	7 月	26 日	日	青淵文庫で聴くファミリーコンサート&	弦楽四重奏	渋沢史料館	渋沢史料館
				たてもののレクチャー			
24	7 月	29 日	水	【受託演奏】霞ヶ関ビルディングコンサー	管打楽器等	霞ヶ関ビル	三井不動産
				ト~JAZZ の夕べ~		ディング	(株)
25	7 月	29 日	水	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサ	金管五重奏	メトロ渋谷	メトロ文化
				ート in 渋谷第3回	他	駅	財団
26	7 月	30 日	木	【受託演奏】霞ヶ関ビルディングコンサー	声楽	霞ヶ関プラ	三井不動産
				ト~アカペラ四重唱の魅力~		ザホール	(株)
27	7 月	31 日	金	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲート ミニコ	サクソフォ	霞ヶ関コモ	文化庁・霞
				ンサート~サクソフォン四重奏の夕べ~	ン	ンゲート東	ヶ関コモンケー
			ļ ,			館2階	▶ 管理組合
28	8月	28 日	金	馬車道コンサート第1回	ピアノクイ	映像研究科	大学院映像
0.0	0 11	00 -	,		ンテット	馬車道校舎	研究科
29	8月	29 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代南中学	取手市
30	9月	19 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代中学校	取手市
31	9月	26 日	土	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導・三	管打楽器	取手第二中	取手市
				校合同)		学校	
32	9月	26 日	土	取手 JAZZ・DAYz ! 2 0 1 5	ビックバン	取手市民会	取手市
					ド	館大ホール	
33	9 月	26 日	土	伊達市吹奏楽きらめき事業「オータムスク	管打楽器講	国立磐梯青	伊達市教育
	9 月	27 日	日	ール」アンサンブルミニコンサート	習	少年交流の	委員会
	6 7	00 =	П	E + Y - > 1 - 1 M o F	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	家	[ . M. Fide at 16
34	9月	28 日	月	馬車道コンサート第2回	ピアノクイ	映像研究科	
0.5	10 🗆	1	-	<b>あてカーエクラデニが用めった。</b>	ンテット	馬車道校舎	研究科
35	10 月	1 日	木	取手ウエルネスプラザ開館記念コンサー	ピアノ、弦	ウエルネス プラザ 多	取手市
				F	楽四重奏、 金管五重奏	ノフザ 多     目的ホール	
36	10 月	3 日	+:	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導・三	金官五里矣 管打楽器	取手第一中	取手市
30	10 /7	υμ		校合同)	百刀木帥	以于另一中   学校	- 以丁川
37	10 月	6 日	火	東洋文庫創立91周年記念レセプション	弦楽四重奏	東洋文庫ミ	(公財) 東
		, [		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		ュージアム	洋文庫
38	10 月	10 日	土	「ながさき文化のちから」創生事業 青少	吹奏楽指導	福江文化会	長崎県文化
		·		年音楽セミナーin五島発表演奏会	等	館	観光国際部
							文化振興課
39	10 月	11 日	日	成田市オリジナル・オペラ	オペラ	成田市文化	成田市教育
						芸術センター	委員会
40	10 月	11 日	日	第34回東和住区祭における演奏	金管五重奏	東和地域学	東和住区セ
						習センター	ンター祭実
						体育館	行委員会
41	10 月	16 日	金	東京藝術大学表参道フレッシュコンサー	ピアノ	カワイ表参	カワイ音楽
				F		道「パウゼ」	振興会
				9 99			

42	10 月	17 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味	邦楽科教室	(公財) 台
					線、邦楽囃		東区芸術文
					子、長唄		化財団
43	10 月	18 目	日	第8回(公財) 加藤山崎教育基金贈呈式	管弦楽研究	日本学士院	(公財)加藤
					部(弦楽四		山崎教育基
					重奏)		金
44	10 月	24 日	土	邦楽フレッシュコンサート 2015	邦楽科学生	台東区ミレ	(公財) 台
						ニアムホー	東区芸術文
						ル	化財団
45	10 月	24 日	土	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサ	ピアノカル	メトロ渋谷	(公財)メ
				ート in 渋谷第3回	テットほか	駅13出口	トロ文化財
						付近	寸
46	10 月	25 日	日	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味	邦楽科教室	(公財) 台
					線、邦楽囃		東区芸術文
					子、長唄		化財団
47	10 月	25 日	日	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサ	ピアノクイ	メトロ渋谷	(公財) メ
				ート in 渋谷第4回	ンテットほ	駅13出口	トロ文化財
					か	付近	団
48	10 月	28 目	水	馬車道コンサート第3回	ピアノソロ	映像研究科	大学院映像
						馬車道校舎	研究科
						1 階	
49	10 月	31 目	土	第29回伊澤修二記念音楽祭	Saxカルテ	長野県伊那	伊那市
					ット、学生	文化会館ほ	
					オケ	か	
50	10 月	31 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味	邦楽科教室	(公財) 台
					線、邦楽囃		東区芸術文
					子(笛、小		化財団
					鼓)、長唄		
51	11 月	1 日	日	馬車道まつり トワイライトコンサート	ブラスアン	関内ホール	大学院映像
				「東京藝大ウィンドオーケストラ」	サンブル	大ホール	研究科
52	11 月	6 日	金	東京藝術大学表参道フレッシュコンサー	ピアノ	カワイ表参	カワイ音楽
				<b>F</b>		道「パウゼ」	振興会
53	11 月	7 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味	邦楽科教室	(公財) 台
					線、邦楽囃		東区芸術文
					子、長唄	.1	化財団
54	11 月	8 日	日	平成27年度 安曇野市内中学校への楽	管楽、弦楽、	安曇野市立	安曇野市教
				器演奏指導	ピアノ、ア	豊科北中学	育委員会
			_	****	ンサンブル	校工工公签二	/ // HI \
55	11 月	15 日	日	荒川第九演奏会 	ソリスト	南千住第二	(公財)荒
						中学校体育	川区芸術文
	11 -	17 "	J	E = Y - \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		館	化振興財団
56	11 月	17 日	火	馬車道コンサート第4回	室内楽	映像研究科	大学院映像
	11 🖽	01 17	.1.	【巫光冷本】小 1.7% **	h = 2 . h	馬車道校舎	研究科
57	11 月	21 日	土	【受託演奏】北とぴあ国際音楽祭 2015 藝	クラシック	北とぴあ	(公財) 北
				大とあそぼう in 北とぴあ	公演、企画	さくらホー	区文化振興
E O	10 □	11 □	<u> </u>	東京藝術大学表参道フレッシュコンサー	ピアノ	ルカワノ主名	財団 カワイ音楽
58	12 月	11 日	金			カワイ表参     道「パウゼ」	ガリイ音楽 振興会
				F		坦・ハソゼ]	1灰 央 云

59         12月         12月         12月         大会社院書きている。         対応のの厚い         学生オーケストラの字い         対応のの厚い         対応ののより         対応ののより         対応ののより         対応ののより         大流素を表している。         社職対応         対応のより         大流素を表している。         社職対応         対応のより         大流素を表している。         社職対応         対応のより         大流素を表している。         社職対応         対応のより         大流素を表している。         対応のより         大流素を表している。         対応のより         大流素を表している。         対応のより         対ののより		1	1			1	1	ı
12月   12日   上   【美光宸奏】 LEXUSコンサート in 東 オーカスト   英楽堂 東京トコで   東京・東京   東京	59	12 月	12 日	土	【受託演奏】どりーむコンサート Vol.94	学生オーケ	府中の森芸	公益財団法
12 月   12 日 土   【受軽高奪】 L E X U S コンサート in 頁   オーケスト   対象監   東京トコペット株式会社   12 月   13 日 日					オーケストラの扉Ⅳ	ストラ	術劇場	人府中文化
12 月   13 日 日   京都大学音楽学部生による「ふれあい 本質主要奏   福祉交流セ   取手市文化   京都   で   京都   大田   京都   大田   京都   大田   京都   大田   京都   大田   京都   京都   京都   京都   京都   京都   京都   京								振興財団
12月   19日	60	12 月	12 目	土	【受託演奏】LEXUSコンサート in 東	オーケスト	奏楽堂	東京トヨペ
12月 19日 土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい 本管玉重奏 福祉交譲セ 表析理		12月	13 ∃	В	京藝大2015	ラほか		ット株式会
12月   25   25   25   25   25   25   25								社
62   12 月   25 日   金   足立区東和住区センター「守盛クリスマス   Sax カルウ   投立区東和住区センター   中京インター   東京東海南   中京インター   東京東海南   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中京インター   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中京インター   東京東海直公   中方インター   中方インストラー   東京東海直公   中方インストラー   東京東海直公   中方インストラー   東京東海   中方インストラー   東京インター   中京インター   中方インストラー   東京東海   中方イントラー   東京東海   中方インストラー   東京東海   中方インストラー   東京東海   中方インストラー   東京インストラー   東京東海   中方インストラー   東京東海   中方インストラー   東京東海   東京市   東	61	12 月	19 日	土	東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい	木管五重奏	福祉交流セ	取手市文化
1					コンサート」		ンター	芸術課
1月 9日 土 フレッシュ名曲コンサート ニューイヤ	62	12 月	25 日	金	足立区東和住区センター「学童クリスマス	Sax カルテ	足立区東和	足立区東和
63					パーティー」	ット	住区センタ	住区センタ
ロンサート							一児童館	_
1月   15 日   京校生による「メサイア」全曲演奏会   戸薬ソリス   大のホール   神奈川県立   音楽堂   カワイ音楽   道「ハウゼ」   振風会   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	63	1月	9 日	土	フレッシュ名曲コンサート ニューイヤ	声楽	日暮里サニ	(公財) 荒
66					ーコンサート		ーホール	川区芸術文
1								化振興財団
66	64	1月	9 日	土	高校生による「メサイア」全曲演奏会	声楽ソリス	杜のホール	神奈川県立
66         1月         23日         土 伊達市吹奏楽きらめき事業第5回交流活         管打楽器講問         伊達市立継 使中学校 委員会           67         1月         24日         日         大学高級術大学コンサート         五重奏(弦楽・金管)         坂東市文化振興事業団           68         2月         5日         金東京藝術大学表参道フレッシュコンサービアノ カワイ表参 振興会         カワイ書楽振興会           69         2月         5日         金邦楽鑑賞教室         響音院初等 学習院初等 学習院初等 経正監 からい コンサート」 カワイ表参 振興会           70         2月         6日         土東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい コンサート」 クェルネス 東手市文化 芸術課         インフラザ 芸術課           71         2月         7日         日平成27年度 安曇野市内中学校への業 管打楽器 市立穂高西 内学校 育委員会 原来女学園 東東女学園 東東女学園 東東女学園 東東女学園 東東女学園 東京女学園 東京女学園 水 東京芸術劇 音楽大学 イバル 学校 インイスボール 学校 ステムティバル 原フェスティバル 原フェスティバル 原フェスティバル 原フェスティバル 東京本 イバル 東京本 大学 イバル 東京 大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 京子 大学 場別 会員会 (足)会員会 スティー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フ						F	はしもと	音楽堂
66         1月         23 日         土         伊達市吹奏楽きらめき事業第5回交流活         管打楽器講         伊達市立桃         伊達市立桃         伊達市教育         委員会           67         1月         31日         土         【受託演奏】東京藝術大学コンサート         五重奏(弦 坂東市民音 楽・金管) 楽ホール         坂東市民音 楽・金管) 楽ホール         坂東市民音 楽・金管) 楽ホール         坂東市文化 振興事業団           68         2月         5日         金 東京藝術大学表参道フレッシュコンサート アノ カワイ音楽 振興会         道         カワイ音楽 振興会           69         2月         5日         金 邦楽鑑賞教室         雅楽 学習院初等 料正 公 フッナート」         インフッナート」         カワイ音楽 振興会         中空被応初等 料正 公 フッナート」         カラボーネス 取手市文化 芸術課           71         2月         7日         日 平成 2 7年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 安曇野市教 中学校他 育委員会         東京女学園 グレイスホ 中学・高等 学校 グレイスホ 中学・高等 学校 バル スティール         グレイスホ 中学・高等 学校 グラス・スティ 公 協楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 原フェスティバル 東フェスティバル 東フェスティバル 東フェスティバル 東京エスティバル 東京エスティバル 表演委員会 正 大ストラストラフェスティバル 協・管楽 ミューザ川 崎シンフォーケストラ 実行委員会 音楽大学オーケストラフェスティバル 調シンフォーケストラ ニーホール 実行委員会 1年条大学オーケストラフェスティバル 第シンフォーティストラ ニーホール 実行委員会         76         3月         30日 水 音楽大学本一ケストラフェスティバル 第シンフォートカストラ ニーホール 実行委員会         1年条大学オーケストラフェスティバル 協・ビストラ ニーボール 実行委員会         1年条大学本 上 アストラフェスティバル 第シフォートカストラ ニーホール 実行委員会         1年条大学本 上 アストラ ニーボール 実行委員会         1年条大学 大学 大	65	1月	15 日	金	東京藝術大学表参道フレッシュコンサー	ピアノ	カワイ表参	カワイ音楽
1月 24日 日 動、アンサンブルミニコンサート 習 酸中学校 委員会   1月 31日 土 【受託演奏】東京藝術大学コンサート 五重奏(弦 坂東市民音 坂東市文化 接乗事業団 68 2月 5日 金 東京藝術大学表参道フレッシュコンサー ピアノ カワイ音楽 振興会 69 2月 5日 金 邦楽鑑賞教室 雅楽 学習院初等 学習院初等 70 2月 6日 土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい 弦楽、ピア ウェルネス 立サート」 ファート 3 7 1 2月 7日 日 平成 27年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 安曇野市教 中学校他 育委員会 72 2月 19日 金 恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室 長唄、三味 恵泉女学園 中学・高等 ディール 3月 5日 土 足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 ピロススティバル な・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オークストラフェスティバル 弦・管楽 ミューザ川 青楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューボ川 青楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューボ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューボリー 音楽大学オーケストラフェスティバル 音楽と学 200月 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					F		道「パウゼ」	振興会
1月 24 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	66	1月	23 日	土	伊達市吹奏楽きらめき事業第5回交流活	管打楽器講	伊達市立桃	伊達市教育
67		1 日	9.4 FI	В	動、アンサンブルミニコンサート	習	陵中学校	委員会
68         2月         5日         金         東京藝術大学表参道フレッシュコンサート         ビアノ カワイ音楽 振興会           69         2月         5日         金         邦楽鑑賞教室         雅楽 学習院初等 料正堂 科           70         2月         6日         土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい コンサート」         ウェルネス 取手市文化 芸術課           71         2月         7日         日 平成 27年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 中学校他 音奏員会 器演奏指導 東泉女学園 ボッキ 中学 ・高等 アール 学・高等 アール 学・高等 アール 学校           73         3月         5日         土 是立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 康フェスティバル実行 委員会 (足立区保健 所)           74         3月         26日         土 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラ 実行委員会 第次子学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 東行委員会 第次子学 新ジンフォークストラ 実行委員会 1月 3月 30日         水 音楽大学本業生演奏会 (桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁								
68         2月         5日金         東京藝術大学表参道フレッシュコンサート         ピアノ カワイ養参 援興会           69         2月         5日金         邦楽鑑賞教室         雅楽 学習院初等 経典会           70         2月         6日土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい コンサート」         弦楽、ピア ウエルネス 取手市文化芸術課           71         2月         7日日 平成27年度 安曇野市内中学校への楽器演奏指導         管打楽器 市立穂高西 中学校他 育委員会           72         2月         19日金 恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室 長唄、三味 歳、邦楽囃 グレイスホール 中学・高等学校 ポルール         大クイスホール 京美女学園 中学校高等学校 第フェスティバル 京子 スティバル実行 委員会 (足立区保険 所)           73         3月         5日土 足立区第20回こころの健康フェスティバル 京学 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 東行委員会 第大学オーケストラフェスティバル 京学 エー・アルラ 実行委員会           75         3月         27日日 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 ニューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 まューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 京学 東行委員会           76         3月         30日 水 音楽大学卒業生演奏会 (桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁	67	1月	31 目	土	【受託演奏】東京藝術大学コンサート			
69         2月         5日         金         邦楽鑑賞教室         雅楽         学習院初等 料正堂           70         2月         6日         土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい コンサート」         弦楽、ピア ノフザ         ウエルネス プラザ         取手市文化 芸術課           71         2月         7日         日 平成27年度 安曇野市内中学校への楽 器演奏指導         管打楽器         市立穂高西 中学校他         安曇野市教 育委員会           72         2月         19日         金 惠泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室         長唄、三味 線、邦楽囃 プレイスホ ール         恵泉女学園 中学・高等 学校           73         3月         5日         土 足立区第20回こころの健康フェスティ バル         弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール         足立区役所 庁舎ホール         こころと健 原フェスティ イバルまデ行 委員会 保健 所)           74         3月         26日         土 音楽大学オーケストラフェスティバル         弦・管楽         東京芸術劇 音楽大学オーケストラ 実行委員会           75         3月         27日         日 音楽大学オーケストラフェスティバル 第シンフォ ニーホール         弦・管楽         ミューザ川 崎シンフォ ニーホール         音楽大学オ ーケストラ ニーホール         実行委員会           76         3月         30日         水 音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会)         弦楽、仕舞         皇居内         桃 宮内庁								
<ul> <li>69 2月 5日 金 邦楽鑑賞教室</li> <li>70 2月 6日 土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい 弦楽、ピア ウエルネス 取手市文化 コンサート」</li> <li>71 2月 7日 日 平成27年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 中学校他 育委員会</li> <li>72 2月 19日 金 恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室 長唄、三味 恵泉女学園 恵泉女学園 中学・高等学校</li> <li>73 3月 5日 土 足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 康フェスティバル実行委員会(足立区保健所))</li> <li>74 3月 26日 土 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル な・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル な・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル な・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル は・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル な・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル は・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル は・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル は・管楽 皇唇内 桃 宮内庁</li> </ul>	68	2 月	5 日	金	東京藝術大学表参道フレッシュコンサー	ピアノ		
70   2月   6日   土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい   弦楽、ピア   ウェルネス   取手市文化   芸術課   71   2月   7日   日   平成27年度   安曇野市内中学校への楽   管打楽器   市立穂高西   中学校他   宮委員会   72   2月   19日   金   恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室   長唄、三味   線、邦楽囃   グレイスホール   学校   73   3月   5日   土   足立区第20回こころの健康フェスティ   弦楽四重奏   足立区役所   庁舎ホール   原フェスティバル実行   委員会 (足立区保健   所)   74   3月   26日   土   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   東京芸術劇   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューザ川   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューザ川   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューザ川   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューボール   音楽大学オーケストラフェスティバル   京芸術劇   音楽大学オーケストラフェスティバル   京芸術劇   音楽大学オーケストラフェスティバル   京芸術劇   京芸術劇   音楽大学オーケストラフェスティバル   京芸術劇   京本大学オーケストラフェスティバル   京芸術劇   京本大学オーケストラフェスティバル   京本・管楽   ミューボール   京本・大学   京					·			
70   2月   6日   土 東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい   弦楽、ピア   ウェルネス   取手市文化   カラザ   芸術課   市立穂高西   安曇野市教   中学校他   芸術課   市立穂高西   安曇野市教   中学校他   恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室   長唄、三味   恵泉女学園   中学・高等   ネスティール   一 日   日   日   日   日   日   日   日   日	69	2 月	5 日	金	邦楽鑑賞教室	雅楽		学習院初等
71     2月     7日     日     平成27年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 中学校他 育委員会 宗委会 宗教学園中学校2年生邦楽鑑賞教室 長唄、三味 線、邦楽囃 グレイスホーツ・高等 学校 アンスティル 公案四重奏 足立区役所 こころと健 バル ア舎ホール 原フェスティバル実行 委員会 (足立区保健 所)       73     3月     5日     土 足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 原フェスティバル実行 委員会 (足立区保健 所)       74     3月     26日     土 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラ 東行委員会 (足立 下・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・								
71         2月         7日         日         平成27年度 安曇野市内中学校への楽 管打楽器 市立穂高西 中学校他 育委員会 育委員会 高泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室 長唄、三味 恵泉女学園 恵泉女学園 中学校 原文イスホール・高等 学校 アール 学校 学校 アール 学校 学校 アール 学校 学校 アール 学校 学校 アール 原フェスティバル実行 委員会(足立区保健所)           73         3月         5日         土 足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 原フェスティバル実行 委員会(足立区保健所)           74         3月         26日         土 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラ 実行委員会 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューザ川 崎シンフォーケストラ 実行委員会 音楽大学オーケストラフェスティバル 第シンフォーティストラ ニーホール 実行委員会 アケストラフェスティバル 第・管楽 また アケストラフェストラ ニーホール 実行委員会 アケストラフェスティバル 第・管楽 また アケストラフェストラ ニーホール 実行委員会 アケストラ エーホール 実行委員会 アケストラ エーホール 実行委員会 アケストラストラ エーホール 実行委員会 アケストラ アケスト	70	2 月	6 日	土	東京藝術大学音楽学部生による「ふれあい	弦楽、ピア		
72     2月     19日     金     恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室     長唄、三味 恵泉女学園 中学・高等 学校 グレイスホール 中学・高等 学校       73     3月     5日     土 足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 原フェスティバル実行 委員会(足立区保健 所)       74     3月     26日     土 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラ フェスティバル 弦・管楽 場 ニューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル な・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラフェスティバル 音楽大学オーケストラフェスティバル 高シンフォーケストラニーホール 実行委員会       76     3月     30日     水 音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁					コンサート」	1	プラザ	
72     2月     19日     金     恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室     長唄、三味	71	2 月	7 日	日		管打楽器		
73       3月       5日       土       足立区第20回こころの健康フェスティ					器演奏指導		中学校他	
73       3月       5日       土       足立区第20回こころの健康フェスティ 弦楽四重奏 足立区役所 庁舎ホール 康フェスティバル実行委員会(足立区保健所))         74       3月       26日       土       音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 東京芸術劇 青楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 まューザ川 崎シンフォーケストラ 実行委員会 でクストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラス	72	2 月	19 日	金	恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室	長唄、三味	恵泉女学園	恵泉女学園
73   3月   5日   土   足立区第20回こころの健康フェスティ   弦楽四重奏   足立区役所   庁舎ホール   康フェスティバル実行   委員会 (足立区保健   所)						線、邦楽囃	グレイスホ	中学・高等
バル   庁舎ホール   康フェスティバル実行委員会(足立区保健所)   一						子	ール	学校
74       3月       26日       土 音楽大学オーケストラフェスティバル       弦・管楽 東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 場合       東京芸術劇 音楽大学オーケストラ 実行委員会         75       3月       27日       日 音楽大学オーケストラフェスティバル 弦・管楽 ミューザ川 音楽大学オーケストラ ニーホール 実行委員会       マケストラ ニーホール 実行委員会         76       3月       30日       水 音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁	73	3 月	5 日	土	足立区第20回こころの健康フェスティ	弦楽四重奏	足立区役所	こころと健
大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学					バル		庁舎ホール	康フェステ
74     3月     26日     土     音楽大学オーケストラフェスティバル     弦・管楽     東京芸術劇 音楽大学オーケストラフェスティバル 場。       75     3月     27日     日     音楽大学オーケストラフェスティバル は・管楽     ミューザ川 崎シンフォーケストラニーホール 実行委員会       76     3月     30日     水     音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁								ィバル実行
74   3月   26日   土   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   東京芸術劇   音楽大学オーケストラ   実行委員会								委員会(足
74     3月     26日     土     音楽大学オーケストラフェスティバル     弦・管楽     東京芸術劇     音楽大学オーケストラフェスティバル       75     3月     27日     日     音楽大学オーケストラフェスティバル     弦・管楽     ミューザ川 ・								立区保健
場								所)
実行委員会	74	3 月	26 日	土	音楽大学オーケストラフェスティバル	弦・管楽	東京芸術劇	音楽大学オ
75   3月   27日   日   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューザ川   音楽大学オーケストラフェスティバル   弦・管楽   ミューザ川   音楽大学オーケストラ   ニーホール   実行委員会							場	ーケストラ
6     3月     30日     水 音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁								実行委員会
コーホール 実行委員会   1 コーホール 実行委員会   1 コーホール 実行委員会   1 コーホール   1 フーホール   1 コーホール   1 コール   1	75	3 月	27 日	日	音楽大学オーケストラフェスティバル	弦・管楽	ミューザ川	音楽大学オ
76 3月 30日 水 音楽大学卒業生演奏会 (桃華楽堂演奏会) 弦楽、仕舞 皇居内 桃 宮内庁							崎シンフォ	ーケストラ
							ニーホール	実行委員会
華楽堂	76	3 月	30 日	水	音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会)	弦楽、仕舞	皇居内 桃	宮内庁
							華楽堂	

#### (水準) 期待される水準にある

#### (判断理由)

各学科・専攻の教育課程は、専門分野を学ぶにふさわしい内容となっている。また、上述のとおり、学生や社会からの要請に応える授業科目の開設や、授業内容・指導方法の見直しを随時行っている。

実技科目については、各学科・専攻ごとの学年進行によることを基本とし、各学科・専攻のレッスン室で授業が行われるため、学生と教員の意見交換がしやすい状況となっている。

また、P. 3-13 で記載したモーニング・コンサート(資料 3-15(P-19)参照)は、長年にわたり無料の演奏会として地域住民等に対し開催してきたが、運営費交付金の削減等に対応するため、平成25年度より、有料演奏会として開催形式を改めるに至ったものの、それ以前と同様に多くの入場者数を得ており(平成22~24年度:平均899名、平成25年度以降:平均702名)、演奏する学生及び本コンサートの質に対する高い評価が伺える。

さらに、音楽学部では、平成26年度より、地域の逸材発掘を目的として、音楽学部教員が各地に赴き、小中学生を対象に公開型レッスンを実施する「早期教育プロジェクト」を全国展開している。このプロジェクトは、文部科学省国立大学機能強化事業の一環で行われているもので、平成26年度は、福岡市と札幌市、27年度は、浜松市、和歌山市、東京、仙台市、宮崎市、北九州市、札幌市で開催された。また、27年度は、宮城県や横浜市においてワークショップとコンサートが一体となったアウトリーチ活動と連動させ、「音楽の魅力」や「芸術の力」を活かして文化芸術による地方創成・地域の活性化に発展的につなげる取り組みを行った。

本学部に限らず「音楽」分野の大学に入学するには、他分野の大学とは全く異なる受験 勉強を行うのが通常であり、そのため幼少の頃から音楽の勉強や練習を行うことが多い。 そのため、本学への志望が第1志望である割合が大きく、明確に本学部で「芸術を学びた い」という意欲をもっており、自発的に学習を積み重ねるという経験をしてきており学生 の学習意欲は高いと言える。

本学部ではレッスン室、練習室等の練習場所の確保や時間外使用についての要求が大変高く、学生からは「もっと多く」「もっと長く」という要望が大変多い。本学部ではそのような学生の要望に対し平成27年度から練習室の使用時間を延長することを決定し、練習時間の確保に努めている。

本学の校舎面積(練習室等以外の講義室,その他も含む)は、都内の他の音楽系大学に比して2倍程度の面積を持っていること(朝日新聞社刊『大学ランキング 2016』に掲載されている学生 1 人当たりの校舎面積から比較した結果)及び奏楽堂等の練習にも使用可能な優れた施設が整備されているため、期待される水準を上回るとした。

(奏楽堂におけるオルガン授業使用状況 資料 3-20 参照)

## 資料 3-20 奏楽堂の使用状況 (例:平成 27年 11月分)

※黄色は授業又は学生の自主練習に使用。ピンクは、定期演奏会や学内演奏会に使用。

日	曜日	9時	13時	5 17時					21時
1	日								
2	月			障力	ぶいとアーツ リハーキ	ナル			
3	火·祝								
4	水		学内演奏	会(弦楽)				吹奏	<b>柴練習</b>
5	木		学内演奏	会(弦楽)				オルガ	ン練習
6	金		学内演奏	会(弦楽)				ピア	/調律
7	土			うたシリーズ	,				
8	日		ピアノ	ノシリーズ 賃	第3回				
9	月	モーニング・コンサート リハ	ーサル		ピアノ調律		障	がいとアージ	ソ リハーサル
10	火	オルガンメンテナンス オルガン授業						オルガ	ン練習
11	水	モーニング・コンサート リハーサル 吹奏楽定期 リハーサル							
12	木	モーニング・コンサート 学生オーケストラ リハーサル							
13	金	オルガン練習 授業: サウンドレコーディング 学生オケ+藝大プロジェクト リハーサル							
14	土	学生オケ定期 + 藝大プロジェクト2015 第4回(合同演奏会) 14:00							
15	日	貸ホール : 台 東 区 合 唱 祭							
16	月	オルガン授業			オルガン練習			オルガ	ン練習
17	火		i	韓国・延世	大学校との交流演奏会	19:00			
18	水		合	唱オケ定期	月 午前:仕込み 午後	後:リハーサ/	レ		
19	木	オルガン調律			合唱オケ定期	リハーサ	ンル		
20	金			合	唱オケ定期 リハーサ	ブレ			
21	土			合	唱 オ ケ 定	期			
22	日	パスカル・モラケ、ス室内楽コン	/サート			吹奏楽	定期 リバ	ーサル	
23	月·祝		吹	奏 楽 定	期			;	オルガン調律
24	火		学内演奏会	会 (作曲)				「海道東征」	リハーサル
25	水	モーニング・コンサート リハ	ーサル		オルガン 修士リ	サイタル			ピアノ調律
26	木	モーニング・コンサー	· <b>F</b>		合唱台セット	授業:AV	ノメディア	「海道	東征」 リハーサル
27	金		学内演奏会	会 (作曲)				「海道東	征」GP
28	土		信	言時 潔 没	後50周年記念演奏会	「海道東征	]		
29	日		ピアノ	シリーズ 第	54回				
30	月			卒業演奏会	き (ピアノ)				ピアノ調律

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

講義科目については、シラバス又は第1回目の授業時に、授業のテーマ(目的)及び授業計画や内容、成績評価方法(試験実施するのか、レポート提出かなど)をあらかじめ学生に周知している(シラバスの記載例は資料3-8(P.3-10)参照)。

本学部では、実技科目について進度段階があるため、学年に従って履修することになっている(分析項目 I の資料 3-7(P.3-9)参照)。実技系の各科・専攻では、演奏の進展度に応じて成績が評価される。原則として、実技科目の成績は、担当教員だけでなく、当該専攻の複数の教員の合議によって決定される。

また,本学部では,教育の効果として練習の成果を各種演奏会で発表しているほか,依頼公演に応ずることにより,社会に対し成果を直接発表している

(資料 3-13~3-15(P. 3-17~3-19), 資料 3-19(P. 3-20~3-24) 参照)。

このような発表を通じて、外部の専門家からの批評や一般の鑑賞者層からの声を聴くことは、音楽教育に貢献するのみならず学生が身に付けた学力や資質・能力の水準を確認するということであり、かつ、学生が自らの能力の向上について考える場としての機能を果たしている。(平成27年度のコンクール等での受賞例は別添資料3-①(P.3-32~P.3-34)参照)

在学生或いは卒業生アンケートでの関連設問の回答結果は,下記の資料 3-20 に示す通りである。このアンケートによれば,受講している授業全体については 77%の満足度、また実技の授業の進め方については 84%の高い満足度となっている。自己の能力向上も 84%と高い満足度となっていることからも、本学の特長である個別少数教育によるきめ細かい指導によるものと思われる。また,卒業生においても各項目で 90%前後という高い満足度を得ており,本学に対する評価は在校生,卒業生ともども満足度の高いものとなっている。

資料 3-21 在学生アンケート・卒業生アンケート関連設問抜粋(1) 平成 27 年度

	設問	肯定的選択肢を回答した者の 割合				
在学生	(学部学生の方にお聞きします。) あなたが受講している 授業の内容や進め方について、どの程度満足しています か。④受講している授業全体としての満足度	満足している+まあ満足している	77%			
	(学部学生の方にお聞きします。) あなたが受講している授業の内容や進め方について、どの程度満足していますか。②専門教育科目(実技科目、制作実習科目)	満足している+まあ満足している	84%			
	(学部2~4年生にお聞きします。) あなたは、入学前に 比べて自分の能力が向上したと思いますか。	満足している+まあ満 足している	84%			
	東京藝術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度満足しましたか。	満足している+どちらかといえば満足している	90%			
卒 業 生	大学での授業や活動を通して、次の能力を身につけること ができましたか。①実技や研究に係る専門的知識、技術と その応用力	そう思う+いくらかそ う思う	92%			
	もし身近に芸術系大学への進学希望者がいる場合、東京藝 術大学を勧めたいと思いますか。	そう思う+いくらかそ う思う	87%			

(水準) 期待される水準を上回る。

## (判断理由)

観点ごとの状況で既述のとおり、演奏会等の実施状況(資料  $3-13\sim3-15$  (P.  $3-17\sim$  P. 3-19),資料 3-18 (P.  $3-20\sim3-24$ )参照)、受賞の状況 (別添資料 3-10 (P.  $3-32\sim$  P. 3-34)参照)、アンケートでの在学生・卒業生からの意見の聴取結果等 (資料 3-21 (P. 3-27))などからみて、学生からの高い期待に対して、全体として高い評価を得ていると考えられる。

#### 観点 進路・就職の状況

#### (観点に係る状況)

進路状況については、36.4%が大学院等へ進学し、また統計上未定・他となっている者にも、海外留学準備中の者が多数含まれていることから、多くの学生が演奏家等としてさらに高い水準を目指して研鑚を重ねていることが分かる。(資料 3-22 参照)。

就職者の就職先は、本学部の教育内容を反映して、教員や交響楽団、音響関係また放送局関連の企業・職種が多くなっているが、昨今の社会情勢を反映していると思われるインターネット産業又はゲーム産業への就職も増えてきている。(資料 3-23 参照)。

なお、卒業生アンケート(資料 3-24)による現在の職業をみると自由業(演奏活動を続けている者)が46.9%、また教員及び会社員等として勤めている者が合わせて29.8%といいように演奏活動及び研究活動を継続している者が多い。

## 資料 3-22 音楽学部 平成28年3月卒業者の進路状況

(H28.5.1 までに判明した分)

			就職	進学						
区分	卒業 者	教職	企業等	非常勤	自営	大学院(本学)	別科 (本学)	他大学等(国内)	海外留学	未定・他
作曲科	13			1		6				6
声楽科	50		4	2	2	20	4		1	17
器楽科	96		2	4	5	45	2		4	34
指揮科	2					1				1
邦楽科	25		1		6	5				13
楽理科	23		3		1	4		4		11
音楽環境創造科	19		8			2		1		8
計	228	0	18	7	14	83	6	5	5	90

#### 資料 3-23 卒業生の主な就職先企業名

NHK、劇団四季、九州交響楽団、NHK エンタープライズ、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、パナソニック株式会社、三井住友銀行、博報堂、阪急電鉄、NHKメディアテクノロジー、全日本空輸株式会社、仙台フィルハーモニー管弦楽団、コンサートサービス、国土交通省、宮地商会、エフエム東京、Konami Gaming Inc、ミュージックプラザオグチ、ブレーンバンク、ルイ・ヴィトンジャパン、影向舎、AJIOKA、はせがわ、マイナビ、モバイル&ゲームスタジオ、ニッポン放送、トレンダーズ、ワールド情報、ポプラ社、NHK文化センター川越教室、アーツポート、レコチョク、ギミック、富士総研、牛久市役所、博報堂プロダクツ、タワーレコード、一般社団法人環境共生住宅推進協議会、(株)K-BIT、ニッコウトラベル、株式会社高島屋、(株)スタッフサービスホールディングス

#### 資料 3-24 卒業生アンケート: 現在の職業 (複数回答可 単位%)

会社員,団体職員	高等専門学校)	門学校以外)	(教員を除く)	自営業主又は	家,演奏家など)	・フリーター	学 生	主婦(夫)	その他	無回答
6.3	9.4	9.4	4.7	3.1	46.9	3.1	4.7	1.6	1.6	9.4

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

本学部の卒業者の約36%が,演奏家等としてさらに高い水準を目指して本学大学院へ進学していることは,本学部の教育指導に対する学生の肯定を示していると考えられる(資料3-22(P.3-29)参照)。

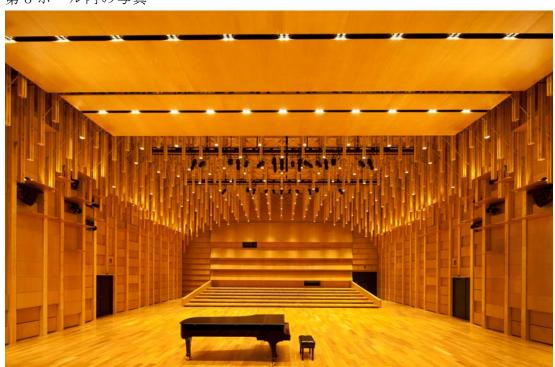
また、受賞の状況 (別添資料 3-① (P. 3-32~P. 3-34) 参照)、アンケート結果や新聞記事 (別添資料 3-② (P. 3-35~3-36))等に現れている社会の本学部在学生・卒業生への関心の高さ等から見て、在学生、卒業生、就職先、社会一般など各関係者からの期待に十分応えていると考えられる。

## Ⅲ 質の向上度の判断

- (1) 分析項目 I 教育活動の状況(観点 教育実施体制)
- 4号館改修、第6ホールのリニューアル

上野校地の第6ホールは,奏楽堂に次ぐ本学における音楽発信の場として長年愛されてきている。平成 26 年度の4号館の耐震工事によってリニューアルされることになり,単なる耐震対策だけでなく,これまでの音響の良さを踏襲しながら,老朽化によって劣化していた遮音性能も大幅に改善することができた。音響の調整にあたっては,各科の先生の意見を取り入れ,多様な用途に対して最適な音響になるように,吸音材の量や,天井反射板の位置や角度の微調整をおこなっている。

建物の改修と同時に録音および映像収録の機材も導入し、授業や試験、コンサートといった従来の用途に加えて、本格的な録音にも対応できる音響環境が整ったことから、千住キャンパスのスタジオ、奏楽堂、そしてこの第6ホールが今後芸大の様々な音楽コンテンツの制作発信の場としての重要な役割を活躍されている。



第6ホール内の写真

- (2) 分析項目 I 教育活動の状況(観点 教育実施体制)
- ・招聘教員(ユニット誘致)(資料 3-5, P3-7) 音楽学部では、平成27年度より大学改革・機能強化推進戦略の方針の下、世界一線級 のアーティスト・クリエーターを積極的に誘致するプロジェクトを立ち上げ、英国王立 音楽院、パリ国立高等音楽院、リスト音楽院、ベルリンフィルといった超一流の音楽大 学、オーケストラから一線級の教授、アーティストを招聘し、世界トップレベルの人材 を育成するとともに、広く交流活動の国際発信を推進している。

# 4.音楽研究科

I	音楽研究科の教育目的と特徴	•	•	•	•	•	4 - 2
П	「教育の水準」の分析・判定	•	•	•	•	•	4 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	•	•	•	•	•	4 - 3
	分析項目Ⅱ 教育成果の状況	•	•	•	•	•	4 - 29
${ m II}$	質の向上度の判断・・・・・	•	•	•	•	•	4 - 33

### I 音楽研究科の教育目的と特徴

- 1 大学院音楽研究科は、高度に専門的かつ広範な視野に立ち、音楽についての深遠な学識と技術を授けること、音楽に関わる各分野における創造、表現、研究又は音楽に関する職業等に必要な優れた能力を養うこと、さらには自立して創作、研究活動を行うに必要な高い能力を備えた教育研究者の養成を目的としている。優れた表現者(演奏家、作曲家、指揮者)のみならず、大学・企業・公共機関等における、芸術分野に関する指導者たり得る人材の育成が本研究科の目標であり、同時に特徴ともなっている。
- 2 本研究科は、音楽学部に比してより高度かつ専門的に芸術の創造・表現とその理論を総合的に研究・教授することを理念とし、創造・表現に重点を置いた修士課程が昭和 38年にまず設けられ、理論的研究により重点を置いた博士後期課程が昭和 52年に設置された。

音楽学部における作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽・楽理各科を基盤に,作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽・音楽学の6専攻からスタートし,昭和44年には音楽教育,同51年にはソルフェージュ(ともに音楽学専攻),平成11年には古楽(器楽専攻)・応用音楽学(音楽学専攻),平成15年には音楽文芸(音楽学専攻)が新たな研究領域として設けられた。さらに,平成18年には音楽音響創造・芸術環境創造の2領域が加わったことにより,上記音楽学専攻の諸領域と併せて音楽文化学専攻が開設され,実技面においても理論的研究面においても,学生や社会の,より広範な需要に応えるための組織改革をおこなっている。

- 3 社会のニーズに応じた人材育成は、音楽学部のみならず本研究科においても目標とするところである。学部に比較して、芸術家として身体的にも精神的にも完成度・成熟度の増す大学院においては、より深い理解と解釈に基づいた質の高い演奏表現・技術をもった演奏家の養成、ならびに幅広い見識や関心に支えられた、より深化した専門研究を展開できる研究者の養成が音楽界や教育界、音楽愛好家らから期待されている。さらに、国際的な感覚を身に付けたグローバルな人材や新時代の芸術創造を担う人材の育成が今日的な重要課題となっている。そうした社会的な期待や要請に応えるために、世界的なアーティストの教授招聘や世界の芸術教育機関との連携を促進するとともに、大学院教育の質的向上をはかる取組を積極的に構想、展開している。
- 4 音楽分野における高等教育・研究機関への優秀な人材輩出は、そうした諸機関から大きく期待されるところであり、他の音楽大学大学院に比べて著しい特徴となっている。 実技系諸専攻・音楽文化学専攻を問わず、芸術系・教育系大学の教員としてあるいは研究機関での研究員として、本研究科における教育・研究の成果を背景としながら、音楽文化の普及や研究活動、次世代の芸術家・芸術研究者養成に携わり、日本の音楽教育・音楽文化の基盤形成に貢献することが期待されている。

### Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

## 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

#### (観点に係る状況)

音楽研究科の教育研究組織は、修士課程は作曲、声楽(独唱、オペラ)、器楽(ピアノ・オルガン・弦楽・管打楽・室内楽・古楽)、指揮、邦楽(三味線音楽・箏曲・尺八・能楽・能楽囃子・邦楽囃子・日本舞踊)、音楽文化学(音楽学・音楽教育・ソルフェージュ・応用音楽学、音楽文芸・音楽音響創造、音楽環境創造)の6専攻24研究領域で構成されている。博士後期課程は、全体を音楽専攻とし、作曲、声楽、鍵盤楽器、弦・管・打楽器、古楽、指揮、邦楽、音楽文化学の8研究領域で構成されている(資料4-1参照)。

音楽学部と比較して、特に修士課程において複数の研究領域の教員がかかわる室内楽でのアンサンブル教育を充実させていること、また音楽文化学専攻内に大学院のみの研究領域(音楽教育・ソルフェージュ・応用音楽学・音楽文芸)を設けており、音楽に関わる研究領域の拡大と、社会的要請の大きな分野における人材育成を可能にしていること、が特徴となっている。

教員数等については資料 4-2, 4-3, 4-4 のとおりである。学部同様学外兼務教員を多数 起用しているが、これは学部における個人レッスンの充実・維持という目的とは異なり、 発表のための助演者や伴奏助手を設定し、より高度な表現を身につけるためのサポート体 制を目的として利用されている。また、学生定数の適正化を徹底することで常勤教員 1 名 あたりの学生数を抑制し、学生一人当たりの指導時間を充分に確保することによって、高 度な専門教育の質的確保に努めるとともに、特に博士後期課程における指導教員の指導の 充実を保証している。

また,平成27年度より国立大学機能強化事業の国際共同プロジェクトとして世界的な一流の演奏家及び研究者を積極的に招聘することで、世界最高水準の教育研究体制の確立を目指し、世界トップレベルの人材を育成する取組の強化を図っている。(資料4-6(P.4-9)参照)

資料 4−1 学部と研究科の関係	<b>※</b> (	)は研究科の平成 27 年度の入学定員
------------------	------------	---------------------

音楽学部	音楽研	音楽研究科					
日米子叫	(修士課程)	(博士後期課程)					
作曲科	作曲専攻 (9)						
声楽科	声楽専攻 (20)						
器楽科	器楽専攻 (45)						
指揮科	指揮専攻(3)	音楽専攻(25)					
邦楽科	邦楽専攻 (9)						
楽理科	音楽文化学専攻						
音楽環境創造科	(35)						

資料 4-2 音楽研究科の教育研究組織 ※教員数は資料 4-3 を参照

学科	専任教員の専門分野
作曲専攻	作曲,作曲理論
声楽専攻	声楽(ソプラノ, メゾソプラノ, アルト, テノール, バリトン)
器楽専攻	鍵盤楽器(ピアノ,オルガン),弦管打楽器(ヴァイオリン,ヴィオラ, チェロ,コントラバス,フルート,クラリネット,オーボエ,トランペット,ホルン,トロンボーン,打楽器),古楽(古楽器,バロック声楽)
指揮専攻	指揮
邦楽専攻	長唄三味線, 箏曲, 能楽, 邦楽囃子, 長唄, 日本舞踊
音楽文化学専攻	音楽美学,音楽民族学、西洋音楽史,日本・東洋音楽史,音楽教育, ソルフェージュ,応用音楽学,音楽文芸,音楽音響創造,芸術環境 創造

# 資料 4-3 音楽研究科教員数

芸研究		教員配属 専攻			専任	教員数			学内	学	外兼務教	員	教育
学系	領域	専攻名	性別	教授	准教 授	講師	助教	合計	兼務教員	教員 からの 兼務	教員以 外から の兼務	合計	研究 助手
		作曲専攻	男	3	2	0	0	5					
		中面分久	女	0	0	0	0	0					
芸	音	声楽専攻	男	4	2	0	1	7					
術	楽	7. 未寻久	女	5	0	0	0	5					
表	表	器楽専攻	男	13	13	0	0	26					
現	現	加木寸久	女	2	5	0	0	7					
現学系	領	指揮専攻	男	2	0	0	1	3					
糸	域	11 17 17	女	0	0	0	0	0					
		邦楽専攻	男	3	3	0	0	6	9	44	434	478	66
		717 47	女	0	2	0	0	2	_				
芸術理	音楽理	音楽文化学	男	11	5	0	0	16					
論学系	論領域	専攻	女	4	2	0	1	6					
	<u> </u>	計	男	36	25	0	2	63					
		П	女	11	9	0	0	20					

# 資料 4-4:音楽学部・大学院音楽研究科教員一覧 (平成 28 年 1 月現在)

■作曲	野平 一郎	教授	■器楽		
	小鍛冶 邦隆	教授	ピアノ	植田 克己	教授
	安良岡 章夫	教授		渡邊 健二	教授
	林 達也	准教授		角野 裕	教授
	鈴木 純明	准教授		迫 昭嘉	教授
				伊藤 恵	教授
■声楽	寺谷 千枝子	教授		東 誠三	准教授
	永井 和子	教授		有森 博	准教授
	川上 茂	教授		青柳 晋	准教授
	佐々木 典子	教授		江口 玲	准教授
	福島 明也	教授		坂井 千春	准教授
	吉田 浩之	教授	オルガン	廣江 理枝	准教授
	勝部太	教授	ヴァイオリン	清水 髙師	教授
	平松 英子	教授		澤和樹	教授
	菅 英三子	教授		漆原 朝子	准教授
	櫻田 亮	准教授		玉井 菜採	准教授
	甲斐 栄次郎	准教授		堀 正文	客員教授
	直井 研二	助教		ヘルウ゛イック・ツァック	招聘教授
	スティーフ゛ン・ローチ	招聘教授	ヴィオラ	川﨑 和憲	教授

■器楽				■音楽文化学			
チェロ	河野	文昭	教授	音楽教育	佐野	靖	教授
	中木	健二	准教授		山下	薫子	教授
コントラバス	池松	宏	准教授	ソルフェーシ゛ュ	照屋	正樹	教授
	吉田	秀	准教授		テシュネ	ローラン	准教授
クラリネット	山本	正治	教授	応用音楽学	枝川	明敬	教授
	伊藤	圭	特任准教授			舜 <b>一</b> 郎	教授
フルート	髙木	綾子	准教授	音楽文芸	檜山	哲彦	教授
オーボエ	小畑	善昭	教授		杉本	和寛	教授
サクソフォーン	須川	展也	招聘教授		大森	晋輔	准教授
	MALTA		客員教授		侘美	真理	准教授
ファゴット	岡崎	耕治	客員教授				
トランペット	栃本	浩規	准教授	■音楽環境創造	西岡	龍彦	教授
トロンボーン	古賀	慎治	准教授		熊倉	純子	教授
打楽器	藤本	隆文	准教授		亀川	徹	教授
室内楽	松原	勝也	教授		市村	作知雄	准教授
	市坪	俊彦	准教授		毛利	嘉孝	准教授
	日髙	岡山	准教授		丸井	淳史	准教授
古楽	野々丁	由香里	教授				
	大塚	直哉	准教授	■言語・音声トレー	磯部	美和	講師
				ニンク゛センター	シュタイン	,ミヒヤエル	外国人教師
■指揮	髙関	健	教授		コリンス゛	,キム,ソノコ	助教
	尾高	忠明	特別教授		ウ゛ィエル	, エリック	助教
	山下	一史	招聘教授		シ゛ェレヒ゛	`ーニ,アレッサント゛ロ	助教
	酒井	敦	助教		ククリンス	キ,ルーヘ゛ン	助教
					平田	アンナ	特任講師
■邦楽							
三味線	小島	直文	准教授	■演奏芸術センター	松下	功	教授
長唄	味見	純	准教授		湯浅	卓雄	教授
筝曲 (山田流)	萩岡	松韻	教授		大石	泰	准教授
筝曲(生田流)	吉川	さとみ	准教授		野口	千代光	准教授
能楽 (観世流)	関根	知孝	教授		佐藤	美晴	特任准教授
能楽(宝生流)	武田	孝史	教授		岩崎	真	助教
邦楽囃子	盧 慶		准教授		千住	明	客員教授
日本舞踊	露木	雅弥	准教授		西川	信廣	客員教授
_ ,						支哲	客員教授
■音楽文化学	_				安田	茂美	客員教授
音楽学	土田	英三郎	教授		米山	峰夫	客員教授
	片山	千佳子	教授		·	. —	41. ****
	大角	欣矢	教授	■早期教育プロ	宮本	文秀	特任准教授
	塚原	康子	教授	シ゛ェクトセンター	小山	文加	特任助教
	植村	幸生	教授		// <del>***</del>	1	
	福中	冬子	准教授	■音楽創造・研	佐藤	文香	特任助教
				究センター	高橋	智子	特任助教
					中田	朱美	特任助教
					山岸	佳愛	特任助教

#### 東京芸術大学音楽研究科

本研究科の運営に係る体制は基本的には学部と同一組織であるが、博士後期課程については、学位委員会が教育内容、教育方法の改善に関する役割を担っている。

本研究科では、特に博士学位授与促進を目的とし、博士後期課程改革の第一段階として、複数指導教員体制の充実と指導教員会議の設置、教員・学生双方への進捗状況報告書提出の義務化を徹底している。これらは学位委員会の監督・指導のもとにおこなわれており、これによって、指導体制のチェック・指導状況の客観的把握が可能になるとともに、学生と教員の双方向的な研究体制の構築を可能にしている。また、芸術リサーチセンターの設置により、学位委員会とも連携しながら、博士後期課程学生へのより充実したサポート体制を組織することができた。

また実技系専攻の修士課程においては、学位取得の方法を弾力化することによって、フレキシブルな研究計画の下に、演奏と研究への比重を学生個々の特性に応じて選択することが可能な体制となっている。(資料 4-5 参照)

本学の「スーパーグローバル大学創成事業」「大学改革・機能強化推進戦略」の一環として、大学院音楽研究科声楽専攻に含まれていた「オペラ領域」についてワーキンググループを設置し、検討を重ねた結果、平成28年度より独立した専攻として実現することとなった。この大学院音楽研究科「オペラ専攻」においては、これまで以上に世界の芸術機関との連携を通じて国際的な感覚を身につけた優れたオペラ歌手やオペラに関わる人材の育成を目的としている。

## 資料 4-5 履修便覧抜粋

# Ⅲ. 東京藝術大学大学院音楽研究科(修士課程)学位 論 文 等 並 び に 最 終 試 験 に 関 す る 内 規

制 定 昭和39年4月20日 最近改正 平成27年2月5日

第1条 修士論文又は修士作品もしくは修士演奏(以下「論文等」という。)の審査を受けようとする者は、大学の定めた期間内(10月中旬)に論文等の題目又は作品もしくは演奏曲目を音楽研究科長に届け出なければならない。
第2条 論文等の区分は次のとおりとする。

(1) 作曲専攻 ······修士作品 + 修士論文

- (3) 音楽文化学専攻 ······修士論文
- 2 前記第(2)号により修士演奏を行う者は、その演奏に関する論文を加えることができる。 ただし、特別の事情により修士演奏を行うことができない場合は、修士論文のみで学位審査を受けることができる。
- 3 音楽教育研究分野・ソルフェージュ研究分野専攻の修士論文には、必修選択科目として選んだ分野の作品又は演奏を併せて考慮する。
- 4 音楽音響創造研究分野・芸術環境創造研究分野専攻の修士論文には、作品を加えることができる。
- 5 第1項の論文等(修士演奏を除く)は、大学が定めた期間に音楽研究科長に提出しなければならない。 論文等を期間経過後に提出した場合は、その年度内に審査を行わない。
- 第3条 最終試験は論文等を中心として、口述試験により行う。
- 第4条 論文等の審査日程及び最終試験の日程については、音楽研究科委員会により決定する。
- 第5条 論文等に関する審査については東京藝術大学学位規則による。

#### 大学院修士課程 学位審査科目について

専 攻				作品+論文	演奏のみ	論文のみ	演奏+論文
- 3	作		曲	0			
声	独		唱		0		0
栾	才	~	9		0		0
	R	7	1	S			0
器	才	ルガ	V				0
1 6 31 2	弦		楽		0		0
	普	打	楽	S			0
楽	室	内	楽		0		0
	古	1 1 1	楽				0
	指	3	揮		0		0
	邦	3	楽				0

	専攻	作品+論文	演奏のみ	論文のみ	演奏+論文
	音 楽 学			0	
音	音楽教育			〇〈注1〉	
樂	ソルフェージュ			〇〈注1〉	
文	応用音楽学			0	
化	音楽文芸			0	
学	音楽音響創造			〇〈注2〉	
	芸術環境創造			〇 (注2)	

- 〈注1〉音楽教育・ソルフェージュ専攻の学生は、論文に加えて、必修選択科目として選んだ分野の作品又は演奏を併せて審査科目とすること。ただし、必修選択科目が音楽学分野の場合は、審査科目は論文のみになる。
  〈注2〉音楽音響創造・芸術環境創造専攻の学生は、論文に加えて作品を提出することができる。
- XI.「東京藝術大学大学院音楽研究科学位委員会」設置に関する申し合わせ

划 定 平成14年12月12日 最近改正 平成16年4月8日

音楽学部教務委員会は東京藝術大学大学院音楽研究科学位委員会設置に関して、次の要項を制定することを申し 合わせをする。

(設 価)

第1 東京敷着大学大学院音楽研究科(以下「研究科」という。)に、博士後期課程における教育・研究を充実させ、 課程博士学位授与の促進を図るため、大学院音楽研究科学位委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任 務)

- 第2 委員会は、次の各号に掲げる事項を接譲する。
  - (1) 博士後期課程の理念と制度に関わること。
  - (2) 博士後期課程在着者の研究進捗状況の把握、指導教員会議の運営に関わること。
  - (3) その他学位の授与に関し、必要と認められる事項。

(AL AE)

- 第3 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、第2号の委員は教務委員をもって光てる。
  - (1) 散務委員長
- (2) 各科から選出された者 1名

(任期)

第4 第3に掲げる委員の任期は1年とし、再任は妨げない。

ただし、委員に欠員が生じた場合の補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 第5 委員会に委員長を置き、教務委員長をもって充てる。
- 2 委員長に事放あるときは、あらかじめ委員長の指名した者がその戦務を代行する。

(唐 務)

第6 委員会の庶務は音楽学部教務係において処理する。

(雑 則)

第7 その規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

## 資料 4-6:招聘教員 (平成 27 年度)

	氏名		所属	期間			
1	オラフ・オット	管打	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.5.12~5.25 (14日間)			
2	ヴェンツエル・フックス	管打	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.7.2~7.17 (16日間)			
3	ニール・マッキー	声楽	英国王立音楽院教授	H27.7.2~7.12 (11日間)			
4	ティム・ジョーンズ	楽理	英国王立音楽院教授	H27.7.7~7.28 (22日間)			
5	クリスチャン・イヴァルディ	室内楽	パリ国立高等音楽院元教授	H27.10.19~10.31(13日間			
6	ブルーノ・パスキエ	弦楽	パリ国立高等音楽院元教授	H27.10.19~11.8 (21日間)			
7	ローラン・ドガレイユ (第1回)	弦楽	パリ国立高等音楽院教授	H27.10.24~11.5 (13日間)			
8	ジャック・ルヴィエ	ピアノ	パリ国立高等音楽院元教授、 ベルリン芸術大学客員教授	H27.11.3~11.30(28日間)			
9	アンドラーシュ・ケメネシュ	ピアノ	リスト音楽院教授	H27.11.9~12.1 (23日間)			
10	パスカル・モラゲス	管打	パリ国立高等音楽院教授	H27.11.16~11.22 (7日間)			
11	パスカル・ベルタン	声楽/古楽	パリ国立高等音楽院教授	H27.12.13~12.23(11日間)			
12	ミシェル・ベロフ	ピアノ	パリ国立高等音楽院教授	H28.1.4~1.8 (5日間)			
13	フィリップ・ミュレール	弦楽	パリ国立高等音楽院元教授	H28.1.12~1.24 (13日間)			
14	ローラン・ドガレイユ (第2回)	弦楽	パリ国立高等音楽院教授	H28.1.19~1.29 (11日間)			
生	別招聘教授】 エクステンションコ	ューット					
NO		- /	所属	期間			
1	ピエール・アモイヤル (第1回)	弦楽	ザルツブルグ・モーツアルテウム教授	H27.4.2~4.14 (13日間)			
2	ステファーノ・マストランジェロ	声楽	サンタチェチーリア音楽院教授	①4.20~5.19 ②6.19~7.17 ③9.7~10.4 (年3回)			
3	チャールズ・ジェンキンス	楽理	(無所属)	H27.6.2~6.4(3日間)			
4	ディーテルム・ヨナス (第1回)	管打	ドイツ・リューベック音楽大学教授	H27.7.2~7.17 (16日間)			
5	ヴォルフガング・ヘントリック	弦楽	ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者	H27.7.6~7.7 (2日間)			
6	ディーテルム・ヨナス (第2回)	管打	ドイツ・リューベック音楽大学教授	H27.10.5~10.17 (13日間)			
7	セルジオ・アッツォリーニ	管打	スイス・バーゼル音楽大学教授	H27.10.6~10.19 (14日間)			
8	ティリー・ミログリオ	作曲	ダリウス・ミヨー音楽院教授	H27.10.15~10.16 (2日間)			
9	ドミニク・ウィラー	指揮	ギルドホール音楽院教授	H27.10.18~11.1 (14日間)			
10	ニック・ペンドゥルバリー	弦楽	トリニティ音楽院教授	H27.10.20~10.24 (5日間)			
11	ケルト・ヴァレンティン・テュルク	古楽	バーゼル音楽院教授	H27.11.2~12.1 (30日間)			
12	アンドレス・セア・ガラン	オルガン	オルガニスト	H2712.14~18 (5日間)			
	ピエール・アモイヤル (第2回)	弦楽	ザルツブルグ・モーツアルテウム教授	H28.1.20~2.2(14日間)			
13	【招聘教授(外国人)】						
	聘教授(外国人)】						
招			所属	期間			
13 【招 NO 1		弦楽	所属 ヴェルツブルグ音楽大学教授	期間 H27.4.7~H28.1.31(10ヶ月			

(水準) 期待される水準にある。

#### (判断理由)

教員一人当たりの大学院生数は少数であり、レッスンのみならず論文を含めた研究全般において質の高い指導を可能にしている。また、研究科内に大学院教育専門の委員会を設置し、指導体制の充実とそのチェック体制の整備を行い、学位取得にふさわしい学生を養成するための教育方法改善に常時努めている。学位委員会の個々の指導教員会議に対する指導や、修士課程の学生における学位審査方法の選択制の導入は、そうした改善によって生み出された対応策であり、博士後期課程における学位授与率の向上や、修士課程における学生の研究課題への集中度のアップなどに資する体制を整えている。

## 観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

【修士課程】履修区分により、履修が原則として当該専攻(研究領域)の学生に限定される必修科目と,研究内容の充実のために幅広く履修可能な選択科目に大別される(資料 4-7,例 1 参照)。

実技系の専攻において、必修科目は演奏の実習や楽曲分析を中心としたものからなり、研究分野によってはリサイタルを必修単位として位置づけるなど、演奏面におけるより高度な専門性を追求する編成となっている。それと同時に、選択科目によって他専攻の授業科目の履修を可能とし、また、原典特殊講義・音楽リサーチ法・芸術情報関連科目等を設定することによって修士論文執筆のサポート体制を充実させるなど、専門性の特化と理論的研究の遂行を、同時に可能にするための課程編成をおこなっている。

音楽文化学専攻においては、演習及び実習(論文指導)等が必修科目として設定され、 論文執筆を中心とした科目編成となっている。さらには選択科目に、他専攻の授業科目や 原典特殊講義を設定し、論文作成のためのより広範かつ高度な知識の獲得が可能な編成と なっている。

【博士後期課程】教育課程は全研究領域共通のものとなっている。(資料 4-7 例 2 参照)学生の成果発表(リサイタル・雑誌論文・学会発表等)に対して「博士特別研究」として単位を付与するとともに、指導教員の研究指導を「博士専門科目」として単位化することで、博士後期課程における研究計画が、教員の指導を基盤としながらの外部に向けた成果の公開により達成され、その最終地点に博士論文を位置づけた編成である。

# 資料 4-7 音楽研究科 教育課程(カリキュラム)修得単位年次表例 1:修士課程器楽専攻(弦楽研究分野)

区分	授業科目	1	年	2	年	修名	导単位数	汝
区切	1文 耒 村 日		Ċ	Ÿ	Ċ.	小計	中計	合計
	器楽実習	ç	3	9.5	8	6		
必修	楽曲分析演習	4	Į.	4	1	8	18	
科目	修士リサイタル		4	1		4		
	器楽特殊研究	2	2	2	2	8	8	
	室内楽実習	4	1	4	1	8		
	オーケストラ実習	2	2	2	2	8		34
	室内オーケストラ実習	2	2	2	2	8		34
選択	他専攻の授業科目		4	1		4	8	
科目	学部開設授業科目		4	1		4	0	
	原典特殊講義		4	1		4		
	音楽研究基礎		4	Į.		4		

例2:博士後期課程

豆八	授業科目	1 年	2 年	3 年	耳	文得 単位数	女
区分	文 耒 村 日	次	次	次	小計	中計	合計
以恢	研究領域特別研究指導		-			_	
必修 科目	博士特別研究※1	2	2		4	8	
作日	博士専門科目※2	2	2		4	0	10
選択	大学院開設科目		)		2	2	
科目	八子阮囲設杆日	2	2		4	2	

 $2\sim4$ 

 $2\sim4$ 

※1 演奏専攻は、博士リサイタルをもって充てる。その他の専攻は、研究発表をもって充て

音楽リサーチ法

※2 原則として主任指導教員が開設するもの

# 資料 4-8 音楽研究科シラバス記載例

## 例1 音楽教育専攻科目

講義名	レッスン研究Ⅰ					
開講責任部署	音楽研	音楽研究科 対象学生:音楽(修士・博士)				
講義開講時期	前期 講義区分 大学院開設科目(音 科共通)					
基準単位数	2 時間 0.00					
代表曜日	水曜	代表時限	4 時 限			
校地	上野					
授業を行う教員	山下薫子					
授業で使用する言語	日本語、ただし受講生の興味・関心に応じて英文を講読することがあります。					

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山下 薫子	音楽学部

授業概要	講義と演習を通して、レッスンの理論と実践に関する基礎的な知識と技能を習得するための授業です。教材やメソッド、演奏技能、学習者とのコミュニケーションの取り方等について学びます。
到達目標・カリキュラム上の位置付け	ピアノのレッスンを中心に授業を展開しますが、履修生の専 門性を生かせるように配慮して授業を構成します。
授業計画・内容	<ul> <li>・レッスンを構成する要素</li> <li>・指導のストラテジー</li> <li>・発達段階と学習者の特性</li> <li>・メソッド研究</li> <li>・教材研究</li> <li>・レッスンプラン</li> <li>・模擬レッスン</li> </ul>
テキスト・参考文献	その都度、指示します。
準備学習内容・時間の目安	詳細は担当教員に問い合わせること。
成績評価基準・課題・フィードバック	課題の遂行状況(提出物、発表、模擬レッスン等)およびレポート

# 東京芸術大学音楽研究科

学生へのメッセージ	ピアノ専攻生に限らず、大学院全専攻生を履修の対象としま
	<b>†</b> .
オフィスアワー	水曜日 14:00~14:30
【英】授業概要	Through lectures and exercises, you will learn basic techniques and earn knowledge of theory and practice on providing a lesson: study materials/methods, playing techniques, or how to communicate with learners. The class is centered on piano lessons, however the specialty of students will also be considered in building a lesson plan.
【英】到達目標・カリキュラム上の位置付け	Please contact the lecturer for further information.
【英】授業計画・内容	<ul> <li>Elements of lessons</li> <li>Strategy for instruction</li> <li>Developmental stages and characteristics of learners</li> <li>Studies on methods</li> <li>Studies on educational material</li> <li>Lesson plans</li> <li>Mock lessons</li> </ul>
【英】テキスト・参考文献	Please contact the lecturer for further information.
【英】準備学習内容・時間の目安	Please contact the lecturer for further information.
【英】成績評価基準・課題・フィードバック	Please contact the lecturer for further information.
【英】学生へのメッセージ	Please contact the lecturer for further information.
【英】オフィスアワー	Wednesday, 14:00-14:30

## 例 2 古楽専攻科目

			4
講義名	博士専門科目(古楽) I		
開講責任部署	音楽研究科 対象学生:音楽(修士・博士)		
講義開講時期	通年 講義区分 大学院開設科目(古楽)		大学院開設科目 (古楽)
基準単位数	2 時間 0.00		0.00
校地	上野		
授業を行う教員	野々下 由香里		
担当教員			

	氏名	所属	
教授	◎ 野々下 由香里	音楽学部	
受業概要		・古楽器・バロック声楽について、修士課程より専 奏技術・表現力の習得をめざす。	耳門的な
到達目標・カ	カリキュラム上の位置付	詳細は担当教員に問い合わせること。	
受業計画・卢	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	授業の概要 ・パロック声楽:発音・共鳴・支えのパランスを考ら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やとえた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏である。 ・パロックヴァイオリン:1600 年頃から 1800 年頃オリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に奏を実践する。 ・リコーダー:中世、ルネッサンス、パロック、男まで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏活音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッを育成する。 ・チェンバロ:より専門的なチェンバロの演奏技術け、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に対し、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に対アノになるまでの 200 年間の重要なピアノレパーそれらの作品を生み出したフォルテピアノでの演習ル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質・バロックチェロ:17世紀後半~18世紀を中心とロのレパートリーを習得すること。時代や地域による演奏様式を理解し演奏できるようにすること。バロックオルガン:17~18世紀のオルガンレパートのに、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい	ごと しこうとう いきぼしっつ指 の適 代とシ をめ 現リスにたっチ導 ヴし にそョ 身ら 代ータ迫たてをす アた 至のナ にれ のをイるチ異
		研究する。 授業計画 ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行 ・研究の進展に従って、自分自身でコーディネート 士リサイタル」を年に一度開催することで成果を	演奏法 「う。」 「た」
テキスト・参	*考文献	授業計画 ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行い研究の進展に従って、自分自身でコーディネー	演奏法 「う。」 「た」
	参考文献 <b>ド・時間</b> の目安	授業計画 ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行い研究の進展に従って、自分自身でコーディネート 士リサイタル」を年に一度開催することで成果を	演奏法 「う。」 「た」
<b>準備学習内</b> 容	*	授業計画 ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行い研究の進展に従って、自分自身でコーディネート 士リサイタル」を年に一度開催することで成果を登 詳細は担当教員に問い合わせること。	演奏法 「う。」 「た」

# 東京芸術大学音楽研究科

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
Course description  - Baroque vocal music: Instruction will be given in how to control vibrato, how to take interval taking rhythm and pitch in consideration, and how to perform reflecting modification and improvisation, while keeping a balance in vocalization, resonance and support.  - Baroque violin: Practice how to play violin repertoires written in c. 1600 to c. 1800 to fit the pattern of the period.  - Recorder: There are many repertoires written for recorders from the Mediaeval, Remascence and Baroque to the modern times. In the class, the attendees will learn how to play the recorder and the patterns for different periods to nurture the real professionals.  - Cembalo: Attendees practice further specialized skills to play cembalo. They examine the methods to realize specific expressions required to play pieces from different periods and geographical areas while keeping historical perspectives.  - Fortepiano: Attendees will examine major piano repertoires for the 200 years from c. 1700 (when the piano was first invented) to the current time, specifically in their play styles for the fortepiano (the instrument these pieces were written with), constructions and historical background, and try to find the real quality of these pieces.  - Baroque cello: Attendees learn the repertoires written mainly from the last half of the 17th century to 18th century. They will understand the differences of the performing patterns among the periods and areas and learn to play the pieces according to the specific features.  - Baroque cello: Attendees learn how to play the organ repertories of the 17th and 18th centuries with the method well suited for the specific characteristics of the instrument of each period.  Course plan:  - Each attendee will have a one-on-one lesson with an instructor.  - Each attendee will coordinate/organize annual	【英】授業概要	music, and more technical performance/expression skills
- Baroque vocal music: Instruction will be given in how to control vibrato, how to take interval taking rhythm and pitch in consideration, and how to perform reflecting modification and improvisation, while keeping a halance in vocalization, resonance and support.  - Baroque violin: Practice how to play violin repertoires written in c. 1600 to c. 1800 to fit the pattern of the period.  - Recorder: There are many repertoires written for recorders from the Mediaeval, Renascence and Baroque to the modern times. In the class, the attendees will learn how to play the recorder and the patterns for different periods to nurture the real professionals.  - Cembalo: Attendees practice further specialized skills to play cembalo. They examine the methods to realize specific expressions required to play pieces from different periods and geographical areas while keeping historical perspectives.  - Fortepiamo: Attendees will examine major piano repertoires for the 200 years from c. 1700 (when the piano was first invented) to the current time, specifically in their play styles for the fortepiano (the instrument these pieces were written with), constructions and historical background, and try to find the real quality of these pieces.  - Baroque cello: Attendees learn the repertoires written mainly from the last half of the 17th century to 18th century. They will understand the differences of the performing patterns among the periods and areas and learn to play the pieces according to the specific features.  - Baroque cello: Attendees learn how to play the organ repertoires of the 17th and 18th centuries with the method well suited for the specific characteristics of the instrument of each period.  Caurse plan:  - Each attendee will have a one-on-one lesson with an instructor.  - Each attendee will coordinate/organize annual	【英】到達目標・カリキュラム上の位置付け	Please contact the lecturer for further information.
research.  【英】テキスト・参考文献 Please contact the lecturer for further information.		- Baroque vocal music: Instruction will be given in how to control vibrato, how to take interval taking rhythm and pitch in consideration, and how to perform reflecting modification and improvisation, while keeping a balance in vocalization, resonance and support.  - Baroque violin: Practice how to play violin repertoires written in c. 1600 to c. 1800 to fit the pattern of the period.  - Recorder: There are many repertoires written for recorders from the Mediaeval, Renascence and Baroque to the modern times. In the class, the attendees will learn how to play the recorder and the patterns for different periods to nurture the real professionals.  - Cembalo: Attendees practice further specialized skills to play cembalo. They examine the methods to realize specific expressions required to play pieces from different periods and geographical areas while keeping historical perspectives.  - Fortepiano: Attendees will examine major piano repertoires for the 200 years from c. 1700 (when the piano was first invented) to the current time, specifically in their play styles for the fortepiano (the instrument these pieces were written with), constructions and historical background, and try to find the real quality of these pieces.  - Baroque cello: Attendees learn the repertoires written mainly from the last half of the 17th century to 18th century. They will understand the differences of the performing patterns among the periods and areas and learn to play the pieces according to the specific features.  - Baroque organ: Attendees learn how to play the organ repertoires of the 17th and 18th centuries with the method well suited for the specific characteristics of the instrument of each period.  Course plan:  - Each attendee will have a one-on-one lesson with an instructor.  - Each attendee will coordinate/organize annual "Doctoral Recital" to show the progress of his/her research.

【英】準備学習内容・時間の目安	Please contact the lecturer for further information.
【英】成績評価基準・課題・フィードバック	Please contact the lecturer for further information.
【英】学生へのメッセージ	Please contact the lecturer for further information.
【英】オフィスアワー	Please contact the lecturer for further information.

#### 【学生や社会からの要請への対応】

本研究科を修了した学生の多くは、作曲家や演奏家など音楽家としての活動をおこなうことはもとより、大学等の高等教育機関における教育者・指導者の立場に立つことも求められている。そのような際には、専門領域に関する高度な技能・知識のみならず、音楽芸術諸領域や音楽教育に関する知識も専門的なレベルにおいて要求されることが多く、また学生もそうした能力の獲得を必要としている。

他専攻の開設授業を履修可能とした課程編成はそうした要請への対応の1つである。また、音楽文化学内には、音楽学部における楽理科・音楽環境創造科の延長線上にある音楽学や音楽音響創造・芸術環境創造に加えて、大学院のみの研究領域として音楽教育・ソルフェージュ・応用音楽学・音楽文芸の諸領域が設けられ、教育者・指導者に必要な音楽文化および教育に関する広範な領域についての学習が可能となっている。

さらにはお茶の水女子大学や東京外国語大学との単位互換制度により、音楽文化にとどまらないさまざまな分野の最新の研究に触れられる機会を確保し、学生の知識・視野の拡大を図っている。

#### 【授業形態の組合せと学習指導法の工夫】

音楽学部同様あるいはそれ以上に、本研究科も個人レッスンや少人数によるグループ指導(演習・実習等)を中心とした授業形態をとっている。その一方で、1)異なる専攻の複数の教員による授業の開設(「声楽特殊研究」)を通じた横断的で重層的な学習指導の試み、2)アンサンブル教育の重視(「重唱特別演習」・「室内楽実習」・「邦楽アンサンブル」等)、3)「音楽文芸総合演習」(音楽文芸)など討論形式の授業の導入、など多角的な授業形態を取りいれ、学生の研究内容の深化を目指している。

実技系専攻においては、博士後期課程における「博士リサイタル」や、修士課程における「修士リサイタル」など、学生の成果を公開する場の提供と単位化をおこない、音楽研究科という特徴を生かした教育方法が実践されている。さらには、定期演奏会等の学内演奏会への参加も、指導との組み合わせにおいて効果的に利用されている(資料 4-9, 4-10)。また学科系専攻では、国内外の学会等での研究発表が積極的に行われており、本研究科の高いレベルを示している。

さらに、本研究科においても特別講座等の課程外の授業が積極的に利用されており、各界第一人者の外部講師による講演・指導が、学習・研究に大きな刺激と効果を与えている(資料 4-11(P. 4-19~4-22))。

資料 4-9 平成27年度 音楽研究科 公開試験等演奏会 一覧(無料演奏会)

		会場	開催日
No.	演奏会名     修士リサイタル (ピアノ)	<del>工物</del> 第6ホール	用准口 H27.4.17
2	修士リサイタル(ピアノ)		
3	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール 第6ホール	H 27. 4. 21
4	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H 27. 4. 24 H27. 4. 28
5	修士リサイタル(ヴァイオリン)	第6ホール	H27. 5. 12
6	修士リサイタル(打楽器)	第6ホール	H27. 5. 19
7	修士リサイタル (ヴァイオリン)	第6ホール	H27. 6. 1
8	修士リサイタル (ヴァイオリン)	第6ホール	H27. 6. 11
9	修士リサイタル (クラリネット)	第6ホール	H27. 6. 25
10	修士リサイタル (チューバ)	第2ホール	H27. 6. 25
11	修士リサイタル (フルート)	第6ホール	H27. 10. 7
12	修士リサイタル (ザックス)	第6ホール	H27. 10. 19
13	修士リサイタル (オーボエ)	第6ホール	H27. 10. 22
14	修士リサイタル(打楽器)	第6ホール	H27. 10. 23
15	修士リサイタル (サックス)	第6ホール	H27. 10. 26
16	修士リサイタル(クラリネット)	第6ホール	H27. 10. 30
17	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H27. 11. 4
18	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H27. 11. 12
19	修士リサイタル (トランペット)	第1ホール	H27. 11. 17
20	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H27. 11. 20
21	修士リサイタル (ヴァイオリン)	第6ホール	H27. 11. 30
22	修士リサイタル(声楽)	第6ホール	H27. 12. 15
23	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H28. 1. 26
24	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H28. 1. 27
25	修士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H28.1.28
26	修士リサイタル(管打)	第6ホール	H28.1.29
27	修士リサイタル(管打)	第6ホール	H28.2.1
28	修士リサイタル(声楽)	第6ホール	H28. 2. 17
29	修士リサイタル(声楽)	第6ホール	H28. 2. 19
30	修士リサイタル(ヴィオラ)	第6ホール	H28.3.15
31	学位審査演奏会(修士課程:弦楽)	第6ホール	H28.1.19
32	学位審査演奏会(修士課程:声楽)	奏楽堂	H28.1.19
33	学位審査演奏会(修士課程:声楽)	奏楽度	H28.1.20
34	学位審査演奏会(修士課程:弦楽・室内楽)	第6ホール	H28. 1. 21
35	学位審査演奏会(修士課程:オルガン)	奏楽堂	H28. 1. 25
36	学位審査演奏会(修士課程:邦楽)	第6ホール	H28.1.25
37	学位審査演奏会(修士課程:ピアノ)	第6ホール	H28.1.26
38	学位審査演奏会(修士課程:ピアノ)	第6ホール	H28. 1. 27
39	学位審査演奏会(修士課程:ピアノ)	第6ホール	H28. 1. 28
40	学位審査演奏会(修士課程:オペラ)	奏楽堂	H28.1.28
41	学位審査演奏会(修士課程:オペラ)	奏楽堂	H28.1.29
42	学位審查演奏会(修士課程:管打楽)	第6ホール	H28.1.29
43	学位審査演奏会(修士課程:管打楽)	第6ホール	H28.2.1
44	学位審査演奏会(修士課程:古楽)	奏楽堂	H28.2.2
1	博士リサイタル(声楽)	第6ホール	H27. 4. 15
2	博士リサイタル(声楽)	第6ホール	H27. 4. 25
3	博士リサイタル(声楽)	第6ホール	H27.10.8
4	博士リサイタル (オペラ)	第6ホール	H27.11.24

5	博士リサイタル (声楽)	第1ホール	H28.1.7
6	博士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H28.1.13
7	博士リサイタル (邦楽)	第6ホール	H28.1.15
8	博士リサイタル (声楽)	第 1 ホール	H28.2.19
9	博士リサイタル (古楽)	第2ホール	H28.3.15
10	博士リサイタル(ピアノ)	第6ホール	H28.3.17
11	博士リサイタル (声楽)	第6ホール	H28.3.23
12	博士リサイタル (声楽)	第6ホール	H28.3.30
13	課程博士学位審査会演奏審査会 (邦楽)	第6ホール	H28.2.4
14	課程博士学位審査会演奏審査会 (邦楽)	第6ホール	H28.2.9
15	課程博士学位審査会演奏審査会(ピアノ)	第6ホール	H28.2.14
16	課程博士学位審査会演奏審査会 (邦楽)	第6ホール	H28.2.14
17	課程博士学位審査会演奏審査会 (声楽)	第6ホール	H28.2.20
18	課程博士学位審査会演奏審査会 (声楽)	第6ホール	H28.2.20

# 資料 4-10 平成 27 年度音楽学部·音楽研究科教育成果発表例(公開試験以外)

No	演奏会名	会場	開催日	発表学生の学	入場
				科·専攻	者数
1	同声会新人演奏会 第1部 (昼夜通し券)	奏楽堂	2015/4/11	音楽学部	476
2	同声会新人演奏会 第2部 (昼夜通し券)	奏楽堂	2015/4/11	音楽学部	590
3	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演	奏楽堂	2015/4/17	音楽学部	910
	奏会(藝大定期第362回)				
4	管打楽器シリーズ 2015	奏楽堂	2015/5/22	管楽	719
	「ベルリン・フィル首席トロンボーン奏者 オ				
	ラフ・オットを迎えて」				
5	第52回藝大学生オーケストラ (藝大定期第	奏楽堂	2015/5/28	学生オーケス	572
	369 回)			トラ	
6	東京藝大チェンバーオーケストラ 第25回	奏楽堂	2015/6/20	チェンバーオ	463
	定期演奏会			ーケストラ	
7	ベルリン・フィル首席クラリネット奏者 ヴ	奏楽堂	2015/7/9	管楽	702
	エンツェル・フックスを迎えて				
8	藝大 21 和楽の美 邦楽絵巻「ヒミコ」	奏楽堂	2015/9/11	邦楽	563
9	藝大オペラ定期 第61回 第1日	奏楽堂	2015/10/3 ~	声楽	847
			4		
10	管打楽器シリーズ 2015 名手で聴くバロック	奏楽堂	2015/10/17	管楽器	545
	音楽「オール協奏曲プログラム」				
11	弦楽シリーズ 2015 フランスの名手たち「フ	奏楽堂	2015/10/31	弦楽	731
	オーレとドビュッシー」				
12	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第	奏楽堂	2015/11/21	声楽	974
	373 回)				
13	藝大定期吹奏楽第81回	奏楽堂	2015/11/23	管打楽	1,072
14	ピアノシリーズ 2015 ブラームス室内楽のよ	奏楽堂	2015/11/29	弦楽	718
	ろこび第4回				
15	邦楽定期演奏会第81回	奏楽堂	2015/12/2	邦楽	950
16	藝大定期室內楽 第41回 第1日	奏楽堂	2016/2/6~7	弦楽・管打楽	
17	東京藝大チェンバーオーケストラ 第22回	奏楽堂	2016/2/11	チェンバーオ	
	定期演奏会			ーケストラ	

資料 4-11 平成27年度 特別講座等

		F 及 特別語座寺	
No.	対象	題目	講師氏名
			(講師所属等)
1	楽理及び全科	"Im wunderschönen Monat Mai." 175	マティアス・ベント(デュッセル
		Jahre Schumanns Dichterliebe op.48	ドルフのローベルト・シューマン
		「シューマンの《詩人の恋》の 175 年」	研究所研究員)
2	器楽	元ウィーンフィル首席ホルン奏者ギュ	ギュンター・ヘーグナー(元ウィ
		ンター・ヘーグナー氏による特別講座	ーンフィル首席ホルン奏者)
3	管打楽	総合ゼミナール『音楽大学生のための就	玉虫美香子(公益財団法人東京都
		職入門講座―楽理科卒業生を迎えて―』	歴史文化財団) ・畠山正成(株式
			会社ビーマップ)
4	オルガン	フランスのオルガン音楽	エリック・ルブラン(オルガニス
			<b>ト</b> )
5	弦楽	フェデリーコ・アゴスティーニ ヴァイ	フェデリーコ・アゴスティーニ(ヴ
		オリンマスタークラス	ァイオリン奏者)
6	楽理及び全科	ネパールのサーランギ: その様式と文	バラト・ネパリ(カトマンズ大学
		化	芸術学部音楽科客員教授、サーラ
			ンギ奏者)
7	管打楽	クラリネット特別講座	パスカル・モラゲス(パリ国立高
			等音楽院教授、パリ管弦楽団第1
			ソロクラリネット奏者)
8	管打楽	フルート特別講座	サラ・ルヴィオン(フルート奏者)
9	楽理及び全科	   琴律研究の師・沈知白先生を語る	   陳 応時(上海音楽学院音楽学教
	7C. 12 / C 11 / C	7 H 30 78 3 E. VOSAN E 78 E 18 C	授、中国音楽史学会・中国学律学
			学会顧問)
10	音楽環境創造、音	"Composing electronic music from	カルロ・フォルリヴェジ(イタリ
	楽音響創造の大	environmental sounds " 「環境音から	ア国立ロディ音楽院教授)
	学院生	の電子音楽」	
11	作曲、楽理	サーリアホ・レクチャーコンサート(フ	カイア・サーリアホ(フィンラン
	11 - 1 - 11 - 1	ルート:窪田恵美 コンピュータ技術:	ド学派として知られる女流作曲
		折笠敏之)	家)
12	声楽・オペラ専攻	ジュゼッペ・サッバティーニ氏特別講座	ジュゼッペ・サッバティーニ(テ
	の大学院生		ノール歌手)
13	全学生	<u>│</u> │三味線音楽・江戸風俗と長唄	池田弘一(神田外語大学教授)
14	管打楽	J. ボクン クラリネット特別講座	Jan Jakub Bokun (ポーランド
		(YAMAHA 寄附講座)	のクラリネット奏者、指揮者)
15	弦楽	アントニオ・メネセス特別講座 チェロ	アントニオ・メネセス(チェロ奏
		マスタークラス	者)
16	全学生	グローバル市場で活躍できる音楽家に	チェズ・ジェンキンス (ユニバー
		なるためのキャリア形成法 Part1,2	サル・ミュージック・インターナ
			ショナルのバイスプレジデント)
17	管打楽	コントラファゴット特別講座	ビョルン・グロート (リューベッ
			ク音楽大学コントラファゴット講
			師)
18	室内楽・弦楽	ライプツィヒ弦楽四重奏団特別講座	ライプツィヒ弦楽四重奏団
19	作曲・楽理	湯浅讓二、自作を語る	湯浅讓二(作曲家)
10	11 四 个任	N M MX — / H I L C HI O	

20	音楽環境創造、音 楽音響創造の大	Composing with sounds and images	ヤルサロー・カプチンスキー (作 曲科・ピアニスト)
	学院生		
21	全学生	海を越えた太鼓――アメリカにおける 太鼓の発展とスタンフォード大学にお ける取組み	ステファン・サノ (スタンフォー ド大学教授、同大学太鼓顧問、ス ラック・キー・ギター奏者)
22	全学生	レオニード・アニシモフ特別講座「イン スピレーションへの道」	レオニード・アニシモフ (ウラジ オストク室内ドラマ劇場芸術監 督、俳優、ワシントン大学大学院 客員教授)
23	管打楽	トロンボーン特別講座	ミシェル・ベッケ (リヨン国立高 等音楽院教授、ローザンヌ高等音 楽院教授)
24	管打楽	クラリネット特別講座	ファブリツィオ・メローニ (ミラ ノ・スカラ座管弦楽団首席クラリ ネット奏者)
25	弦楽	チェロ特別講座マスタークラス	石坂 団十郎 (チェロ奏者)
26	楽理及び全科	日系アメリカ人の戦争記憶と日本芸能:ドキュメンタリー映画《隠れた遺産》 を語る	シャーリー・ムラモト(日系3世。 生田流筑紫会大師範)、タカヨ・ フィッシャー(日系2世。女優、 声優、歌手)
27	全学生	ミハイル・カニュカ氏 (プラジャーク・ クヮルテテットチェロ奏者) 特別講座	ミハイル・カニュカ (プラジャー ク・クヮルテットチェロ奏者)
28	管打楽	オラフ・オット トロンボーン特別講座	オラフ・オット (ベルリンフィル ハーモニー管弦楽団首席トロンボ ーン奏者)
29	声楽・古楽	ニール・マッキー教授特別講座 ①声楽(英米歌曲演奏) ②古楽(ヘンデル、パーセルの声楽曲に ついて)	ニール・マッキー (英国王立音楽 院教授)
30	全学生	モーツァルト晩年の断片を補完する一 二つの弦楽五重奏断片(1787年)を中心 に	ティモシー・ジョーンズ (王立音 楽院副院長)
31	オルガン	ポジティフオルガン調律実習	マチュー・ガルニエ (オルガン製作家)
32	音楽環境創造	クラシック音楽の録音手法の理論と実 践	ジャン=マリ・ヘイセン (ポリフェ ミニア・インターナショナルのレ コーディングエンジニア、ディレ クター)
33	全学生	現代邦楽の夕べⅡ ~作品と鼎談~	中島 靖子(筝曲生田流 正派邦 楽会理事長、正派家元、演奏家・ 作曲家)
34	管打楽	バストロンボーン・オーケストラスタデ ィ講座	ポール・ミルナー (現ロンドン交 響楽団首席バストロンボーン奏 者)
35	管打楽	オーボエ特別講座	モーリス・ブルグ(パリ管弦楽団ソ ロ・オーボエ奏者、指揮者)

36	管打楽	トランペット特別講座	パシ・ピリネン (トランペット奏 者)
2.7	 古楽	ヴァルター・ファン・ハウヴェ リコー	ヴァルター・ファン・ハウヴェ (リ
37	白米		
		ダー特別講座	コーダー奏者、クワドロ・オトテ
			ール、リトル・コンソートのメン
			バー、アムステルダム音楽院教育
			学部長)
38	声楽 大学院生	ライナー・ホフマン氏 ドイツ歌曲講座	ライナー・ホフマン(声楽伴奏者)
39	全学生	クリスチャン・イヴァルディ氏 室内楽	クリスチャン・イヴァルディ(パ
		特別講座	リ・エコール・ノルマル音楽院教
			育顧問)
40	作曲・打楽器	ティリー・ミログリオ 現代打楽器作品	ティリー・ミログリオ(打楽器奏
		によるワークショップ	者)
41	ピアノ・管打楽	イザベル・カンピオン特別講座<音楽家	イザベル・カンピオン(運動療法
		のための運動療法>	士、アマチュアチェリスト)
42	全学生	シューベルト音楽の「情動」を分析する	Micheal Spitzer (リヴァプール
			大学教授)
43	楽理・音楽学大学		ヴァレンティナ・スズケイ(トゥ
10	院生		ブグレングイグ スペクト ( 1 グー)   バ共和国功労研究者)
44	弦楽	ジャック・リーベック ヴァイオリン特	ジャック・リーベック(英国王立
44		別講座	音楽院、ヴァイオリニスト)
4.5	<b>人兴</b> 4	ピアノ・マスタークラス	ジャン=クロード・ペヌティエ(ピ
45	全学生		
1.0	→ 严 ₩	ダルトン・ボールドウィン フランス歌	アニスト)
46	大学院生		ダルトン・ボールドウィン(プリ
		曲特別講座	ンストン大学客員教授、オーバリ
			ン音楽院名誉教授、ジュリアード
	A 334 st		音楽院客員教授)
47	全学生	ジャック・ルヴィエ教授 ピアノマスタ	ジャック・ルヴィエ(モーツァル
	Mr. C C.	ークラス	テウム音楽大学教授)
48	管打楽	サクソフォーン特別講座	ケネス・ツェ (アイオワ大学教授)
49	ピアノ	アンドラーシュ・ケメネシュ教授 ピア	アンドラーシュ・ケメネシュ(ピ
		ノ・マスタークラス	アニスト)
50	邦楽	現代筝曲の軌跡―演奏家の視点から―	野坂 操壽 (桐朋学園芸術短期大
			学教授、筝曲家)、沢井 一恵(筝
			曲家)
51	声楽・古楽	17世紀イタリアの歌唱装飾について~	ゲルト・テュルク (バーゼル・
		カッチーニとベルンハルトを中心に~	スコラ・カントールム教授)
52	作曲・楽理	松平頼暁 自作について	松平賴暁(立教大学教授、作曲家)
53	邦楽	   「平家」から見た日本音楽の歴史	│ │薦田 治子(武蔵野音楽大学教授、
	•		日本音楽研究家、元本学非常勤講
54		   杉山 康人 テューバ特別講座	杉山 康人(クリーヴラウンド管
	H 44 215	13 // urr /	弦楽団首席テューバ奏者)
55	全学生		奈良ゆみ(ソプラノ歌手)、ジェ
	,	歌曲を語る(レクチャー・コンサート)	イ・ゴットリーブ (ピアニスト)
56	全学生	ドビュッシー・ラヴェル・20世紀のピ	ミッシェル・ベロフ (ピアニスト)
30	キチャ	アノ音楽	
		/ / 目末	

57	管打楽	即興演奏特別講座	マルク・ビラノバ(新進気鋭のサ
			クソフォーン奏者)
58	声楽	ザ・キングス・シンガーズ特別講座	ジョナサン・ハワード、ジュリア
			ン・グレゴリー (声楽グループ)
59	オルガン	オルガン マスタークラス	ヴォルフガング・リュプサム(オ
			ルガニスト、作曲家)
60	全学生	ライナー・ホーネック特別講座	ライナー・ホーネック(ウィーン・
			フィルハーモニー管弦楽団のコン
			サートマスター)

#### 【主体的な学習を促す取組】

学生の主体的な学習を促すことを目的に、特に実技系専攻の学生に対しては練習室の確保に取り組んでいる。平成26年度の校舎改修により、大幅に練習室・合奏室の防音性能を向上させた他、練習室を授業時間外に使用させることや、レッスン室を事情に応じて練習室として使用することを認めるなど、日常的に自主学習の機会提供をおこなっている。さらには、練習室の効率的な稼動を目指し、その使用方法についても随時改善をおこなっている。音楽文化学専攻においても、研究領域ごとに大学院学生専用のスペースを確保し、学生が個人もしくは共同で研究活動に従事できる環境の整備を進めている(資料4-12,4-13)。

また、こうした学習・研究活動に向かうモチベーションを与えるため、学外からの依頼 演奏に対する積極的な参加の推進や、出演者決定のためのオーディションの導入、あるい は優秀論文に対する口頭発表の場の提供(音楽学)など、さまざまな取り組みをおこなっ ている(資料 4-14, 4-15)。

さらに,研究科の枠を超えて音楽音響創造と映像研究科との連携を推進し,それが数々の受賞につながっている。

資料 4-12 レッスン室,練習室等の数

種類	室数	面積(m²)
レッスン室	107	3,548
練習室	128	2,549
合奏室	10	710
院生室, ゼミ室等	29	1,058
ホール	7	1,879
奏楽堂	1	6,540

※奏楽堂の面積には楽屋や機械室等も含む。

資料 4-13 貸出用楽器一覧

種類	数量	種類	数量	種類	数量
ヴァイオリン	40	チューバ	17	地歌三絃(生田流)	48
ヴィオラ	36	ワーグナーチューバ	8	清元・常磐津三味線	13
チェロ	32	ホルン	40	三味線(長唄)	117
コントラバス	27	トロンボーン	36	胡弓(生田流)	9
ハープ	11	スーザーホーン	0	能管	23
弦楽用弓	141	リコーダー	44	笙	2
ヴィオラダガンバ	13	オーボエダカッチャ	2	篳篥	6
ヴィオラダモーレ	1	フラウトトラベルソ	13	龍笛	9
リュート	2	オーボエダモーレ	10	神楽笛	2
ギター	5	バグパイプ	1	高麗笛	5
ピッコロ	7	バロックオーボエ	7	尺八	28
フルート	29	クラムホルン	5	囃楽器	17
オーボエ	16	バロックランケット	1	大太鼓	2
コールアングレ	10	バセットホーン	4	ガムラン	138
クラリネット	62	金管古楽器	9	ガムラン用影絵人形	41
バスクラリネット	11	フリューゲルホルン	3	印度楽器	25
ファゴット	9	ポストホルン	2	カヤグム	11
コントラファゴット	5	ハンドベル	3	中国楽器	30
サクソフォーン	39	ヘッケルフォーン	1		
コルネット	20	ポストホルン	2		
トランペット	64	筝 (山田流)	61		
アルトホーン	6	十七絃(山田流)	2		
バリトンホーン	6	三絃(山田流)	23		
コントラバスクラ	5	筝 (生田流)	73		
バセットホーン	4	十七絃(生田流)	5		

# 資料 4-14 音楽学部・音楽研究科の顕彰制度一覧

	奨学金等名	対象学科·専攻
1	安宅賞	全学科·専攻
2	浄観賞	邦楽
3	宮城賞	邦楽
4	常英賞	邦楽
5	長谷川賞	作曲
6	中能島賞	邦楽
7	松田トシ賞	声楽
8	クロイツァー記念音楽賞	器楽(ピアノ)
9	アドリアネ・ムジカ賞	器楽(ピアノ)
10	大賀典雄賞	声楽、器楽(ピアノ)
11	武藤舞奨学金	声楽、音楽環境創造
12	藝大クラウディア賞	器楽(ピアノ)
13	藝大クラウディア大賞	器楽(ピアノ)
14	宗次徳二特待奨学生	声楽、器楽(ピアノ、弦楽、管打楽)
15	卒業·修了作品買上	作曲
16	アカンサス音楽賞	全学科·専攻
17	同声会賞	全学科•専攻

資料 4-15:演奏依頼一覧(平成27年度)

<u> </u>	7 10.	<b>澳</b>	사 듯	八十八二十八八			
No.	月	日	曜日	演 奏 会 名	内 容	会 場	主催
1	4 月	2 日	木	平成27年度東京工業大学学	ピアノ	東京工業	東京工業
				部入学記念ピアノ演奏会		大学	大学
2	4 月	17 日		ベーゼンドルファーランチタイ	ピアノ	中野坂上ベ	ベーゼンド
	~	~		ムコンサート		ーセ゛ント゛ルファー	ルファー東
	3 月	18 日		(毎月1回、全12回)		ショールーム	京
3	4 月	22 日	水	フェルメール絵画に描かれた	チェンバロ等、	東洋文庫	(公財)東
				17世紀オランダ古楽器の説明	15 回開催予定	ミュージ	洋文庫
				と実演		アム	
4	4 月	23 目	木	木曜コンサート	ピアノ	台東区ミ	(公財)台
	~	~		※毎月1回各専攻毎に開催		レニアム	東区芸術
	3 月	17 日				ホール	文化財団
5	5 月	18 日	月	京都・国際音楽学生フェステ	V n , Cb	京都府立	(公財)口
				ィバル2015 (5/18~5/28)		府民ホー	ーム・ミュ
						ルアルテ	ージック・
						1	ファンデ
							ーション
6	5 月	30 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	戸頭中学	取手市
				奏楽指導)		校ほか	
7	6 月	6 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	藤代中学	取手市
				奏楽指導)		校	
8	6月	6 日	土	平成27年度 安曇野市内中	管打楽器	安曇野市	安曇野市
				学校への楽器演奏指導		立穂高西	教育委員
						中学校他	会
9	6月	6 日	土	【受託演奏】レクサス・ミニ	クラリネット四	レクサス	東京トヨ
	~	~		コンサート	重奏ほか	町田ほか	ペット
	7 月	25 目		※計 12 回開催 (各専攻)			(株)
10	6 月	13 目	土	伊達市吹奏楽きらめき事業	管打楽器講習、	梁川中学	伊達市教
	6 月	14 日	目	」 「吹奏楽指導」	アンサンブルミ	校	育委員会
	ОЯ	14 H	Н		ニコンサート		
11	6 月	20 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	藤代南中	取手市
				奏楽指導)		学校	
12	6 月	20 日	土	ヤマハコンサート・シリーズ	ピアノ	ヤマハホ	(株)ヤマ
	6月	21 日	日			ール	ハ
13	6月	23 日	火	【受託演奏】メトロ・ステー	Saxカルテット、	メトロ渋	(公財)メ
	,,,			ションコンサート in 渋谷第	Tb カルテット	谷駅13	トロ文化
				3 🗉		出口付近	財団
14	6 月	27 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	戸頭中学	取手市
	0 /,	2. 5		奏楽指導)	B 11 // III	校ほか	- 1 II
15	6 月	28 日	日	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	取手市第	取手市
10	0 /1	20 H		奏楽指導)	日11水加	二中学校	27. 1.11.
16	7月	4 日	土	東京藝術大学音楽学部生によ	声楽、ピアノ、	取手市戸	取手市文
10	1 )1	H		る「ふれあいコンサート」	弦楽	頭公民館	化芸術課
17	7月	8 日	水	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲ	木管楽器	霞ヶ関コ	文化庁・霞
' '	1 77	ОН	//\	【文託供条】段ヶ渕コモング	/ 下日本前	段ヶ渕コ モンゲー	ケ関コモ
				楽器の世界~		ト ト 東 館 2	クタコーンゲート
				へ和 v / 匹 クト -		下来館 2	管理組合
						MELC	日生旭日

		ı	1	T	Τ	1	1
18	7 月	11 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	取手第一	取手市
				奏楽指導)		中学校他	
19	7 月	23 日	木	夏フェス 2015Touchi the Art	打楽器	ギャラク	あだち未
				Program 打楽器 DE リズムあ		シティ西	来創造ネ
				そび		新井文化	ットワー
						ホール	ク
20	7 月	25 日	土	【受託演奏】レクサス・ミニ	金管五重奏	レクサス	東京トヨ
				コンサート		府中	ペット
21	7 月	26 日	日	青淵文庫で聴くファミリーコ	弦楽四重奏	渋沢史料	渋沢史料
				ンサート&たてもののレクチ		館	館
				ヤー			
22	7 月	29 日	水	【受託演奏】霞ヶ関ビルディ	管打楽器等	霞ヶ関ビ	三井不動
				ングコンサート~JAZZの夕べ		ルディン	産 (株)
				~		グ	
23	7 月	29 日	水	【受託演奏】メトロ・ステー	F1 カルテット、	メトロ渋	(公財)メ
				ションコンサート in 渋谷第	金管五重奏	谷駅13	トロ文化
				3 回		出口付近	財団
24	7 月	30 日	木	【受託演奏】霞ヶ関ビルディ	声楽	霞ヶ関ビ	三井不動
				ングコンサート~アカペラ四		ルプラザ	産 (株)
				重唱の魅力~		ホール	
25	7 月	31 日	金	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲ	サクソフォン	霞ヶ関コ	文化庁・霞
				ート ミニコンサート~サク		モンゲー	ヶ関コモ
				ソフォン四重奏の夕べ~		ト東館 2	ンゲート
						階ロビー	管理組合
26	8月	28 日	金	馬車道コンサート第1回	ピアノクインテ	映像研究	大学院映
					ット	科馬車道	像研究科
						校舎1階	
27	8月	29 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	藤代南中	取手市
				奏楽指導)		学校	
28	9 月	19 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	藤代中学	取手市
				奏楽指導)		校	
29	9 月	26 日	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	取手第二	取手市
				奏楽指導·三校合同)		中学校	
30	9月	26 日	土	取手 JAZZ・DAY z ! 2 O 1 5	ビックバンド	取手市民	取手市
						会館	
31	9月	26 日	土	伊達市吹奏楽きらめき事業	管打楽器講習、	国立磐梯	伊達市教
	9月	27 日	日	「オータムスクール」	アンサンブルミ	青少年交	育委員会
	0 /1	H			ニコンサート	流の家	
32	9月	28 日	月	馬車道コンサート第2回	ピアノクインテ	映像研究	大学院映
					ット	科	像研究科
33	10 月	1 目	木	取手ウエルネスプラザ開館記	ピアノ、弦楽四	ウエルネ	取手市
				念コンサート	重奏、金管五重	スプラザ	
					奏		
34	10 月	3 目	土	取手市中学校と交流事業(吹	管打楽器	取手第一	取手市
				奏楽指導・三校合同)		中学校	
35	10 月	6 日	火	東洋文庫創立91周年記念レ	弦楽四重奏	東洋文庫	(公財)東
				セプション		ミュージ	洋文庫
						アム	
		L	·	<u> </u>	<u> </u>	1	<u> </u>

	1	1			T	T	ī
36	10 月	10 日	土	「ながさき文化のちから」創	吹奏楽指導等	福江文化	長崎県文
				生事業 青少年音楽セミナー		会館	化観光国
				in五島発表演奏会			際部文化
							振興課
37	10 月	11 目	目	成田市オリジナル・オペラ	オペラ	成田市文	成田市教
						化芸術セ	育委員会
						ンター	
38	10 月	11 日	日	第34回東和住区祭における	金管五重奏	東和地域	東和住区
				演奏		学習セン	センター
						ター体育	祭実行委
						館	員会
39	10 月	16 日	金	東京藝術大学表参道フレッシ	ピアノ	カワイ表	カワイ音
				ュコンサート		参道	楽振興会
40	10 月	17 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線、邦	邦楽科教	(公財)台
					楽囃子(笛、小	室	東区芸術
					鼓)、長唄		文化財団
41	10 月	24 日	土	邦楽フレッシュコンサート	邦楽科学生	台東区ミ	(公財)台
				2015		レニアム	東区芸術
						ホール	文化財団
42	10 月	24 日	土	【受託演奏】メトロ・ステー	ピアノカルテッ	メトロ渋	(公財)メ
				ションコンサート in 渋谷第	トほか	谷駅13	トロ文化
				3 回		出口付近	財団
43	10 月	25 日	日	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線、邦	邦楽科教	(公財)台
					楽囃子(笛、小	室	東区芸術
					鼓)、長唄		文化財団
44	10 月	25 日	日	【受託演奏】メトロ・ステー	ピアノクインテ	メトロ渋	(公財)メ
				ションコンサート in 渋谷第	ットほか	谷駅13	トロ文化
				4 回		出口付近	財団
45	10 月	31 日	土	第29回伊澤修二記念音楽祭	Saxカルテット、	長野県伊	伊那市
					指揮者、学生オ	那文化会	
					ケ	館ほか	
46	10 月	31 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線、邦	邦楽科教	(公財)台
					楽囃子(笛、小	室	東区芸術
					鼓)、長唄		文化財団
47	11月	1 目	目	馬車道まつり トワイライト	ブラスアンサン	関内ホー	大学院映
				コンサート 「東京藝大ウィ	ブル	ル大ホ	像研究科
				ンドオーケストラ」		ール	
48	11月	6 目	金	東京藝術大学表参道フレッシ	ピアノ	カワイ表	カワイ音
				ュコンサート		参道「パウ	楽振興会
						ゼ」	
49	11月	7 日	土	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線、邦	邦楽科教	(公財)台
					楽囃子(笛、小	室	東区芸術
					鼓)、長唄		文化財団
50	11月	8 日	月	平成27年度 安曇野市内中	管弦、ピアノ、	安曇野市	安曇野市
				学校への楽器演奏指導	アンサンブル、	立豊科北	教育委員
					ウィンドオーケ	中学校	会
					ストラ合同演奏		
					会他		
	L	l	<u> </u>	I .	I	<u> </u>	<u> </u>

				T	T	T	T
51	11 月	15 日	日	荒川第九演奏会	ソリスト	南千住第	(公財) 荒
						二中学校	川区芸術
						体育館	文化振興
							財団
52	11 月	17 日	火	馬車道コンサート第4回	室内楽	映像研究	大学院映
						科馬車道	像研究科
						校舎1階	
53	11 月	21 日	土	【受託演奏】北とぴあ国際音	クラシック公	北とぴあ	(公財)北
				楽祭 2015 藝大とあそぼう	演、企画	さくらホ	区文化振
				in 北とぴあ		ール	興財団
54	12 月	11 目	金	東京藝術大学表参道フレッシ	ピアノ	カワイ表	カワイ音
				ュコンサート		参道「パウ	楽振興会
						ゼ」	
55	12 月	12 日	土	【受託演奏】どりーむコンサ	学生オーケスト	府中の森	公益財団
				ート Vol. 94 オーケストラの	ラ	芸術劇場	法人府中
				屝 IV			文化振興
							財団
56	12 月	12 日	土	【受託演奏】LEXUSコン	オーケストラほ	奏楽堂	東京トヨ
	12 月	13 日	日	サート in 東京藝大 2 0 1 5	か		ペット株
	12 );	10 д	H				式会社
57	12 月	19 日	土	東京藝術大学音楽学部生によ	木管五重奏	福祉交流	取手市文
				る「ふれあいコンサート」		センター	化芸術課
58	12 月	19 日	土	中央区第九の会 トリトンス	声楽ソリスト	晴海トリ	中央区第
				クエア公演		トンスク	九の会
						エア・グラ	
						ンドロビ	
						_	
59	12 月	20 日	日	第35回「台東第九公演」	指揮者、ソリス	奏楽堂	台東区
					ト、管弦楽		
60	12 月	24 日	木	【受託演奏】第65回チャリ	指揮者、ソリス	東京文化	(社)朝日
				ティーコンサート「メサイア」	ト、管弦楽研究	会館大ホ	新聞厚生
					部	ール	文化事業
							団
61	12 月	25 日	金	足立区東和住区センター「学	Saxカルテット	足立区東	足立区東
				童クリスマスパーティー」		和住区セ	和住区セ
						ンター児	ンター
L						童館	
62	1月	9 日	土	フレッシュ名曲コンサート	声楽	日暮里サ	(公財)荒
				ニューイヤーコンサート		ニーホー	川区芸術
						ル	文化振興
L							財団
63	1月	9 日	土	高校生による「メサイア」全	声楽ソリスト	杜のホー	神奈川県
				曲演奏会		ルはしも	立音楽堂
						ک	
64	1月	11 目	月	大学院生コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホ	(株)ヤマ
						ール	ハ
65	1月	15 目	金	東京藝術大学表参道フレッシ	ピアノ	カワイ表	カワイ音
				ュコンサート		参道	楽振興会
	l .	i .	l .	1	ı	l .	

66	1月	23 日	土	伊達市吹奏楽きらめき事業第	管打楽器講習、	伊達市立	伊達市教
	1月	24 日	日	5 回交流活動	アンサンブルミ	桃陵中学	育委員会
	1 /,	21 H	H		ニコンサート	校	
67	1月	31 目	土	【受託演奏】東京藝術大学コ	弦楽五重奏、金	坂東市民	坂東市文
				ンサート	管五重奏	音楽ホー	化振興事
						ル	業団
68	2 月	5 日	金	東京藝術大学表参道フレッシ	ピアノ	カワイ表	カワイ音
				ュコンサート		参道「パウ	楽振興会
						ゼ」	
69	2 月	5 日	金	邦楽鑑賞教室	雅楽	学習院初	学習院初
						等科正堂	等科
70	2 月	6 日	土	東京藝術大学音楽学部生によ	弦楽、ピアノ	ウエルネ	取手市文
				る「ふれあいコンサート」		スプラザ	化芸術課
						多目的ホ	
						ール	
71	2 月	7 日	日	平成27年度 安曇野市内中	管打楽器	安曇野市	安曇野市
				学校への楽器演奏指導		立穂高西	教育委員
						中学校他	会
72	2 月	16 日	火	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホ	(株)ヤマ
						ール	ハ
73	2 月	19 目	金	恵泉女学園中学校2年生邦楽	長唄、三味線、	恵泉女学	恵泉女学
				鑑賞教室	邦楽囃子	園グレイ	園中学・高
						スホール	等学校
74	3 月	4 日	金	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホ	(株)ヤマ
						ール	ハ
75	3 月	5 日	土	足立区第20回こころの健康	弦楽四重奏	足立区役	こころと
				フェスティバル		所庁舎ホ	健康フェ
						ール	スティバ
							ル実行委
							員会(足立
							区保健所)
76	3 月	23 日	水	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホ	(株)ヤマ
						ール	ハ

#### (2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準)期待される水準にある。

#### (判断理由)

授業形態・指導方法ともに、学生の研究進捗を促すべく有効な取り組みが行なわれている。アンサンブル教育を重視した授業形態は、本研究科に期待されているより高度な演奏水準に応えるための1つとして特筆すべきものである。また、公開の場での演奏に結びつく主体的学習の場の提供や、競争的要素の導入は、学生の成果創出に大きな役割を果たしており、数多くの依頼演奏等においてその水準の高さが如実に示されている。

大学院としての教育・研究目的を明確にするための改善を続け、課程編成の整備や、新たな研究領域の開設、さらには単位互換制度により、本研究科が期待されている教育内容・指導内容を十分満たしている。また、学生のより幅広い音楽文化に関する知識・教養・技能習得の機会を確保・提供しており、社会が本研究科修了生に対して求めている以上の、質の高い、指導的立場にふさわしい人材育成を行なうに相応しい課程編成である。

#### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

#### 観点 学業の成果

#### (観点に係る状況)

音楽研究科では、平成 22 年度より、音楽文化学専攻博士後期課程の学生の査読付き論文を掲載した『音楽文化学論集』(東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻 博士後期課程 研究論文集)を刊行し、博士論文作成の貴重なプロセスとして位置付けている。掲載された査読付き論文の数は、第1号(平成23年3月発行)から第6号(平成28年3月発行)まで計80本にのぼる。

実技系専攻における学力・資質・能力については、数多くのコンクール等において本研究科学生が高い評価を受け、輝かしい成果を示していることによって形となってあらわれている。また、学科系専攻においても学会等での研究発表が積極的に行われており、本研究科の高いレベルを示している。(別添資料 4-①(P. 4-34~P. 4-41)参照)

さらに、コンクール等にとどまらず、在学生・修了生が新聞・テレビ等において頻繁に取り上げられることは、本研究科の教育成果が常に注目を集め、その期待に違わぬ内容を持っていることを証明している。(別添資料 4-② (P. 4-42~4-43)参照)

アンケート結果に見られるように (資料 4-16 参照), 在学生では自己の目標の達成度や 学習環境について特に満足度が高くなっており、このことは高度な専門性を求められてい る大学院という教育課程において, その充実度がうかがえるものとなっている。また卒業 生の学部・研究科に対する満足度が 93%と極めて高いことも学業の成果に対する満足度の 高さを示している。

#### 資料 4-16 在学生, 卒業生アンケート関連設問抜粋(1)

平成27年度

	設問	肯定的選択肢を回答 割合	した者の
	(大学院修士2年生以上、博士2年生以上にお聞きしま	達成できた+ほぼ達成	
	す。) あなたは、昨年度、自分自身が立てた研究計画や目	できた	88%
	標を達成できましたか。		
在	本学の学習環境に関わることについて、どの程度満足し	満足している+まあ満	
学生	ていますか。①カリキュラム(授業科目体系)の構成	足している	76%
	(大学院学生の方にお聞きします。) あなたが受講してい	満足している+まあ満	
	る授業の内容や進め方、教員の研究指導の進め方につい	足している	67%
	て、全体としてどの程度満足していますか。		
	東京藝術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度	満足している+どちら	
	満足しましたか。	かといえば満足してい	93%
		る	
修	大学での授業や活動を通して、次の能力を身につけること	そう思う+いくらかそ	
了生	ができましたか。①実技や研究に係る専門的知識、技術と	う思う	88%
	その応用力		
	もし身近に芸術系大学への進学希望者がいる場合、東京藝	そう思う+いくらかそ	0.00/
	術大学を勧めたいと思いますか。	う思う	80%

## (2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準)期待される水準を上回る

(判断理由)

コンクールの結果又は学会等での発表 (別添資料 4-①, 4-②, (P. 4-34~4-43) 参照) に見られるように、本研究科の教育課程を経た(あるいは在籍している)学生は、国内外において非常に高い評価を受けており、専門的な学業の成果を社会に向けて示していると考えられる。

#### 観点 進路・就職の状況

#### (観点に係る状況)

修士課程・博士後期課程ともに、実技系専攻の学生については、必ずしも一般の大学におけるような就職の形態をとるわけではない。むしろ音楽家として広く社会において活躍することが、学生本人の希望であると同時に社会的要請でもある。修了生たちは一流の音楽家として国内外で活躍しているが、こうした分野においては数値的把握が難しいのが実状である。(資料 4-16, 4-17, 4-18, 4-19)

一方音楽文化学専攻おいては、芸術に関わるような企業への就職も見られるが、特筆すべきは博士学位取得後数年、もしくは取得直後に大学教員としての就職が一定数見られることである。ポスドク問題など、学位取得者の就職については非常に困難な状況が続いており、特に人文科学系分野においては改善の方向性が見られない中で、この数年専任教員を輩出していることは、博士後期課程における、学位授与促進も含めた課程改革の成果の一つであると考えられる。

# 資料 4-16 音楽研究科 平成 28 年3月修了者の進路状況(H28.5.1 までに判明した分)

#### ■修士課程

悠		修了 就職		進学				未定•		
区 分	者	教職	企業	非常	営	大学院	別科等	他大学等	海外留	他
	Į.	4汉 400	等	勤	I	(本学)	(本学)	(国内)	学	ĮE.
作曲専攻	4						1			3
声楽専攻	23			2	3	1			1	16
器楽専攻	49	1	4	4	9				5	26
指揮専攻	0									0
邦楽専攻	10				5					5
音楽文化学専攻	33	2	7	4	2	6				12
計	119	3	11	10	19	7	1	0	6	62

#### ■博士後期課程

		修了		就職		自	進学				未定・
	区 分	者	教職	企業	非常	営	大学院	別科	他大学等	海外留	他
			秋 110	等	勤		(本学)	(本学)	(国内)	学	16
	音楽専攻	17			7	1				1	8
	計	17	0	0	7	1	0	0	0	1	8

#### 資料 4-17 最近3年間の修了生の主な就職先企業名

読売日本交響楽団、京都市交響楽団、広島交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、バッハ・コレギウム・ジャパン、ミュンヘン室内オーケストラ、公益財団法人東京二期会、NHK、千葉大学医学部、九州大学学術研究員、東京福祉大学、静岡大学、学校法人増田学園、跡見学園中学校高等学校、学校法人国際学園、株式会社河合楽器製作所、竹山木管楽器製作所、公益財団法人新国立劇場運営財団、任天堂、ヴェントゥオノ、パソナ、教育出版株式会社、Alpha CRC、東京音楽センター、銀座ルノアール、八戸市役所、スクウェア・エニックス、ワット・コンサルティング、RamAir.LLC、カプコン、NPO 法人芸術家と子どもたち、ON THE LINE、(株)日本入試センター、日本ICS株式会社、インテリジェントシステムズ、(株)日音、BankART1929、三井不動産レジデンシャル株式会社

資料 4-18 在学生,卒業生アンケート関連設問抜粋

<u> </u>	10 位于工,十余工/0/1 万角建版的软件		
	設問	肯定的選択肢を回答し 割合	た者の
	(大学院修士2年生以上、博士2年生以上にお聞きします。) あなたは、昨年度、自分自身が立てた研究計画や目標を達成できましたか。	達成できた+ほぼ達成できた	88%
在学生	本学の学習環境に関わることについて、どの程度満足していますか。①カリキュラム(授業科目体系)の構成	満足している+まあ満足している	76%
	(大学院学生の方にお聞きします。) あなたが受講している授業の内容や進め方、教員の研究指導の進め方について、全体としてどの程度満足していますか。	満足している+まあ満足している	67%
	東京藝術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度 満足しましたか。	満足している+どちらかといえば満足している	93%
修了生	大学での授業や活動を通して、次の能力を身につけること ができましたか。①実技や研究に係る専門的知識、技術と その応用力	そう思う+いくらかそう思う	88%
	もし身近に芸術系大学への進学希望者がいる場合、東京藝 術大学を勧めたいと思いますか。	そう思う+いくらかそう 思う	80%

#### 資料 4-19 卒業・修了生アンケート:現在の職業

(複数回答可 単位%)

	_ , .									
会社員,団体職員	高等専門学校)	教員(大学,高等専門	(教員を除く)	自営業主又は	家,演奏家など)自由業(芸術家,作	・フリーター	学 生	主婦(夫)	その他	無 回 答
7.3	19.5	4.9	_	2.4	36.6	2.4	4.9	_	2.4	19.5

コンクールにおける在学生への評価(別添資料 4-①, 4-② (P. 4-33~4-34)参照), また在学生及び修了生の評価(資料 4-18 参照), 音楽関係の職業に従事している割合の高さ(上記、資料 4-17, 4-18 参照) など, 音楽に関わる世界において本研究科が非常に高い評価を受けていることがうかがえる。また, 修了生の満足度(資料 4-18)から, 本研究科の教育・研究システムが高い評価を得ていることも知ることができる。

#### (水準)期待される水準を上回る

#### (判断理由)

本研究科を修了した学生の多くが、演奏・教育等、さまざまな音楽の世界において活躍の場を得ていることは、音楽関係者からの高い評価と結びついており、本研究科の特徴に応じた進路を得ていると判断できる。また、特に人文系分野における大学教員への就職が困難な状況の下、本研究科修了生が上記のようにそのポストを得ていることは、修了生たちが競争率の高いポスト獲得を可能にするだけの専門的な知識・技能を身につけており、そうした能力に対して、高等教育・研究機関の関係者より、他大学修了者と比較してもきわめて優れた評価が与えられていることを示している。

#### Ⅲ 質の向上度の判断

(1)分析項目 I 教育活動の状況(観点 教育実施体制)

「社会発信型芸術創造イニシアティブ」の展開

音楽研究科リサーチセンター(平成 20~24 年度)は実技に基軸を置いた博士後期課程教育研究の国内外の取り組み調査を行い、研究指導や学位審査のあり方について検証を重ねた。「博士課程」教育・人材育成は世界の芸術系大学において必ずしも一般化されておらず、その意味で当該センターの活動は世界的に見ても先進的な取り組みの推進に寄与したといえる。

その活動成果を大学の教育指導体制に組み込むために音楽研究センター研究推進室(平成 25 年度)を設置し、「藝大ブランド」による音楽舞台芸術表現の創造と発信、効果的な社会発信方法の開発と研究により、大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実化と「社会発信型芸術創造イニシアティブ」の開発展開を企画構想した。

そして、この戦略的企画構想は音楽創造・研究センター(平成 26 年度~)によって実現となり、初年度には大学院音楽研究科の研究推進支援を目的に実技系修士・博士学生対象の授業を開講し、翌年度には開講授業をセメスター制に完全に対応させ、演習の単位取得を実習の履修要件とすることで個別指導に要する時間を大幅に短縮し、実技系大学院生論文作成支援体制継続の整備につとめている。

加えて、近年、欧米を中心に注目されてきた音楽系大学の教育研究領域に、「音楽家のための起業家的な精神とスキルの養成支援」(アントレプレヌール支援)がある。音楽創造・研究センターでは、アントレプレヌール支援の領域における国際的な動向を調査しながら、①音楽芸術に関する社会発信方法の開発、②新時代の芸術創造を担う人材育成、③さまざまなマニュアル等のツールの作成に取り組んでいる。

取組事例の一つとして、「邦楽科におけるグローバル・キャリア展開」がある。具体的には、モスクワ音楽院で毎年開催されている国際音楽祭「日本の心」に、自主企画で出演するまでの一連の流れを支援するプロジェクトとして、実際の公演のほか、演奏家個人ポートフォリオ・サイトの作成、企画案の準備、ワークショップの実施等を行った。

# 5. 映像研究科

Ι	映像研究科の教育目的と特徴	$\cdot \cdot \cdot \cdot 5 - 2$
П	「教育の水準」の分析・判定	$\cdots 5-3$
	分析項目 I 教育活動の状況	$\cdots 5-3$
	分析項目Ⅱ 教育成果の状況	$\cdots 5-27$
$\Pi$	「質の向上度」の分析・・・	• • • • • 5 – 32

#### I 映像研究科の教育目的と特徴

- 1. 東京芸術大学大学院映像研究科は、平成17年4月に新設の国立唯一の映像教育研究のための大学院組織であり、基礎となる学部を持たない独立研究科である。所在地は、神奈川県横浜市である。
- 2. 本研究科は、映像に関する学術的な理論及び応用を教授研究し、その奥義を究め、自立して創作活動と研究活動を行うに必要とされる、表現者としての問題発見能力と専門家としての問題解決能力という二つの能力を兼ね備えた表現者と教育研究者を養成することを目的としている。

近年、わが国のコンテンツ産業の立ち遅れが指摘されており、「知的財産推進計画」(2010~2015の各年、知的財産戦略本部決定)などにおいても、「コンテンツ人材育成」の重要性、世界の優秀なコンテンツ人材が集まる高等教育の拡充、海外クリエーターとの交流を通じた人材育成などが謳われており、コンテンツに関する人材育成(社会人教育を含む。)に加え、研究開発機能を有し、中核的な役割を果たす大学を支援し、国内外のクリエーターやその志望者が集まる拠点(コンテンツ版COE(Center OfExcellence))の形成を促進するとされている。

本研究科は、こうした社会的要請に応えるため、具体的には、下記のような人材の育成を 目指す。

- (1) 修得した多様な知識や技術を活かした,独創的な発想ができる表現者(映画監督,映像作家,映画技術者,メディアアーティスト,アニメーション作家,クリエーター,制作ディレクター)の育成。
- (2) 修得した多様な知識や技術に加えて、映像表現に関する専門知識と国際的視野を備え、映像文化に関する専門知識を必要とする社会・産業分野の要請に応えて活躍する人材(プロデューサー、映画祭やアート・イベントの企画立案者、プロデューサーコンテンツエンジニア、インターフェイスデザイナー、アーカイヴエンジニア)の育成。

また、博士後期課程にあっては上記に加え、本学の伝統的な特質である「つくる」という知見と経験を重視しながら、映像メディアにおける言語と文法を研究し、この新しい分野の体系化に寄与することのできる教育研究者の育成を目指す。

3. 東京芸術大学は、大学全体として、国立大学の中で唯一の芸術大学としての使命(即ち芸術家の育成と芸術創造の具現化)を果たすだけでなく、芸術をもって、より社会に貢献できる大学として各種の取組・活動を行うことを重視している。

そのため、本研究科においても、社会との接点を持った取組を取り入れていくことを推進している。

#### 「想定する関係者とその期待」

上記2. に記述のとおり、本研究科には、映像コンテンツ創造、映像メディア技術、映像メディア教育、映像メディア文化創造等の分野で活躍する人材の育成が期待されている。

## Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

#### 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

映像研究科は資料 5-1 に示したとおり、修士課程 3 専攻(映画、メディア映像、アニメーション)、博士後期課程 1 専攻(映像メディア学)からなる。

本研究科の映画専攻においては、映画制作の各過程で必要とされる技能別に、監督、脚本、プロデュース、撮影照明、美術、サウンドデザイン、編集について、メディア映像専攻では、多様化するデジタルメディア映像作品の制作(メディアデザイン、メディアアート)、それらの背景となる技術(メディア技術、メディア研究)について、アニメーション専攻では、アニメーションのプロデュース(企画制作)、制作(立体アニメーション、平面アニメーション)、研究・理論について、それぞれ専門とする教員を配置している。

特に映画専攻の領域区分は、今は失われてしまったスタジオシステムの職能区分に対応 しており、学んだ専門性がそのまま修了後に役立つものとなっている。

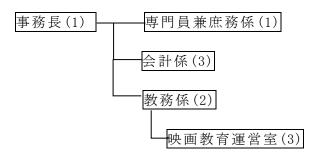
博士後期課程においては、資料 5-1 に示した研究科教員が協力して指導する体制としており、幅広い研究分野に対応できるようになっている。

資料 5-1: 大学院映像研究科の教育研究組織 (平成 27年 5月 1日現在)

講座	博士後期課程	修士課程	専門	分野	氏名
			nh == + rp ++ 4s	監督領域	黒沢 清教授 諏訪敦彦教授
			映画表現技術 研究分野	脚本領域	筒井ともみ教授
				プロデュース領 域	桝井省志教授
		映画専攻		撮影照明領域	柳島克己教授
			   映画制作技術	美術領域	磯見俊裕教授
			研究分野	サウンドデザイン 領域	長嶌寛幸教授
	映像メディア学専攻			編集領域	筒井武文教授
		メディア映像 専攻	創造表現研究 分野	メディアデザイン 研究領域	佐藤雅彦教授
映像メディア学講座				メディアアート研 究領域	藤幡正樹教授
			構想設計研究 分野	メディア技術研 究領域	桐山孝司教授
				メディア研究領 域	桂英史教授
				企画制作領域	岡本美津子教授
		アニメーション	創造表現研究 分野	平面アニメーショ ン領域	山村浩二教授
		専攻		立体アニメーショ ン領域	伊藤有壱教授
			研究·理論研究 分野	研究·理論領域	布山タルト教授

また,本研究科には事務部が置かれており,事務職員のほか,スタジオ運営等を担う技 術職員が配置されており,本研究科の教育運営を支える組織となっている。

#### 資料 5-2: 大学院映像研究科事務部 (平成 27年5月1日現在)



(映画教育関係事務担当/撮影スタジオ担当/機材担当 (契約))

入学試験においては、修士課程では第 1 次試験で「作品提出」、第 2 次試験で「課題作品提出」、「筆記試験」等行い(専攻によっては第 3 次試験まで)、博士後期課程も含めほぼ全ての専攻・領域で「口述試験」を実施するなど、きめ細かな選考を行っている。

メディア映像専攻では事前に研究室訪問を受付けており、入学後のミスマッチを防ぎ、 また研究内容の理解を深め、受験生の増加にも役立てている。

制作課題の内容に応じて、関連の技術者、アーティスト、プロデューサー等の専門家を適宜、特別講師、非常勤講師として招請し、専任教員とともに指導にあたっていただいており(資料 5-2, 5-3 参照)、現場で活躍するプロフェッショナルから、実学を、また国際性を学ぶことが出来る。

資料 5-3:特別講師等の例(平成 27 年度)

市山尚三	プロデュースゼミ	(株)オフィス北野
大口孝之	アニメーション史	映像クリエーター、映像ジャーナリスト
片渕須直	漫画 • 映画表現論	(株)クロブルエ
岸野雄一	アニメーションサウンド論	著述家、音楽家、俳優
キャレン セハ゛ンス゛	国際映画文化論	キズメットプロダクションズ CEO
小林美和子	メディア研究特別演習	日本女子体育大学
椎名ゆかり	マンガ論	翻訳者、コーディネーター、エージェント
七字幸久	映画表現技術ゼミ	映画監督、脚本家
鈴木昭彦	映画制作技術ゼミ	撮影監督、録音技師
高山博	メディア表現技法、サウンド論	作曲家
玉川直人	映画制作技術ゼミ	照明技師
土屋紳一	写真演習	アーティスト
中沢志乃	映画表現技術ゼミ	字幕・吹替・ゲーム翻訳・通訳業
根本伸一	映画表現技術ゼミ	照明技師
南徳昭	映画制作技術ゼミ	録音技師
三宅隆太	脚本研究	脚本家、映画監督

# 資料 5-4:外国人招待講演等一覧(平成 22~平成 27 年度)

講師氏名	職/国名	講演テーマ	実施年月日
イ・ジスン	韓国映画アカデミ教授/韓国	日仏講座 「アジアにおける共同製 作」	2010年6月1日
ヴァレリー=アン・ク リステン	ユニフランス東京事務所所長/ フランス	日仏講座 「日本におけるフランス映画」	2010 年 6 月 3 日
プリート・パルン	アニメーション監督 / エストニア	ストーリー・ワークショップ	2010年8月2日~4日
オルガ・パルン	アニメーション監督 / エストニア	砂絵 アニメーション・ワー クショップ	2010年8月2日~4日
トラン・アン・ユン	映画監督/ベトナム	コンテンツ産業講座 「ノルウェイの森」の世界 観	2010年11月29日
エルキ・フータモ	メディア考古学研究者・メディ アアートキュレーター・UCLA 教 授/フィンランド	「Archaeology of the moving image」	2010年 12月 21日
ヴァレリー=アンヌ・ クリステン	ユニフランス東京支局所長/フランス	『日本におけるフランス映画の需要』	2011 年 6 月 2 日
ヴァレリー=アンヌ・ クリステン、中村由 紀子、堀越謙三	ユニフランス東京支局所長、 ル・シネマ マネージャー、本学 大学院映像研究科長	ディスカッション 『外国から 見たフランス映画』	2011 年 6 月 2 日
アッバス・キアロスタ	映画監督/イラン	『制作ワークショップ in 藝大 2011』(特別招聘教 授)	2011年9月11日 ~12月15日
キャロライン・リーフ	アニメーション作家/アメリカ	砂を使ったアニメーション 制作のワークショップ	2011年10月11日 ~10月13日
アミール・ナデリ	映画監督/イラン	「映画表現技術論」特別 講師	2011年11月28日
ヴァレリー=アンヌ・ クリステン	ユニフランス東京 支局 長/フラ ンス	『日本におけるフランス映画の状況』+フリーディス カッション	2012年1月23日
ギョーム・ゴルベール	ヨーロッパシネマ/フランス	『日本市場におけるヨーロッパ映画』+フリーディス カッション	2012年1月23日
イ・ジスン	韓国映画アカデミー教授/韓国	『韓国映画の状況と製作 手法』+ディスカッション	2012年1月30日
ギル・アルカベッツ	アニメーション作家、HFF ポツダム・バーベルスベルク教授 / イスラエル	アニメーションワークショッ プ	2012年3月15日

# 東京芸術大学映像研究科

		·	·
Lee Eun-kyoung、 村田千恵子	韓国国立映画アカデミー講師 /韓国 Wild Orange Asia Pte Ltd 代 表・プロデュース	Study / Korean and Jpananese co-operation - Why is it not so successful?	2012 年 8 月 3 日
ミシェル・レミュー	アニメーター、ケベック大学モン トリオール校デザイン学校/カ ナダ	アニメーション専 攻 ワーク ショップ	2012年8月17日~8月21日
イーゴリ・コヴァリョフ	アニメーション作家、アクメフィ ルムワークス契約監督/ウクラ イナ	アニメーション専攻特別講	2012年10月3日~10月5日
クレア・キッソン	アニメーション研究家/英国	アニメーション専攻特別講義	2012年11月13日~11月14日
ウ゛ァレリー=アンヌ・ クリステン	ユニフランス東京支局長/フラ ンス	講義「アジアにおけるフランス映画の状況」	2013年1月24日
ルース・リングフォー ド	アニメーション作 家 / アメリカ	アニメーション専 攻 ワーク ショップ	2013年7月30日~7月31日
ジョルジュ・シュヴィツ ゲベル	アニメーション作家/スイス	アニメーション専 攻 ワーク ショップ	2013年10月2日~10 月3日
Equan Choi	韓国映画アカデミー教授/韓国	「韓国における映画制作 の現在」	2014年1月25日
スザンヌ・バカン	ミドルセックス大学教授/イギリス	アニメーション専 攻 ワーク ショップ	2014年7月6日~7月13日
キム・ジュニアン	新潟大学教授/韓国	アニメーション作品研究特 別演習	2014年6月23日
ジェレミー・クラバン	アニメーション作家/フランス	グローバルアート・プラクティス特別講義 (作品上映と制作プロセスについて)	2014年11月4日
アラン・ベルガラ	国立映画学校(FEMIS)教授/ フランス	スーパーグローバル特別 講義 (ジャン=リュック・ゴダー ルの 60 年間)	2015年3月4日
セルジュ・セグラ	アニメーション研究者 / フランス	グローバルアート・プラクティス特別講義 (川本喜八郎 その人と 作品)	2015年3月10日
コ・ホードマン	国立映画制作庁/カナダ	グローバルアート・プラクティス特別講義 (川本喜八郎 その人と 作品)	2015年3月10日
チェ・ユジン	韓国インディペンデント・アニメ ーション協会(KIAFA)事務局 長/韓国	「韓国インデペンデントア ニメーションについて」	2015年5月11日
アミール・ナデリ	アメリカ国籍のイラン映画監督	「アメリカのイラン映画監	2015年6月22日

# 東京芸術大学映像研究科

	/イラン	督による特別講義」	
ドミニク・オーブレイ	映画監督、映画編集者/フランス	「映画編集表現」	2015年6月25日、26日
アンドレアス・ヒュカー デ	独 バーデン・ヴュルテンベルク 州 立フィルムアカデミー・アニメ ーションコースのディレクター/ドイツ	「アンドレアス・ヒュカーデ の衝撃」	2015年8月2日、3日
ショーン・キュービット、サリー・ジェーン・ ノーマン、北野圭介、 石田英敬 (藤幡正樹)	・ショーン・キュービット(ロンドン 大学ゴールドスミスカレッジ・映画テレビジョン領域教授)/英国 ・サリー・ジェーン・ノーマン(サセックス大学パフォーマンス技術領域教授、人文科学ラボ共同ディレクター)/英国・北野圭介(立命館大学映像学部教授)・石田英敬(東京大学大学院情報学環、大学院総合文化研究科教授)・()内は本学教授	映像研究科 10 周年記念 国際映像シンポジウム「メ ディア・アートの歴史化と 抵抗」	2015年9月13日
ジャンアルベルト・ベ ンダッツィ (山村浩二、イラン グェン)	独立のアニメーション映画史 家。ミラノ大学教授(2002-09 年)、南洋理工大学(シンガポール)客員教授(2013-15 年)。/イタリア ・()内は、本学教授、准教授	映像研究科 10 周年記念 国際映像シンポジウム 「歴史の逆噴射、アニメーション再考」	2015 年 9 月 13 日
レイ・レイ	アニメーション・アーティスト/ 中国	「最新中国独立系動画 1:様々な作家たち」	2015年9月26日
チェン・シー	テレビアニメーションやインディ ペンデント作品のディレクター /中国	「最新中国独立系動画 2:チェン・シー特集」	2015年10月17日、19日
オリビエ・ボレール/ セリーヌ・ガイエール	オリビエ・ボレール (Nocturnes Productions) セリーヌ・ガイエール (パリ第 8 大学) / フランス	「ゴダールとフランス映画」	2015 年 10 月 19 日
クラウス・レーザー	旧東ドイツの映画史研究者、 映画評論家、映像作家/ドイツ	「旧東ドイツのアンダー グラウンド映画 1979 年~ 1989 年」	2015 年 10 月 30 日
ミゲル・ゴメス	映画監督/ポルトガル	「ミゲル・ゴメス監督最新 作『アラビアン・ナイト』(全 三部)」	2015年11月28日、29日

ダミアン・マニヴェル /五十嵐耕平	ダミアン・マニヴェル(映画作家)/フランス、 五十嵐耕平(映画監督・本学映画専攻監督領域修了)	「ダニアン・マニヴェル最 新作『若き詩人』公開記 念」	2015 年 12 月 6 日
パク・キョン、浦田秀 穂 (筒井武文、横山昌 吾)	・パク・キョン(韓国・檀国大学映画コンテンツ部門教授)/韓国・浦田秀穂(シンガポール・ラサール芸術大学教授)・()内は、本学教授、助教	デジタルシネマ国際教育 シンポジウム「アジア圏に おける新しいデジタル映 像教育の提案」	2016 年 2 月 13 日

本研究科では、教員数・学生数が少ないこともあり、実技指導においては教員・学生相互にやりとりがあるため、常に指導方法を見直しながら行われている。また、講評会においては、教員が専攻をこえて参加できるようになっており、また外部講師を加えての講評会も行われている。

事務職員においても、少ない人数をやりくりしながら、研修に積極的に参加出来るよう配慮している。

本研究科では、教員数が少ないこともあり、専任教員ほぼ全員から構成される映像研究 科教授会が、教育研究課程の編成や教育内容、教育方法の改善等についても審議する場と なっている。

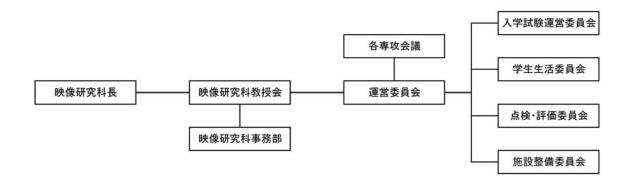
本研究科は、本学大学院の他研究科と同様に、個人指導を重視した教育体制を基盤とし、1)学生と教員による小規模な編成、2)集中的な教育編成組織、3)実制作を中心とする教育課程の編成とすることを基本として、教育課程、教員組織、教育内容等を整備している。特に修士課程においては、実制作(「つくる」ということ)が教育内容の中心となっているため、少人数のグループによる実践的な制作を通じた指導方法が行われているため、必然的に学生・教員間のコミュニケーションが密となる。

そのため、実質的な教育内容、教育方法の改善等については、各専攻ごとの専攻会議の 果たす役割が大きい。専攻会議では、各専攻の教育課程に応じ、日常的な学生との接触で 知り得た個々の学生の個性やスキルを勘案しながら、制作課題の決定や課題に応じた適切 な指導方法などについて、教員相互でディスカッションを行って決定し、授業を進めてい る。また、課題などの進捗状況に応じ、指導方法等を適宜見直すことにしている。これは、 少人数グループ指導の利点と言える。

特に、制作課題が修了する際に行う講評会(担当教員以外の教員も参加)の後の専攻会議では、具体的な指導方法の評価や修正を行う場となっている。

また,教授会の下には,各専攻からの代表教員をもって構成する運営委員会を設置して おり,専攻間の調整等が必要な事案については,運営委員会で検討を行った上で,教授会 で審議することとしている。

#### 資料 5-5:映像研究科の運営管理体制



#### (水準)

期待される水準を上回る。

#### (判断理由)

- (1)映像にかかる専門的知識・技能について、様々な専門的背景を有する専任教員を配置していること(資料 5-1 参照)。
- (2) 映像にかかる技術スタッフを含んだ事務組織体制を整備して、教員とともに教育指導を支えていること(資料 5-2 参照)。
- (3)特別講師,非常勤講師を活用して,課題に応じた特別講義や指導を行いきめ細かく対応していること(資料5-3、5-4参照)
- (4) 入学試験においても、細やかな選考方法を実施していること。
- (5)少人数教育や講評会の相互参加、外部講師参加等により、教員の教育力向上につながっていること。
- (6) 教育プログラムの質保証・質向上につながる、小回りのきく運営管理体制になっていること (資料 5-5 参照)。

## 観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

本研究科の教育課程は、「資料 5-6 教育課程表」、「資料 5-7 授業科目の内容」のとおりとなっている。

上述の「観点 教育実施体制」で既述したとおり、本研究科では、映像表現のための様々な知識・技術の修得を目指して、特に修士課程においては、実制作(「つくる」ということ)が教育内容の根幹をなしている。

修士課程の教育課程編成にあっては、専攻ごとに必修科目Aの「特別演習」を通じて、 専攻内の各領域に関する基礎的な知識、技術、ノウハウを修得し、そのうえで、領域別ゼ ミナール(選択必修科目A)で各学生の志向や技量に応じた、個別指導を行う。

領域別ゼミナールは、専任教員との作品制作やプロジェクト実践を進めながら、高度の専門を修得した表現者、プロデューサー等あるいは研究者としての基盤を築くため、学年横断型の作品制作と個人制作を平行して進めることとしている。

成績評価は、作品の発表、グループによる批評、自己評価、分析、教員によるチュートリアル、各ゼミナールでの発表、エッセイ(作品解説)等によって行われる。これらのスキル、知識と経験を修士課程における研究成果として、修士論文あるいは修了制作の形態で結実し修士の学位を授与することが、本研究科修士課程におけるカリキュラムの大きな特色である(資料 5-8 参照)。

資料 5-6 教育課程表 (大学院映像研究科映画専攻(M))

科目		(WI))	配当	単位数		授業形態	
	区分	授業科目の名称	年次	必修	選択	講義	演習
	( 必 ( 演 修   1	映画創造特別演習I	1	4			0
	(演習科 A	映画創造特別演習Ⅱ	2	4			0
	必	映画表現技術論	1	2		$\circ$	
	義 科 目 B	作品・作家研究	1	2		$\circ$	
	目目	脚本研究	1	2		0	
	) B	記録映像研究I	1	2		$\circ$	
	講	記録映像研究Ⅱ	2	2		$\circ$	
(領選	<sub>八</sub> 現映	映画表現技術ゼミI	1		6		$\circ$
域択	現 映 分 技 画 野 術 表	映画表現技術ゼミⅡ	2		6		0
(領域別ゼ)選択必修る	析 表	小計 (2科目)	_	0	12	_	_
ミ科	☆作映	映画制作技術ゼミI	1		6		0
ナ目	点 技 画	映画制作技術ゼミⅡ	2		6		0
A	新術制	小計 (2科目)	_	0	12	_	_
		物語理論	1 • 2		2	0	
	722	現代芸術論	1 • 2		2	0	
	選	マンガ論	1 • 2		2	0	
	講必	写真史・写真論	1 • 2		2	0	
	(講義科目) (群必修科目	メディア表現技法	1 • 2		2	0	
	目目	映像音楽論	1 • 2		2	$\circ$	
	В	国際映画文化論	1 • 2		2	$\circ$	
		映画学	1 • 2		2	$\circ$	
		国際映像メディア論	1 • 2		2	$\circ$	

	小計 (20科目)	_	0	18	_
合計 (1	8 科目)	=	18	42	_
修了要件及び履修方法					

必修科目18単位,選択科目16単位以上を履修し,かつ必要な論文(制作)指導を受けた上で,本大学院が行う修士論文(制作)の審査に合格すること。

## (大学院映像研究科メディア映像専攻 (M))

() ()	科目		灰家等攻(WI))	配当	単位	立数	授形	
	区分		授業科目の名称	年次	必修	選択	講義	演習
	必		メディアデザイン特別演習	1	2			0
	(演習 )		メディアアート特別演習	1	2			0
			メディア技術特別演習	1	2			0
	科 <sup>目</sup> A		メディア研究特別演習	1	2			0
	必		展示計画論	1 • 2	2		0	
	(講義		展示構成論	1 • 2	2		0	
I	日 一 義 目 科		作品メディア構造論	1 • 2	2		0	
1	件 B		メディア芸術史	1 • 2	2		$\circ$	
		メディ	創造表現AゼミI	1		6		0
722	創 造 表	イィ ンア デ	創造表現AゼミⅡ	2		6		0
選 択	現	ザ	小計(2科目)	_	0	12	_	_
必 修	研 究 分	メディ	創造表現BゼミI	1		6		0
科 目 A	野	トイアア	創造表現BゼミⅡ	2		6		0
		1	小計 (2科目)	_	0	12	_	_
(領域別ゼミナー	1.11.	メデ	構想設計AゼミI	1		6		0
ゼミナ	構 想 設 計	ィ ア 技	構想設計AゼミⅡ	2		6		0
	計	術	小計(2科目)	_	0	12	_	_
ル	研 究 分	メ デ ィ	構想設計BゼミI	1		6		0
	野	ア 研	構想設計BゼミⅡ	2		6		0
		究	小計 (2科目)	_	0	12	_	-
			物語理論	1 • 2		2	0	
			現代芸術論	1 • 2		2	0	
	選		マンガ論	1 • 2		2	0	
			写真史・写真論	1 • 2		2	0	
	義 修		メディア表現技法	1 • 2		2	0	
(講義科目) 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			映像音楽論	1 • 2		2	0	
			国際映画文化論	1 • 2		2	0	
			映画学	1 • 2		2	0	
			国際映像メディア論	1 • 2		2	0	
			小計(17科目)	_	16	18		
選択必修	科目C(演	習科目)	国際共同制作演習	1 • 2		2		$\circ$
		合計 (2	6 科目)	<u> </u>	16	68		_

#### 修了要件及び履修方法

必修科目16単位,選択科目16単位以上を履修し,かつ必要な論文(制作)指導を受けた上で,本大学院が行う修士論文(制作)の審査に合格すること。

### (大学院映像研究科アニメーション専攻 (M))

	<b>科目</b>		授業科目の名称	配当	単作	立数	授 形	
	区分		及来行日の石州	年次	必修	選択	講義	演習
	_ 必		立体アニメーション表現特別演習	1	2			0
	(演習)		アニメーション作品研究特別演習	1	2			0
	1) 習科 科		平面アニメーション表現特別演習	1	2			0
	件 A		企画開発特別演習	1	2			0
	_ 必		アニメーション構想設計論	1 • 2	2		0	
	(講科		アニメーションサウンド論	1 • 2	2		0	
	1) 義 目		アニメーション史	1 • 2	2		0	
	科 B		漫画・映画表現論	1 • 2	2		0	
			小計 (8科目)	_	16		_	_
選		作企	企画開発ゼミI	1		6		0
択	創	領画	企画開発ゼミⅡ	2		6		0
必	造	域 制	小計 (2科目)	_		12	_	_
修 科	表	テシニ平	平面アニメーションゼミI	1		6		0
目	現 研	関ヨメ 面	平面アニメーションゼミⅡ	2		6		0
ν A	究		小計 (2科目)	_		12	_	_
) 領	分	ケシニ立	立体アニメーションゼミI	1		6		0
域	野	1 領 , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	立体アニメーションゼミⅡ	2		6		0
別 ゼ		域シーア	小計 (2科目)	_		12		
ゼミナ	究 理 研	研 論 究	研究・理論ゼミI	1		6		0
ナー	分論究	128	研究・理論ゼミⅡ	2		6		0
ı	野研・	域 理	小計 (2科目)	_		12	_	_
			物語理論	1 • 2		2	0	
			現代芸術論	1 • 2		2	0	
	選		マンガ論	1 • 2		2	0	
			写真史・写真論	1 • 2		2	0	
			メディア表現技法	1 • 2		2	0	
(講義科目) B			映像音楽論	1 • 2		2	0	
			国際映画文化論	1 • 2		2	0	
			映画学	1 • 2		2	0	
			国際映像メディア論	1 • 2		2	0	
			小計 (9科目)	_		18	-	_
選択必修	科目C(演	習科目)	国際共同制作演習	1 • 2		2		0

修了要件及び履修方法

原則として2年以上在学し、必修科目を16単位、選択必修科目Aを12単位、選択必修科目B及びCを4単位以上、合計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は修了制作を提出し、その審査に合格すること。

## (大学院映像研究科映像メディア学専攻 (D))

	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態	
科目 区分			必修	選択	講義	演習
	映像メディア学特別講義	1	2		0	
	映像メディア特別研究I-A	1	1			0
	映像メディア特別研究I-B	1	1			0
映	映像メディア特別研究Ⅱ-A	2	1			0
像 メ	映像メディア特別研究Ⅱ-B	2	1			0
専デック	映像メディア特別演習I-A	1	1			0
7 7	映像メディア特別演習I-B	1	1			0
学	映像メディア特別演習Ⅱ-A	2	1			0
	映像メディア特別演習Ⅱ-B	2	1			0
	特別研究指導	1~3	-			0
	小計 (10科目)	_	10	0	_	_
合計 (10科目)			10	0		-
修了要件及び履修方法						

必修科目10単位を履修し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査に合格すること。

## 資料 5-7 授業科目の内容

## (大学院映像研究科映画専攻 (M))

(人子院吹像听九件吹画	F 🗴 ( III ) /
授業科目名	講義等の内容
	映画を成り立たせる理論とその表現手法について研究する科目であ
	る。作家の世界観は物語によって構築され、まず脚本という形式によっ
	て表現される。他の物語表現形式である小説や戯曲との差異を通して
	検証し,映画における物語形成の特殊性を考察する。映画では,物
映画創造特別演習I	語を撮影という形式を通して再表現するのであり、音楽や音の効果、
	画面の構成,俳優の演出等々が相まって,初めて映画の物語世界が
	表出される。演出プランを構築して行く上でのさまざまな理論を過去の
	優れた作品を通して検証すると同時に,実際に映画の制作を映画メ
	ディアの原点であるフィルム(16mm)で行う。
	映画を成り立たせる理論とその表現手法について研究する科目であ
	る。映画を構築するためには、脚本を撮影という形式を通して、物語を
	映像と音声によって再表現しなくはならない。従って撮影を通した映画
映画創造特別演習Ⅱ	の文体を知ることが必要である。音楽や音の効果,画面の構成,俳優
	の演出等々が相まって, 初めて映画の物語世界が表出される。
	過去の優れた作品の文体を検証するとともに、表現のための新旧の
	撮影メディアにも着目し、デジタル・ビデオ、ハイデフィニション、35mm
	フィルム等による作品制作を行う。
	映画に何ができて、何ができないのか。それは技術的な限界もあれ
	ば、倫理的なコードの問題もあるが、そうした映画の限界に挑戦するこ
	とで、新しい表現が切り開かれることも多い。
   映画表現技術論	映画的ドラマツルギーの一応の完成をみた1950年代以降,それを
<u> </u>	果敢に打ち崩し,新たな映画的表現を獲得しようと今も戦い続けるジ
	ャン=リュック・ゴダール、ジャン=マリー・ストローブ等々の作品を通して、
	映画における数々の試みを再発見しつつ、改めて映画にできることは
	何かを問う。

作品·作家研究	革命後のソヴィエトのモンタージュ理論から、アンドレ・バザンの存在論、クリスチャン・メッツによる映像記号論、ジル・ドゥルーズの時間への考察へと飛躍していく映画・映像理論を学びつつ、それが実作とどう連動し、映画の作り方、見方を変化させたのかを、コンピュータによる映像編集プログラムなどを用いて実証的に検証する。また、それら映画・映像理論が今日のメディア・リテラシーのなかで、いかなる役割を果たしているのかも考察する。
脚本研究	映画の脚本と演劇の戯曲の違いは、いったいどこにあるのか。映画が光と影であるとすれば、舞台には実在としての人間がいる。脚本が映画の設計図だとすれば、ではいったいどこで映画は成立するのか。台詞の用いられ方ひとつとっても違いは尽きない。過去の優れたシナリオを読み、主題、表現について考え、討議するとともに、実際に短編、中篇の脚本を書き、完成させる。
記録映像研究I	ドキュメンタリー映画等,記録を目的とした映画制作について研究する科目である。ニュース映像や記録のための映像はそれ自体では表象的な事実を示すものでしかないが,それに意図的な撮影や編集を加えることによって,特定の価値観,世界観を表現することができる。主題の選択と調査研究,映画の脚本に相当する構成の立案,インタビューの構成,ドキュメンタリー編集の基礎理論などを,少人数グループによるドキュメンタリー映画の制作を通して検証する。
記録映像研究Ⅱ	ドキュメンタリー映画等,記録を目的とした映画制作について研究する科目である。作りものではない映像はドキュメンタリー最大の武器だが,記録映像は本当に客観的であり得るのか,被写体と撮影者(表現者)との関係性とは何かといった美学哲学的な問題を,小川紳介とマイケル・ムーアとの手法の相違に着目して検証するとともに,編集という行為のもつ作為性の問題を考えるために,各自1作品のドキュメンタリー映画制作を通して研究する。
映画表現技術ゼミI (映画表現技術分野)	映画の企画立案から、脚本の制作、実際の撮影までのすべてのプロセスをゼミナールとして研究する。 脚本の制作に主眼を置き、原作と脚本の関係、キャラクター設定、プロットの手法などを、脚本を各自に執筆させつつ、過去の名作の分析とともに比較研究する。また、実際に脚本から部分的な演出プランを作成し、俳優を使って監督の演出意図をどう伝えるかなどを学んでゆく。録音や美術をともなった撮影を行った後、編集して1シークエンスを完成させる。
映画表現技術ゼミⅡ (映画表現技術分野)	映画の企画立案から、脚本の制作、実際の撮影までのすべてのプロセスをゼミナールとして研究する。映画制作全体のあり方に注目し、企画立案とマーケティングとの相互関係、製作進行上さまざまな問題点を検討しつつ、より良い脚本をどのように作り上げてゆけばいいのか、どのように実際の撮影現場でよりスムーズな演出をしてゆけばいいのか、完成した作品をどのように上映して行けばいいのか、といった点について実際の制作を通して、現実に即した形で学んでゆく。
映画制作技術ゼミI (映画制作技術分野)	脚本を理解し、実際の撮影を通して物語を完成させて行くまでのすべての表現のためのステップをゼミナールとして研究する。表現の質を向上させて行くためには、まず一番にカメラやレンズ等撮影機器の特性や照明や録音機器の特性を理解し、これを使いこなせなくてはならない。その上で、カメラワークがあり、スタジオ・セット、ロケ・セットの組み立てがあり、照明があることを学ぶ。すでに名作と呼ばれる脚本などを元にして、実際の演出プランを作成し、撮影編集を行う。また、台詞や効果音、音楽を加えて、如何に表現が変化するかなど実験的に作品を制作し、表現の可能性を探る。
映画制作技術ゼミⅡ (映画制作技術分野)	脚本を理解し、実際の撮影を通して物語を完成させて行くまでのすべての表現のためのステップをゼミナールとして研究する。脚本から表現しようとする意味内容を汲んで、それをカメラワークとの関連性、撮影機材の特性、美術の視点で読み、場面をセットやロケセット、ロケの異なった条件下で成立させ、空間をつなぐ手法、撮影現場での録音技術など、制作技術全般を映像表現という視点から研究する。映画表現技術ゼミと組んでの制作においては、与えられた作品内容を読解しながら、シーンごとに必要な合成や CG 作業、台詞、効果音、音楽、モンタージュ等のあり方について、さまざまな可能性を提示することができ

るような十分な能力を身につける。

## (大学院映像研究科メディア映像専攻 (M))

( <b>大字院映像研究科メ</b> テ・ 授業科目名	講義等の内容
メディアデザイン 特別演習	「「新しい表現を生み出す方法」を生み出す」ことを演習テーマとし、 与えられた方法論にのっとった試作作品をグループで制作・発表。オリ ジナルの方法論を模索し作り上げ、それを発表する。
メディアアート特別演習	普段見過ごしている映像を成り立たせている原理について、演習を通して考えていく。基礎レベルでは、映像を見ることを今一度強化し、応用レベルでは、さまざまなメディアに対応した構成方法を演習し、創造性と芸術性について学ぶ。
メディア技術特別演習	コミュニケーション支援のためのプログラミング、データ化、メタデータなどを扱い、視覚化のための高機能言語 Processing を使って、データの入出力や表示などを行う。
メディア研究特別演習	映像メディアの記録・保存に関するサービス、技術、制度を作品論的な視点から理解する。
展示計画論	論理的な考え方、しくみの探求、対象のモデル化などを重視して、自分が面白いと思う事象や視点を他人に伝えられる形にすることを試みる。論理的なモデル化、電子回路、入出力デバイスなどを扱う。
展示構成論	論理的な考え方、しくみの探求、対象のモデル化などを重視して、自分が面白いと思う事象や視点を他人に伝えられる形にすることを試みる。
作品メディア構造論	映像作品の分析を通して、その背後にある構造について考えて行く。1)映画を成り立たせているものは何か。2)ビデオアートを形成した時代と技術の背景。3)メディアアートにおける、表層と深層とをつなぐインタフェイスの問題等について論じる。
メディア芸術史	「映像技術」と「映像表現」の歴史について、主に社会思想史的側面を重視しながら考える。本講義では、「専門家」「エリート」「国民」「市民」「ユーザ」あるいは「消費者」「アーティスト」といった集団の起源や属性について意識しながら、メディア表現の影響力についてできるだけ多くの観点から論じる。
創造表現AゼミI	最終的な目的である各個人のテーマの追求をするのに、習作の制作 を繰り返し、それを毎回、深く検討していく。言語化するのが通常難し い個人個人の希求や方向性を習作という形で外在化させることによ り、発見していく。
創造表現AゼミⅡ	各個人の作品テーマの下で、修了作品に向けた継続的かつ発展的な制作を進行させる。それと同時に、ためしてきたことの言語化とそれを踏まえた更なる発展的な制作も目的とする。
創造表現BゼミI	作品制作のプロセスについて、実作をとおして、ディスカッションしながら、ともに考えていく。企画構想、制作実現、展示講評というスケジュールを身につけ、他者の視線を養う。

創造表現BゼミⅡ	修了制作に向けて、自己の中にある問題提起を再確認することから、それを表現へ転化させてゆくプロセスについてさらに実作を通して学ぶ。1年次までの活動を振り返り、客観的な視点を養う。
構想設計AゼミI	コンピュータソフトウエアを設計制作し、メディア環境の変化による人間の創造性の変化を研究する。そのため情報工学分野における知的情報処理、知識表現、創造的設計支援環境等の知見を縦横に学び、これを基礎としてデジタルメディアコンテンツの環境を研究開発する。
構想設計AゼミⅡ	コンピュータソフトウエアを設計制作し、これまでにない映像コンテンツが生まれる環境を研究する。そのため情報工学分野における知的情報処理、知識表現、創造的設計支援環境等の知見を縦横に学び、これを基礎として映像コンテンツそのものの未来形を模索する。
構想設計BゼミI	新規なメディアによって生まれている新しい文化財の可能性について研究する。メディアの一側面である記録の手法の更新とそれによって生まれる価値の関係性を電子メディアばかりではなく、紙メディアや映像(フィルム等)メディアをも扱い相対化すること研究し、芸術文化の価値観について新しい視点を導入するための研究を行う。
構想設計BゼミⅡ	データベースをアーカイブとして利用価値のあるものにしてゆくためには、さまざまな研究が必要であり、本ゼミナールでは、アーカイブの実作を通して研究を進めてゆく。メディアアートの作品制作にもデータベースは無くてはならない物であり、データベースの技法的な意味の構成とそれをユーザーインターフェイスを介して取り出させるためのさまざまな実験を作品を通して制作研究する。
国際共同制作演習	CDMと映像研究科から数名ずつ参加してチームを作り、共同制作を行う。国際的なチームで企画から実現まで実践的にプロジェクトを進める。横浜市とバンクーバーとの姉妹都市提携50周年の記念の一環として、Dance Dance@YOKOHAMA2015のプロモーションで利用できるARアプリを開発し、一般公開する。

# (大学院映像研究科アニメーション専攻(M))

授業科目名	講義等の内容
立体アニメーション表現特別演習	実在する素材・構造物(人形やオブジェ等)を能動的に動かす立体アニメーションにとって、表現と素材、その実行程との関係を体感することはきわめて重要である。本演習では、入学者全員が1年次に受講する演習である事を考慮して、金属球体間接の構造体(アーマチュア)をもとに「キャラクター」を発案させる。人形というキャラクターを核に、伝統的な制作スタイルである「スタジオシステム」の疑似体験(グループワーク)形式をとりつつ、運動構造体としての人体と動きについて検証し、サイレントムービーを作成する事で映像表現に結びつける検証し、立体アニメーション表現の基礎力を身につけて、応用表現へとつなげてゆく事を目標とする。
アニメーション作品研究特別演習	実践者(制作者/研究者)として、アニメーションについて語るための言葉を持ち、それを他者に論理的に伝える経験を重ねることは重要である。第一に実践を重視しながらも、それを補うための言語化・理論化を指向することが、実践の広がりと深みを生み出すことにつながる。本演習ではワークショップやディスカッション、作品分析や文献研究を通じて、アニメーションの思想基盤を築き、広いパースペクティブの中で自身の作品や研究を捉え、歴史的流れと同時代的な見取り図の上に位置づけてもらうことを目指す。

平面アニメーション表現特別演 習	実写映像は1秒間を24コマに分割して定着させる「動きの再現」であるのに対し、平面アニメーション映像はある状況を1コマ1コマ描写した絵を物語として結実させる表現である。その物語は状況に対する鋭い観察と、その本質に迫る絵画的な表現力によって支えられている。本演習では、入学者全員が1年次に受講する演習であることを考慮して、この表現の原点である「描く」という行為と「動き」との相互作用によって物語性や生命観を表現する方法論について、またアニメーションにおける偶然性の発見に繋がる課題など、基礎的な映像アプリケーションも用いながら、実制作を通じて検証する。
企画開発特別演習	アニメーション作品を製作する前段階としての企画構成は、きわめて 重要なプロセスである。本演習では、作品の流通の目的に従って、世 界観やキャラクター設定、物語展開などを討議によって構想する。現 在コンテンツ市場で一般化しているいくつかの流通形態をケーススタディするとともに、構想した企画の独自性や市場における優位性などを 分析・検証する作業も行なう。
アニメーション構想設計論	アニメーションの物語世界における演出プランを構築して行く上でのさまざまな必要条件を実践的に考察する。また現代のアニメーション表現を紹介しながら、既存の芸術様式との比較論を通じ、アニメーションの本質と独自性への気付きに繋がる議論を展開する。
アニメーションサウンド論	道具や方法が表現に対して様々な影響を与えることは音楽の場合にもあてはまる事実であり、文明論やメディア論的な視点から、音楽の歴史の中に数多くの前例を指摘することができる。19世紀後半以降の西洋音楽の急激な変容が、同時に従来の作曲・演奏・聴取という枠組みから溢れ出てゆく「音楽・音」(サウンド)の実験的な営みでもあったことを論考していく。
アニメーション史	長年、映像業界において新分野のパイオニア的活動を行ってきた経験と、映像ジャーナリストとして世界中の研究組織やプロダクションを訪問して得た情報をベースに授業を行う。毎回、理論の解説と歴史的背景の講義と同時に、極力実際の映像を鑑賞することで、言葉では説明不可能な要素を補う。 伝統的アニメーションや CG、VFX、アトラクション映像、VR など、多分野にまたがる映像の知識を得ることで、作家、ディレクター、プロデューサー、プランナーとして活躍できる人材の育成を目指す。
漫画·映画表現論	映像表現であり、造形表現であり、ときに物語表現でもあるアニメーション創作の基盤を拡大するべく、隣接分野である「漫画」「実写映画」などの表現とその根底にありアニメーションとも通底する基本的な原理について分析を行う。
企画開発ゼミI	企画構成および制作工程管理,作品を企画しシナリオを作成する際に必要となるスキル(発想,調査・研究,文書化,プレゼンテーション)を,ディスカッションの繰り返しの中で創造的に検証する。特に企画立案と完成イメージの方法論を探求しつつ,劇場公開用フィルム,放送,DVDやインターネット等での二次流通など,多岐にわたるメディアについても具体的な事例研究を行う。
企画開発ゼミⅡ	アニメーションの映像構成に関する理論研究に基き、さまざまな映像メディア、映像作品を検証することによって、送り手の意図どおりの内容を受け手に伝達するための流通基盤について実践的に考察する。アニメーション表現の可能性ならびに映像構成理論と、物語性とをどう整合させて具体的な演出プランへと昇華させるかを、様々な作品を見ながら分析・検証していくとともに、実作品による実験的な展示や公開を行なう。
立体アニメーションゼミI	「立体アニメーション=人形アニメーション」ではない。世界では実在する素材を演出意図をもって動かしたイメージを、静止画像の連続撮影から、編集、出力を通して完成する「ストップモーションアニメーション」として制作者一般に定着している。その定義が広域にわたる事を、世界古今の立体アニメーション作品鑑賞や講義、実習を通して、正しく認識した上で、素材の特性やアニメーションのための構造体の仕組み、照明による演出効果、撮影のために必要な機材とそのセッティングを知ることで、アニメーション表現自体への基礎知識を広げ、一年次制作への企画指導を行う。

立体アニメーションゼミⅡ	立体アニメーションゼミ1で培った基礎知識をベースに、修了制作での実用に根ざした技術の強化と、映像演出への昇華を目的とした指導を行う。企画段階からの技法と演出の合致検証を重視し、複数の技法の融合(ミクストメディア)を用いた表現や、従来に無かった表現を開発する場合の開発プロセスを、個別、またはグループ形式で検証することで作品精度の向上を目指す。
研究・理論ゼミI	「研究 (Research)」という営みは常に事後的なものである。何か出来事が起こった後で、その意味について思索し、抽象化し、理論化する。しかし「実践的研究 (Practical Research)」においては、理論化が目的ではなく、常にその先の新たな実践を見据えることが重要である。「作る」「考える」「対話する」「書く」さらにまた「作る」…というスパイラル状の営みを、まずは各自の制作基盤として血肉化してもらいたい。更に「アニメーションとはこういうもの」とされる既存の枠組みそのものを疑い、その人独自のクリティカルな視点を持ち、実践を通じてそれを具現化する実験精神を育む。
研究・理論ゼミⅡ	一年次の実践(制作/研究)を踏まえ、自身の実践そのものをクリティカルに捉えながら、より広いパースペクティヴの中で、更にテーマを進化させた実践へとつなげていくことを目指す。「実践的研究(Practical Research)」は常に現場の側に軸足を置く。理論越しに世界を見るのではなく、世界の微細な出来事の観察から理論を更新していくのである。しかしボトムアップの方法論だけでは創造的な表現は生まれにくい。そこにはある種の「遊び」が必要であり、それによってもたらされる「飛躍」こそが鍵になる。少人数のゼミナール形式による対話を重ねながら、粘り強くそれぞれの問いと答えを発見する過程を支援し、修了制作/研究としてその成果をまとめる指導を行う。
平面アニメーションゼミI	絵巻物,絵の動く仕掛けおもちゃ,映画の発明など,絵に動きを与え映像表現として発展してきた歴史をたどり,描画の技術や技法といった観点から世界観やキャラクター設定,物語展開などをゼミナール形式によって検証していく。また,各自オリジナルに作成したストーリーボードや絵コンテを制作し,それをもとにしたキャラクター創造から背景,動きの設定,撮影技術の修得等の一連の作業プロセスを経ながら,アニメーション独特の表現を追究する。また「作家論」の執筆を通じ,他者の創作への理解を図る。
平面アニメーションゼミⅡ	ここまでに修得してきた知識,技術を基にして,オリジナルのシナリオ,具体的な絵コンテを描くという企画・演出作業を繰り返し,各自の表現スタイルを確立することを図る。さらには,アニメーションの技法や素材,台詞や効果音,音楽が表現そのものをどのように変容させるかという実験を作品制作を通じて行いながら,キャラクター創造と現代的表現を開発研究し,修士制作に向けた技術と表現力の向上を図る。
国際共同制作演習	「日中韓国学生アニメーション国際共同制作」として、中国伝媒大学(CUC)、韓国芸術総合学校(KARTS)の学生とのアニメーション共同制作を実施。30 秒程度の短編アニメーション作品の制作を行うために、インターネット等を使い企画を進め、いずれかの国で合宿形式での実制作を行う。

★選択必修科目 B は, 各専攻生が履修できる。(修了要件単位とできる科目は, 教育課程表のとおり。)

授業科目名	講義等の内容
物語理論	世界の伝説や昔話を研究したウラジミール・プロップは、物語を31の
	原形に分類した。また、リチャード・ドーキンスは、物語を社会の文化的
	遺伝子(ミーム)を運ぶ媒体としてとらえ,人間の生存に欠かせないもの
	であるとしている。物語は、なぜ生まれ、どのように機能し、どうやって伝
	えられ、どのように変化してきたのかについて論じてゆく。
現代芸術論	現代芸術が背負っている核心的なテーマのひとつである,主体性の
	ありかたとそこからアドホックに生じる他者との関係性の探求を,現代芸
	術のさまざまな作品を紹介しながら考察する。また、ミニマルアートにお
	ける「反復と差異」あるいはアプロプリエーションやシミュレーショリズムと
	いった現代芸術のジャンルをメディア論の立場から検証し、複製芸術
	が社会において投げかけている諸問題について整理し探究する。

マンガ論	世界における日本マンガ人気が報道されるようになって久しく、海外にも日本マンガの読者が多数存在することは多くの人の知るところとなっている。しかし、海外において日本のマンガがどのように流通し、どのように受け入れられているのか等、その実際は報道等からは見えにくい。本講義では、日本とアメリカのマンガ文化の歴史や現状を概観し、アメリカにおける日本マンガの受容の様子を再検討することで、日本のマンガ文化の独自なあり方をより広い視野でとらえなおすことを目的とする。
写真史·写真論	写真術は19世紀末に画像定着技術として開発され,ざまざまな技術革新とともに今日の映像メディアとして成熟してきた。本講義では,メディアとしての写真を技術の成熟度を検証しながら,近現代美術史の中に位置づけ,映像文化との多面的関係を探って行く。このような写真の歴史について,技術史的側面と同時に,その社会的な受容の変遷を学び,映像芸術の分野に先鞭をつけてきた写真芸術が示してきた可能性とその限界について,論じて行く。
メディア表現技法	複合的なメディア環境での研究制作活動の基盤づくりとして、映像技術と映像表現を中心に、写真、ヴィデオ、アニメーション、上映、展示、インスタレーション、音、文字、印刷技術などの歴史的な考察を踏まえ、その技術や表現技法の解説を通してメディア表現の在り方について学ぶ。
映像音楽論	19世紀末に誕生し、20世紀の映像文化を牽引した「映画」の歴史はアメリカ合衆 国発展の歴史と奇しくも呼応している。21世紀を迎えて新た な世界状況に突入 している今、「映像音楽論」では「映像、そして音響テクノロジーの進歩が音楽 に与えた影響」をテーマに、ハリウッド映画作品 の映画音楽を中心に分析、検 証し、21世紀の「映像音楽」について考察する。
国際映画文化論	この集中コースは、日本または海外で、自分の映画キャリアを支援するスキルやツールを磨くため、学生に英語環境を提供する。学生たちは、分析能力を向上させる話術を磨き、創造的な表現方法を身につけ、その国際的な視野を広げることに注力していく。20時間の終わりまでには、各学生は、[ピッチ手法]を現実世界に適用していく。その結果、[ピッチ]を通じて、必要となったときに再利用できる完成したフォーマットを自ら作成する。
映画学	幻、X線、原爆、透明人間といった映画作品や文学、そして哲学における「没視覚的なもの」を考察した著書『原子の光(影の光学)』をベースに、広く映像文化を論じる。
国際映像メディア論	アメリカ・南カリフォルニア大学の映画学部の John C. Hench Division of Animation and Digital Arts の 1 教員たちによる講義と演習を行う。27年度は①アニメーションと音楽、②アニメーション・ドキュメンタリー ③アニメーション VR 3つを開講。

## (大学院映像研究科博士(後期)課程映像メディア学専攻)

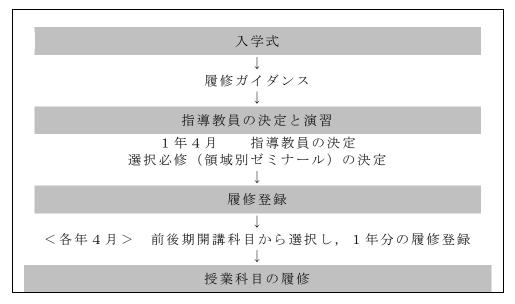
授業科目名	講義等の内容
映像メディア学特別講義	「映像メディア学特別講義」では、三専攻の教員によるオムニバス 形式で「映像メディア学」について講義する。まず、映像メディア学の 背景となっている「メディア学(メディオロジー)」や「メディア論」につい て、「文化研究」の立場から講義する。さらに映像メディアを用いた、 理論中心の研究方法と、実践中心の研究方法という両面の手法を 持つ映像メディア学の体系化に向けて、メディア論、メディアアート、 映画史・映画論、映像映画教育等に関する理論的なアプローチに ついて講義を行う。

_	
映像メディア 特別研究 I – A	「映像メディア特別研究 I ー A」では、学内外の専門家を招きオムニバス形式の講義をする中で、主に先行研究や技術動向の調査を含む研究方法の指導を行う。国際的な視野をもちつつ、映像メディアに関する理論研究を行うために、主に先行研究や技術動向の調査に重きを置いた研究方法について指導する。具体的には、どのように技術がメディアアートや劇場映画として作品化されていくかという「制作論」の研究、エンジニアリングプロセス研究という観点からの「インタラクティヴィティ」や「インタフェース」に関する理論研究、劇場映画作品を成立させる撮影技術の理論研究、「アーカイヴ」や「コミュニティウェア」に関する理論研究、メディアデザインという、メディア表現や映像論という観点からの「メディアデザイン」や「映像プログラム開発」に関する理論研究などをテーマとし、文献調査やテーマ開発などの文献調査および実地調査(対面調査を含む)の方法に関する指導を行いながら、論文執筆に向けたテーマ開発を行う。この文献調査とテーマ開発を通じて、映像メディア学理論の体系化とそれを実現するための調査研究方法について修得し、独創性のある研究テーマを開発できる資質の向上をめざす。
映像メディア 特別研究 I — B	「映像メディア特別研究 I - B」では前期の I - Aに引き続き、学内外の専門家を招きオムニバス形式の講義をする中で、主に先行研究や技術動向の調査を含む研究方法の指導を行う。国際的な視野をもちつつ、映像メディアに関する理論研究を行うために、主に先行研究や技術動向の調査に重きを置いた研究方法について指導する。具体的には、どのように技術がメディアアートや劇場映画として作品化されていくかという「制作論」の研究、エンジニアリングプロセス研究という観点からの「インタラクティヴィティ」や「インタフェース」に関する理論研究、劇場映画作品を成立させる撮影技術の理論研究、「アーカイヴ」や「コミュニティウェア」に関する理論研究、メディアデザインという、メディア表現や映像論という観点からの「メディアデザインという、メディア表現や映像論という観点からの「メディアデザイン」や「映像プログラム開発」に関する理論研究などをテーマとし、文献調査やテーマ開発などの文献調査および実地調査(対面調査を含む)の方法に関する指導を行いながら、論文執筆に向けたテーマ開発を行う。この文献調査とテーマ開発を通じて、映像メディア学理論の体系化とそれを実現するための調査研究方法について修得し、独創性のある研究テーマを開発できる資質の向上をめざす。
映像メディア 特別研究 II — A	「映像メディア特別研究 II — A」では学内外の専門家を招きオムニバス形式の講義をする中で、映像メディア特別研究 II での文献調査をテーマ開発などを深化させ、自らの研究方法の独創性と先進性について理論と実践両面の立場から分析と評価を行うことについて指導を行う。具体的には、技術を通して作品がどのように具体化されていくかという「制作論」のプロセス研究に関する分析方法と評価方法、「インタラクティヴィティ」や「インタフェース」に関するエンジニアリングプロセス研究の分析方法と評価方法、劇場映画作品を成立させる物語性と撮影技術との相関に関する理論研究と評価方法、「アーカイヴ」や「コミュニティウェア」に関する理論研究の分析方法と評価方法、映画や映像のメディア表現の違いによる理論研究の分析方法と評価方法、映画や映像のメディア表現の違いによる理論研究の分析方法と評価方法や、映画史・映画論的なアプローチを重視した映画表現をはじめとする受容者研究の分析方法と評価方法、映画・映像を中心をするメディアリテラシーの国際的な比較に基づく理論研究や映画産業をはじめとする市場動向研究などに関する研究の分析方法と評価方法などをテーマとし、主に各人の先行研究とテーマ開発に基づき、分析と評価の方法に関する指導を行いながら、論文執筆に向けたテーマを「博士論文構想」として具体化する。この構想を具体化するプロセスにあって、映像メディア学理論の体系化とそれを実現するための分析と評価の方法について修得し、独創性のあるテーマをより具体的な論考として構想できる資質の向上をめざす。

映像メディア 特別研究 II — B	「映像メディア特別研究 II - B」では前期の II - Aに引き続き、学内外の専門家を招きオムニバス形式の講義をする中で、映像メディア特別研究 I での文献調査やテーマ開発などを深化させ、自らの研究方法の独創性と先進性について理論と実践両面の立場から分析と評価を行うことについて指導を行う。具体的には、技術を通して作品がどのように具体化されていくかという「制作論」のプロセス研究に関する分析方法と評価方法、「インタラクティヴィティ」や「インタフェース」に関するエンジニアリングプロセス研究の分析方法と評価方法、劇場映画作品を成立させる物語性と撮影技術との相関に関する理論研究の分析方法と評価方法、映画や映像のメディア表理の違いによる理論研究の分析方法と評価方法や、映画を映像のメディア表現の違いによる理論研究の分析方法と評価方法や、映画を映像の分析方法と評価方法、「メディアデザイン」や「映像プログラム開発」に関する理論研究のメディア表現や映像論という観点からの分析方法と評価方法、映画・映像を中心とするメディアリテラシーの国際的な比較に基づく理論研究や映画産業をはじめとする市場動向研究などに関する研究の分析方法と評価方法などをテーマとし、主に各人の先行研究とテーマ開発に基づき、分析と評価の方法に関する指導を行いながら、論文執筆に向けたテーマを「博士論文構想」として具体化する。この構想を具体化するプロセスにあって、映像メディア学理論の体系化とそれを実現するための分析と評価の方法について修得し、独創性のあるテーマをより具体的な論考として構想できる資質の向上をめざす。
映像メディア 特別演習 I — A	「映像メディア特別演習 I ーA」では、映像メディアを用いた研究プロジェクトや作品制作などを通じた理論と実践両面の経験と知見を構想し実践する演習を行う。一年次に履修する I では主に作品制作や研究プロジェクトを企画することについて指導を行い、それらの成果発表と博士論文に向けた基礎調査をサーベイ論文として年次末に発表するよう指導を行う。具体的には、国際的な評価が得られるメディアアート作品や独自性の高い作品を制作するための固有のメディア表現、歴史性と同時代性を融合した質の高い作品を制作するための固有の映画表現、シナリオの物語構造と撮影技術についての研究、インターネットや都市デザイン、現代芸術などにおけるコモンズの比較研究に関する理論スキームの研究、メディアの違いによる映像受容の比較研究、映像における効果(CG、台詞、効果音、音楽、モンタージュなど)と映像受容の認知論的研究、メディアリテラシーがもたらすメディア教育振興の方策に関する研究などをテーマとし、学会発表や国際展出展などを前提とした研究プロジェクトを企画する。この企画のプロセスにあって、「つくる」という経験と知見を重視した映像メディア学理論の体系化を構想できる資質の向上をめざす。
映像メディア 特別演習 I — B	「映像メディア特別演習 $I-B$ 」では前期の $I-A$ に引き続き、映像メディアを用いた研究プロジェクトや作品制作などを通じた理論と実践両面の経験と知見を構想し実践する演習を行う。一年次に履修する $I$ では主に作品制作や研究プロジェクトを企画することについて指導を行い、それらの成果発表と博士論文に向けた基礎調査をサーベイ論文として年次末に発表するよう指導を行う。具体的には、国際的な評価が得られるメディアアート作品や独自性の高い作品を制作するための固有のメディア表現、歴史性と同時代性を融合した質の高い作品を制作するための固有の映画表現、シナリオの物語構造と撮影技術についての研究、インターネットや都市デザイン、現代芸術などにおけるコモンズの比較研究に関する理論スキームの研究、メディアの違いによる映像受容の比較研究,映像における効果( $CG$ 、台詞、効果音、音楽、モンタージュなど)と映像受容の認知論的研究、メディアリテラシーがもたらすメディア教育振興の方策に関する研究などをテーマとし、学会発表や国際展出展などを前提とした研究プロジェクトを企画する。この企画のプロセスにあって、「つくる」という経験と知見を重視した映像メディア学理論の体系化を構想できる資質の向上をめざす。

映像メディア 特別演習 II - A	「映像メディア特別演習 $II - A$ 」では、一年次に履修する「映像メディア特別演習 $I$ 」で企画した作品構想や研究プロジェクトの計画を深化させ、履修者自らの企画を実践しながら理論化のために必要とされる評価方法について演習を行い、それらの成果を学位論文審査の予備審査として申請するよう指導を行う。具体的には、国際的な評価が得られるメディアアート作品や独自性の高い作品を制作するための固有のメディア表現、歴史性と同時代性を融合した質の高い作品を制作するための固有の映画表現、シナリオの物語構造と撮影技術についての研究、インターネットや都市デザイン、現代芸術などにおけるコモンズの比較研究に関する理論スキームの研究、メディアの違いによる映像受容の比較研究、映像における効果( $CG$ ,台詞、効果音、音楽、モンタージュなど)と映像受容の認知論的研究、メディアリテラシーがもたらすメディア教育振興の方策に関する研究などをテーマとし、学会発表や国際展出展などを前提とした研究プロジェクトを企画する。この演習を通じて、理論と実践両面の経験と知見を映像メディア学の研究成果として体系化するために必要とされる資質の向上をはかる。
映像メディア 特別演習 II - B	「映像メディア特別演習 II - B」では前期の II - Aに引き続き、一年次に履修する「映像メディア特別演習 I」で企画した作品構想や研究プロジェクトの計画を深化させ、履修者自らの企画を実践しながら理論化のために必要とされる評価方法について演習を行い、それらの成果を学位論文審査の予備審査として申請するよう指導を行う。具体的には、国際的な評価が得られるメディアアート作品や独自性の高い作品を制作するための固有のメディア表現、歴史性と同時代性を融合した質の高い作品を制作するための固有の映画表現、シナリオの物語構造と撮影技術についての研究、インターネットや都市デザイン、現代芸術などにおけるコモンズの比較研究に関する理論スキームの研究、メディアの違いによる映像受容の比較研究、映像における効果(CG、台詞、効果音、音楽、モンタージュなど)と映像受容の認知論的研究、メディアリテラシーがもたらすメディア教育振興の方策に関する研究などをテーマとし、学会発表や国際展出展などを前提とした研究プロジェクトを企画する。この演習を通じて、理論と実践両面の経験と知見を映像メディア学の研究成果として体系化するために必要とされる資質の向上をはかる。
特別研究指導	博士課程における文献調査の方法,分析手法,評価方法について各教員による指導を主に行う。授業科目とは異なり,基本的にマンツーマン形式の対面指導を原則とする。
L	1

# 資料 5-8 修士課程の入学から修了まで(メディア映像専攻を例として)



#### 必修科目 A (演習科目)

演習形式による基礎的な技法技術と研究手法の修得 主として専任教員が担当

# 必修科目 B (講義科目)

講義形式による背景となる思想や理論と研究手法の修得 主として専任教員が担当

#### 選択必修科目 A (領域別ゼミナール)

専任教員が中心となるプロジェクト型の作品制作を通して, 高度な知識と技法を修得 主として専任教員が担当

選択必修科目 B (講義科目) 及び選択必修科目 C (演習科目) 関連分野・領域に関する理論と研究方法を修得する科目群 主として兼担教員および非常勤講師が担当

修士論文(修士制作)

論文(修士制作)審查

.[.

卒業に必要な 32 単位の修得

#### 修士学位授与

(注)

- ※ 1年次の4月に各学生の研究計画に応じ、指導教員(専任教員)を置く。
- ※ 授業科目の履修は、あらかじめ指導教員と相談のうえ、決定する。
- ※ 各教員のオフィスアワーは学事暦とともに告知する。

博士後期課程にあっては、映像メディアをめぐり「つくる」という知見と経験を重視しながら、新たな「実践的な知」を構築していくという観点から、教育課程が編成されている。その研究指導においては、修士課程同様に各学生の志向や技量に応じた、個別指導を行う。また、国内外の学会における発表、国内外の展覧会等への出品、国内外の関連機関でのインターンシップ、アーティストレジデンス等を重視し、早い時期から研究者としての国際的なキャリアを積むことを推進した内容としている。そのため、

すべての科目が必須科目として体系化されている(資料 5-6, 資料 5-7 及び下記、資料 5-9 参照)。

## 資料 5-9: 博士後期課程履修モデル

映像リテラシー系教育者志望

D1 博士後期課程1年次 (6単位)	D 2 博士後期課程 2 年次 (4 単位)	博士後期課程3年次
映像メディア学特別講義の受講(2単位)	映像メディア特別演習Ⅱの受講 (2単位) 映像メディア特別研究Ⅱの受講 (2単位)	
映像メディア特別演習【の受講(2単位)	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	博士論文執筆
映像メディア特別研究【の受講(2単位)	10 単位取得後:学位論文構想発表会	
国内外の関連機関でのインター ンシップ	国内外の関連機関でのインター ンシップ	

★履修者は、1、2年次に特別講義、特別演習、特別研究を履修し必要な単位を取得しつつ、主査の指導のもと、国内においては、せんだいメディアテーク、山口情報芸術センター等、海外においては、ニューヨーク近代美術館やコロンビア大学等への短期のインターンシップ経験を経て、独自の視点を持った理論と実践を持って、博士論文の構想を発表し、博士候補者としての審査を受けた後、博士論文の執筆に入る。

★また、課程修了後想定される進路として、大学、大学院、専門学校等の映像コンテンツ系教育機関教員、映像メディア関連企業幹部候補、映画会社、出版社、広告代理店、公共文化施設映像理論系工学系研究者志望

D1 博士後期課程1年次 (6単位)	D 2 博士後期課程 2 年次 (4 単位)	博士後期課程3年次
映像メディア学特別講義の受講(2単位)	映像メディア特別演習Ⅱの受講 (2単位) 映像メディア特別研究Ⅱの受講 (2単位)	
映像メディア特別演習 I の受講 (2単位) 映像メディア特別研究 I の受講 (2単位)	↓ 10 単位取得後:学位論文構想発 表会	博士論文執筆
国内外の学会論文発表準備	国内外の学会論文発表	国内外の学会論文発表

★履修者は、1,2年次に特別講義、特別演習、特別研究を履修し必要な単位を取得しつつ、主査の指導のもと、学会等で論文を発表しつつ、修士課程と連動したプロジェクト等を実現し、理論を実践的に検証した上で、博士論文の構想を発表し、博士候補者としての審査を受けた後、博士論文の執筆に入る。

★また、課程修了後想定される進路として、大学、大学院、専門学校等の映像コンテンツ系教育機関教員、講師、映像メディア関連企業幹部候補、映画会社、出版社、広告代理店、国立フィルムセンター等の公共文化施設映像学芸員、文化財団、NPO、指定管理者、ソフトハウス独立起業等が想定される。

本研究科は、「教育目的と特徴」(P.5-2)で言及したとおり、強い社会的要請に対応するために新設されたものである。特に、「映像文化都市」を目指して各種施策を推進している横浜市と包括協定書、覚書を交わして、教育施設の整備面に対する全面的な協力を受けている(別添資料1、2参照)。

また、映像分野の産業と教育の発展は、これまで産業が先行してきており、映像分野ですでに実務についている者であっても、体系的な専門教育を受けていないことが多いため、本研究科の設置に当たっては、実務経験のある社会人が高度な専門知識を学びなおしたいというニーズがあると想定されていた。

本研究科の教育課程や教員構成は、これらの要請やニーズを勘案して構築したものである。

本研究科は、開設以来10年にわたり、一貫して国際的教育に取り組み、例えば従前より海外から講師を招き、講義やワークショップを実施している(資料5-4)。

また、映画専攻においては、フランス国立映画学校(FEMIS)と韓国国立映画アカデミーと日仏韓映画共同制作、フランス国立映画学校(FEMIS)と日仏ワークショップを実施してきている。また、アニメーション専攻では、2011 年度より韓国芸術総合学校と、2012 年度より中国伝媒大学を加え、日中韓アニメーション共同制作を実施している。

この結果、修了制作等が海外の著名なコンペティション等に数多く入選するなど大きな実績をあげ、映画部門、アニメーション分野においては「東京藝大」というブランドや教員の名前がすでに、国際的にも認知されている感がある。

また、映像を学ぶ海外の学生や研究者が日本へ憧れ、日本への留学を望む傾向は非常に大きく、東京藝大にはその受け入れ体制の整備が強く期待されている。一方で、ASEAN諸国等からは、特にアニメーション等の分野での教員の派遣やカリキュラムの提供等が期待されている。

映像研究科としては、これまで行ってきた国際教育を更に強化することをねらい、 平成27年度から新たに世界の最先端の映像教育を行っている大学からの教育・研究を 積極的に取り入れ、映像教育の国際的なネットワークを構築することを目指している。 それにより、日本映画やアニメに対する海外からのニーズに出来るだけ応えていく体 制を確保し、将来的には「国際的映像教育研究の拠点」としての存在を築いていきた いと考えている。

映像研究科では平成 27 年度文部科学省国立大学機能強化予算等を受けて、「グローバルネットワーキングプロジェクト」を実施した。そこで「コアユニットプロジェクト、エクステンションユニットプロジェクト」、「国際共同プロジェクト」の3つのプロジェクトおよび、「国際連携交流等調査のための派遣」「国際連携交流等協議のための招聘」を行った。映像の最先端の教育を行う米・南カリフォルニア大学を「コアユニット」とし、通年で継続的に教員を招聘し「映画学論」「国際映像メディア論」を開講した。また、将来のコアユニット化を目指す大学を「エンクステンションユニット」と位置づけ、講義や講評会等を行った。更に、「国際共同プロジェクト」を実施し、学生による共同制作や共同研究を積極的に実施した。

その他、映像研究科の活動として、海外ゲストによる「特別講義」や、「国際的発進力のあるシンポジウム」、「国際交流協定締結」なども、グローバルネットワーキングプロジェクトとして積極的に行った。

映像研究科ではこのプロジェクトを次年度以降も継続的に行うことで、世界の映像 学校や映像関連機関との国際ネットワークをより発展させていきたいと考えている。

「観点 教育実施体制」で既述のとおり、本研究科の修士課程では、実制作が教育内容の根幹となっており、演習科目では、少人数のグループによる実践的な制作を通じた指導

方法が用いられている。

本研究科では、時間割及び年間のスケジュールを編成するにあたって、知識と技術の双方をより効率的に修得できるようにするため、講義科目と演習科目のバランスや、特定の課題について実制作を行う演習科目については集中的に行う方が効率的であり、特に映画制作を行う場合、一週単位に分断して行うことが困難であることを勘案して、演習科目によっては、比較的長い期間での集中授業の形式(週5日 $\times$ 3週間 $\sim$ 2か月)で実施することにしている。

課題の決定,集中授業期間の調整,指導方法の見直し等については,専攻会議で行っている。

なお、課題として制作した作品を学内外で公開することとしており、横浜市主催の映像 文化イベントなどへの参加を含めて年間のスケジュールを構成している。また、その準備、 実施運営についても学生を中心として行っており、「つくる」だけでなく「みせる」こと、 つまり展示設計や展示構成あるいは広報活動を通じて社会との接点を持つことと、実務能 力を養うことも重視している。

本研究科は、基礎となる学部がなく、大学本部のある東京都台東区とは別地の横浜市に所在し、本研究科専用の施設を有している。前述の包括協定書、覚書に記載のとおり、横浜市より施設提供を受けて、横浜校地(馬車道校舎、新港校舎及び万国橋校舎)を整備している。横浜校地では、教室以外に、撮影や編集等を可能とするスタジオや編集室、工作室および必要な機器・機材を備えており、さらに制作した作品を上映する視聴覚設備も整えている(資料 5-11 参照)。

国際映画祭の標準規格である DCP の制作・上映を可能とする環境を整備するだけでなく, 3D 映像作品やフィルム作品の制作・上映が可能な機材も有しており, 多種多様な映像制作が可能となっている。これらの施設・設備は, 自主的な制作活動時においても使用することができるため, 個々の作品に適した制作を可能とするだけでなく, 国際映画祭等への出品活動も後押しし、学生の制作意欲を高めている。

# 資料 5-11 横浜校地施設概要

馬車道校舎(825 m<sup>2</sup>)の設備概要

- 1) エントランスホール
- 2)講義室
- 3)大視聴覚室
- 4) 小視聴覚室
- 5)本編集室
- 6)デジタル編集室
- 7)フィルム編集室
- 8)美術室
- 9) MA室×2
- 10) 製作室×2
- 11)映写室
- 12) 資料・映像ライブラリー
- 13)映像研究科図書室
- 14)映画教育運営室
- 15)教員研究室
- 16)研究科長室
- 17)事務室

新港校舎(4851 ㎡)の設備概要

- 1)撮影スタジオ(大 600 ㎡)
- 2)撮影スタジオ(小 300 ㎡)
- 3) ギャラリー
- 4)工作室
- 5) 写真スタジオ
- 6)ブルーバックスタジオ
- 7)音響スタジオ
- 8) VR スタジオ
- 9)ポンプ室
- 10)サーバー室
- 11)共同研究室×4
- 12) ゼミ室×4
- 13) 教員室

万国橋校舎(794㎡)の設備概要

- 1) 実習室×2
- 2)講義室
- 3) MA室
- 4)多目的ルーム
- 5) 教員室×4
- 6)合同教員室
- 7)サーバー室

また,教育研究用資料として,図書約 10,000 冊,学術雑誌 19 種,視聴覚資料約 2700 点(平成 28 年 3 月 31 日現在,附属図書館の大学全体での共用分を除く)を用意している。図書等については,横浜校地内のものだけでは,充分とはいえないため,本学の附属図書

#### 東京芸術大学映像研究科

館(所在地:東京都台東区)の間でデリバリーサービスを行って、学生の必要に応えられる態勢としている。

なお、本研究科では、既述してきたとおり、少人数のグループによる実践的な制作を通じた指導を行っているため、必然的に学生・教員間のコミュニケーションが密となる。また、本研究科での教育は、単に知識を理解させることに終わるものではなく、「つくる」こと、つまり実際の多様な場合にあたって、応用・実践できて始めて完結する。そのため、課題の制作では、常に主体的に考えることが学生に要求される。ゆえに、制作を行う中で出てきた問題を、学生が講義科目の際や授業時間外に質問として提起してくるということも珍しくない。

本研究科では、こうした学生・教員間の密なやりとりにより、学生の志向や技量に応じたフォローを行い、学生が自ら主体的に学ぶように促すこととしている。

#### (水準)

期待される水準にある。

#### (判断理由)

「つくる」「見せる」ということを教育内容の中心に置き、専攻ごとに各領域に関する 基礎的な知識、技術、ノウハウを修得し、そのうえで各学生の志向や技量に応じた、個別指導を行い、学年横断型の作品制作と個人制作を平行して進めるカリキュラムとなっている。その上で、教育研究成果の外部への発表の機会が年間スケジュールに組み込まれており、制作から公開までを総合的に考えた教育方法を取っていること、また、少人数のグループによる実践的な制作を通じた指導等をとおして醸成された学生・教員間の緊密なコミュニケーションが、学生自らが問題を発見し、解決していくことを可能にしていることは、本研究科の教育目的にかなうものであると考える。

また、新たに国際合同講評会を開催するなど、映像表現に関する専門知識と国際的視野を備えた人材を育成させるための環境は、かなり充実してきたといえる。

# 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

# 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

本研究科では、教育研究成果を展覧会、上映会、シンポジウムなどを通じて発表し、その実施運営についても多くが学生主体で行っている(資料 5 - 12 参照)。

このような発表を通じて、外部の専門家からの批評や一般の映像文化を楽しむ人々からの声を聴くことは、教育成果つまり学生が身に付けた学力や資質・能力が、社会の期待に応えたものとなっているかを確認し、教育内容や指導方法を見直す際の参考にしている。また、学生が自らの能力の向上について考える場としての役割もある。

# 資料 5-12 教育研究成果の発表(平成 27 年度分)

	展覧会名	会場		
No.	(参考URL)	名称	会期	概 要
1	映画専攻「OPEN THEATER 2015」第 1 回	馬車道校 舎大視聴 覚室	9月5 9月11 日 日	・この10年間において、映画専攻で制作された実習作品、修了作品など12プログラムの上映会を横浜市文化観光局との共催で開催した。
2	映画専攻「OPEN THEATER 2015」第 4 回	馬車道校 舎大視聴 覚室	3月12日	映画専攻第 11 期生が製作した短編作品の上映会を横浜市文化観光局との 共催で開催した。
3	「クリスマス・アニ メーション・ワーク ショップ」	アートフ ォーラム あざみ野	12月 ~ 12月 19日 ~ 20日	アニメーション専攻の学生による、クリスマスをモチーフとしたアニメーション制作のワークショップや子供向けのアニメーション作品の上映を、横浜市文化観光局との共催で実施した。
4	「日中韓学生アニ メーションフェス ティバル」	金沢 21 世紀美術館	12月 12月 26日 27日	日本、中国、韓国でアニメーションを 学ぶ学生たちや、若手監督たちが参加 し、作品上映やトークショーを行っ た。2015年6月15日~7月25日に 実施した「日中韓学生アニメーション 共同制作」の成果発表会を兼ねたフェ スティバルを文化庁からの受託事業 として開催した。
5	メディア映像専攻 「OPEN STUDIO 2015」	新港校舎	7月18 7月20 日 ~ 日 7月25 ~ 7月26 日 日	メディア映像専攻の学生の作品展を 横浜市文化観光局との共催で開催し た。
6	メディア映像専攻 修了制作展「Media Practice15-16」	新港校舎	1月15     1月17       日 ~ 日       1月22 ~ 1月24       日 日	横浜市文化観光局との共催で、メディア映像専攻の修士課程終了制作展及び修士課程1年次の成果発表展を開催した。

7	映画専攻修了制作 展「GEIDAIFILM CLASS OF 2016」	馬車道校 舎 渋谷ユー ロスペー ス	1月30 日 2月20 日	~ ~	1月31 日 2月26 日	修士課程映画専攻第 10 期生修了制作 展を開催した。(馬車道校舎開催分に ついては横浜市文化観光局との共催)
8	アニメーション専 攻修了制作展 「GEIDAI ANIMATION 07 YELL」	馬車道校舎 渋谷ユーロスペース	3月5 日 3月12 日	~	3月7 日 3月18 日	修士課程アニメーション専攻第7期 生修了制作展を開催した。(馬車道校 舎開催分については横浜市文化観光 局との共催)

このほか、アニメーション専攻では、同専攻で制作されたアニメーション作品(「修了作品」及び「一年次作品」)のアーカイブの WEB 公開(YouTube、Vimeo)を平成 27 年度から試行的にスタートした。チャンネル名は当該専攻の愛称である「GEIDAI ANIMATION」(ゲイダイアニメーション)。

アニメーション専攻と音楽学部音楽環境創造科および大学院音楽研究科音楽文化学とのコラボレーションによって制作された作品を国内のみならず世界に向かって発信している。150 本近くのクオリティーの高いショートフィルムが見られるサイトは世界的に見ても例がないと思われる。

映画専攻では、修了までの2年間に専攻全体で、4編の短編課題、4本の短編作品、 1本の長編作品及び4本の修了作品(長編作品)を制作する。こうした課題の制作のなかで、 個々の領域での、知識や技術の蓄積はもちろん、集団が共同で行う製作技術を学び、また その前提となる集団内のコミュニケーション能力を高めていく。

メディア映像では、個人あるいは数人での制作が中心であるが、各自の探求する表現形態を深めるだけではなく、社会との接点を自覚し、作品を社会化する能力を高めていく。

アニメーション専攻では、個人の制作が中心であるが、音楽学部音楽環境創造科とのコラボレーションも活発に行われている。

これらの能力醸成のために,本研究科内だけでなく,他大学や外部組織と協力して制作等を行うことも,指導の中に取り入れている。

学位の取得状況、受賞状況、修了者の進路状況は、資料 5 - 13、資料 5 - 14、資料 5 - 15 及び 5-16 のとおりである。

資料 5-13 学位の取得状況

	22	23	24	25	26	27		
	平成 19 年度入学者	31	1					
	平成 20 年度入学者	35	2					
	平成 21 年度入学者	32	29	2				
   映画専攻	平成 22 年度入学者	31		27	2			
吹回 <del>守</del> 攻	平成 23 年度入学者	33			28	2		
	平成 24 年度入学者	32				31		
	平成 25 年度入学者	31					29	
	平成 26 年度入学者	33						29
メディア映像専攻	平成 20 年度入学者	15	2	1				
クノイノ 吠 塚 导 以	平成 21 年度入学者	14	9		1	1		

	平成 22 年度入学者	16		12	1	1		
	平成 23 年度入学者	11			10			
	平成 24 年度入学者	14				11	3	
	平成 25 年度入学者	13					9	2
	平成 26 年度入学者	15						13
	平成 20 年度入学者	16	2					
	平成 21 年度入学者	16	9	3	2			
, , , +	平成 22 年度入学者	16		11	2			
アニメーション専  攻	平成 23 年度入学者	14			11	1		
	平成 24 年度入学者	15				12	2	
	平成 25 年度入学者	14					10	2
	平成 26 年度入学者	15						11
	平成 19 年度入学者	8	1	1				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	平成 20 年度入学者	6	1		1	1	1	
映像メディア学専   攻	平成 21 年度入学者	3			1			
	平成 22 年度入学者	5				1		
	平成 23 年度入学者	3						1

# 資料 5-14 在学生、修了生の受賞状況(別添)

# (水準)

期待される水準を上回る。

## (判断理由)

標準修業年限内での学位取得率が高い(資料 5 - 11 参照)こと,在学生や修了生の受賞数が多数に渡ること(資料 5-14 参照)。

# 観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

修了者の主な就職先は進路状況は、資料 5 - 13 及び資料 5 - 14 のとおりである。 修了者に占める就職者の割合は高いとは言えないが、その他に分類される者は、表現者と してフリーランスで映像関係分野での仕事に従事している。こうした状況は、本研究科の 人材養成の目的から見ても、想定の範囲の事象であると言える。また、別添資料にあるよ うに、在学生、修了生の受賞は多数にのぼり、国際的にも高い評価がなされており、映画 監督や脚本家などとして名が知られる者も増えてきている。

資料 5-15 修了者の進路状況

				進学者	その他
	平成23年3月修了者	32	2	0	30
	平成24年3月修了者	29	0	0	29
   映画専攻	平成25年3月修了者	30	5	2	23
吹回寻攻	平成26年3月修了者	33	8	0	25
	平成27年3月修了者	29	5	1	23
	平成28年3月修了者	29	6	3	20
	平成23年3月修了者	11	2	1	8
	平成24年3月修了者	13	8	1	4
   メディア映 像 専 攻	平成25年3月修了者	12	8	1	3
7777以除导致	平成26年3月修了者	13	0	0	13
	平成27年3月修了者	12	4	0	8
	平成28年3月修了者	15	7	0	8
	平成23年3月修了者	11	5	0	6
	平成24年3月修了者	14	1	1	12
   アニメーション専 攻	平成25年3月修了者	15	6	0	9
7-2 23243	平成26年3月修了者	13	4	0	9
	平成27年3月修了者	12	5	0	7
	平成28年3月修了者	13	5	1	7
	平成23年3月修了者	2	2	0	0
	平成24年3月修了者	1	1	0	0
映像メディア学専	平成25年3月修了者	2	1	0	1
攻	平成26年3月修了者	2	1	0	1
	平成27年3月修了者	1	1	0	0
	平成28年3月修了者	1	0	0	1

## 資料 5-16 主な就職先

Pathgate Studio、中国 CCTV6、(株)任天堂、(株)キューテック、株式会社ピクト、SUI、(株)Amana、Innovative Language Learning、(株)ジャパンエディターズユニオン、(株)読売広告社、PDトウキョウ、チームラボ、真面目、ATC、(株)博報堂、(株)リクルート、NHK、NHKアート、T-Dinc.、スプーン、Yellow Workers、多摩美術大学、東映アニメーション、カプコン、

ムーンビームスシネアーツアンドサイエンス、ピーエーワークス、WIT STUDIO、イアリンジャパン、アクア、 東京藝術大学

資料 5-14 の受賞等の状況は、本研究科の修了生に対する関係者からの高い評価を示していると言える。その一部を書き出してみても、以下の通り高い評価である。

(1)監督領域の第8期生の作品が在学中に撮った作品が第32回バンクーバー国際映画祭でタイガー&ドラゴン賞にノミネートされ、また修了後に劇場デビューした作品は、第15回マラケシュ国際映画祭にノミネートされ審査員賞を受賞した。

(2)メディア映像教員が監修し、修了生が制作した短編映画がカンヌ映画祭短編コンペティション部門に正式出品された。

#### (水準)

期待される水準を上回る。

#### (判断理由)

修了後の進路状況,就職先、受賞状況等(資料 5 - 14,資料 5 - 15、資料 5 - 16 参照)からみて,本研究科が意図していた人材の養成が図られていると考えられること,また,本研究科の教育成果のが各種の賞受賞につながっており、充分な教育効果が上がっていると考えられる。

修了生が国際レベルの表現者となることは、もちろん本研究科の目指すところではあるが、修了制作として、制作した作品が国際映画祭にノミネートされたことは、期待以上の成果をあげたと言うことが出来る。また、修了者の中からデビュー作が決定した者や起業した者がいることも特筆できる。

# Ⅲ 質の向上度の判断

大学院映像研究科では、少人数精鋭教育を行い、従来から質の高い教育内容を保持してきたと考えている。一方、これまでの教育方法に加え、本中期計画期間内に以下のような新たな取り組みを開始し、 さらなる質の向上が実現できたと判断している。

#### 国際化に関する取組 (分析項目 I:教育活動の状況)

映像研究科では教育カリキュラムの質の向上という点で、機能強化、スーパーグローバル展開を機に顕著な変化があった。すなわちコアユニットを中心とする新規科目の「映画学」と1週間のワークショップを複数回行う「国際映像メディア論」、従来から行ってきた日中韓アニメーション共同制作を科目化した「国際共同プロジェクト」などがカリキュラムに加わったことである。また同じく従来から行ってきたフランス国立映画学校(La Fémis)、韓国国立映画アカデミー(KAFA)との共同制作も「日仏韓映画共同制作・共同授業」としてより安定した基盤の上に行えるようになった。

このようなカリキュラムの国際化と教育の質の向上との関連は、まだ「大学機能強化」による国際化に着手して1年しか経過していないため短期的に判断をすることは適切ではないが、すでに多様な制作手法を体験することで表現の幅が広がっていることや、制作におけるコミュニケーションの課題について意識することなど、学生の意識が向上する方向へと変化が起こっていることが認められる。今後継続してこのようなカリキュラムの国際化を進めていくことで、多様化(ダイバーシティ)に対応できる人材を育成できると判断される。

「国際映像メディア論」のワークショップ



シーラ・ソフィアン卓越教授「アニメーション・ドキュメンタリー」



エリック・ハンソン卓越教授 「映像制作における VR (Virtual Reality)」



マイケル・パターソン卓越教授、キャンデス・ レッキンジャー卓越教授「ビジュアル・ミュージック」